

姶良郡加治木町

# 干迫

ほし ざこ  
The Hoshizako Site

「III」

縄文時代石器ほか・付篇

1997年3月

# 目 次

第4章 調査の概要 .....	1
第2節 繩文時代 .....	1
2. 遺物 .....	1
2) 土製(加工)品 .....	1
3) 石器 .....	21
第3節 弥生時代 .....	112
第4節 古墳時代 .....	114
第5節 古代 .....	117
1. 遺構 .....	117
1) 概要 .....	117
2) 掘立柱建物跡 .....	118
3) 土坑 .....	120
4) 道路跡 .....	121
5) 落ち込み .....	122
6) 溝状遺構 .....	122
2. 遺物 .....	123
1) 土師器 .....	123
2) 内黒土師器 .....	125
3) 須恵器 .....	126
4) 磁器 .....	130
5) 陶器 .....	130
第6節 中世 .....	131
1. 遺構 .....	131
1) 概要 .....	131
2) 土坑 .....	131
3) 溝状遺構 .....	131
2. 遺物 .....	131
1) 土師器 .....	131
2) 須恵器・陶器 .....	132
3) 石製品 .....	134
4) 瓦器 .....	134
5) 磁器 .....	134
第5章 まとめにかえて .....	140

付篇（同定・分析篇）

1 干迫遺跡の地形環境	森脇 広	143
2 鹿児島県干迫遺跡出土の動物遺体	西中川駿	146
3 鹿児島県加治木町干迫遺跡出土石器の使用痕分析	御堂島正	148
4 干迫遺跡出土の植物遺体	渡辺 誠	155
5 干迫遺跡出土縄文土器の胎土分析	白石 純	165
6 干迫遺跡出土の縄文土器に塗彩された顔料について	大久保浩二	168

挿 図 目 次

第1図 円盤形土製加工品の直径度数	1	第27図 石 鍤2	34
第2図 円盤形土製加工品の出土分布図	1	第28図 石 鍤3	35
第3図 円盤形土製加工品1	3	第29図 石 鍤4	36
第4図 円盤形土製加工品2	4	第30図 石 鍤5	37
第5図 円盤形土製加工品3	5	第31図 スクレイパー1	39
第6図 円盤形土製加工品4	6	第32図 スクレイパー2	40
第7図 円盤形土製加工品5	7	第33図 スクレイパー3	41
第8図 円盤形土製加工品6	8	第34図 スクレイパー4	42
第9図 円盤形土製加工品7	9	第35図 スクレイパー5	43
第10図 円盤形土製加工品8	10	第36図 スクレイパー6	44
第11図 円盤形土製加工品9	11	第37図 スクレイパー7	45
第12図 円盤形土製加工品10	12	第38図 スクレイパー8	46
第13図 土製加工品	12	第39図 スクレイパー9	47
第14図 石 鍤1	21	第40図 スクレイパー10	48
第15図 石 鍤2	22	第41図 スクレイパー11	49
第16図 石 鍤3	23	第42図 スクレイパー12	50
第17図 石 鍤4	24	第43図 スクレイパー13	51
第18図 石 鍤5	25	第44図 スクレイパー14	52
第19図 石 鍤6	26	第45図 スクレイパー15	53
第20図 石 鍤7	27	第46図 石 錐1	55
第21図 石 鍤8	28	第47図 石 錐2	56
第22図 石 鍤9	29	第48図 ピエスエスキーユ、異形石器	57
第23図 石 鍤10	30	第49図 打製石斧1	59
第24図 石 鍤11	31	第50図 打製石斧2	60
第25図 石 鍤12	32	第51図 打製石斧3	61
第26図 石 鍤1	33	第52図 打製石斧4	62

第53図 打製石斧 5 .....	63	第80図 石 盆 1 .....	90
第54図 打製石斧 6 .....	64	第81図 石 盆 2 .....	91
第55図 打製石斧 7 .....	65	第82図 石 盆 3 .....	92
第56図 打製石斧 8 .....	66	第83図 石 盆 4 .....	93
第57図 磨製石斧 1 .....	67	第84図 石 盆 5 .....	94
第58図 磨製石斧 2 .....	68	第85図 弥生土器の出土分布図 .....	112
第59図 磨製石斧 3 .....	69	第86図 弥生土器 1 .....	113
第60図 磨製石斧 4 .....	70	第87図 弥生土器 2 .....	114
第61図 磨製石斧 5 .....	71	第88図 古墳時代土師器の出土分布図 .....	115
第62図 磨製石斧 6 .....	72	第89図 古墳時代の土師器 .....	116
第63図 石 核 1 .....	73	第90図 古代・中世・近世の遺構位置図 .....	117
第64図 石 核 2 .....	74	第91図 掘立柱建物跡 1と出土土器 .....	118
第65図 石 核 3 .....	75	第92図 掘立柱建物跡 2 .....	119
第66図 石 核 4 .....	76	第93図 掘立柱建物跡 3 .....	120
第67図 石 核 5 .....	77	第94図 遺構内出土の土師器 .....	120
第68図 石 核 6 .....	78	第95図 道路跡 .....	121
第69図 石 核 7 .....	79	第96図 古代の土師器 .....	124
第70図 石 核 8 .....	80	第97図 内黒土師器の出土分布図 .....	126
第71図 石 核 9 .....	81	第98図 内黒土師器 .....	126
第72図 石 核 10 .....	82	第99図 須恵器の出土分布図 .....	127
第73図 石 核 11 .....	83	第100図 須恵器 1 .....	128
第74図 石 核 12 .....	84	第101図 須恵器 2 .....	129
第75図 石 核 13 .....	85	第102図 古代の陶磁器 .....	130
第76図 石 核 14 .....	86	第103図 中世の土師器 .....	132
第77図 石 核 15 .....	87	第104図 陶器ほか .....	133
第78図 石 核 16 .....	88	第105図 青磁 .....	136
第79図 石 核 17 .....	89	第106図 白磁・青白磁・染付 .....	138

## 表 目 次

第1表 円盤形土製加工品観察表 1 .....	13	第6表 円盤形土製加工品観察表 6 .....	18
第2表 円盤形土製加工品観察表 2 .....	14	第7表 円盤形土製加工品観察表 7 .....	19
第3表 円盤形土製加工品観察表 3 .....	15	第8表 円盤形土製加工品観察表 8 .....	20
第4表 円盤形土製加工品観察表 4 .....	16	第9～25表 石器観察表 1～17 .....	95～111
第5表 円盤形土製加工品観察表 5 .....	17	第26表 坯の法量 .....	123

## 第4章 調査の概要

### 第2節 繩文時代

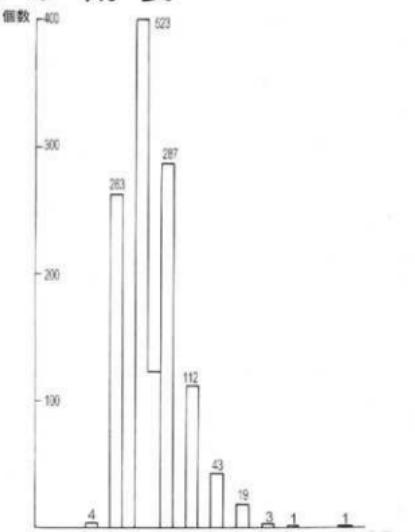
#### 2. 遺物

##### 2) 土製(加工)品

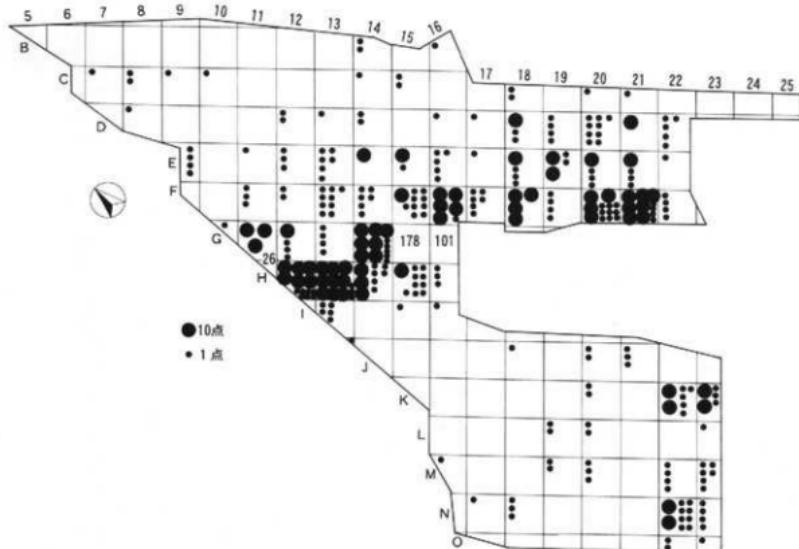
###### (1) 円盤形土製加工品 (第3~12図 D1~D476)

総数1256点の円盤形土製加工品が出土した。その分布状況は第2図のとおりで、自然流路沿いにほとんどが集中している。また22・23-K~N区付近でも多く出土している(遺構内を含めると1270点出土)。

これらは使用部位、大きさ、色調などによって多くの種類に分けられるが、周縁部を打ち欠いただけのものと、丁寧に磨いたものとがある。後者は476点中151点(32%)と少ないが、打ち欠いただけのものでも細かい打ち欠きによってきれいな円を描いているものが多い。磨消繩文土器の破片は特に加工が丁寧である。D1~D14とD54~D162は口縁部、



第1図 円盤形土製加工品の直径度数



第2図 円盤形土製加工品の出土分布図

あるいはその周辺を利用したものであるが、そのほとんどは市来式土器で、この時期に多く作られたことがわかる。その他には西平式土器などの磨消繩文土器・丸尾式土器などがわずかであるが含まれている。口縁部の場合、口縁端を打ち欠かず、そこ以外を打ち欠いて円形に近く加工している。胴部の破片を打ち欠いたものが多いが、深鉢あるいは台付深鉢の底部を加工したものも多い。平坦な部分を用いたものが多いが、部位によっては断面が弧状となるものもある。大きさは第1図のように直径が2.5cm前後の小さななものから、11cmある大きなものまであるが、3cm～6cmのものが85%と大多数を占め、なかでも4cm～5cm位のものが過半数を占めている。色調は茶褐色・黒褐色のものが多いが、灰褐色のものなどもある。

#### (2) 十字形土製加工品（第13図 D477）

一突起部が欠けているが、横6cm、縦4.5cm (+α) の十字形をした土製品である。外面に貝殻押圧文と貝殻条痕文のある土器の周辺を打ち欠いて十字形に作り、側縁部はていねいに磨いている。内面はヘラナデで仕上げ、器形・調整から丸尾式土器の破片と考えられる。21F区の自然流路跡で出土した。

#### (3) 土錐形土製加工品（第13図 D478～D482）

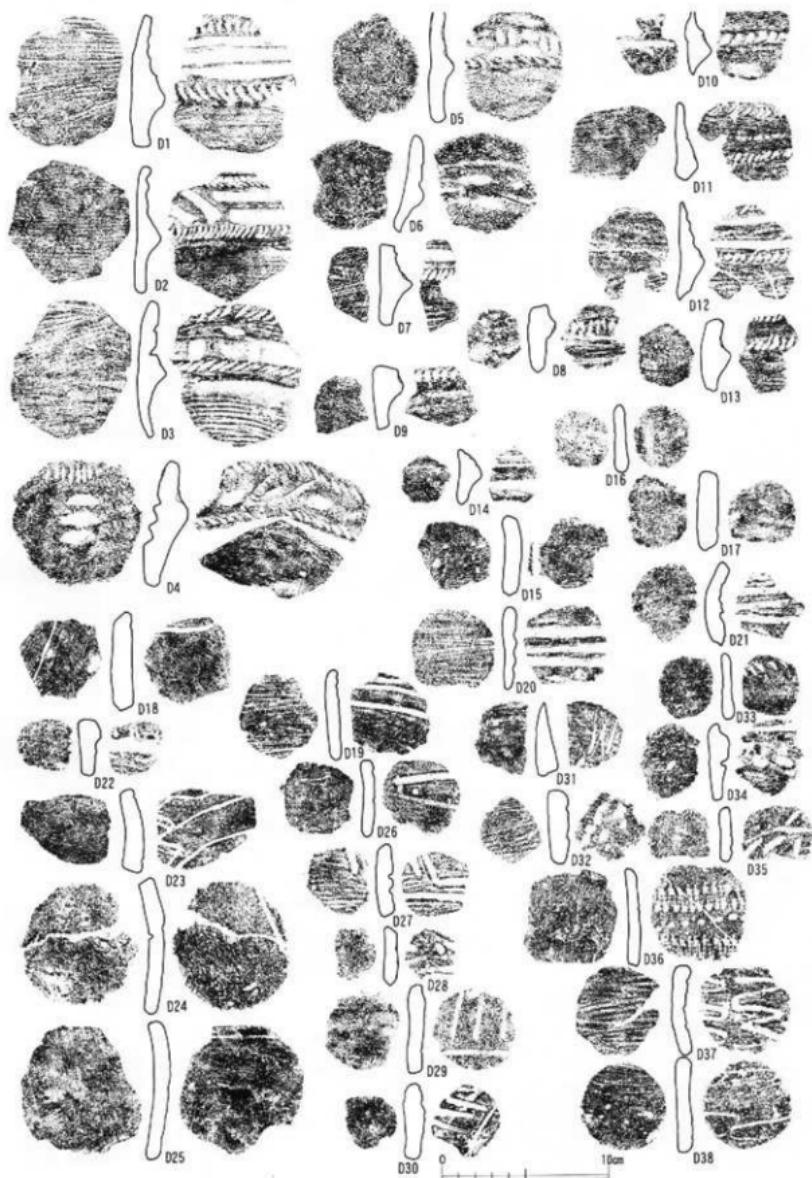
D478はほぼ円形に近く打ち欠き、両側辺にえぐりがある。周辺部および外面屈曲部はツルツルするほどていねいに研磨している。内外とも貝殻条痕があり、外面は屈曲部の上に二段、下に一段の二枚貝押圧がみられる。黒褐色を呈しているが、外面の一部は乳茶褐色を呈している。焼成良好で、石英・金雲母・白色石などこまかい石を多く含んでいる。表採品である。

D479～D481は脚台付深鉢の底を利用して、2か所あるいは3・4か所に欠き目を入れたものである。D479は両側縁を一方から打ち欠きえぐりを入れただけで、周縁加工はみられない。維ぎ目がよく残っている。茶褐色を呈し、焼成良好である。白色石・石英・黄色石などのこまかい石を多く含んでいる。21O区の自然流路跡で出土。D480は側縁を交互に打ち欠き、上辺が一部欠けている。茶褐色を呈し、焼成度は普通である。石英・白色石・茶色石・黄色石などのこまかい石を多く含んでいる。15G区の自然流路跡で出土。D481は4か所を打ち欠いている。淡茶褐色を呈し、焼成度は普通。白色石・石英・雲母を多く含み、4mm大のものもある。18G区の自然流路跡で出土。D482は一方は打ち欠きのみであるが、片方はえぐりを丁寧に作っている。側縁は一部を除き、丁寧に磨いている。乳茶褐色を呈し、焼成度は普通である。茶色石・石英・長石などのこまかい石を含んでいる。16G区のⅢ層出土。

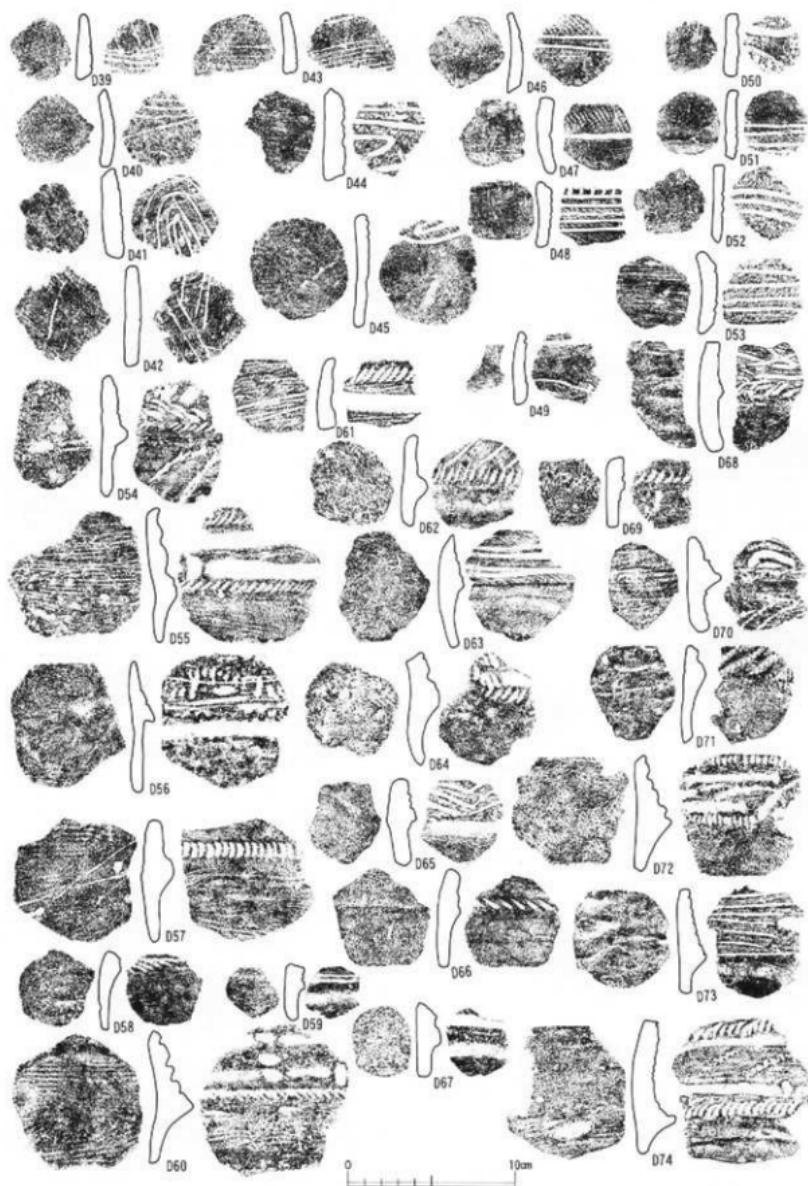
これらは土錐の形状をしているが、えぐり部に使用痕がみられなかったり、調整がていねいであることから実用品でない可能性もある。

#### (4) ドーナツ状土製品（第13図 D483）

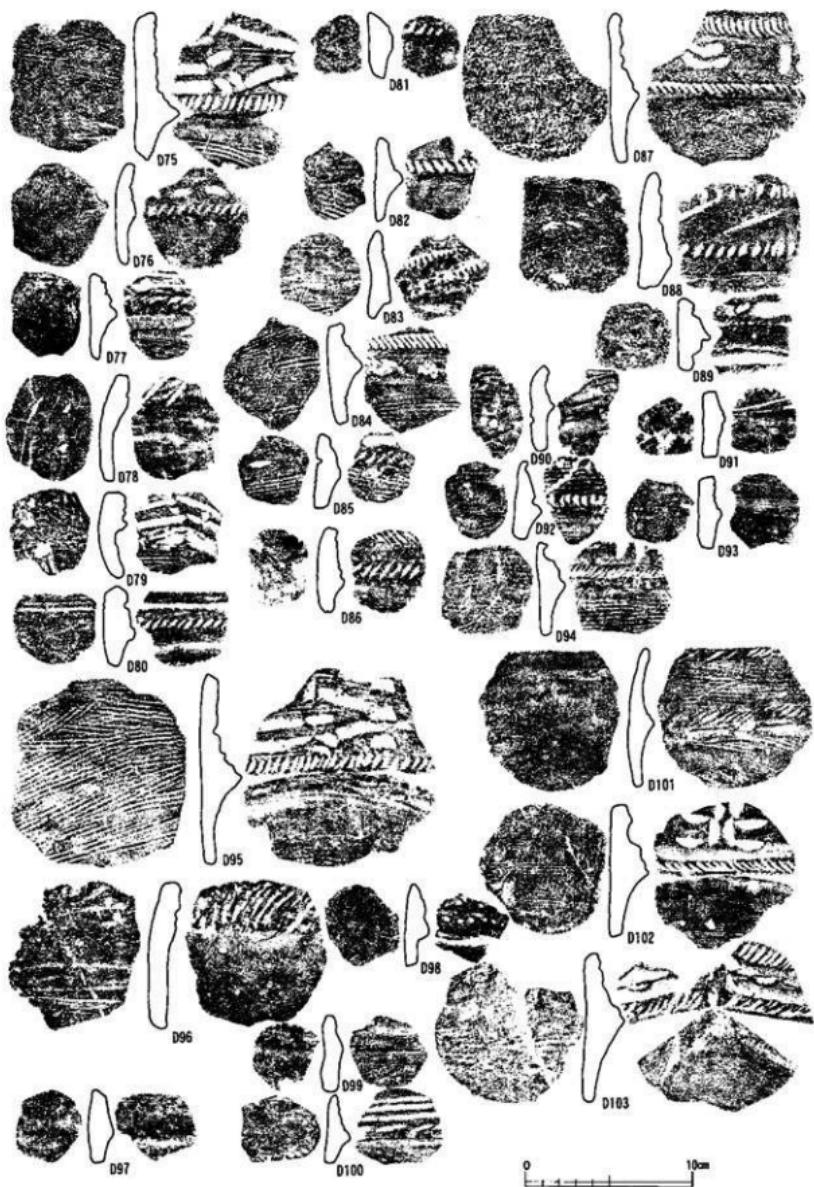
直徑3.5cm、孔径1cm、厚さ1.5cmの土製品である。灰褐色・乳褐色を呈し、焼きは普通で摩滅している。白色石・石英・長石などのこまかい石を多く含んでいる。



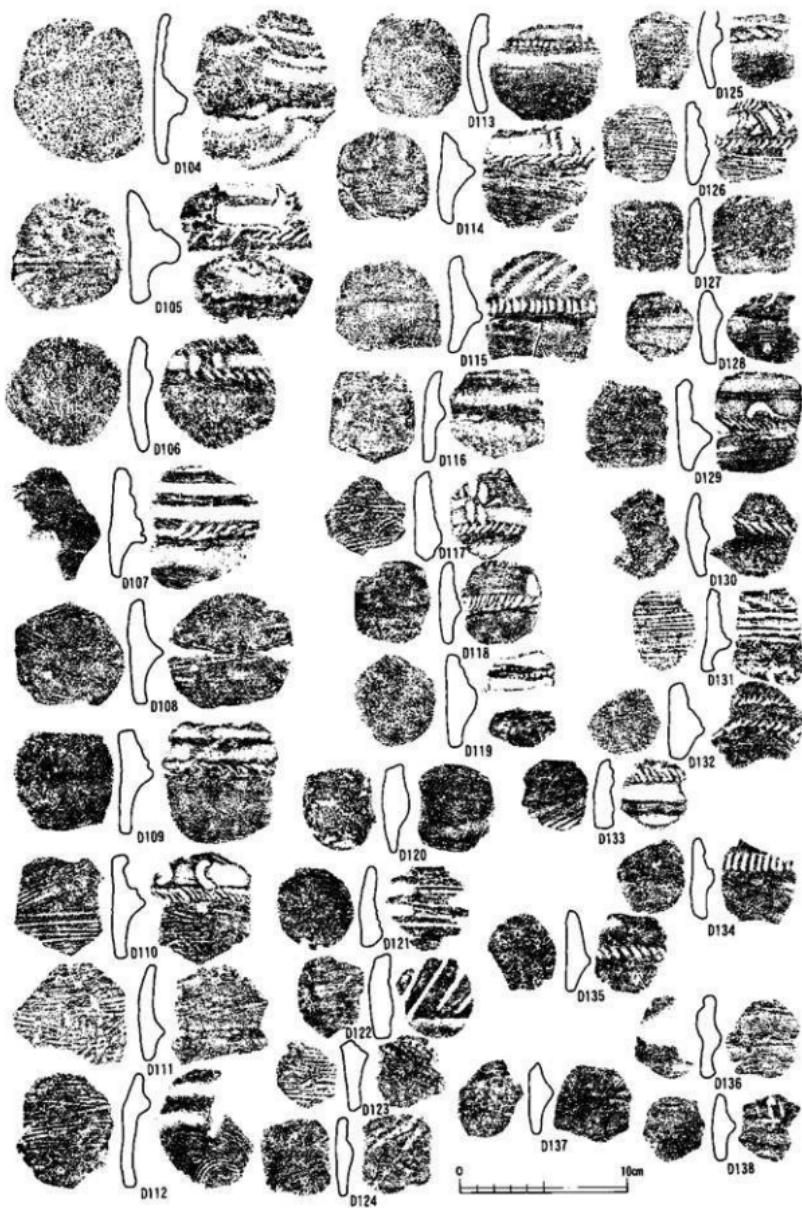
第3図 円盤形土製加工品1



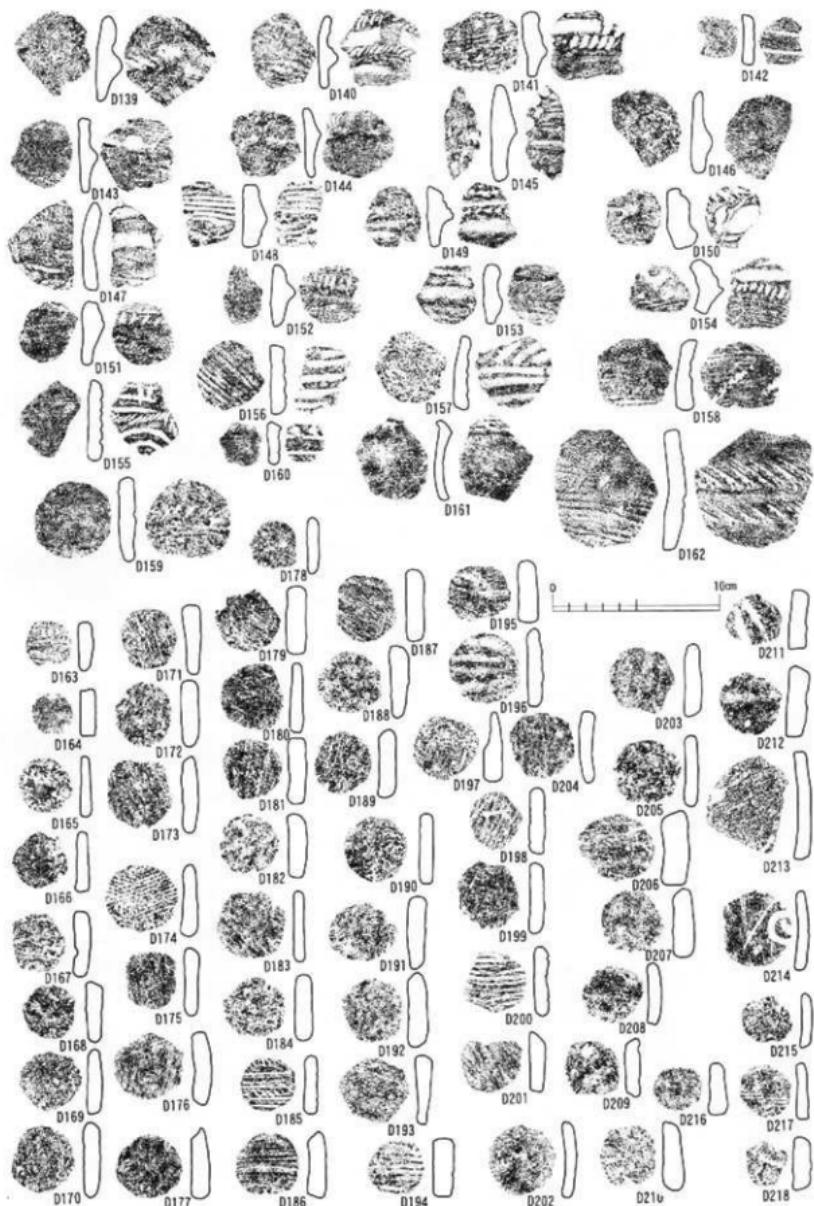
第4図 円盤形土製加工品 2



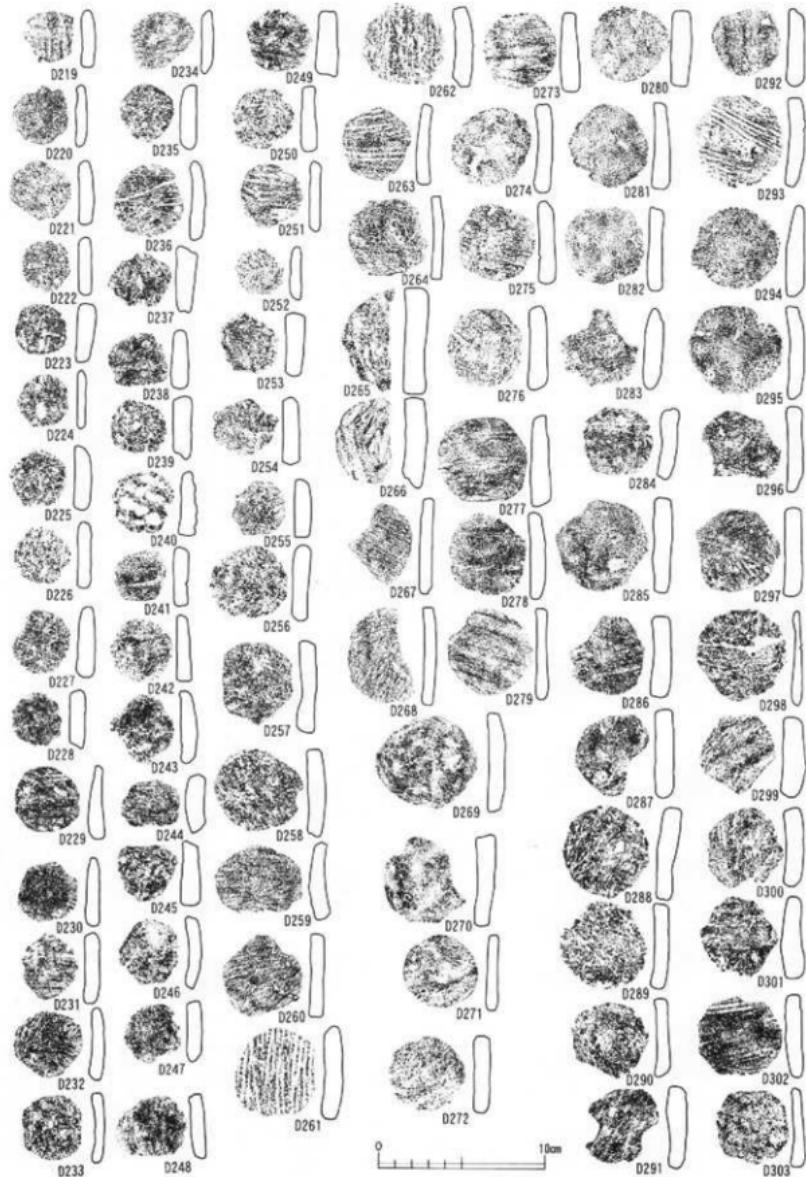
第5図 円盤形土製加工品 3



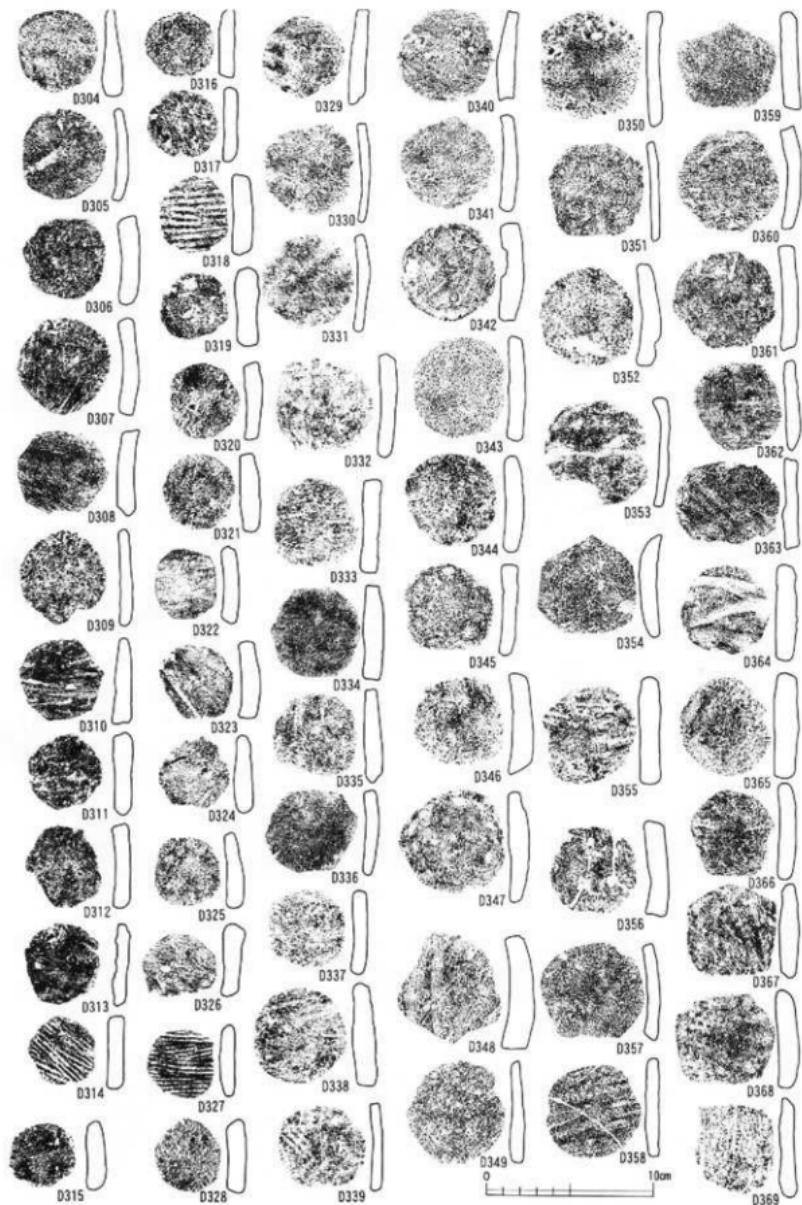
第6図 円盤形土製加工品 4



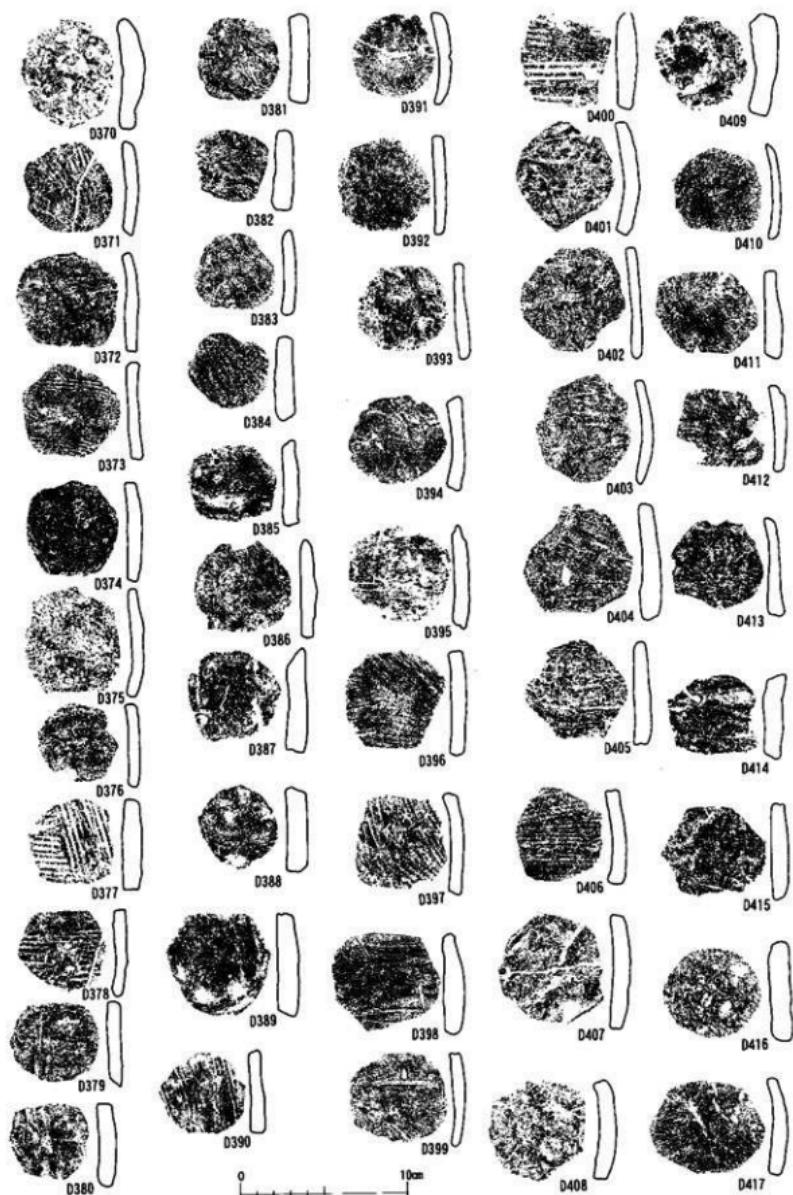
第7図 円盤形土製加工品 5



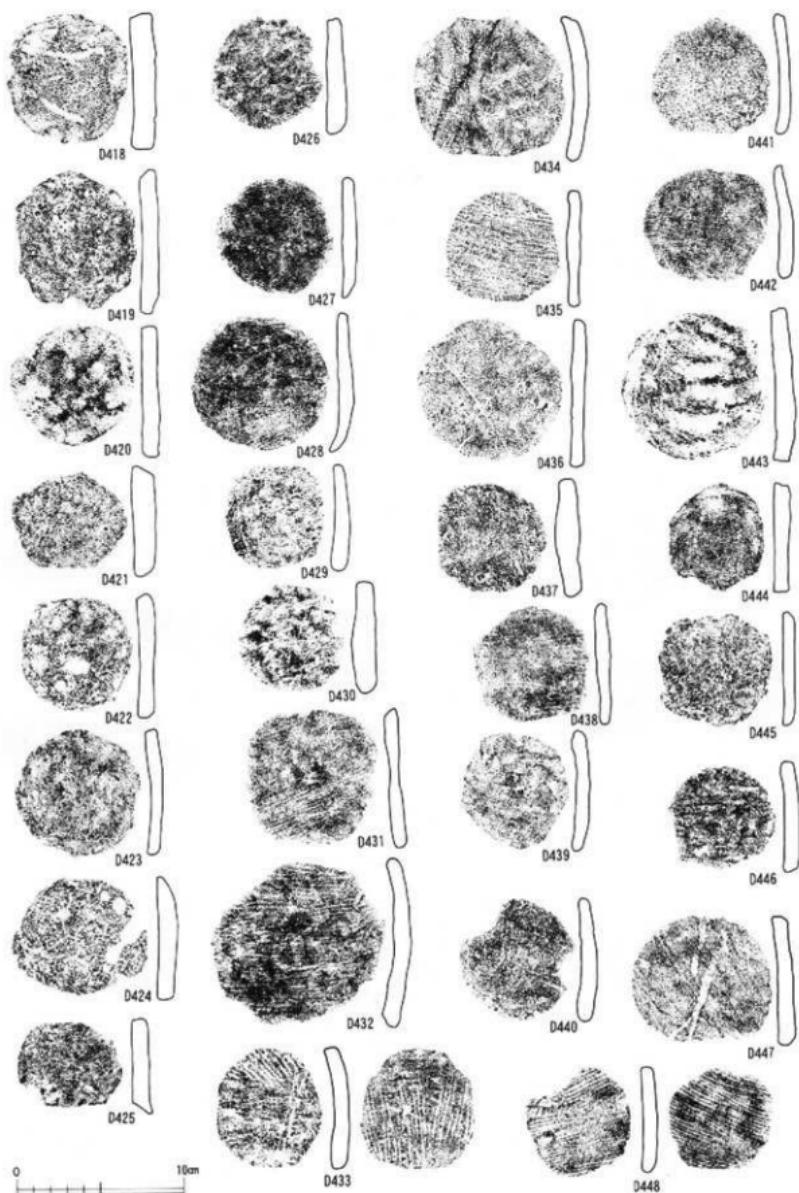
第8図 円盤形土製加工品 6



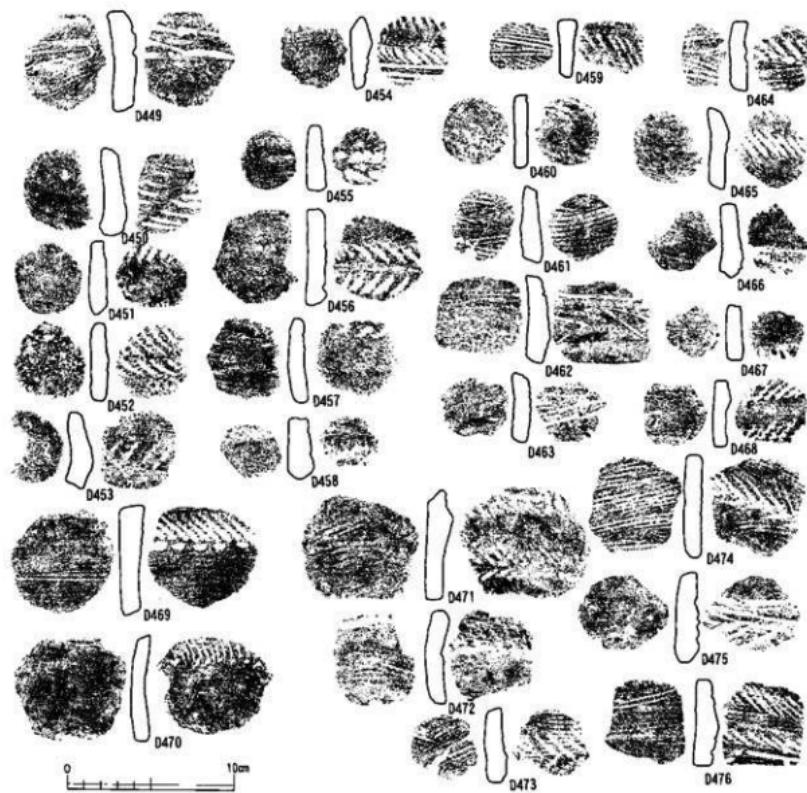
第9図 円盤形土製加工品 7



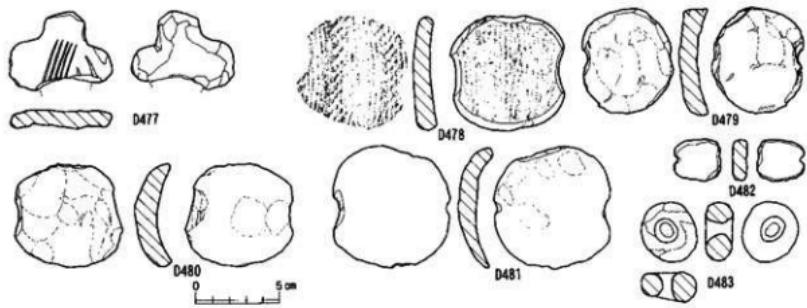
第10図 円盤形土製加工品 8



第11図 円盤形土製加工品 9



第12図 円盤形土製加工品 10



第13図 土製加工品

番号	遺物	部位	出土区		層位	取上番号	標高(m)	直徑(cm)	重さ(g)	縫隙	色調		備考	文様
			区	R							裏	裏		
1	市来	口縫部	14 G R 1						7.8	95.66	×	明茶褐色/淡褐色		○
2	*	*	12 H R 1						7.4	59.95	×	淡褐色		○
3	*	*	23 K 乳灰褐色砂屑						8.2	87.71	×	暗茶褐色/明茶褐色		○
4	*	*	20 F R 1 27		43166			7.5 × 8.4	102.75	×	明茶褐色/黑褐色			
5		15 G R 1							6.7	46.21				
6	市来	口縫部	15 G R 1						5.7	30.81	×	明茶褐色/黑褐色	土器片種?	○
7	*	*	15 G R 1 17		28248			4.7 × 2.9	18.77	×	暗茶褐色/明茶褐色	半欠	○	
8	*	*	13 H R 1						4.0	19.31	×	淡褐色/暗灰褐色		○
9	*	*	14 H R 1						4.0	21.01	△	黑褐色/明茶褐色	一部欠	○
10	*	*	14 G R 1						3.8	16.94	×			
11	*	*	14 H R 1					4.4 × 5.8	29.45	○	暗茶褐色/黑褐色	一部欠	○	
12	*	*	15 G R 1						5.5	34.86	×	*/明茶褐色		○
13	*	*	15 G R 1						4.2	22.38	×	淡褐色/*		○
14	西平	*	18 D	V					3.2	13.40	×	明茶褐色/暗褐色		○
15	不明	*	20 D	VI					4.6	22.02	×	暗茶褐色/淡褐色	一部欠	○
16	*	*	16 G R 1						4.1	10.87	○	淡褐色		
17	*	*	21 F	諸土					4.6	20.62	○	黄茶褐色/暗茶褐色	摩耗	○
18	市来?	*	15 G R 1 44		26021				5.7	42.75	×	暗茶褐色/淡褐色		
19	*	*	12 H R 1						4.9	25.84	×	明茶褐色	一部欠	○
20	*	*	14 H R 1						4.7	23.65	×	明茶褐色/暗茶褐色		○
21	*	*	12 G	V	6300	12.92			4.5	20.76	×	黑褐色/*		○
22	*	*	18 E	VI	32250	13.57			3.2	16.44	○	暗褐色		○
23	納豆?	*	11 H R 1					4.8 × 6.0	37.99	○	明黄茶褐色	半欠	○	
24	鰐崎?	*	暗灰茶褐色土	10					7.7	69.29	×	明黄茶褐色		
25	北久根	*	12 H R 1						8.3	86.39	×	明褐色/暗灰褐色		○
26	指宿?	*	16 F	V	23226	13.10			4.5	22.84	×	明茶褐色/*		○
27	指宿?	*	16 F	V					4.2	23.89	×	淡褐色/*		○
28	鰐崎?	副部	13 H R 1		2734	13.25			3.3	7.79	×	暗茶褐色/暗褐色		○
29	指宿?	*	15 F	東壁					5.1	29.20	×	淡褐色/暗茶褐色		○
30	市来?	*	12 H R 1						4.0	20.43	○	*/暗褐色		
31	*	口縫部	15 G R 1						4.2	17.27	×	黑褐色/暗茶褐色	半欠	○
32	深浦	脣部	16 I	V					4.3	27.27	×	淡褐色	一部欠	○
33	市来	口縫部	13 E	V	18993	13.12			3.8	12.64	○	明茶褐色/明黄茶		○
34	辛川	*	21 J	III					4.6	27.22	×	暗茶褐色/暗褐色		○
35	指宿	脣部	16 F R 1					3.2 × 4.3	13.16	×	明茶褐色/*	一部欠	○	
36	深浦	*	15 G R 1						5.5	33.78	×	淡褐色/黑褐色		
37	指宿	口縫部	15 G R 1 91		28165				5.4	29.00	×	暗茶褐色/*		○
38	指宿?	脣部	20 F R 1 59		43234				5.6	29.25	○	明茶褐色/暗褐色		○
39	北久根	*	16 F	V					3.8	20.03	×	明黄茶/暗褐色		
40	納豆?	*	21 D	VI	39456	13.53			4.6	19.80	×	淡茶褐色/黑褐色	一部欠	○
41	市来?	口縫部	21 F R 1 53		37339				5.1	32.79	○	黑褐色/明黄茶/*		○
42	不明	脣部	14 G	V					5.5	36.64	×	明黄茶/暗褐色/*		○
43	*	*	13 H R 1					3.4 × 5.3	18.03	×	暗褐色/黑褐色	半欠	○	
44	指宿	*	16 G R 1 21		24877			5.1 × 4.0	30.05	×	黑褐色/淡褐色	一部欠	○	
45		20 E	VI	41509	13.45				6.5	35.85				
46	西平	脣部	Tナシ						4.6	18.51	×	暗褐色		○
47	北久根	*	22 D R 1 81		37980				4.4	22.96	△	*	上部集中区	○
48	西平	*	21 F R 1						3.2	15.33	×	*		
49	不明	*	16 F	V					4.1	14.67	×	淡褐色/淡茶褐色	一部欠	○
50	指宿?	*	17 F	V	17065	13.12			3.4	13.32	△	暗茶褐色/淡褐色		○
51	北久根	*	16 F	V					4.0	16.61	○	暗褐色		○
52	*	*	16 G R 1						4.1	11.97	×	明茶褐色	一部欠	○
53	*	口縫部	21 F R 1 2		39017				4.7	31.54	△	暗茶褐色/暗褐色		○
54	市来	*	14 G R 1 55		27624				6.8	45.63	×	*/明茶褐色	一部欠	○
55	*	*	16 G R 1						8.5	72.65	△	*		
56	*	*	14 G R 2						7.8	56.28	×	暗茶褐色	*	○
57	*	*	15 G R 1						8.0	82.91	△	暗茶褐色	*	○
58	*	*	16 G R 1						4.8	20.60	△	*		
59	*	*	20 E	VII					3.6	11.90	×	暗茶褐色/淡茶褐色		○
60	*	*	16 F R 1						8.5	121.25	×	淡茶褐色/黑褐色		○

第1表 円盤形土製加工品観察表1

番号	遺物	部位	出土区		層位 取上番号	標高(m)	直徑(cm)	重さ(g)	緑度	色調		備考	文様
			区	R 小区						表 / 裏			
61	市来	口縁部	14G R1					4.8	22.71	×	淡茶褐色/明茶褐色		○
62	市来	14G R1						5.4	30.24	△	暗褐色/淡褐色	一部欠	○
63	市来	15G R1						6.9	46.02	×	×/暗褐色		○
64	市来	14G R1	67	27639	V			6.4	51.28	×	×/淡茶褐色		○
65	市来	19E						6.2	35.66	×	黑褐色		○
66	市来	14H R1						5.9	42.19	×	暗茶褐色/明茶褐色		○
67	市来	15H R1						4.4	24.49	○	淡褐色/淡灰褐色	半欠	○
68	市来	15G R1	36	26939				6.0	39.76	○	×/暗褐色	一部欠	○
69	市来	13H R1	13	26506				4.0	17.36	×	暗茶褐色		○
70	市来	16G R1	41	26119				5.6	37.90	×	明茶褐色	一部欠	○
71	市来	19E		V				6.0	32.57	×	淡褐色		○
72	市来	22N R1						7.3	88.69	×	黑褐色/明茶褐色		○
73	市来	15G R1						6.3	48.49	×	明茶褐色/淡茶褐色		○
74	市来	18D		VI 33914				8.0	111.08	×	茶褐色/暗茶褐色	一部欠	○
75	市来	千ナシ						8.4	113.38	×	暗茶褐色/明茶褐色		○
76	市来	千ナシ						6.4	35.08	×	明褐色/暗褐色		○
77	市来	14G R1						5.4	32.11	×	×		○
78	市来	19E		VII				6.2	44.30	○	×		○
79	市来	14H		V 22599	12.40			5.2	44.46	×	×		○
80	市来	21D		VI				6.8	47.16	△	×	一部欠	○
81	市来	16F R1						4.1	19.97	×	暗褐色/明茶褐色		○
82	市来	12H R1	58	27291				5.0	25.92	×	×		○
83	市来	14G	V 23813	12.85				5.9	33.46	×	淡褐色		○
84	市来	15G R1	83	27484				6.1	52.79	×	淡褐色/明褐色		○
85	市来	14G R1	68	27133				4.4	25.94	△	暗褐色		○
86	市来	13H R1						5.0	31.26	○	×		○
87	市来	16F R1		28485				9.5	94.92	△	明黄褐色/明茶褐色	一部欠	○
88	市来	14G R1						7.4	88.74	△	暗褐色/明褐色	×	○
89	市来	22N R2						5.0	39.27	△	黑褐色/×		○
90	市来	13H R1	23	26454				5.4	20.54	△	×	一部欠	○
91	辛川	12H						4.0	17.34	×	明褐色		○
92	市来	21F R1						4.8	28.35	△	×		○
93	市来	16G R1	25					4.7	26.96	×	暗褐色	×	○
94	市来	14H R1						6.7	50.22	×	暗褐色/明褐色		○
95	市来	22K R1	54					12.0	20.8.41	△	×/明茶褐色	数ヶ所折り有	○
96	市来	18D	VI					8.8	105.91	×	×/明褐色		○
97	市来	23K	II					4.7	27.37	△	暗褐色		○
98	市来	15G R1						4.9	29.09	×	×	一部欠	○
99	市来	18D	V					4.6	21.22	×	暗褐色/黑褐色		○
100	市来	14H	V					5.1	26.16	×	明褐色		○
101	市来	18F R1	87					8.3	92.03	△	暗褐色		○
102	市来	14G R1	59					8.5	120.65	○	淡褐色/明茶褐色		○
103	市来	14H R1	29					1.3	8.84	○	明茶褐色/暗褐色	一部欠	○
104	市来	18F R1	76					8.8	89.65	○	暗褐色/明茶褐色		○
105	市来	14G R1	70					7.6	127.41	○	黑褐色/暗褐色		○
106	市来	13H R1						7.2	66.51	△	×/明茶褐色		○
107	市来	13H R1						7.1	70.41	×	明茶褐色	一部欠	○
108	市来	R1						7.5	73.49	△	黑褐色/明茶褐色	×	○
109	市来	16G R1						7.0	82.39	△	暗褐色		○
110	市来	21F R1	32					6.3	60.35	△	黑褐色/灰褐色		○
111	市来	16G	V					7.2	46.49	×	明茶褐色/灰褐色	一部欠	○
112	市来	22M	暗茶褐色土					7.0	35.52	△	明褐色		○
113	市来	16F R1						6.8	45.48	○	黑褐色/淡褐色		○
114	市来	15H R1	24					6.4	59.71	×	暗褐色/明褐色		○
115	市来	19F	新溝					7.1	70.88	△	明褐色	一部欠	○
116	市来	14G R1	66					5.9	36.30	△	暗褐色/明茶褐色		○
117	市来	18D	VI					5.5	40.04	×	明褐色		○
118	市来	14G R1	86					4.9	32.95	○	黑褐色/暗褐色		○
119	市来	20F R1						5.5	45.25	△	明褐色		○
120	市来	14G R1	66					5.2	41.40	○	黑褐色/明茶褐色	一部欠	○

第2表 円盤形土製加工品観察表2

番号	遺物	部位	出土区		層位	取上番号	標高(m)	面積(cm)	重さ(g)	緑度	色調		備考	文様
			区	R 小区							/	裏		
121	市来	口縫部	15G R1						4.9	.55	△	暗褐色/明褐色		○
122	"	"	21F R1	66					4.9	33.32	△	明褐色		○
123	"	"	12G	V					4.4	21.53	×	暗茶褐色	-一部欠	○
124	"	"	15G R1						4.6	21.17	△	暗茶褐色/明茶褐色		○
125	"	"	19E	V					4.8	24.63	×	黒褐色/暗茶褐色		○
126	"	"	19E	VII					5.0	33.10	○	"	-一部欠	○
127	"	"	21F R1						4.9	22.21	△	明茶褐色		○
128	"	"	13H R1						4.9	26.63	△	黒褐色/暗茶褐色	-一部欠	○
129	"	"	18E	V					5.4	48.53	△	淡茶褐色	略方形	○
130	"	"	16F	V					5.2	26.12	△	明茶褐色	-一部欠	○
131	"	"	11G R1	79					5.0	29.70	△	暗茶褐色/明茶褐色		○
132	"	"	Tナシ						5.6	41.38	×	淡茶褐色	-一部欠	○
133	"	"	16G R1	5					4.6	30.63	△	明茶褐色		○
134	"	"	16H	VI					4.8	30.96	△	"	-一部欠	○
135	"	"	10C	III					4.9	31.10	△	暗褐色		○
136	"	"	21F R1	54					5.1	28.90	△	明褐色/暗褐色	-一部欠	○
137	"	"	15G R1						4.6	25.52	△	淡褐色	"	○
138	"	"	12G	V上					4.3	20.24	△	暗褐色		○
139	"	"	18F R1						5.2	27.58	△	黒褐色	-一部欠	○
140	"	"	13H R1						4.5	18.78	△	暗茶褐色/明茶褐色		○
141	"	"	14H R1	50					4.8	24.76	△	暗褐色/ "		○
142	西平	胴部	21F R1						3.0	6.23	△	暗褐色	-一部欠	○
143	市来	口縫部	21E R1	81					4.6	16.14	△	黒褐色		○
144	"	"	15G R1						4.3	14.44	△	明茶褐色/黒褐色		○
145	"	"	Tナシ						6.6	19.70	△	淡褐色	半欠	○
146	"	"	16G R1	15					4.9	17.22	△	暗褐色	-一部欠	○
147	市来?	胴部	Tナシ						5.6	22.22	△	"		○
148	市来	口縫部	12H R1	90					4.2	20.30	×	淡褐色	"	○
149	"	"	14G R1						3.9	14.42	×	黒褐色/明茶褐色	"	○
150	"	"	14G R1						3.7	19.11	△	" /暗茶褐色		○
151	"	"	20F R1						4.1	19.46	△	明茶褐色/暗茶褐色		○
152	"	"	14G R1						3.8	14.45	×	暗茶褐色/黒褐色	-一部欠	○
153	"	"	15G R1	37					3.7	14.25	△	暗褐色		○
154	"	"	21F R1						4.0	21.59	△	黒褐色/明茶褐色	-一部欠	○
155	"	胴部	13H R1	5					4.6	17.17	△	淡褐色/ "	"	○
156	"	"	22F R1	62					4.3	16.16	△	暗茶褐色/淡褐色	"	○
157	"	"	12E	V					4.6	19.08	○	明褐色		○
158	"	"	19E	VII					4.8	27.90	△	黒褐色/暗褐色	草野の可有り	○
159	"	口縫部	15G	V					5.2	32.36	○	暗茶褐色/ "		○
160	西平	胴部	20F R1						2.9	7.32	△	" /暗茶褐色		○
161	"	口縫部	21F R1	55					4.8	17.14	×	暗茶褐色/黒褐色		○
162	丸尾	"	16G R1	7					7.3	70.95	△	" /明茶褐色	-一部欠	○
163	不明	胴部	23K R2						3.0	8.95	○	明茶褐色		○
164	"	"	22N R2	86	38311				2.5	7.84	○	暗褐色/明茶褐色		○
165	"	"	20F R1	70	43272				3.5	9.20	○	明茶褐色/淡褐色		○
166	"	"	11G R1						3.5	10.18	○	暗褐色/明茶褐色		○
167	"	"	11G R1						2.0	14.37	○	淡褐色/暗褐色		○
168	"	"	13H R1						3.0	11.43	○	明褐色		○
169	"	"	21F R1	44	36803				3.5	13.56	○	明茶褐色/淡褐色		○
170	"	"	16G R1						4.0	24.30	○	明茶褐色		○
171	"	"	21D	横軸					4.0	16.59	○	暗褐色/暗褐色		○
172	"	"	12H R1	80	27305				3.5	16.75	○	淡褐色		○
173	"	"	12H R1						3.5	19.67	○	暗褐色/明茶褐色		○
174	"	"	15F	V	27552	12.92			4.0	20.00	○	明茶褐色/暗茶褐色		○
175	"	"	16G R1						3.5	12.07	○	" /暗褐色		○
176	"	"	16G	溝					4.0	25.44	○	明茶褐色		○
177	"	"	14G	V					4.0	22.77	○	淡褐色/暗茶褐色		○
178	"	"	15G R1						3.0	6.51	○	淡褐色/淡灰褐色		○
179	"	"	21D	V					4.0	21.77	○	暗褐色		○
180	"	"	20F R1	57	43243				4.0	16.03	○	黒褐色/淡褐色		○

第3表 円盤形土製加工品鏡察表3

番号	遺物	部位	出土区			層位	取上番号	標高(m)	直徑(cm)	重さ(g)	色調		備考	文様
			区	R	小区						層番	裏		
181	不明	側部	22K	R2					4.0	20.93	○	培茶褐/黒褐色		
182	×	18F R1							3.5	17.22	○	黒褐色/褐褐色		
183	×	15G R1	71		26064				4.0	15.96	○	暗褐色		
184	×	20D		V	37722	13.67			3.5	20.12	○	明褐色		
185	×	20F R1	56		40926				3.5	12.38	○	暗褐色/淡褐色		
186	×	18D		V	32780	13.56			4.0	20.87	○	培茶褐/黒褐色		
187	×	23K R2							4.0	20.41	○	培茶褐/明茶褐		
188	×	干ナシ							4.0	19.53	○	明茶褐/黒褐色		
189	×	15F R1	98		28267				3.5	19.94	○	黒褐色/明茶褐		
190	×	11H R1							4.0	18.38				
191	×	22D	42		37959				4.0	24.18	○	培茶褐/黒褐色		
192	×	14B		III					4.0	24.58	○	明茶褐/明褐色		
193	×	21F R1	74		32438				4.0	16.18	○	暗褐色		
194	×	12G R1							3.5	18.95	○	黒褐色/淡褐色		
195	×	20F R1	75		40996				3.5	22.08	○	暗褐色/黒褐色		
196	×	干ナシ							4.5	21.02	○	淡茶褐/	文様有り?	
197	×	15F		V	20391	13.01			4.0	16.95	○	明茶褐/暗褐色		
198	×	15G R1							3.5	14.71	○	明茶褐/暗褐色		
199	×	14F		V	16459	13.10			4.0	19.67	○	明褐色		
200	×	16G R1							4.0	15.40	○	黑褐色		
201	北久根?	21F R1							4.0	17.22	○	明黄褐/暗灰褐		
202	不明	16F R1							4.0	14.45	○	黒褐色		
203	×	15G R1	83						4.0	19.69	○	黒褐色/深灰褐	-部欠	
204	×	22N R2							4.0	17.37	○	暗茶褐色	"	
205	×	20P		VI					4.0	15.23	○	明黄褐/暗褐色		
206	×	20E		VI					4.5	32.43	○	明茶褐	-部欠	
207	×	12H R1							4.0	23.85	○	暗褐色/黒褐色		
208	×	18E		VI					3.5	10.81	○	明茶褐/暗褐色		
209	×	16G R1							3.7	13.54	○	"	-部欠	
210	×	18F R1							4.0	19.30	△	黒褐色/暗褐色		
211	×	20F R1	30		43225				3.5	13.10	○	明茶褐/暗褐色		
212	×	18F R1	85		32503				4.0	19.92	○	明茶勝/暗褐色		
213	鐵崎	20F R1							6.5t×4.7t	32.37	○	黒灰褐色	2/3欠	
214	×	15G R1							4.7t×4.0t	15.32	○	明茶褐/明褐色	一部欠	
215	不明	18C		III					3.0	8.28	△	暗褐色		
216	×	11H R1							3.0	10.49	△	明茶褐/暗褐色		
217	×	20F R1	63		38847				3.0	8.86	△	淡褐色/明茶褐		
218	×	12H R1							3.0	11.57	△	暗褐色/暗黃褐色		
219	×	15G R1							3.0	9.16	○	淡黃褐色		
220	×	22M	培茶褐色上						3.5	10.92	△	暗茶褐/黒褐色		
221	×	11F		V	19691	13.08			3.5	12.99	△	暗褐色/暗褐色		
222	×	18D		V					3.0	9.31	○	淡明褐/淡黃褐色		
223	×	11G R1							3.5	13.40	△	淡褐色		
224	北久根?	8C		VIIc					3.5	6.89	○	淡黃褐色		
225	×	16G R1							3.5	15.36	○	明茶褐/暗褐色		
226	北久根?	14E		V					3.5	12.62	○	淡黃褐/黒褐色		
227	×	15G R1							4.0	18.16	△	淡褐色	-部欠	
228	×	15C		VI					3.0	13.26	○	明茶褐色		
229	×	15G R1							4.0	15.71	△	暗褐色/明茶褐		
230	×	15F		V	20742	13.08			3.5	16.56	△	暗茶褐/培茶褐		
231	北久根?	20F R1	63		39166				3.5	18.74	△	明黄褐/黒褐色		
232	×	14G R1							4.0	16.17	△	明茶褐色		
233	×	16G R1							4.0	12.36	○	暗茶褐色		
234	鐵崎?	11G R1							4.0	13.56	○	黒灰褐/暗褐色		
235	×	11G R1							3.5	15.29	○	暗茶褐/暗褐色		
236	×	14G R1	38		27604				4.5	19.52	△	明茶褐/暗褐色		
237	×	18E		VI					3.8	18.90	△	淡褐色		
238	×	22K R2							3.6	16.07	△	暗褐色/明褐色		
239	×	12H R1							3.8	16.10	○	明茶褐色		
240	×	12H R1							3.8	17.46	△	明茶褐/明褐色	文様有り?	

第4表 円盤形土製加工品觀察表4

番号	遺物	部位	出土区		層位	取上番号	標高(m)	直径(cm)	重さ(g)	特徴	色調		備考	文様
			区	R 小区							表	/ 製		
241	不明	胴部	13F		IV			3.6	11.89	○	暗褐色/黒褐色			
242	×	×	15G		V			4.0	14.13	△	暗茶褐色/黒褐色			
243	×	×	16G R1					4.0	14.62	△	淡褐色/暗褐色			
244	×	×	16E		V 171119	13.26		3.8	18.06	△	淡黃茶褐色			
245	×	×	16G R1 84		24010			3.8	13.43	△	淡茶褐色/淡褐色			
246	×	×	15E		V 370			4.0	13.96	△	淡茶褐色/黒褐色			
247	×	×	14G		V 23790	12.80		3.5	13.62	△	黒褐色/暗褐色			
248	×	×	15G R1 39		27714			4.2	15.85	△	明褐色/黒褐色			
249	×	×	23K 淡茶褐色粘質土					4.0	22.59	△	暗褐色			
250	×	×	21F R1					4.2	15.48	△	明茶褐色/淡黃茶			
251	×	×	22N R2					4.1	12.48	○	明茶褐色/暗茶褐色			
252	×	×	15E		V 13299	13.22	3.4×3.1	7.08	○	淡黃白色				
253	×	×	16G R1					3.5	15.64	○	明茶褐色			
254	×	×	22N R2					4.0	17.62	△	淡黃褐色/暗褐色			
255	×	×	14G R1				3.5×3.3	17.41	△	暗褐色				
256	×	×	千ナシ				4.7×4.6	25.51	○	淡黃茶褐色				
257	×	×	15G R1				5.3×5.0	28.42	○	暗褐色/暗灰褐色	一部欠			
258	×	×	15G R1 40		28262			5.5×5.3	32.09	○	明茶褐色/暗茶褐色			
259	北久根	×	16D		IV			5.3×4.5	29.90	○	淡灰褐色	小判形		
260	籠崎	×	15G R1 43		27765			5.3×5.1	26.07	○	淡褐色/暗灰褐色			
261	不明	×	15G R1 36		26939			5.7×5.1	38.42	○	暗褐色/暗茶褐色			
262	×	×	21F R1					5.1×5.0	27.96	○	暗茶褐色/暗茶褐色			
263	×	×	12H R1					4.6×4.3	17.56	○	暗褐色/淡褐色			
264	×	×	21E		VI 39654	13.55		5.0	16.77	○	黑褐色/暗褐色			
265	×	×	12H R1					6.1×3.1+α	31.28	○	淡黃茶/黒褐色	半欠		
266	×	×	16G R1 62		24919			5.2×3.3+α	26.03	○	暗褐色	半欠		
267	北久根	×	20F		VI			5.1×4.0+α	17.86	○	黑褐色/暗灰褐色	半欠		
268	籠崎	×	20F R1 9		38770			5.8×3.7+α	20.14	○	暗灰褐色	半欠		
269	不明	底部	15G R1					6.0	36.79	○	明茶褐色/暗茶褐色			
270	×	×	23M R2					5.0	30.75	△	淡黃褐色/明茶褐色			
271	×	×	11H R1					4.5	20.74	○	淡褐色			
272	×	×	23K R2					5.0	25.03	○	明褐色/暗褐色			
273	×	×	20F R1 56		40930			5.0	28.55	○	暗褐色			
274	×	×	15G		V 21765	12.78		5.0	31.14	○	暗茶褐色/			
275	×	×	20F R1 57		39153			5.0	31.01	○	暗茶褐色			
276	×	×	千ナシ					5.0	36.29	○	暗褐色			
277	×	×	21E R1 91		37238			5.5	42.41	○	暗灰褐色/黒褐色	籠崎?		
278	*	*	13H R1					5.0	23.08	○	暗茶褐色/明茶褐色			
279	籠崎	*	12H R1					5.5	26.72	○	淡褐色			
280	不明	*	22K R2					5.0	32.86	○	明茶褐色			
281	*	*	11G R1					5.0	25.88	○	*			
282	*	*	21F R1 26		36777			5.0	30.18	○	*			
283	*	*	18F R1 96		33267			5.0	26.33	○	明茶褐色/暗褐色			
284	*	*	15G R1					4.5	24.79	○	淡褐色			
285	*	*	16G R1					6.0	36.74	○	淡茶褐色/淡褐色			
286	*	*	21F R1 34		37311			5.0	33.51	○	淡褐色/淡黃褐色			
287	*	*	15G R1					5.5	35.33	○	淡黃褐色/黒褐色			
288	*	*	21E R1 73		37998			5.5	43.49	○	明茶褐色			
289	*	*	16G R1 51		28446			5.5	28.84	○	淡褐色			
290	*	*	15G R1					5.0	19.02	○	*			
291	*	*	13H R1					5.5	33.76	○	暗褐色/明茶褐色			
292	*	*	20F R2 70		38874			4.5	26.12	○	暗灰褐色			
293	*	*	千ナシ					5.5	27.99	○	暗褐色/暗灰褐色			
294	*	*	15G R1					5.5	33.67	○	暗茶褐色/暗褐色			
295	*	*	14E		12123	13.24		6.0	37.46	○	暗茶褐色/淡褐色			
296	*	*	12H R1					5.5	32.61	○	暗茶褐色/黒褐色			
297	*	*	22K R2					5.0	38.21	○	暗茶褐色			
298	*	*	15G R2					5.5	15.37	○	暗灰褐色			
299	*	*	15G		23451	13.19		5.0	32.93	○	明褐色	集石付近		
300	*	*	12H R1					5.0	27.42	○	黑褐色			

第5表 円盤形土製加工品観察表5

番号	遺物	部位	出土区			層位	取上番号	標高(m)	直徑(cm)	重さ(g)	色調		備考	文様
			区	R	小區						表	裏		
301	不明	胴部	23K	乳白色砂土						5.0	35.60	○	黒褐色	
302	×	14F	V	18076	13.16					5.0	31.67	○	明茶褐色	
303	×	15II R1								5.0	16.48	○	淡黃白/明褐色	
304	×	15F	V	18936	13.17					5.5	29.41	○	黒褐色/淡黃褐色	
305	×	18F R1 94		33954						5.5	26.55	○	明茶褐色/暗褐色	
306	×	12H R1								5.0	36.14	○	明褐色	
307	×	14D	V							6.0	38.07	○	黒褐色/淡茶褐色	
308	北久根?	20F R1 58		40917						5.5	34.24	○	* / 暗黒褐色	
309	不明	干ナシ								6.0	26.43	○	暗茶褐色/明褐色	
310	×	干ナシ								5.0	29.10	○	明茶褐色	
311	×	18F R1 65		32472						4.5	30.19	○	暗茶褐色/暗褐色	
312	×	15G R1 77		26637						5.0	27.29	○	淡茶褐色/暗褐色	
313	×	12H R1 70		26875						5.0	27.68	○	暗褐色/*	
314	×	16G R1								4.5	22.58	○	明茶褐色/暗褐色	
315	×	12H	V							4.5	23.93	○	暗茶褐色/黑褐色	
316	×	20F R1 29		43173						4.5	22.63	○	淡灰褐色/*	
317	×	21F R1 13		36714						4.5	20.65	○	黒褐色	
318	×	14G	V	22243	13.02					4.5	33.41	○	暗茶褐色/淡褐色	
319	×	12G R1 89		28114						4.5	28.87	○	淡黃褐色/明褐色	
320	×	18F R1 84		32721						4.5	23.75	○	暗褐色/淡褐色	
321	×	20F R1 37		40887						4.5	25.63	○	黒茶褐色/暗褐色	
322	難崎	16G R1 42		24903						4.5	20.96	○	黒灰褐色/*	
323	不明	12H	清							4.5	29.59	○	淡黃褐色/淡褐色	
324	×	12E	V							4.5	26.86	○	明茶褐色/淡茶褐色	
325	×	11G R1								4.5	22.89	○	明褐色	
326	×	23K R2								4.5	27.18	○	暗茶褐色/明褐色	
327	丸尾?	21F R1								4.5	18.93	○	* / 明茶褐色	
328	不明	21D	V	37909	13.67					4.5	26.69	○	明褐色/明茶褐色	
329	×	底部	18F R1 99		33273					5.5	30.51	○	黒褐色/黒茶褐色	
330	×	胴部	15G R1							6.0	21.40	○	暗茶褐色/暗褐色	
331	×	22N R1 59		38751						5.5	26.82	○	明茶褐色/暗茶褐色	
332	×	20F R1 56		38942						6.5	47.88	○	暗茶褐色/暗褐色	
333	×	7C								5.5	36.09	○	明茶褐色/暗褐色	
334	×	15G R1 54		26241						5.5	42.79	○	暗灰褐色/淡灰褐色	
335	×	13II R1 46		27315						5.5	36.14	○	暗茶褐色/明褐色	
336	×	15G R1								5.5	26.34	○	黒茶褐色/明茶褐色	
337	×	13H R1								5.0	26.07	○	明茶褐色/暗茶褐色	
338	干ナシ									6.0	57.57			
339	不明	15G R1								5.5	24.06	○	黒茶褐色/明茶褐色	
340	×	11G R1								5.5	39.77	○	明茶褐色	
341	×	15G R1 38		28325						5.5	33.95	○	暗褐色	
342	×	底部	20F R1 63		40960					6.0	48.46	○	暗褐色/明茶褐色	
343	×	胴部	16E	V	20184	13.05				6.0	43.09	○	暗茶褐色/暗褐色	
344	×	13E	V	19932	13.16					6.0	37.91	○	明茶褐色	
345	×	12H R1								5.5	32.98	○	明茶褐色/暗茶褐色	
346	×	19E	V	41470	13.62					6.0	48.03	○	黒茶褐色/淡明茶	
347	×	底部	16G R1							6.0	43.05	○	明茶褐色	
348	×	胴部	16G R1 74		24929					6.5	73.28	○	暗茶褐色/暗褐色	
349	×	14G R1								6.0	25.05	○	明茶褐色/明褐色	
350	×	15E	V	235						6.0	43.80	○	黒茶褐色/淡褐色	
351	×	20E	V							6.0	21.31	○	明茶褐色/暗褐色	
352	×	14G R1 59		28369						6.0	43.82	○	明茶褐色	
353	難崎?	15F	V	5334	13.09					6.5	34.43	○	暗灰褐色/半褐色	
354	不明	18F R1								6.0	37.85	○	暗褐色/淡茶褐色	一部欠
355	×	15G R1 83		27501						6.0	51.36	○	黒茶褐色/暗褐色	
356	×	12H	清							5.5	45.52	○	明茶褐色/*	
357	×	14H R1								6.0	34.19	○	暗褐色/淡明茶	
358	×	14G R1 69		28302						5.5	30.36	○	暗褐色/淡黃褐色	
359	×	16F R1 91		26713						5.5	43.35	○	暗褐色/黑褐色	一部欠
360	×	14G R1 57		27170						6.0	46.63	○	淡茶褐色	

第6表 円盤形土製加工品観察表6

番号	遺物	部位	出土区			層位	取上番号	標高(m)	直徑(cm)	重さ(g)	縁度	色調		備考	文様	
			区	R	小区							表	裏			
361	不明	脚部	22K	R2	60		38583		6.5	44.37	○	明茶褐色/暗褐色				
362	"	"	15II	R1	15		28343		5.5	28.92	○	明褐色				
363	"	"	15H	R1	41		27802		6.0	44.84	○	黑茶褐色/暗褐色	小判形			
364	"	"	千ナシ						5.5	41.33	○	暗灰褐色/暗褐色	文様有り?			
365	"	"	千ナシ						6.0	59.47	○	暗褐色/黑灰褐色				
366	"	"	16G	R1	6		28491		5.5	37.10	○	暗褐色	一部欠			
367	"	"	13H	R1					6.0	39.98	○	淡茶褐色				
368	"	"	12G	R1					6.0	55.48	○	明茶褐色/暗褐色				
369	"	"	22K	R2	48	V	38579		6.0	31.10	○	暗茶褐色	小判形			
370	"	底部	15E			V			6.5	47.61	○	明茶褐色				
371	"	脚部	20F	R1	5		43126		5.5	28.64	○	淡褐色/明茶褐色				
372	"	"							6.5	35.14	○	暗褐色/淡褐色				
373	"	"	15G	R1					6.0	35.64	○	黑褐色/明茶褐色				
374	"	"	13H	R1					6.0	35.20	○	明茶褐色				
375	"	"	16G	R1					6.5	38.09	○	黑茶褐色/暗褐色	一部欠			
376	"	"	13H	R1					5.0	19.21	○	暗茶褐色/明茶褐色				
377	"	"	20F	R1	50		38817		5.2	38.21	○	黑茶褐色/暗褐色				
378	"	"	14G	R1					5.5	22.26	○	暗茶褐色/明茶褐色				
379	"	"	18D			VII	33521	13.54	5.5×5.1	27.27	○	暗褐色/黑褐色				
380	"	"	12H	R1					4.9	27.03	○	黑褐色/明茶褐色				
381	"	"	16G	R1					5.4×5.0	37.72	○	暗褐色/明褐色				
382	"	"	21E			VII	39804	13.49	4.7×4.5	24.88	○	黑茶褐色/暗褐色				
383	"	"	14E			V			5.0	18.98	○	黑茶褐色				
384	"	"	15G	R1					5.1×5.0	32.84	○	淡褐色/黑褐色				
385	"	底部	13H	R1					5.5	27.62	○	明茶褐色				
386	"	"	20E			VII			6.0	28.12	×	暗褐色/明茶褐色	つぶでない可有			
387	"	"	16G	R1					6.0	48.12	×	明茶褐色/暗褐色				
388	"	"	16G	R1					5.5	38.56	×	明褐色/暗茶褐色				
389	"	"	16G	R1					6.0	56.29	×	明茶褐色				
390	"	脚部	14II	R1					5.0	22.13	×	明茶褐色/黑褐色				
391	"	"	18H			V			5.5	23.35	×	淡褐色/黑褐色				
392	鐵崎?	"	14G			V			6.0	33.74	×	黒褐色/ "				
393	不明	"	14G			V	9708	13.15			5.5	31.63	×	明茶褐色/暗茶褐色		
394	"	"	21F	R1			37422			5.5	32.82	○	暗茶褐色/暗褐色			
395	"	"	12H	R1	30		26857			6.0	42.73	○	黑灰褐色			
396	"	"	15H	R1	3		28335			6.0	43.86	○	淡褐色/明茶褐色			
397	"	"	22K	R2						6.0	38.22	○	暗茶褐色			
398	"	"	19E			VII	41121	13.62			6.0	53.60	○	黑灰褐色/黑茶褐色		
399	"	"	15H	R1	42		27803			6.0	28.71	○	明褐色/暗茶褐色			
400	"	"	12H			V	18317	12.85			5.5	40.95	×	暗褐色/ "	略方形	
401	"	"	千ナシ							6.5	39.84	○	淡褐色			
402	"	"	14G	R1						6.5	29.65	○	"	一部欠		
403	"	"	16G	R1						6.5	27.45	○	明茶褐色/黑褐色	"		
404	"	"	18F	R1						6.5	61.37	○	淡褐色/暗褐色	"		
405	"	"	22K	R2	58		38581			6.5	43.50	×	暗茶褐色/黑茶褐色			
406	"	"	14G	R1						5.5	32.32	×	" / 明褐色			
407	"	"	23N	R2						6.5	53.37	×	暗褐色/ "			
408	"	"	千ナシ							6.0	45.45	×	明茶褐色/黑褐色			
409	"	"	21F	R1	12					6.0	50.99	×	明茶褐色			
410	"	"	16F	R1						5.5	21.27	×	黑茶褐色/明茶褐色			
411	"	"	14H	R2						6.0	38.25	×	明茶褐色/暗茶褐色			
412	"	"	13II	R1						6.0	29.62	×	暗茶褐色/明褐色			
413	"	"	16G	R1	64		26431			6.0	32.97	○	明茶褐色/淡褐色			
414	"	"	16F	R1						5.0	37.18	×	暗茶褐色/明褐色			
415	"	"	14G	R1						6.5	40.52	×	明茶褐色/淡褐色			
416	"	"	20E			VII			5.5×7.0	39.52	○	淡黃茶/淡褐色				
417	"	底部	13F			V			6.0	48.38	○	明褐色/暗褐色	小判形			
418	"	"	14G	R1	49		28370			7.5	100.40	○	明茶褐色			
419	"	"	14G	R1						7.0×8.0	72.33	○	淡茶褐色/淡黃茶			
420	"	"	千ナシ							7.5	58.22	○	明茶褐色/黑褐色			

第7表 円盤形土製加工品観察表7

番号	遺物	部位	出土区			層位	取上番号	標高(m)	直徑(cm)	重さ(g)	緑度	色調			備考	文様	
			区	R	小区							表 / 裏					
421	不明	側部	23K		IV				6.5	71.17	○	淡褐色					
422	"	16F R1							7.0	46.76	○	淡茶褐/淡褐色					
423	"	底部	15G R1						7.5	46.34	○	淡褐色/明茶褐					
424	"	10G R1							8.0	62.31	○	明茶褐/暗褐色					
425	"	19D	V	25635	13.73				6.0	37.81	○	明茶褐色			一部欠		
426	"	胸部	18F R1 83	32720					7.0	61.63	○	淡褐色/灰褐色					
427	"	20F	VII	41037	13.14				7.0	58.10	○	暗茶褐/明茶褐					
428	"	14G R1 65	26693						8.5	66.81	○	暗茶褐/明茶褐					
429	"	19E	VII						6.5	40.93	○	暗茶褐/淡黃白					
430	"	15G R1 37	28235						6.5	63.75	○	淡褐色					
431	"	15G R1							8.0	67.27	○	黑灰褐/明茶褐					
432	"	14H R1 30	28394						10.5	9.5	125.00						
433	"	14H R1 61	28659						7.0	53.32	○	明茶褐色					
434	"	14H R1 61	28406						9.0	74.10	○	暗茶褐/明茶褐					
435	"	14G R1 79	27654						7.0	47.33	○	暗褐色/淡褐色					
436	"	15G R1 95	27496						8.5	63.48	○	暗茶褐/ "					
437	"	18F R1 84	33419						7.0	72.64	○	淡茶褐/暗褐色					
438	"	18F R1 75	33932						7.0	55.88	○	黑茶褐/暗茶褐					
439	"	13II R1 89	27975						7.0	41.23	○	淡茶褐色					
440	"	23M 咪茶褐色							7.0	54.11	○	明茶褐/淡褐色			一部欠		
441	"	15G R1							7.0	47.61	○	黑茶褐/暗茶褐					
442	"	13H R1							7.0	49.16	○	暗茶褐/明茶褐			一部欠		
443	"	底部	16G R1 72	26436					9.5	101.38	○	淡茶褐/黑灰褐					
444	"	12G R1							6.5	42.80	○	明茶褐色					
445	"	16G R1							7.0	33.42	×	明茶褐/淡褐色					
446	"	胸部	13H R1 15	26895					6.5	45.86	○	暗褐色/黑茶褐					
447	"	20F R1							8.0	84.54	○	淡褐色/暗褐色			鐵崎?		
448	"	13G R1							6.5	48.06	○	黑茶褐/明茶褐					
449	丸尾	口縫部	21E R1 71	37195					5.5	50.40	○	暗茶褐/淡褐色				○	
450	"	胸部	21F R1 26	36733					5.0	32.77	○	"			一部欠	○	
451	"	16H	V	17942	12.68				4.5	20.75	○	明茶褐/暗褐色				○	
452	"	14D	V						4.5	21.87	○	暗茶褐色				○	
453	"	ナナシ							5.0	29.32	○	明茶褐/暗褐色			一部欠	○	
454	"	12H R1							4.5	29.92	○	明茶褐色				○	
455	"	12H R1							4.0	17.43	○	暗褐色/明茶褐				○	
456	"	11G R1							6.0	38.43	○	"			一部欠	○	
457	"	11G R1							5.5	21.78	○	"				○	
458	"	15G R1							4.0	20.65	○	"				○	
459	"	15G	V						4.0	2.5	16.59	○	暗茶褐/明茶褐			一部欠	○
460	"	12H R1 87	28712						4.0	17.64	○	暗褐色/ "				○	
461	"	16G R1 26	24888						4.5	24.66	○	黑茶褐/ "				○	
462	納普	22K R2 59	38582						6.0	5.423	○	暗褐色/淡褐色			略長方形	○	
463	"	11H R1							4.5	19.95	×	明茶褐/淡茶褐				○	
464	丸尾	21F R1							4.0	16.65	○	"			一部欠	○	
465	"	15F	V						4.5	25.40	○	黑褐色/暗茶褐				○	
466	"	20L	III						4.5	22.86	○	淡褐色/明茶褐			一部欠	○	
467	"	15G	V						3.5	11.37	○	黑茶褐/黑褐色				○	
468	"	12II R1 77	29000						4.0	16.44	○	淡褐色/暗褐色				○	
469	"	16F R1 96	26403						6.0	63.40	○	黑褐色/明茶褐				○	
470	"	12H R1 57	26526						6.5	46.99	○	淡褐色/黑褐色				○	
471	"	17F	V	17074	13.08	8.0×6.5			8.2	6.8	○	淡褐色/明茶褐				○	
472	"	16G	V	3625	12.94				6.0	42.06	○	明茶褐色				○	
473	"	15G R1							4.5	24.53	○	黑茶褐/暗褐色				○	
474	"	23K	IV						6.0	45.74	○	暗褐色/明茶褐				○	
475	納普	15F-G R1							6.0	41.09	○	黑褐色/暗褐色			一部欠	○	
476	丸尾	12H R1							5.5	40.16	○	明茶褐色			略方形	○	

第8表 円盤形土製加工品観察表8

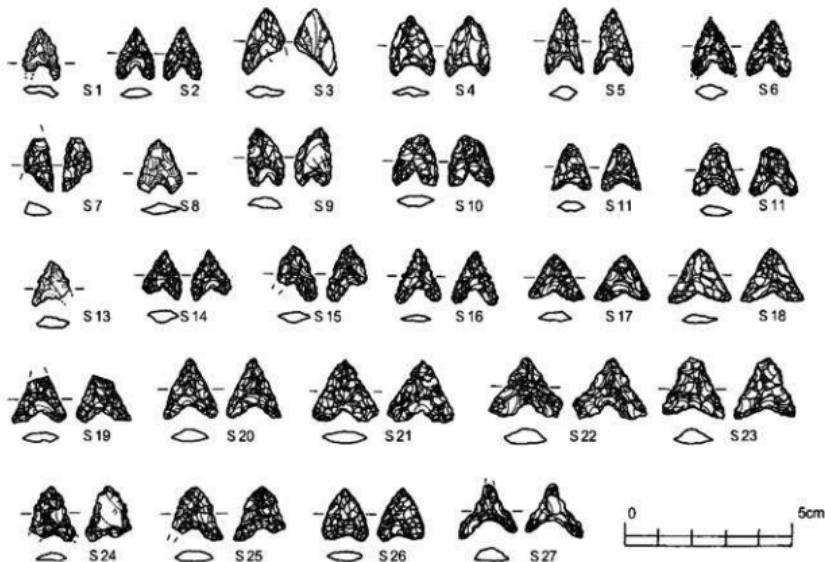
### 3) 石器

多種多様な石器がある。定型石器として石鎌・石匙・スクレイパー・石錐・ピエスエスキュー・打製石斧・磨製石斧・石刀・磨石・凹石・石皿・石錘・砥石・礫器などがあり、この他に二次加工のある剥片石器、使用痕のある剥片石器・石核も多い。

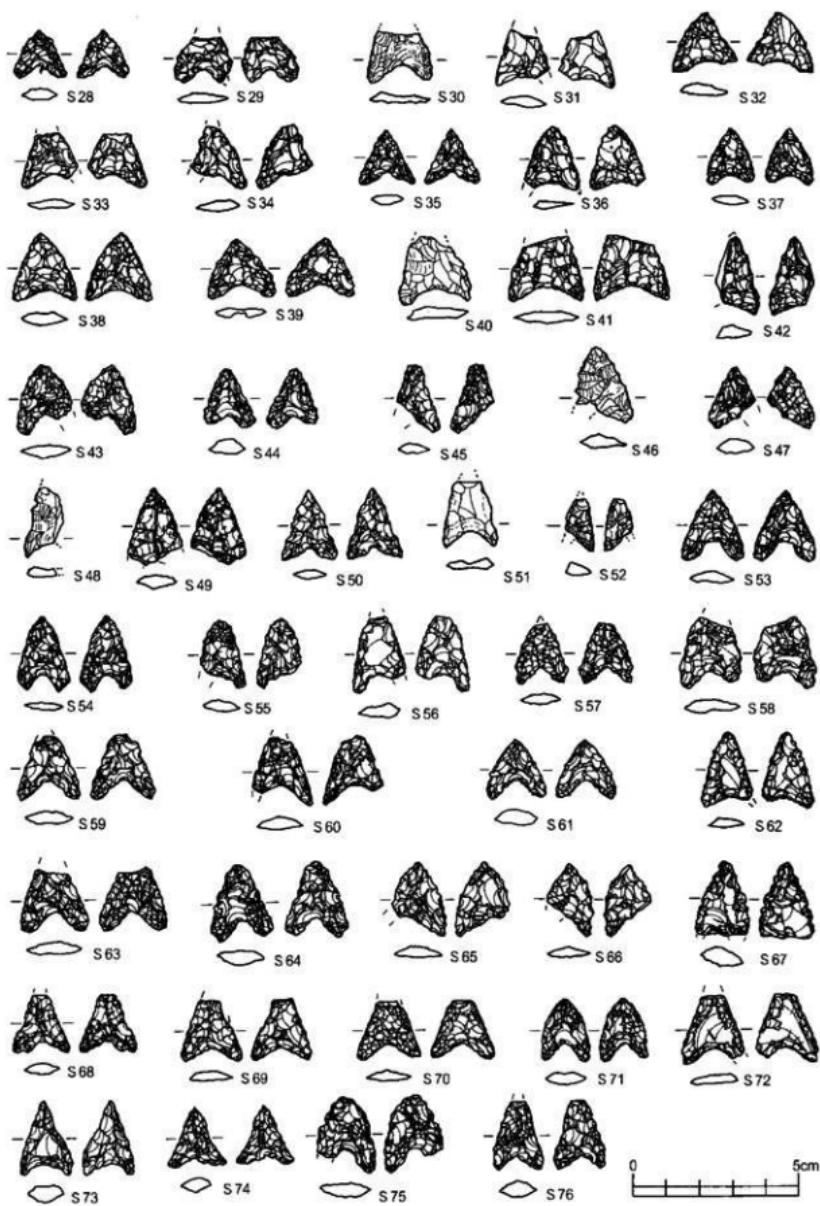
#### (1) 石鎌 (第14~25図)

485点の石鎌を掲載した。ほとんど打製石鎌で、1点だけが磨製石鎌である。打製石鎌は基部調整によって凹基・平基・凸基の3種に分けることができる。

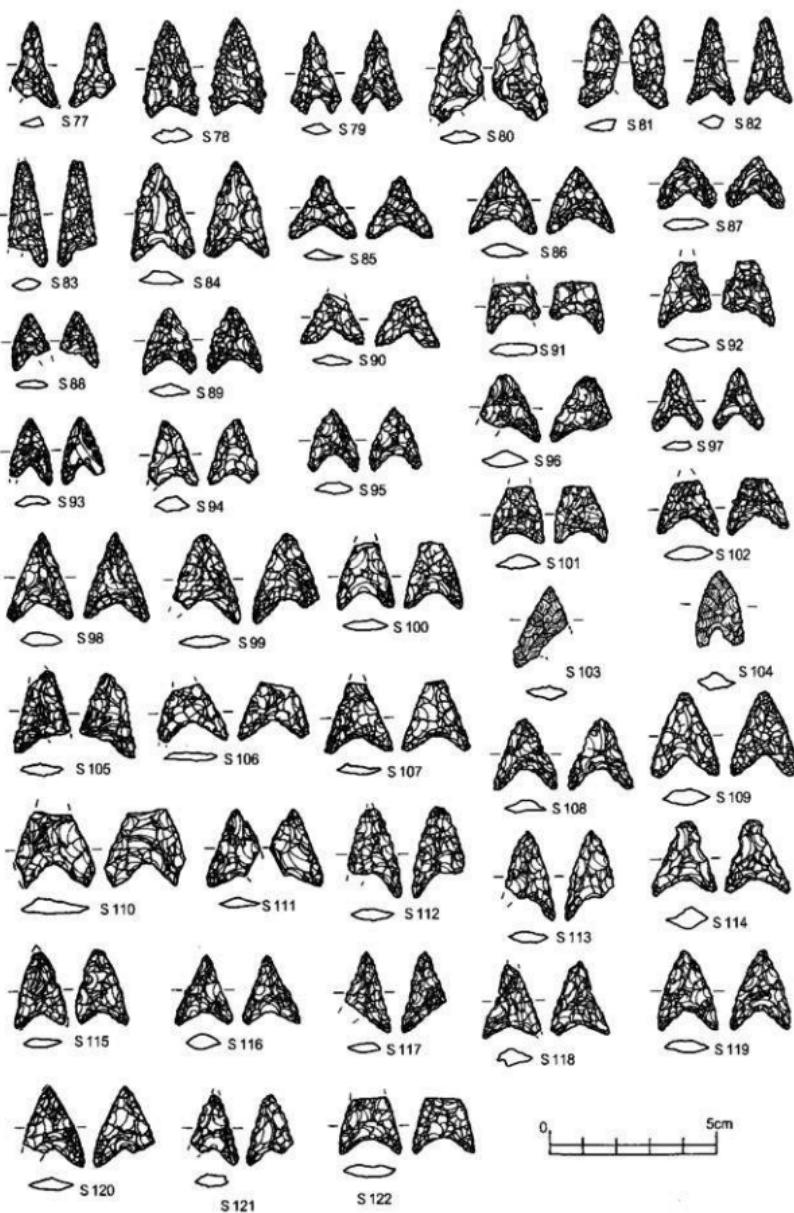
凹基は332点ある。えぐりの深いものと浅いものに大別できるが、浅いものが多い。えぐりの形も丸みをおびたものと直にのび脚の先端が鋭いものとがある。長さが1.1cmほどの小さいものから2.8cmもある大きなものまで大きさは多様である。S16はサメ歯鎌であるが、概してサメ歯鎌は少ない。S22は略五角形を呈し、えぐりは丸い。S27は先端が欠けており、ほぼ正三角形に近いが、えぐりが広く深く、先端部・脚部とも狭い。調整はていねいに細かくしたものもあるが、周辺のみ加工して中央部は一次剥離面を残しているものも多い。S77~S84は長さの割りに幅の狭い長二等辺三角形を呈しているが、S83は特に細長い。S79・S110も五角形を呈している。S133・S134は先端近くで屈曲し、貼り出している。S134とS151は基部近くでくびれて多角形となる。S140は大型である。S158も大型であるが基部や中央部はほとんど加工しておらず、2辺の周辺部だけ細かく剥離を施している。S160~S332はえぐりが浅い。この中にもS160・S172・S179・S195・S242・S288・S298・S304・S306



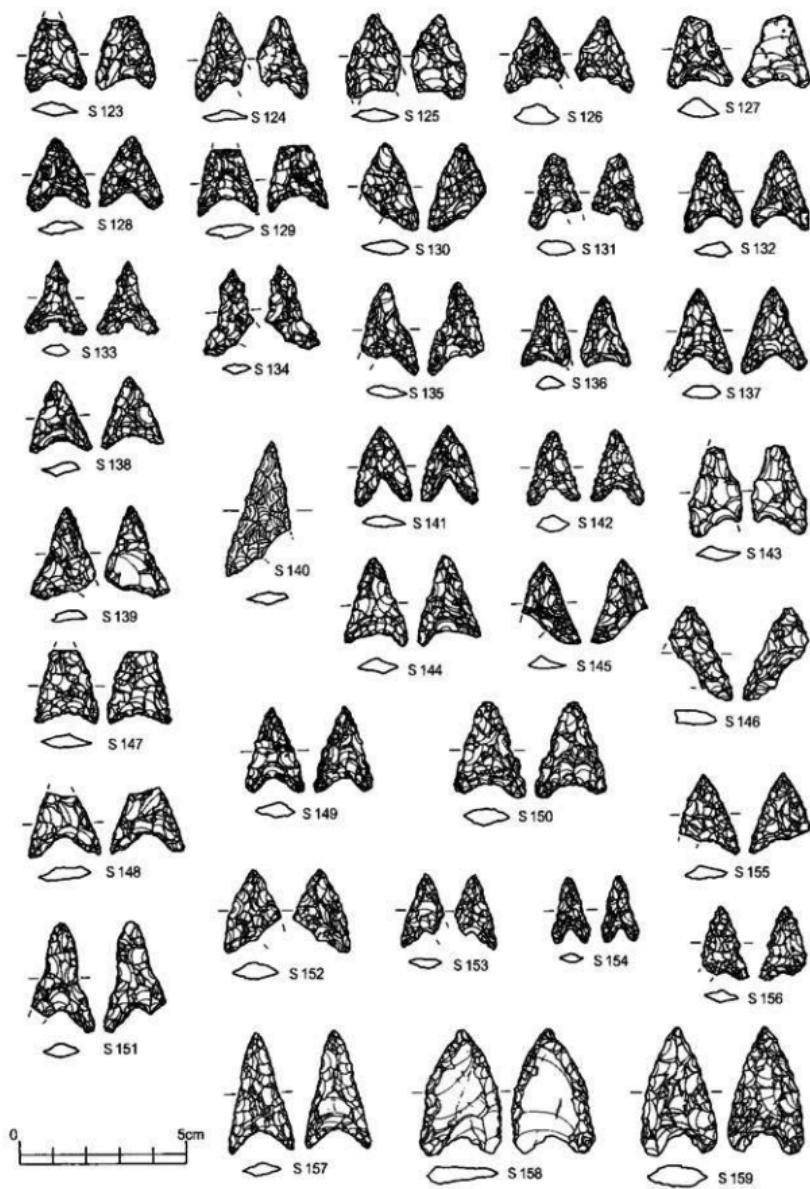
第14図 石鎌1



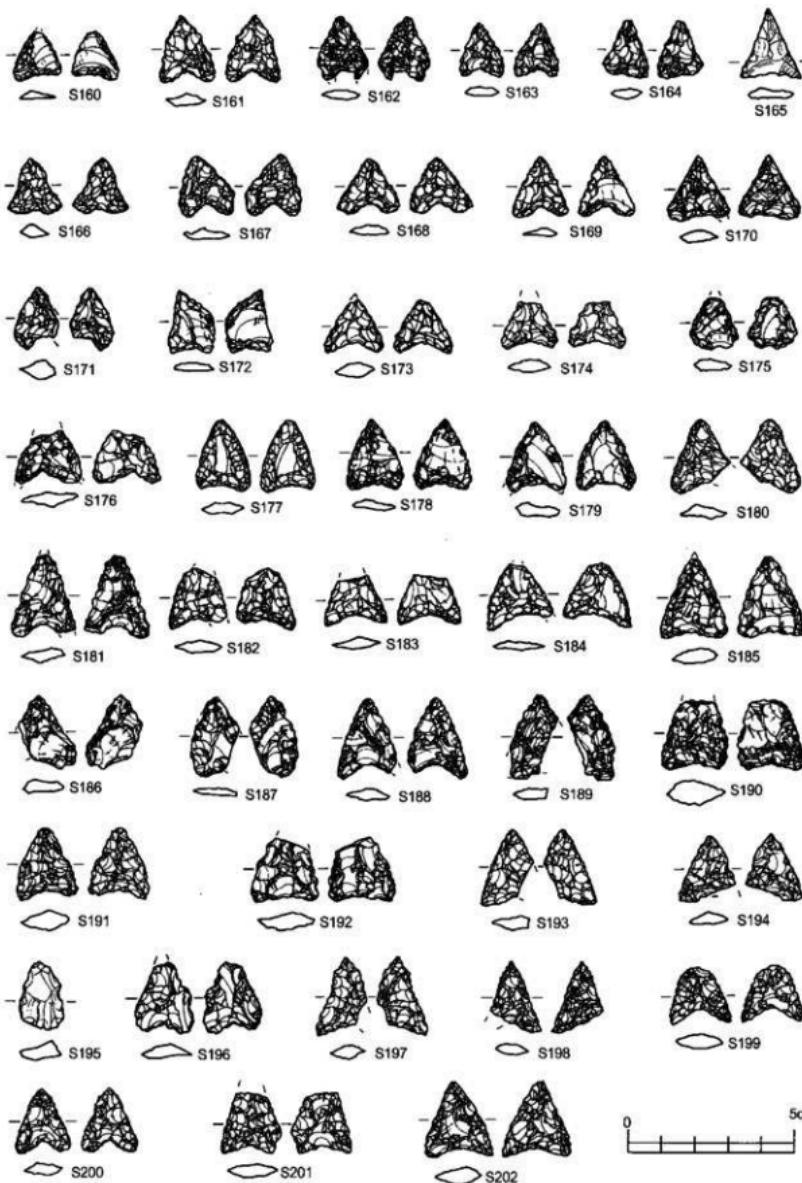
第15図 石 鰓2



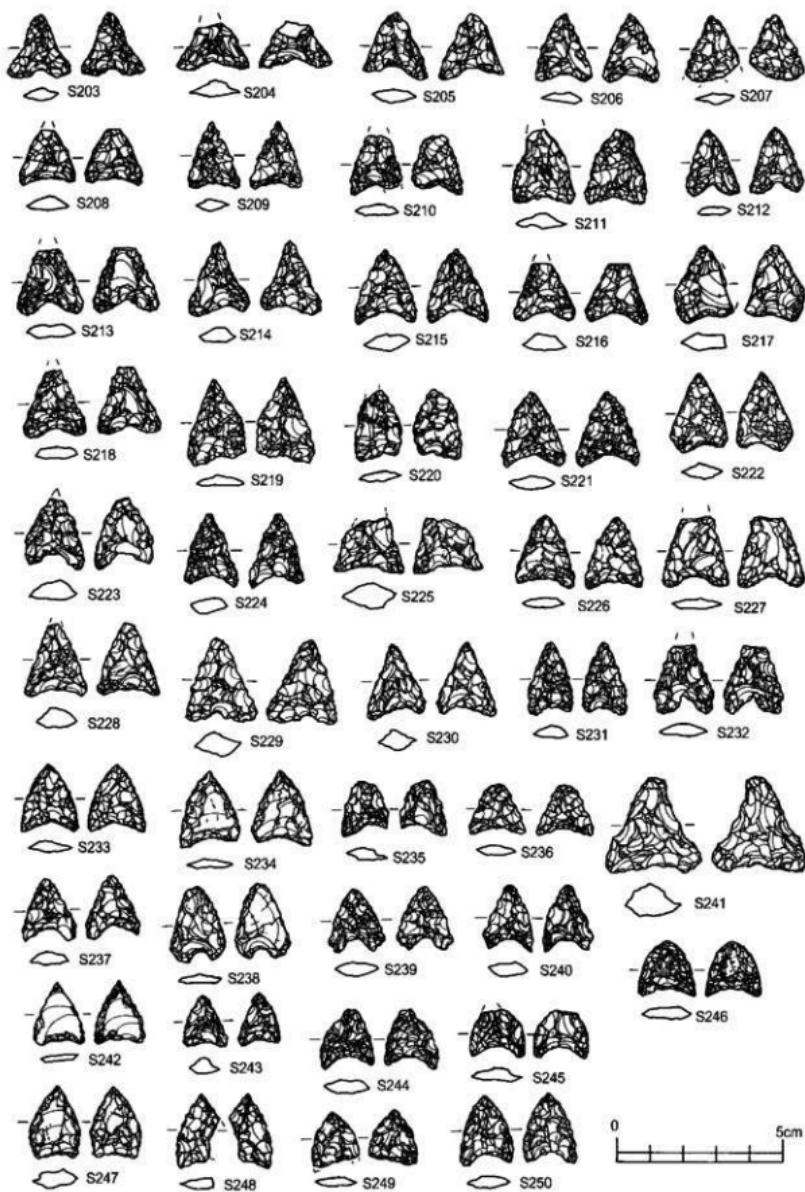
第16図 石 總 3



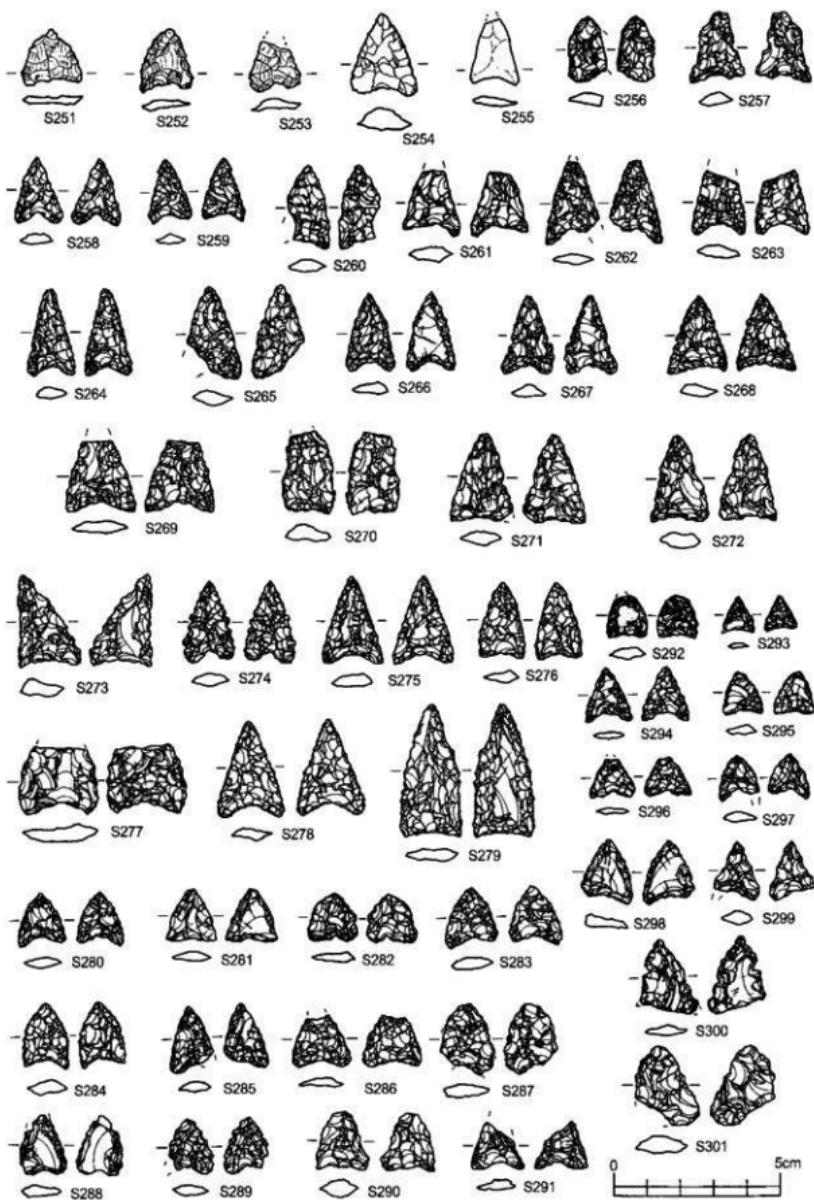
第17図 石 鋸 4



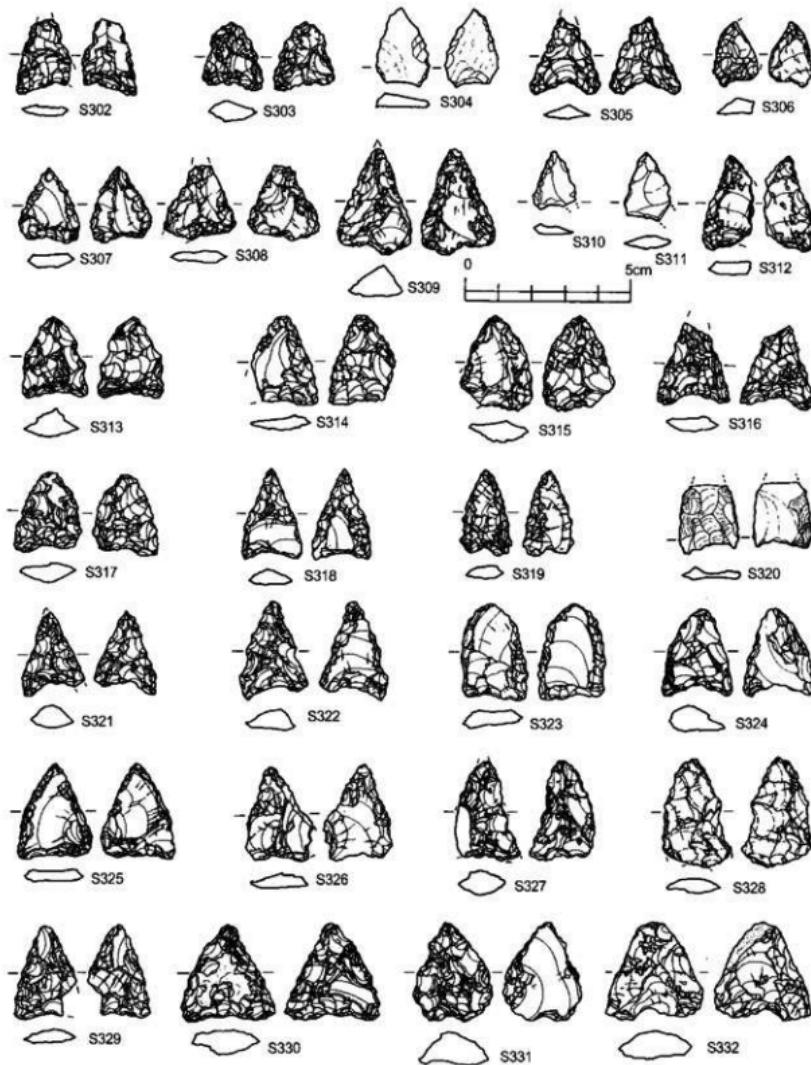
第18図 石 鐵 5



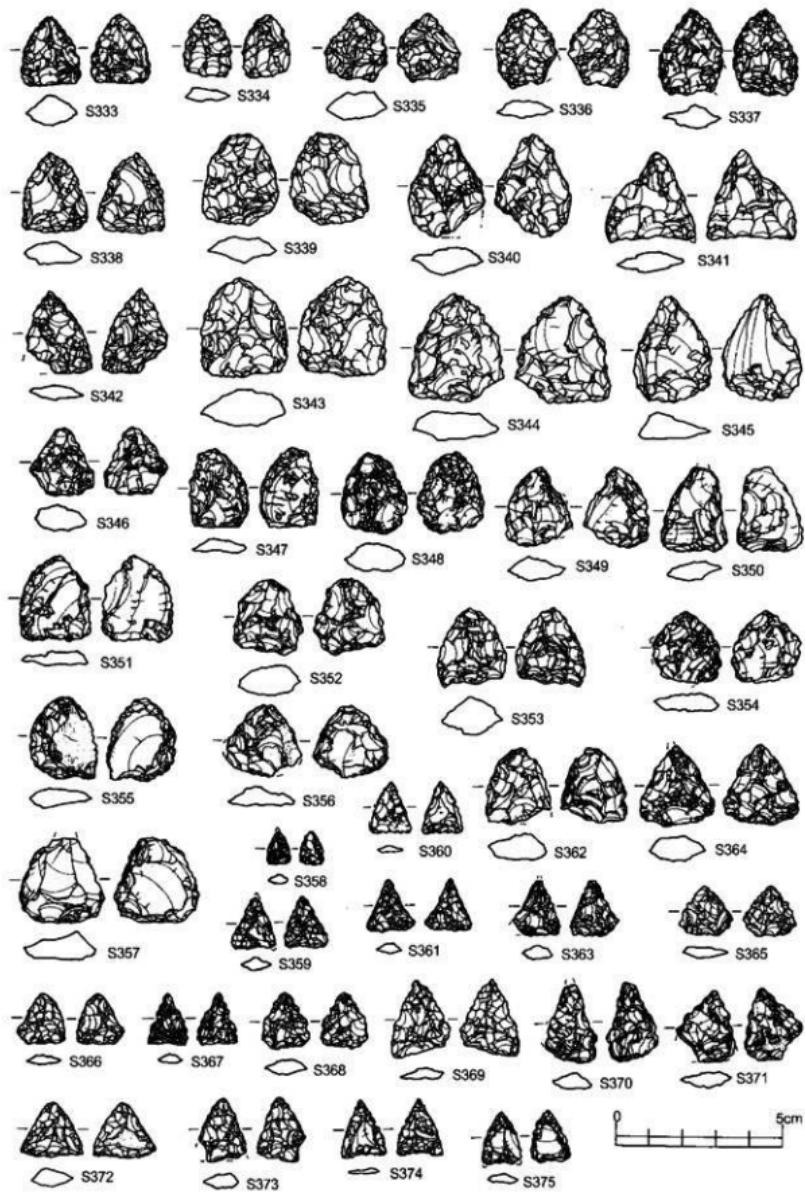
第19図 石 鐵 6



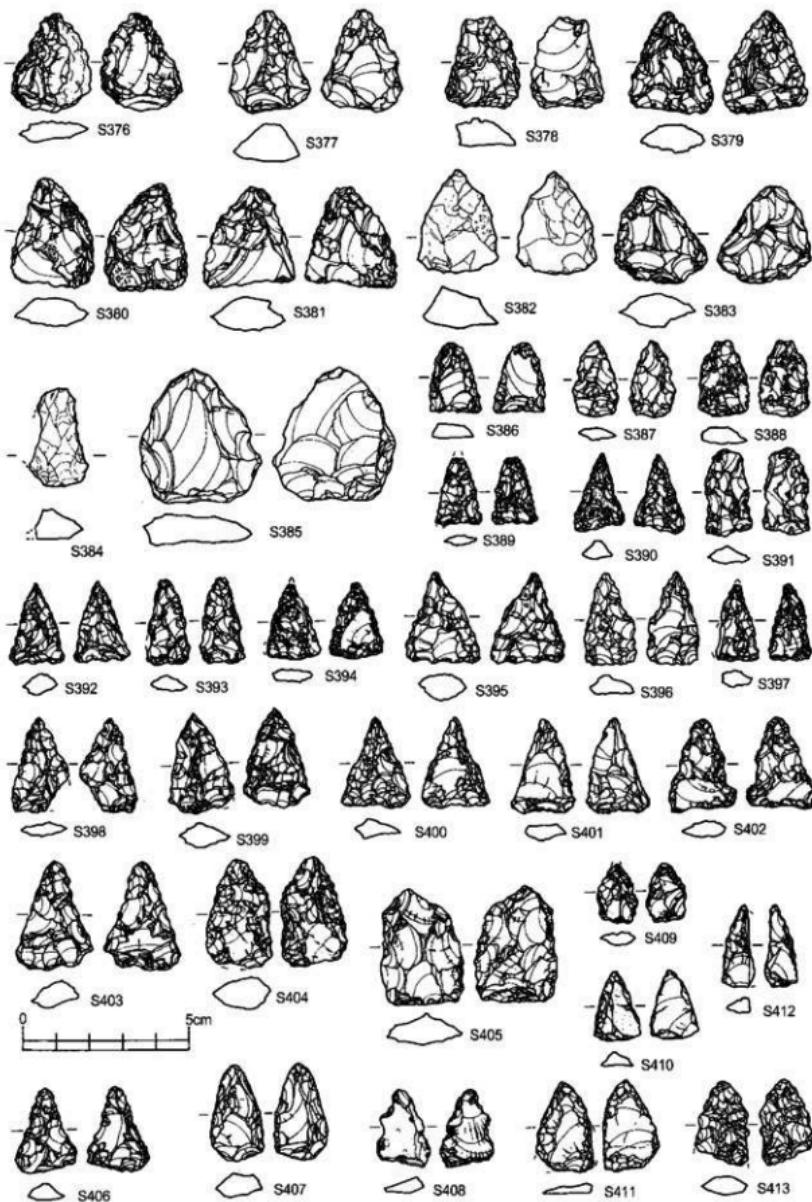
第20図 石 鐵 7



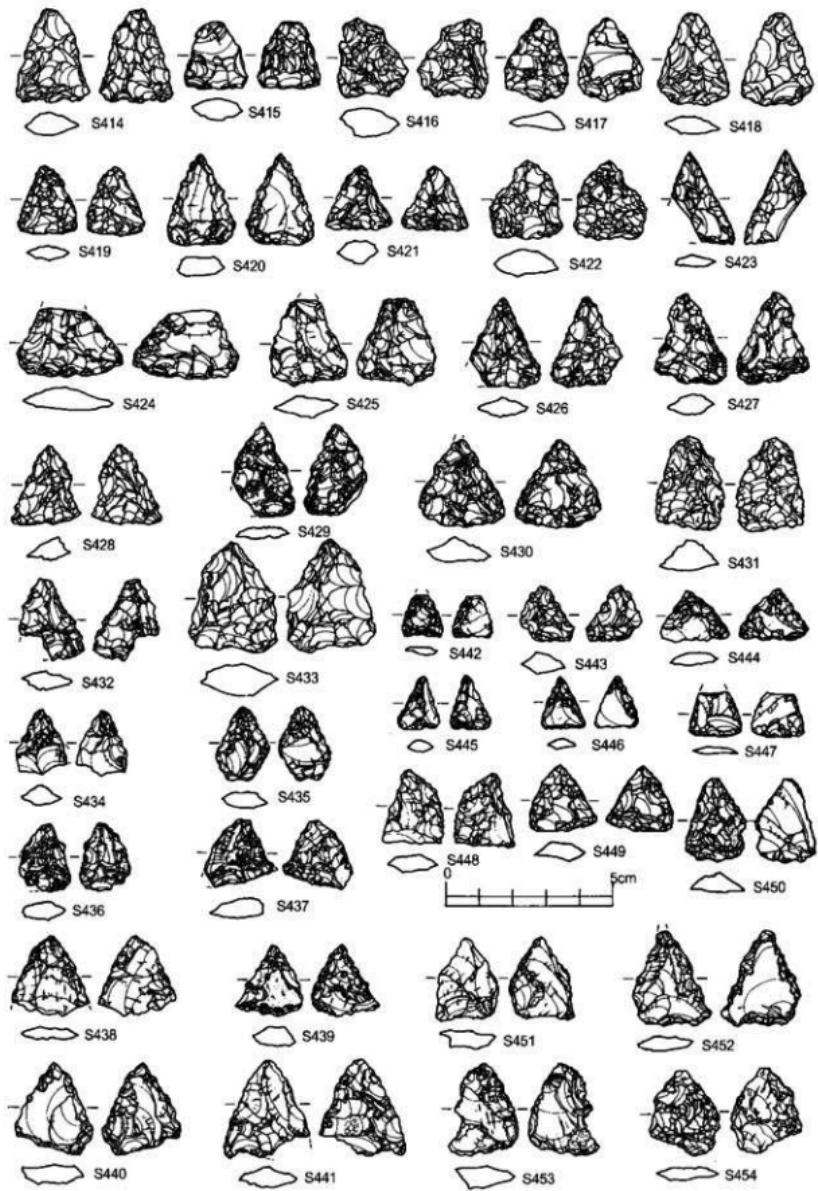
第21図 石器 8



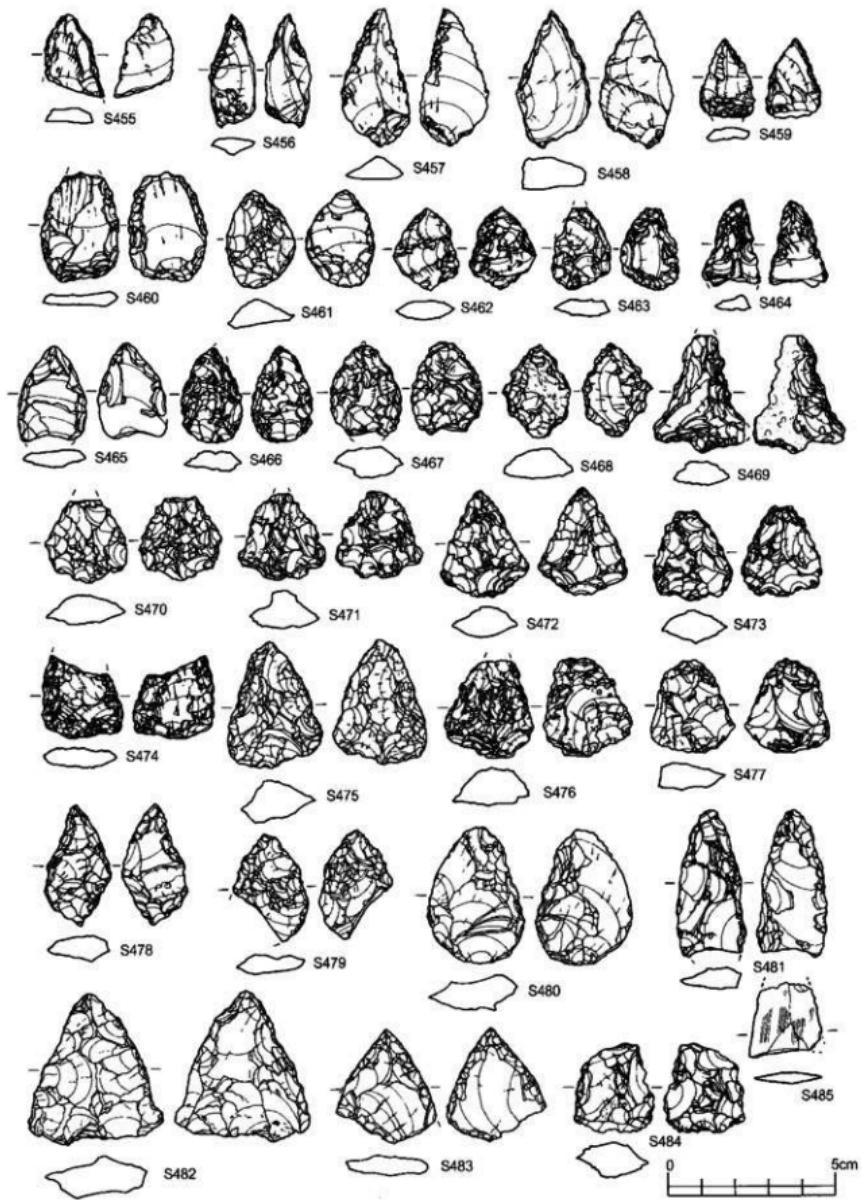
第22図 石 築 9



第23図 石 鐛10



第24図 石 剣11



第25図 石 鋸12

S307・S310・S311・S320・S323・S325・S326・S331のように一次剥離面を多く残しているものが多くある。S172・S273は形も整然としていない。S199・S246は先端部が丸い。S255は磨滅しており、稜線もはっきりしない。S292～S297は長さが1.3cm前後と小さい。S304～S332の中には調整が粗く、未製品と思われるものも多い。

平基（S333～S454）のものは122点出土した。S333～S357は丸みをおびた形を呈し、先端部も鈍い。S358・S359・S361・S363～S368・S372～S375は小型である。S376～S385は大型であるが、調整が粗く未製品の可能性もある。S395～S413・S434～S454も調整が粗く基部調整などしていないものもある。

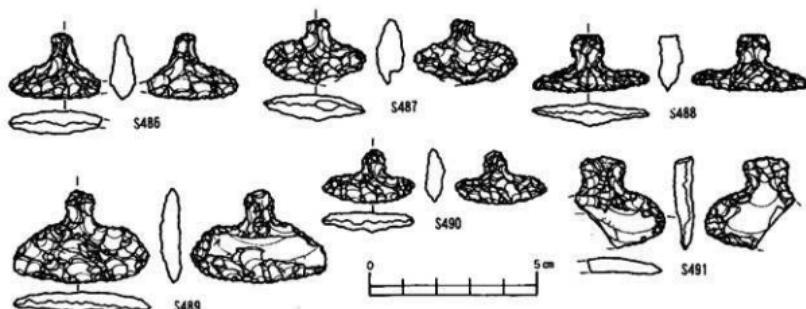
凸基（S455～S484）と思われるものが30点あるが、舌のしっかりしたものはなく、基部調整が粗く未製品と考えられるものもある。S455～S459はナイフ様石器の可能性もある。周辺や先端が丸くなっているものもある。S469は舌を作り出しているように見えるが、片面の半分ほどは自然面を残している。S478の基部は先端がとがっている。

S485は二等辺三角形を呈し、基部が丸みをおびて浅くえぐれる。二等辺三角形で稜がある。これは弥生時代のものである可能性が高い。

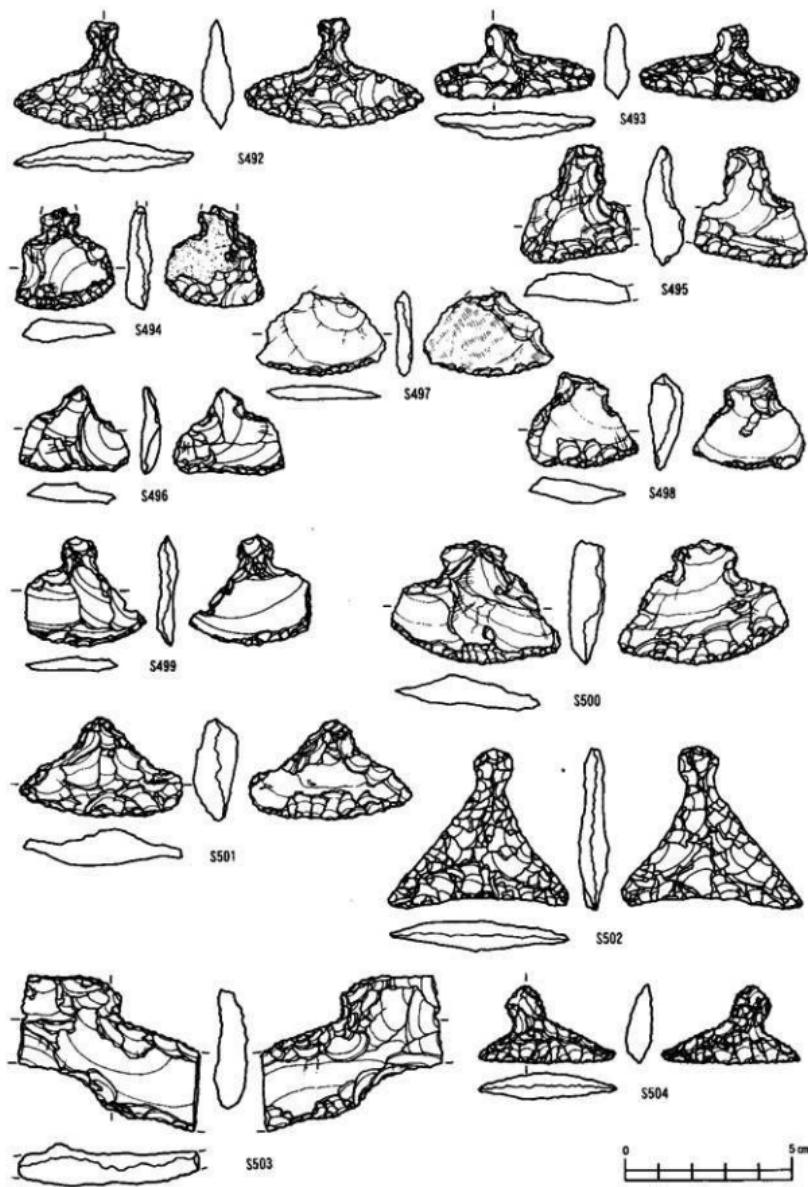
## (2) 石匙 (第26～30図)

68点（59点掲載）の石匙が出土している。このうち1点は遺構から出土している。形から大きく2種に分けることができる。刃部が長辺にある横長のもの（I類）と、短辺にある縦長のもの（II類）である。I類の中には、つまみがほぼ中央にあるもの（Ia類）と、やや片寄った位置にあるもの（Ib類）とがある。II類の中にも、つまみが長軸上にあるもの（IIa類）と、やや片寄った位置にあるもの（IIb類）とがある。

Ia類（S486～S503）は20点中18点掲載した。S486～S491は刃部の長さが2.7cm～4.0cm、幅が0.7cm～1.7cmと小型のものである。S491はやや大きいため、一次剥離面を広く残しているが、他は細かく調整を施している。S488は細い刃部で直線的だが、他はやや外反ぎみになっている。S492とS493は刃部の長さが4.7cm～5.2cm、幅が1.3cm～1.7cmと中型のものである。S492の刃部が外反ぎみなのに対して、S493の刃部はやや外反しているが直線的である。S494～S499は幅に対して長さが2



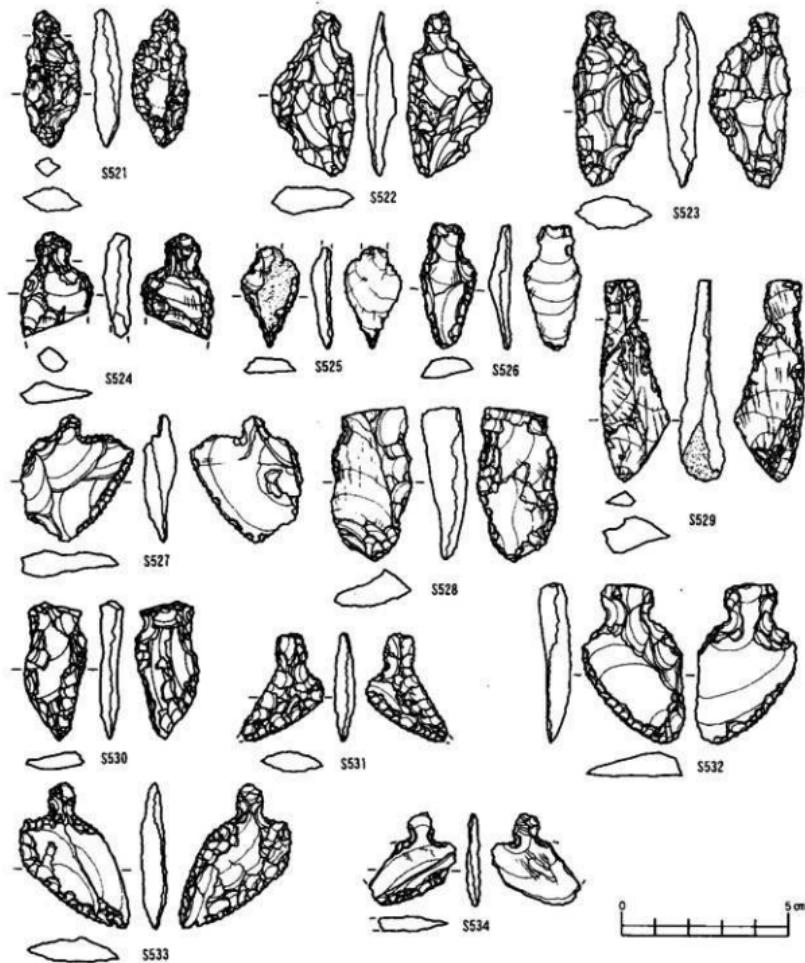
第26図 石匙1



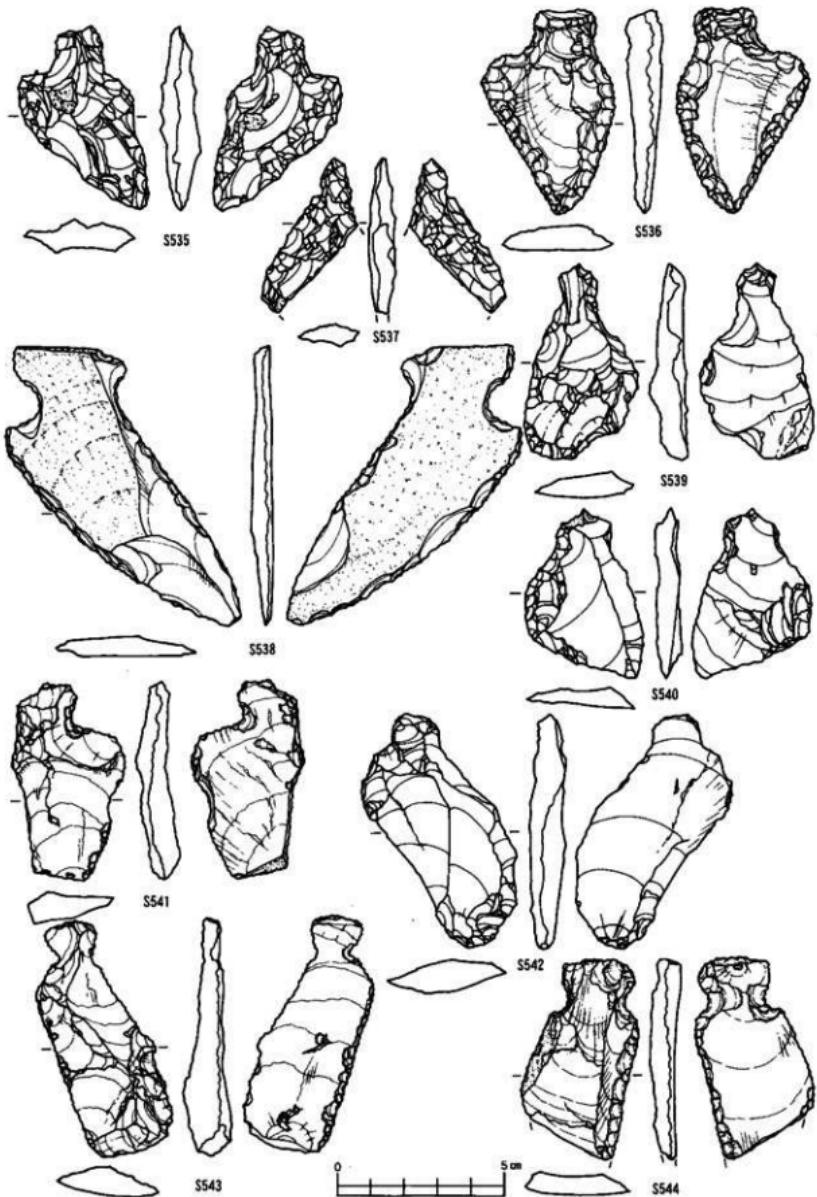
第27図 石匙2



第28図 石 鋏 3



第29図 石匙4



第30図 石匙5

倍ない寸詰まりの形態をした部類で、長さが2.7cm～3.5cm、幅が1.8cm～2.2cmである。周辺のみ加工して一次剥離面を広く残すものが多く、S494は片面に自然面を残している。S496とS498はつまみ部分のえぐりが浅い。S494とS499は刃部が外反しているが、他のものは直線的である。S500とS501はつまみのえぐり部分が浅いもので、特にS501は顕著である。刃部は外反しており、一次剥離面を片面あるいは両面に残している。S502は正三角形を呈し、その頂部につまみが付いている。周辺を丁寧に打ち欠いており、刃部はやや内弯している。S503は両側が欠けているが横長の形態を呈し、つまみも横長となる。刃部は整然としておらず内弯している。

I b類 (S504～S520) は21点中17点掲載した。S504～S508は長さが2.2cm～5.1cm、幅が1.0cm～1.7cmと幅の狭い小型の部類で、特にS505は小型である。また、S508は非常に細長い。刃部は外反するものと、直のものとがあり、調整はいずれも丁寧である。S507は片面の一部に自然面を残している。S509～S512・S517は長さが3.8+ $\alpha$ cm～5.6cm、幅が1.5cm～3.0cmの中型である。片面に一次剥離面を広く残し、刃部は外反している。S510は片面に自然面を残している。S513～S516・S518・S519はつまみが長辺の端部に位置するもので、S514・S519以外は一次剥離を広く残している。刃部は外反している。S518はつまみ部分を作っているものの、その他の調整は粗く、刃部の調整は見られない。未完成のものかもしれない。S514はつまみが幅広いものに一部小さいものを別に作り、2段になっている。S520はつまみが欠けているが、細かく調整しており、長さ5.9cm、幅3.8cmと大型である。

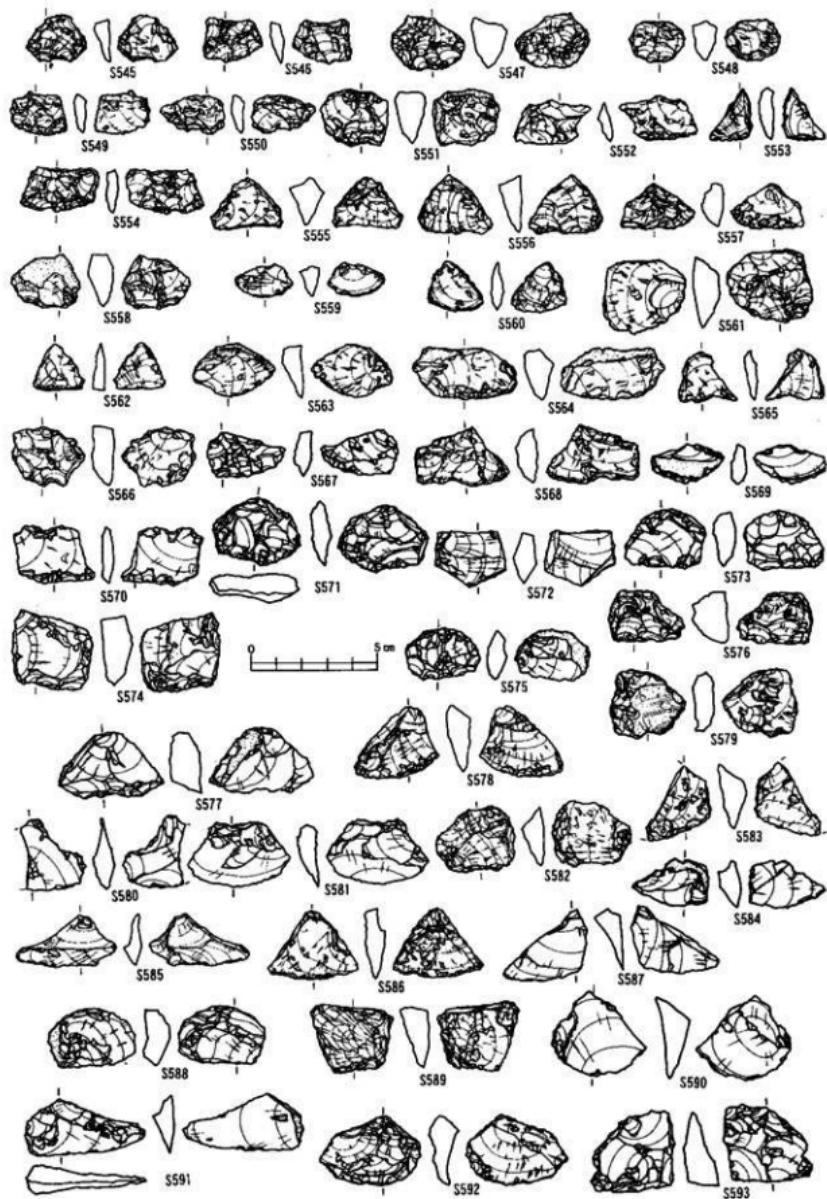
II a類 (S521～S530) は10点出土している。二次的調整が縁辺のみに見られるものが多い。S525～S527の片面はほとんど細部調整がされておらず、S525は自然面を残す片面の一側辺のみに加工が見られる。また、S522も一側辺のみ両面に加工痕跡が見られる。つまみは幅の狭いものと、広くてくびれ部の明瞭でないものがある。S526は風化が目立つ。

II b類は、14点出土している。S531～S538は刃部が三角形を呈するもので、ほとんどは細部調整が周辺のみにある。S531～S534は長さが2.8cm～4.3cm、幅が1.5cm～2.8cmと小型である。S531は加工が細かいが、S532は一側辺だけ、S534は片面の一側辺のみに加工が見られる。S535とS536は長さが4.8cm～4.9cm、幅が3.1cm～3.6cmと中型である。S538は長さが8.5cm、幅3.5cmと大型であるが、加工は側辺のみに限られ、扁平である。S539～S544は縦長剥片を利用した、刃部が矩形に近い形を呈しているもので、ほとんどは刃部の調整が片面あるいは一側辺のみにとどまっている。

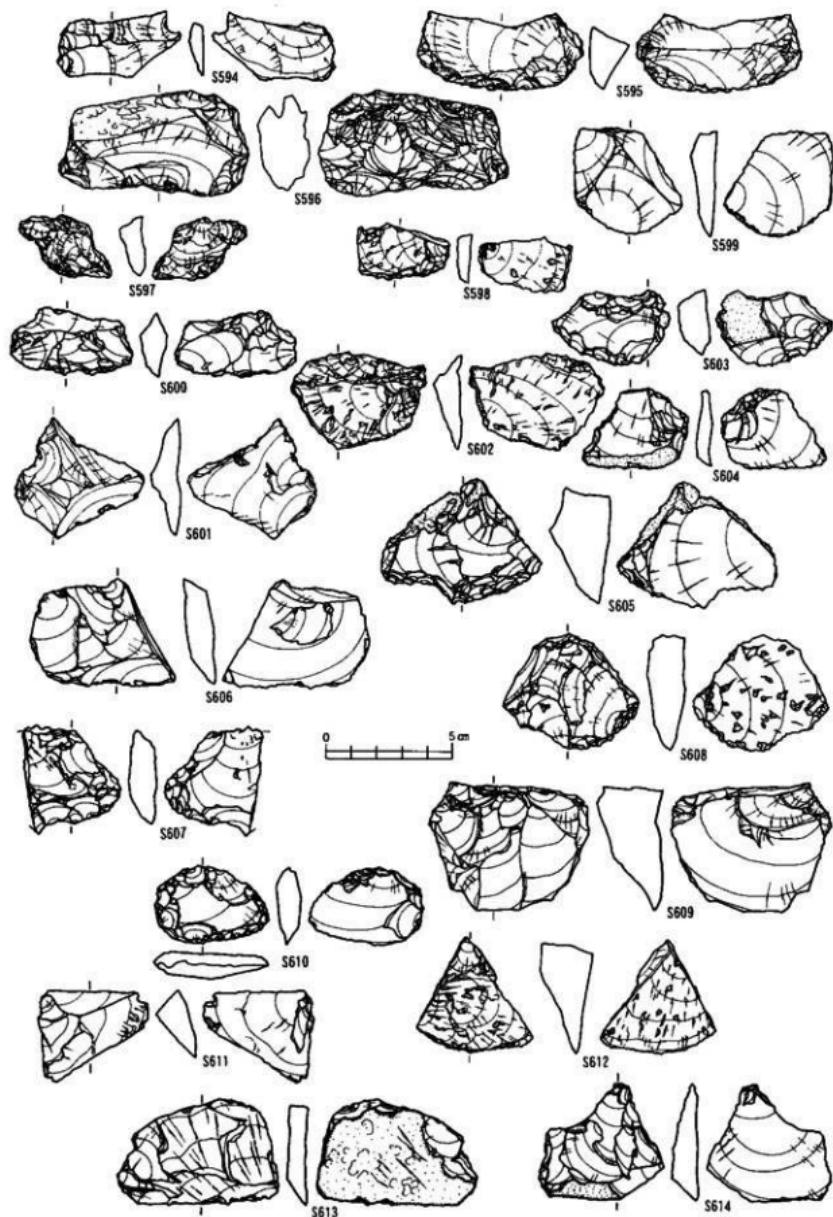
### (3) スクレイパー（第31～45図）

多くのスクレイパーが出土しており、これは剥片を横に長く利用して長いほうを刃部としたサイドスクレイパー（I類：S642～S731）と剥片を縱方向に長く利用して片側の短側辺、あるいは長側辺の両側を刃部とするエンドスクレイパー（II類：S732～S848）、刃部をえぐり状につくるスクレイパー（III類：S849～S857）、指先状の剥片の周辺を加工するサムエンドスクレイパー（IV類：S858～S864）に分かれる。これらの中には2次加工が粗く剥片に少しの加工をしただけのものもある。

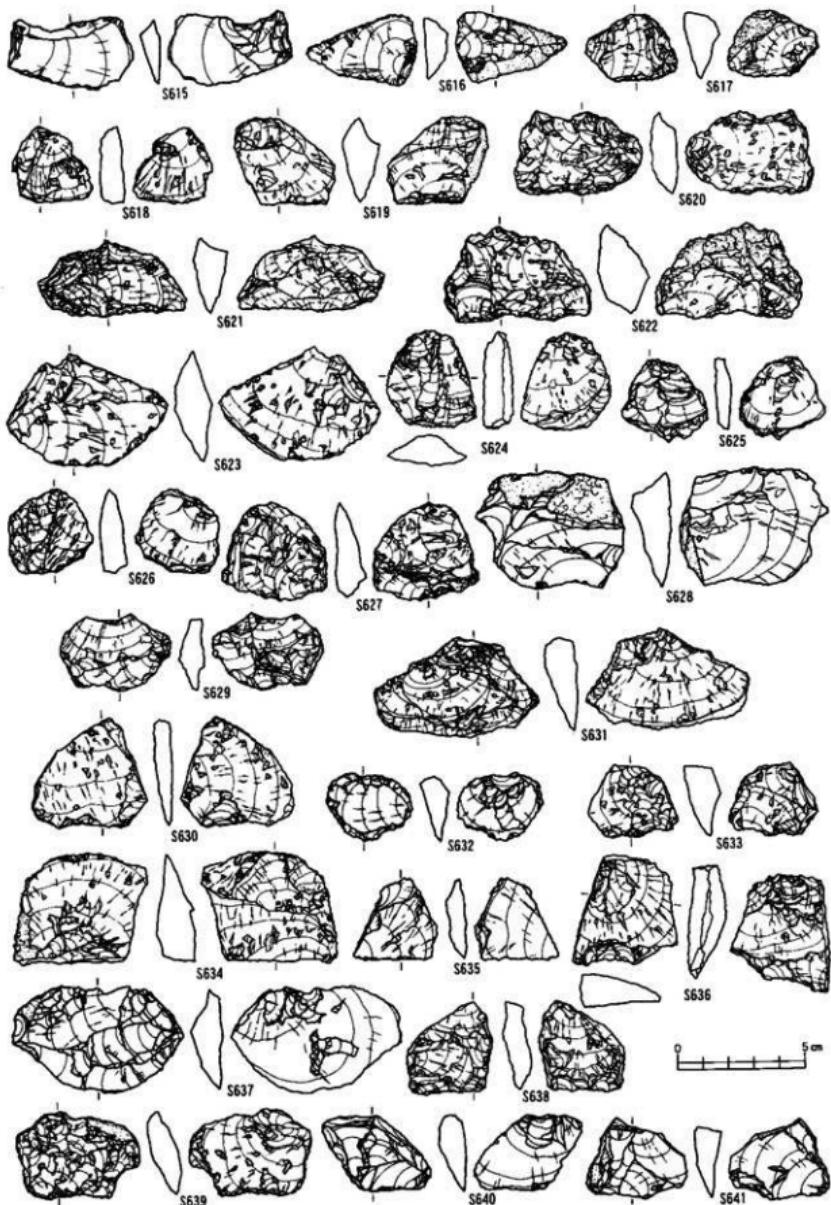
サイドスクレイパーはS643やS649・S670などのように小型のものから、S697・S698・S706などのような大型のものまで、大きさは多種である。形態も横に長いもの、三角形に近いもの、丸みを帯びたもの、半円形に近いものなど適当な大きさの剥片を利用してスクレイパーに用いている。



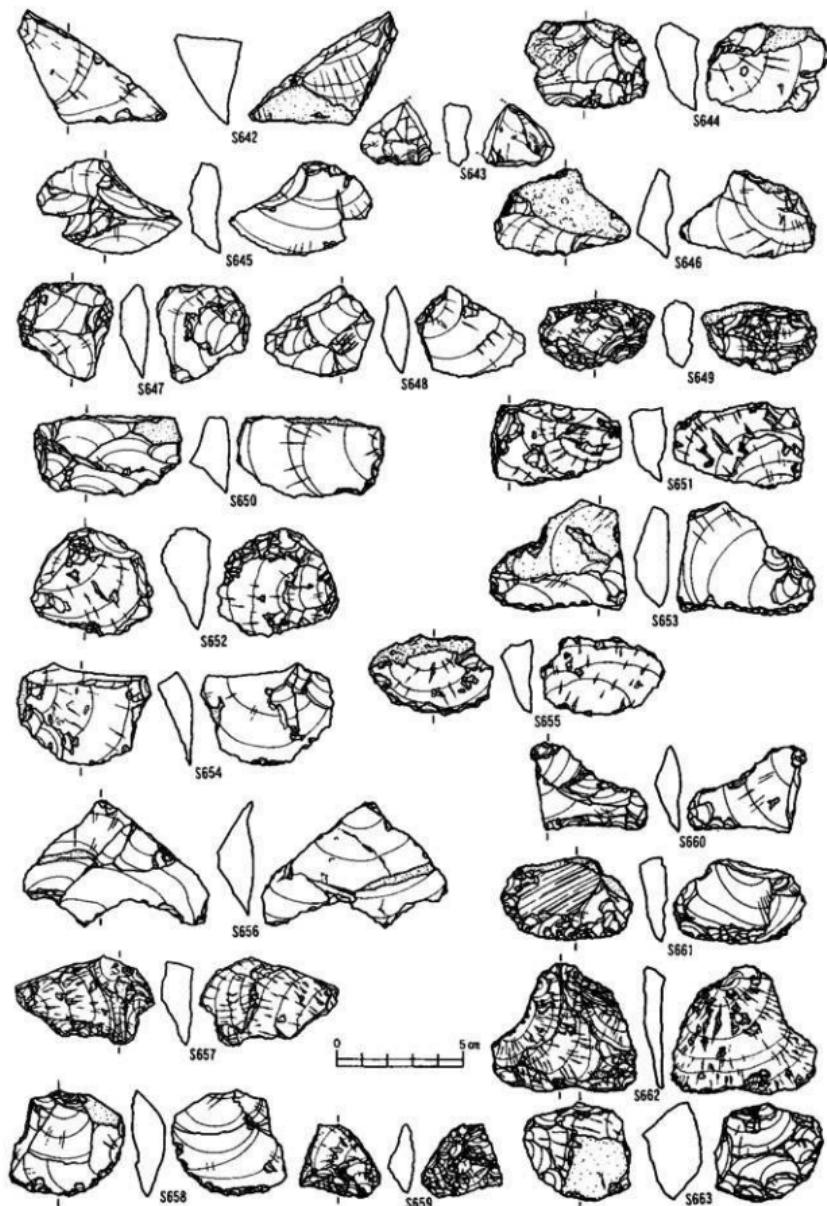
第31図 スクレイバー 1



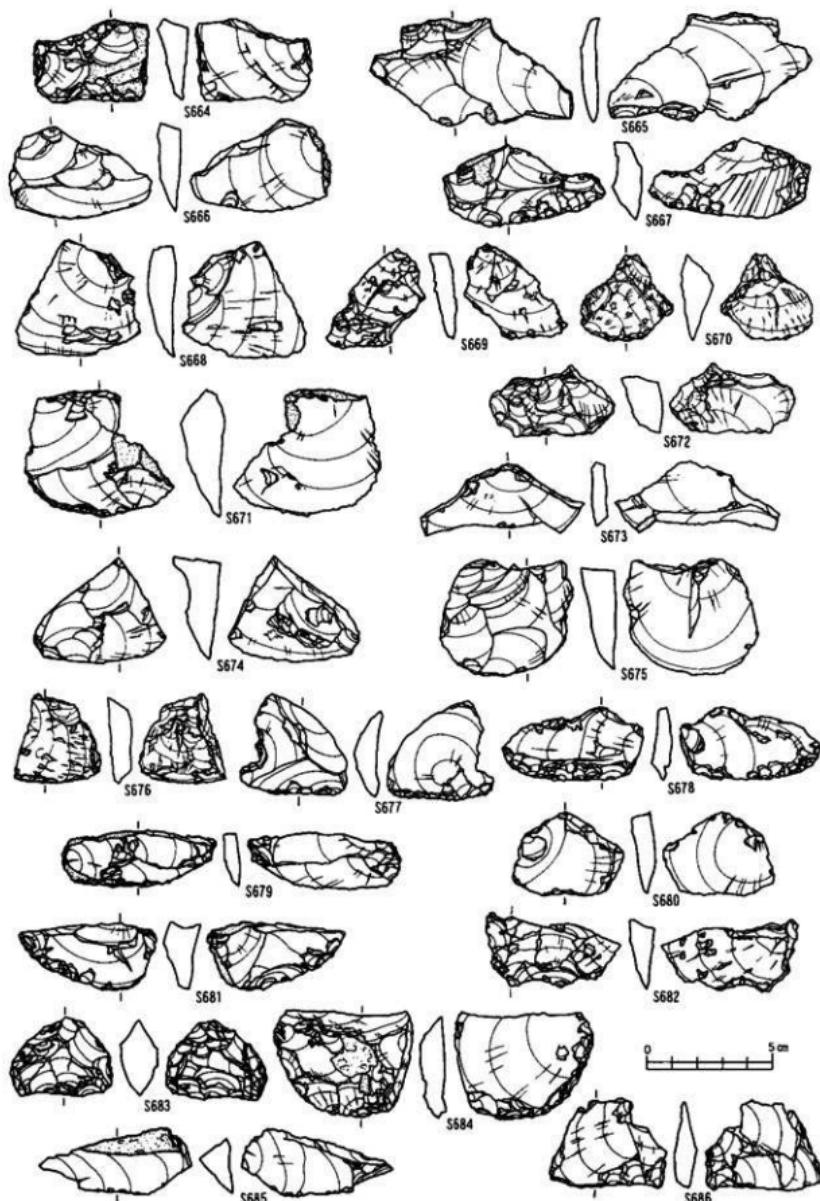
第32図 スクレイバー2



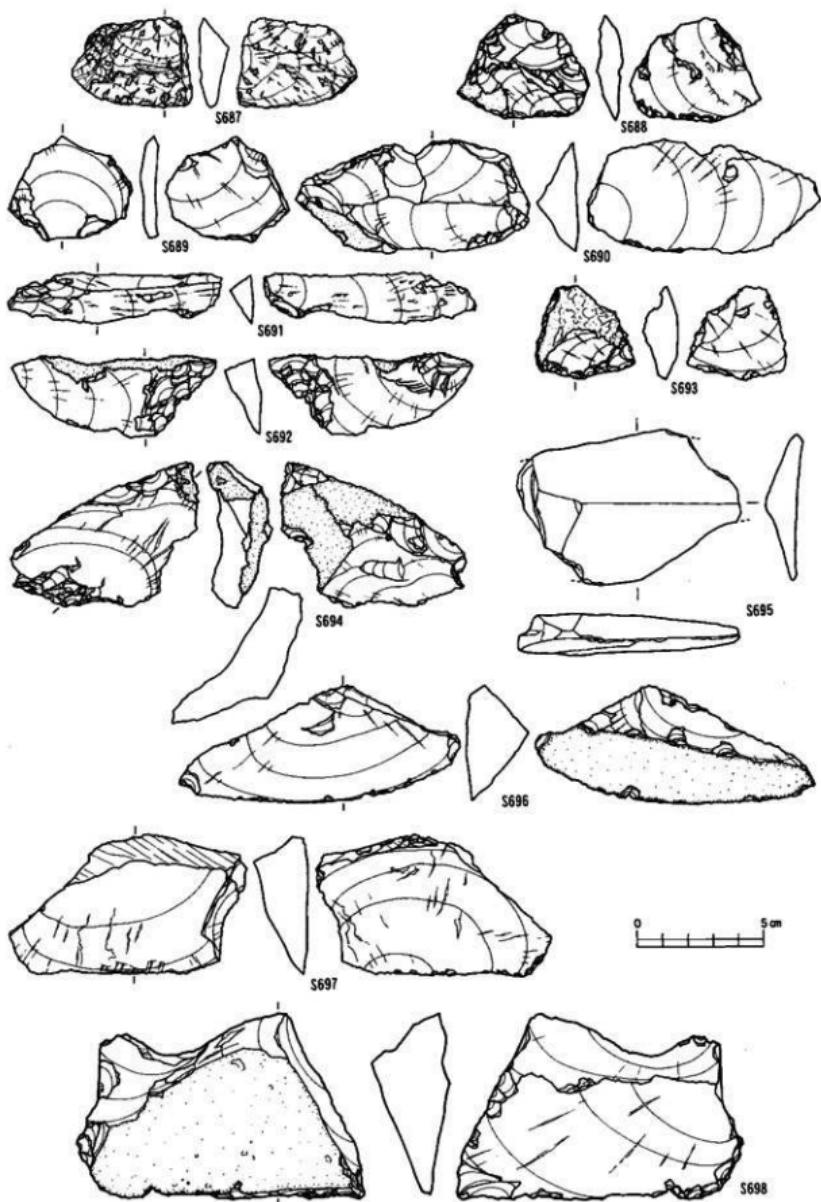
第33図 スクレイバー3



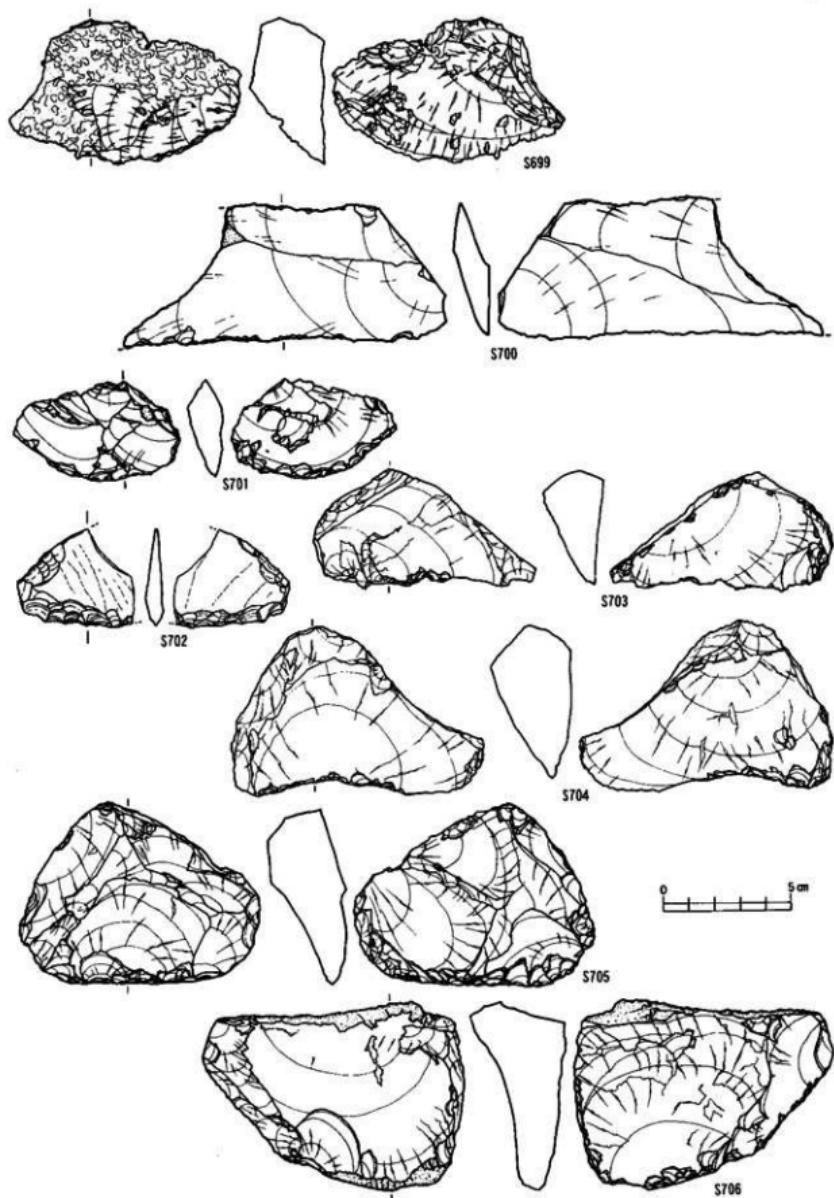
第34図 スクレイバー4



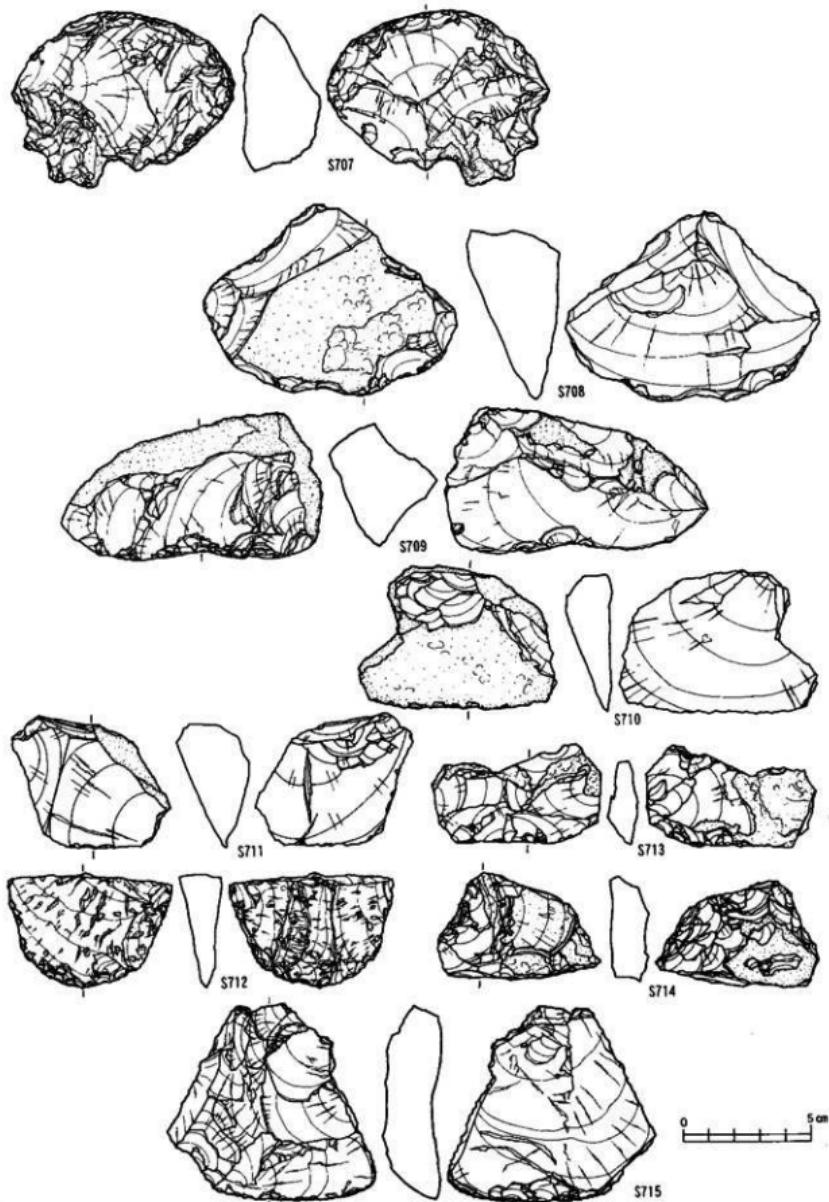
第35図 スクレイバー5



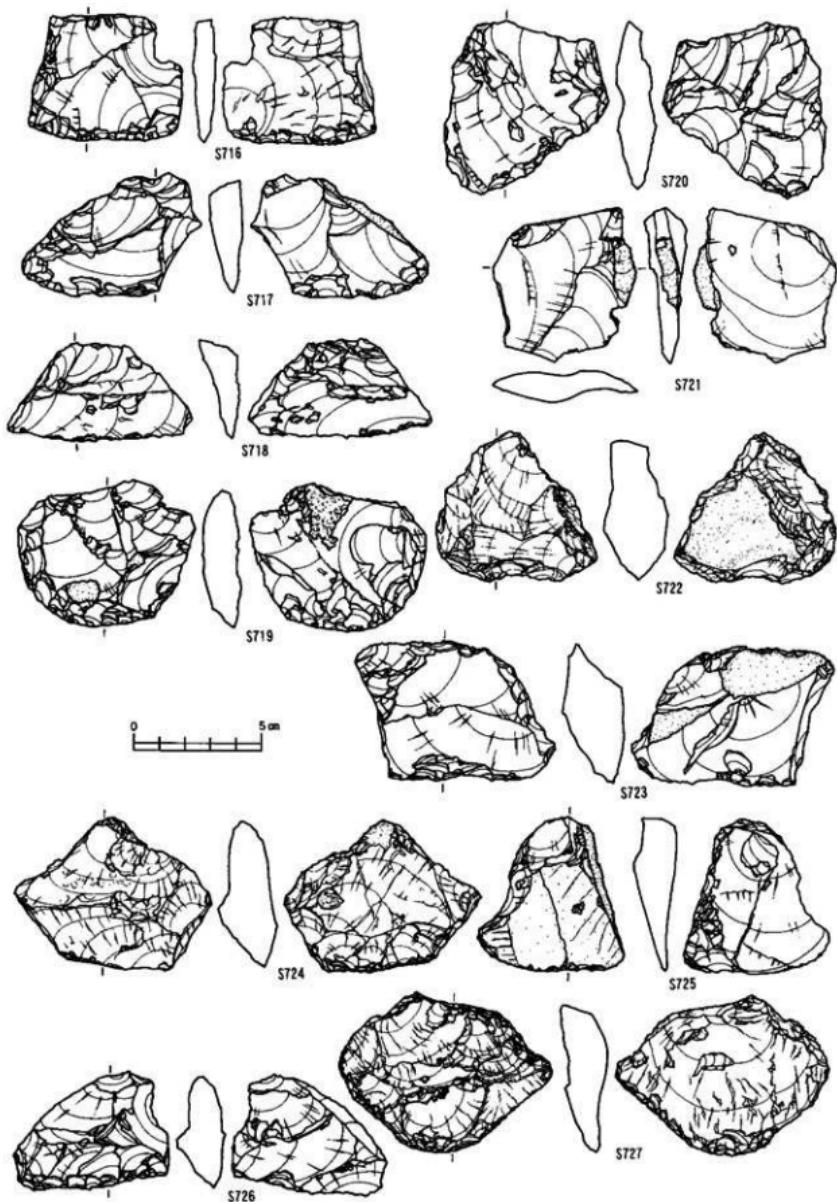
第36図 スクレイバー 6



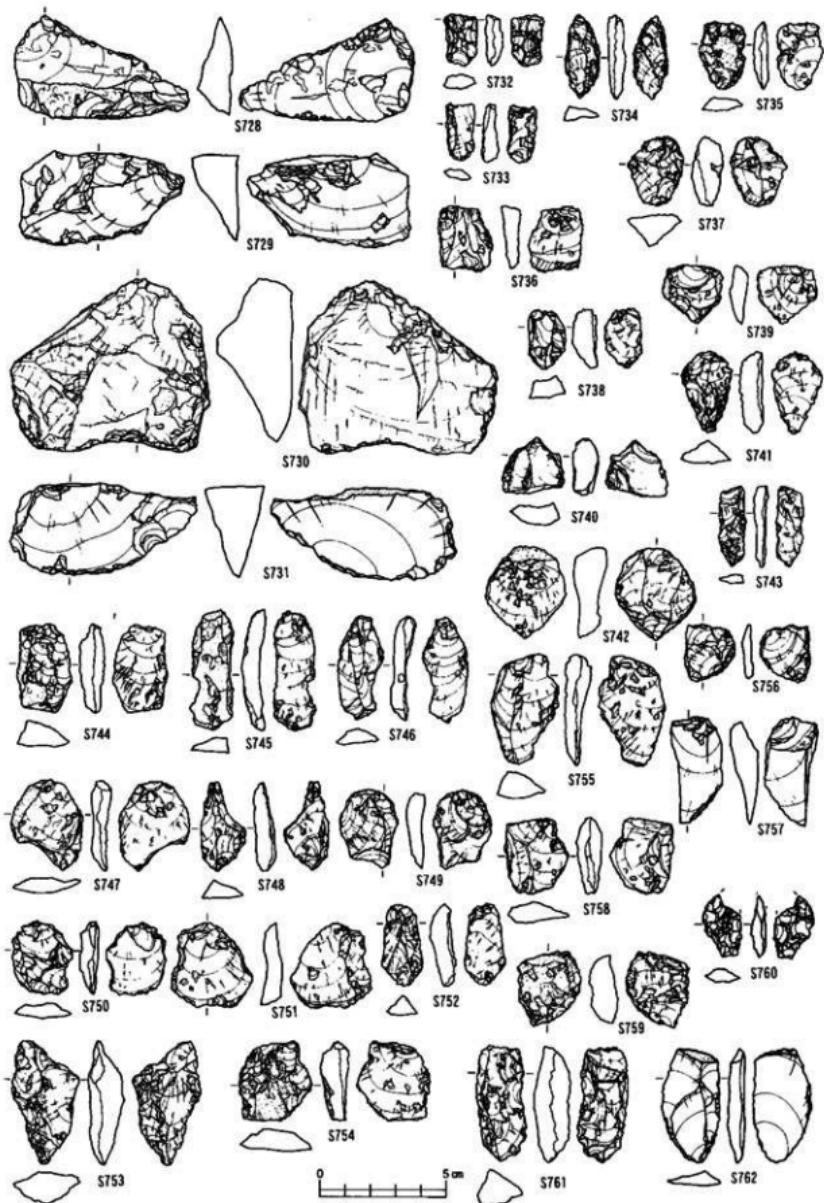
第37図 スクレイバー-7



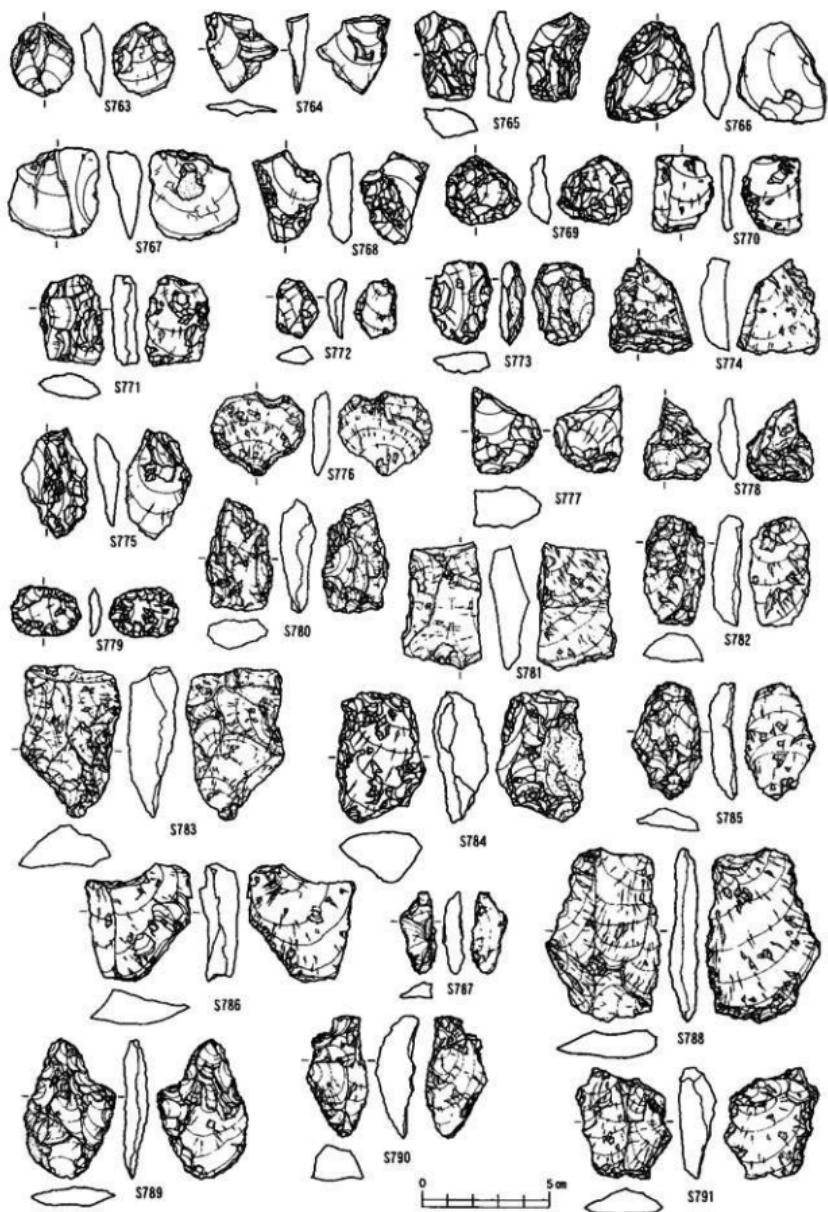
第38図 スクレイバー8



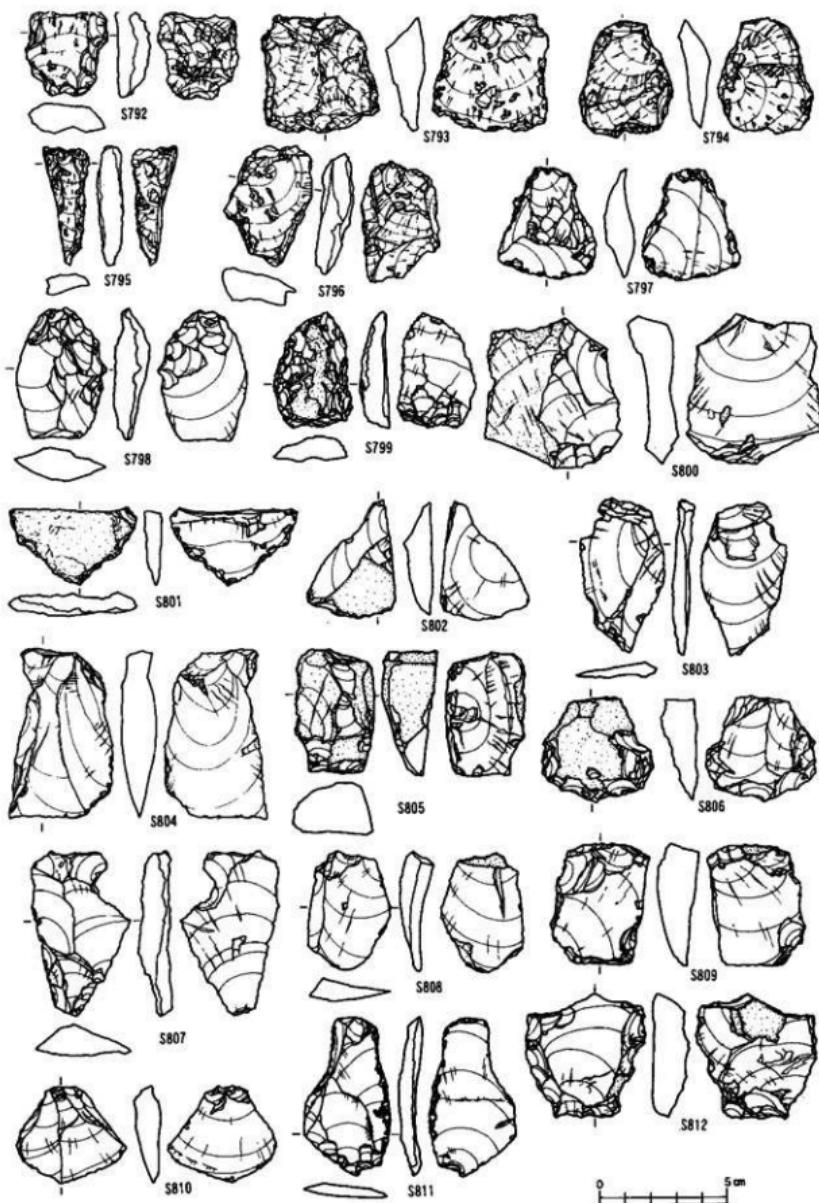
第39図 スクレイバー 9



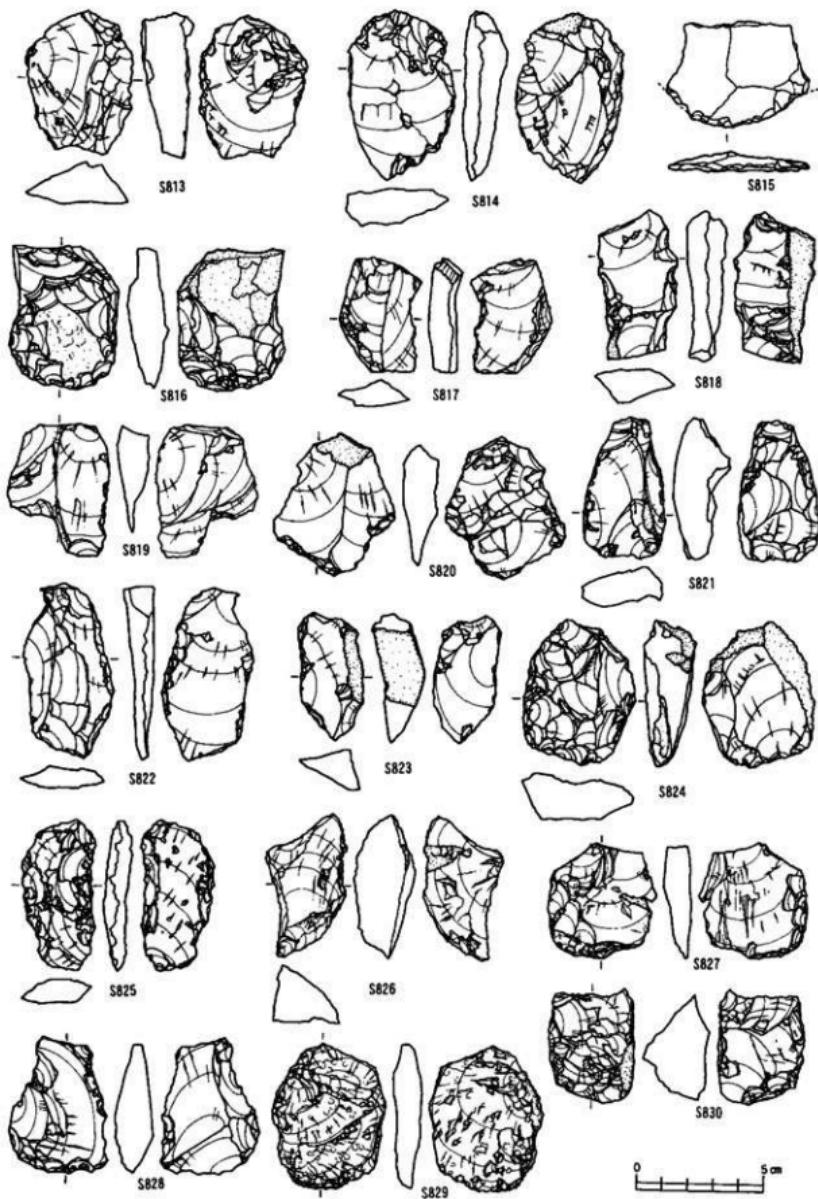
第40図 スクレイバー-10



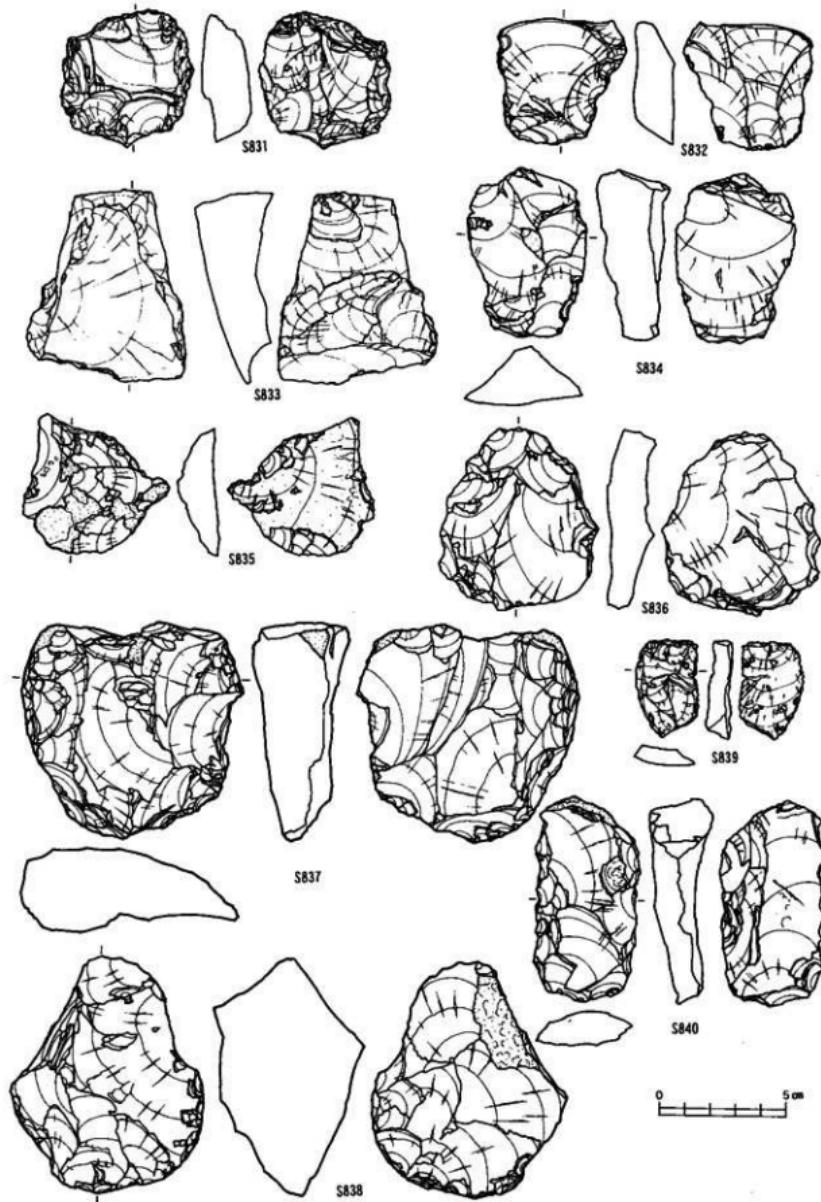
第41図 スクレイパー-11



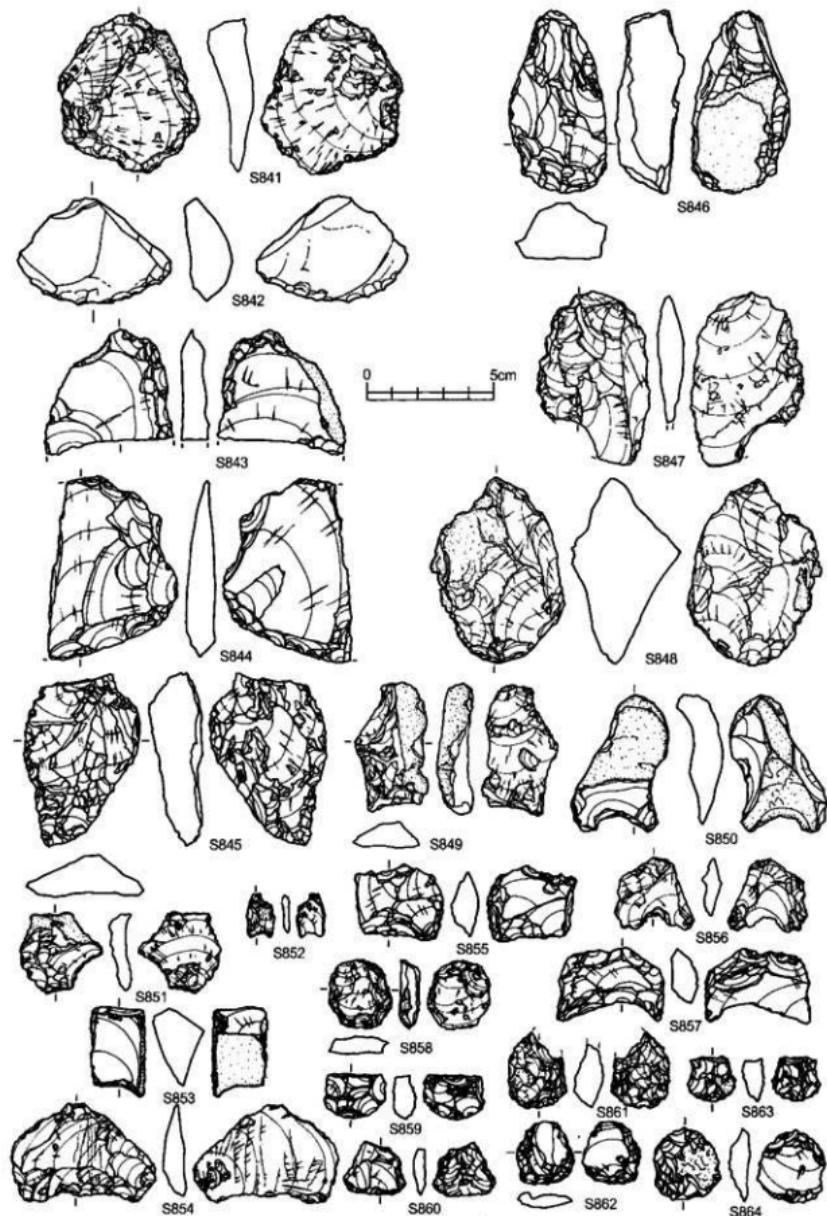
第42図 スクレイバー-12



第43図 スクレイパー-13



第44図 スクレイバー-14



第45図 スクレイバ-15

刃部も直になるものと、長く外反するもの、短く外反するもの、三角状になるもの、やや内弯するものなど多様である。刃も両側から丁寧に加工しているもの、片方のみを加工し反対側はほとんど加工のないものの、両側とも加工の少ないものなどがある。なかには自然面を広く残しているものもみられる。S683は刃部に比べ頭部あたりの加工はこまかい。S702は周辺を丁寧に加工しており石匙の可能性がある。S704～S709は部厚い剥片を利用しているが、概して加工は粗い。

エンドスクレイパーはS732～S779などのように小型のものが多く、これらのほとんどは縦長剥片を利用しているが、S753やS787・S790などのように横長剥片を使っているものもある。平面形は縦長の長方形のものが多いが、正方形を呈するものもある。S753やS783などは先端が細く石錐のようにもみえる。S816・S845・S848などは刃部の加工がこまかい。

えぐり状に作られたスクレイパーは短辺を加工したもの、長辺を加工したもの、側辺を加工したものなど用途に応じた使われ方をしているようである。S849・S850は自然面を広く残しているが、刃部加工はこまかい。

サムエンドスクレイパーは丁寧な加工をしたものもあるが、一次剥離面を多く残したものもある。

(4) 石錐 (第46、47図)

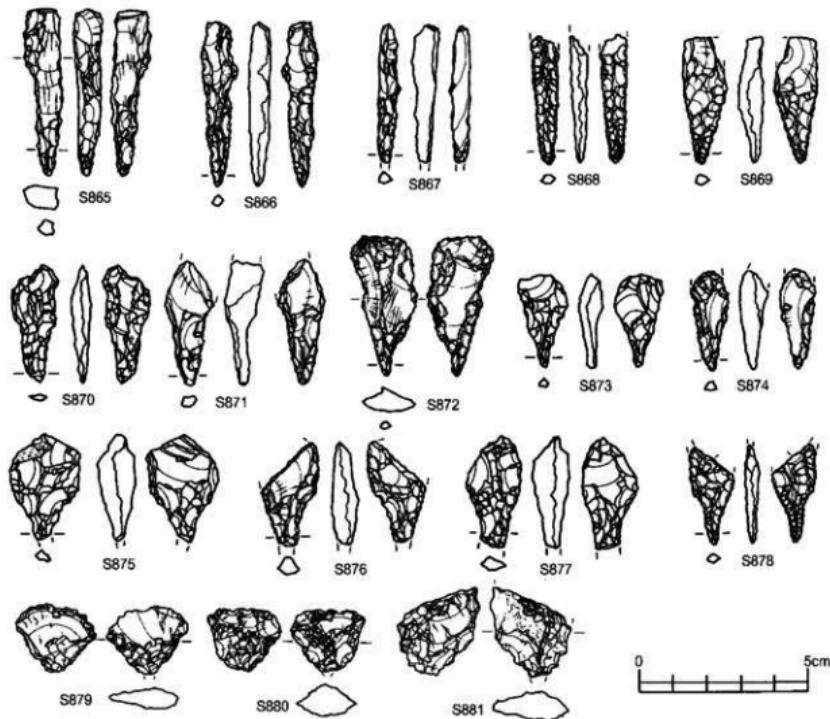
40点出土している。頭部、錐部の形態や大きさなどからI類、II類、III類に分ける。I類は頭部と錐部の境がはっきりせず、棒状を呈するものである。II類は幅の広い頭部と棒状の錐部からなるものである。III類は逆三角形を呈し、錐部の短いものである。

I類は4点ある。錐部は断面が五角形あるいは六角形を呈し、長さは5cm足らずである。錐部は細かく調整しているが、頭部は一次剥離面を残している。

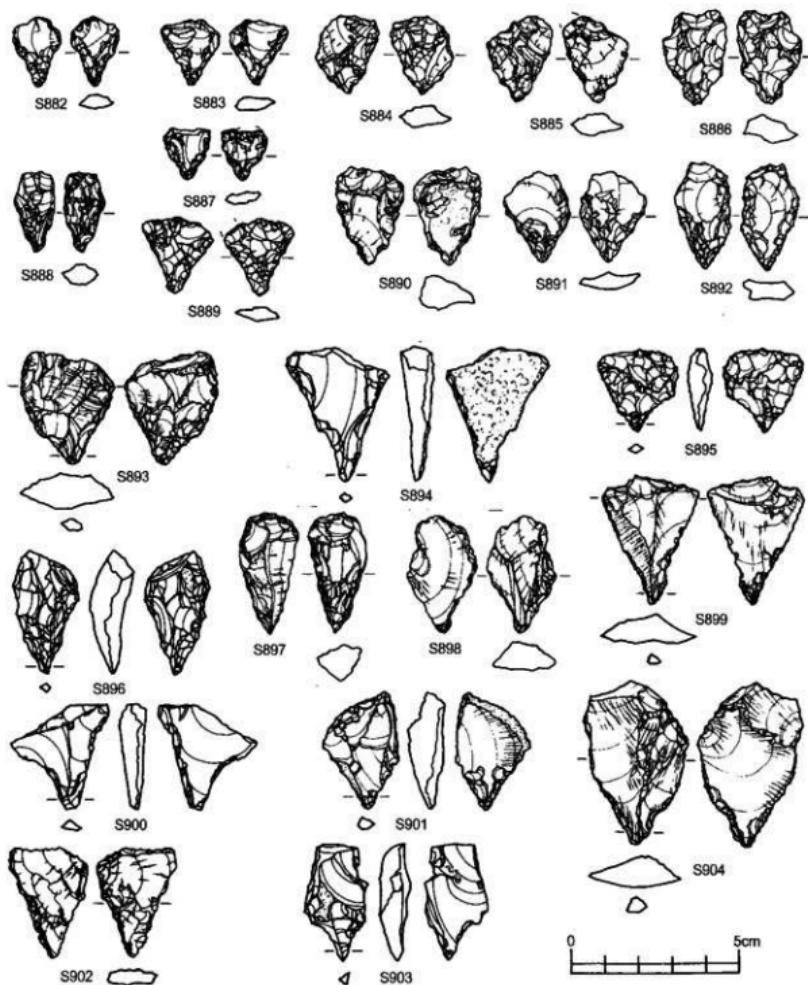
II類は13点出土した。二等辺三角形に近いもの (IIa類) と、頭部と錐部の境がはっきりしたもの (IIb類) とがある。

IIa類 (S869~S874) は6点あり、頭部の二次加工は粗く、錐部の断面は四角形あるいは五角形を呈している。IIb類 (S875~S881) は7点あり、S878は頭部まで細かく調整しているが、他の頭部調整は粗い。錐部の断面は四角形を呈する。

III類は23点ある。錐部の断面が四角形のものと三角形のものがある。錐部のみを細かく加工し、頭部は自然面、一次剥離面を残したものが多いが、S889とS895は頭部まで二次加工を施している。S898は錐部の加工もほとんどなく剥片に少し加工しただけである。



第46図 石錐1



第47図 石 鋸 2

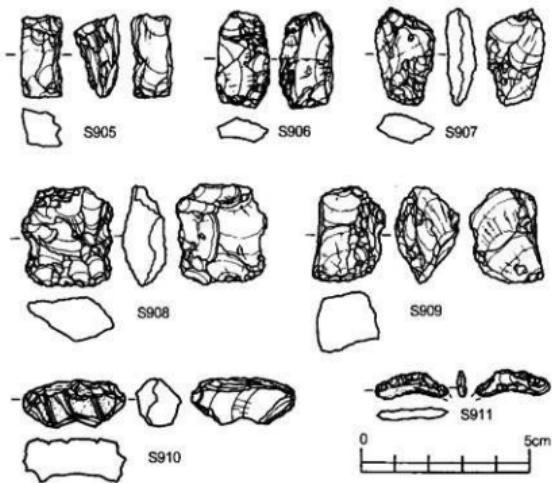
#### (5) ピエスエスキュー (第48図)

5点出土している。長方形あるいは略台形を呈しており、短側辺の片面に下部からの押圧痕を残している。縦剥ぎ、あるいは横剥ぎの部厚い剥片を利用しておおり、長側辺に調整痕を残すものもあるが、粗い加工である。

#### (6) 異形石器 (第48図)

特異な形態をした石器が3点出土している（うち1点は51号土坑で出土：F758）。S910は磨滅した直方体の黒曜石核の一面に断面が三角形をした3条の筋をほぼ並行に刻み込んでいる。14F区V層出土。

S911は弧状に曲がったブーメラン状の石器で、内弯部・外反部とともに両側からこまかい押圧剥離を施している。片面に自然面を残した黒曜石製縦長剥片を使用したもので14G区の自然流路跡で出土。重さ0.46g。



第48図 ピエスエスキュー・異形石器

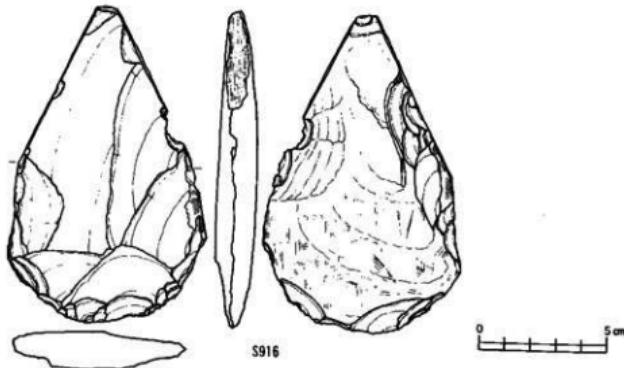
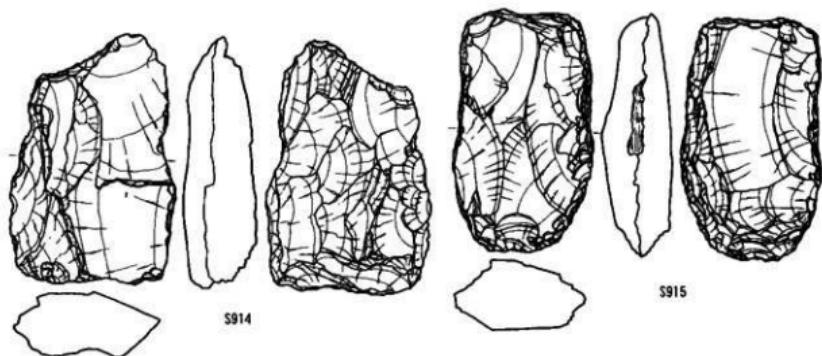
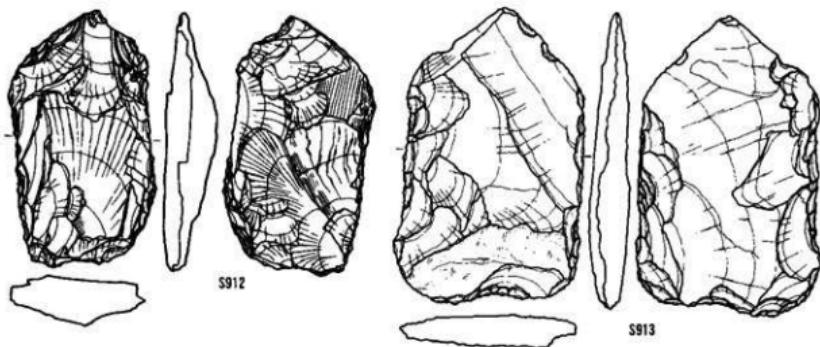
#### (7) 打製石斧（第49～56図）

32点の打製石斧を掲載したが、この他に安山岩剥片を利用したものもかなりある。

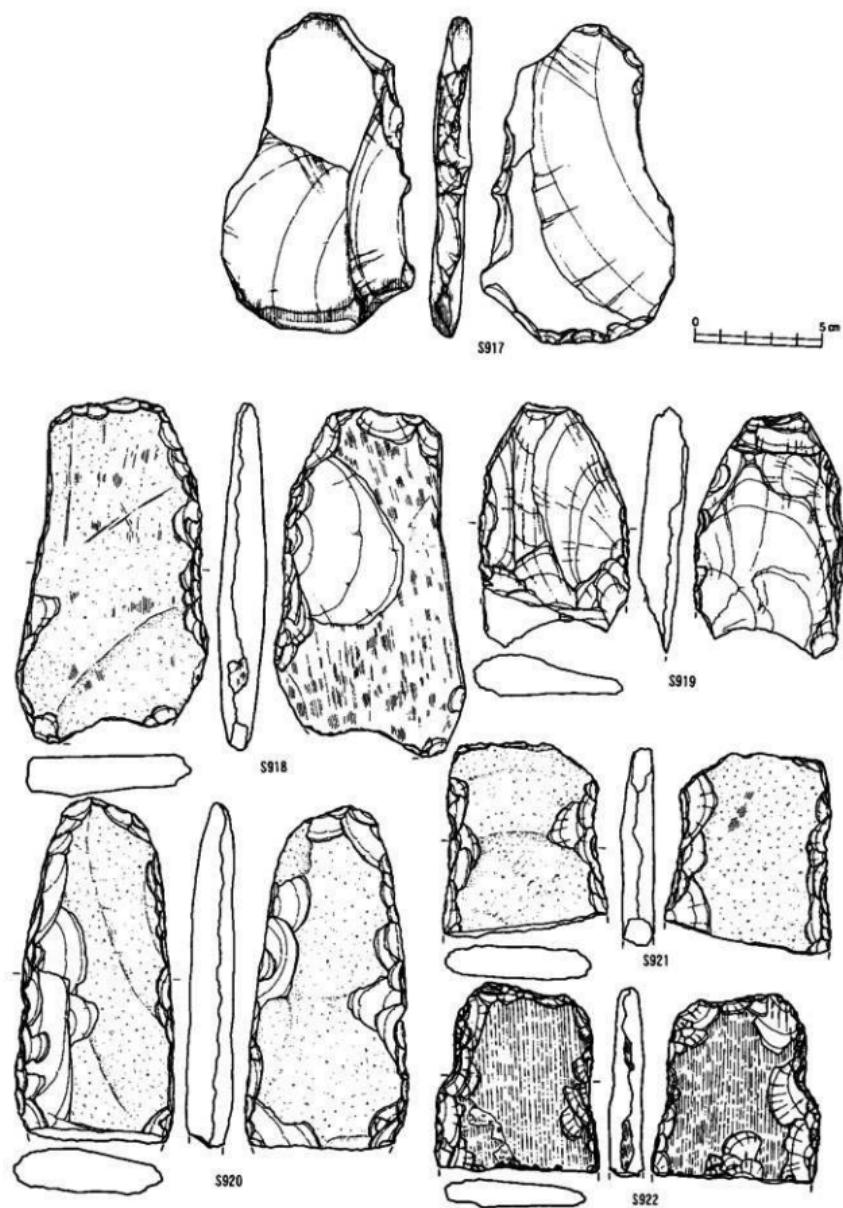
形態からバチ形を呈するもの（S912～S932）と、えぐりを有するもの（S933～S943）とがある。バチ形のものは長さ9.5cmと小さいものから、20cmを越える大きいものまであり、多くは横に折れている。S912～S915は両面を打ち欠いて形を作り、さらに側辺部をこまかく調整して長方形状に加工している。S913の片方は使用痕が顕著である。S916はナスピ形を呈するもので、両面に使用痕がみられるが、片面は特に目立ち、横・斜めあるいは横方向に磨痕がみられる。S917・S918は自然面を多く残しているが、周辺をこまかく調整しており、斜め方向・縦方向の使用痕が全体にみられ、刃部が欠けている。S919～S923は頭部から体部の破片で、頭部は丸みをおびたものと、方形を呈するものとがある。S919のように剥片を利用したものと、その他のように扁平な板状礫の周辺を加工したものとがある。

S924とS925は体部で、S924は剥片を、S925は自然礫を利用している。S925の片面には斜め方向の使用痕がみられる。S926～S932は刃部で、使用によって磨耗したものが多い。

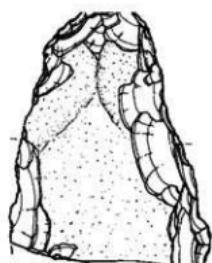
S933～S943はえぐりを有するものであるが、えぐりの位置が頭部近くにあるものと、中央部付近にあるものとがある。えぐりも左右対象となるものと、片方のみのえぐりが深いものの2種がある。特にS938・S939・S941・S942などは片方のみが深くナタ状を呈している。刃部は直線に近くなるもの（S938・S942）、左右対称の弧状となるもの（S937・S943）、左右非対称の弧状となるもの（S933・S936・S941）、先端がとがるもの（S939）とがある。刃部の多くは使用痕跡が強く、磨耗している。



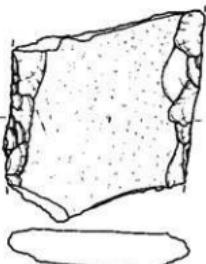
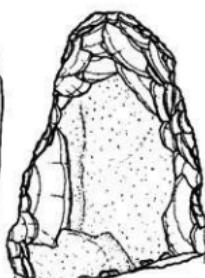
第49図 打製石斧 1



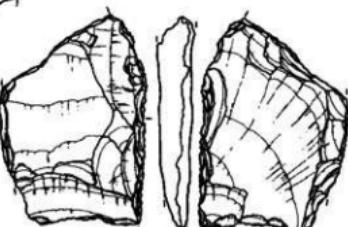
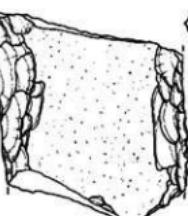
第50図 打製石斧2



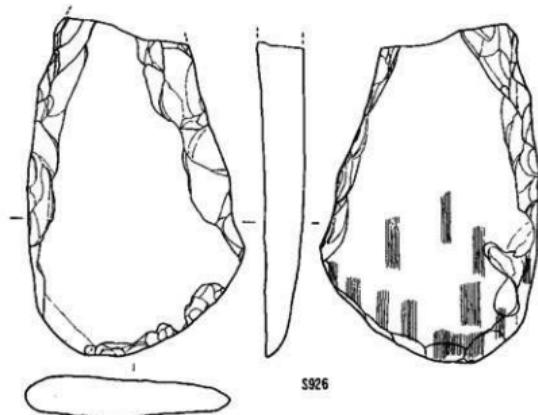
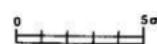
S923



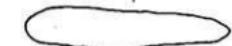
S925



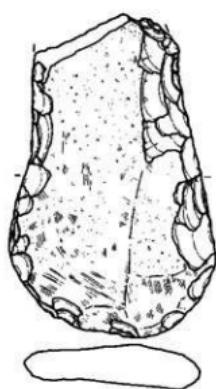
S924



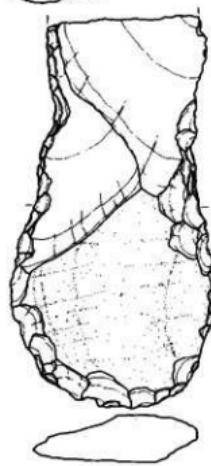
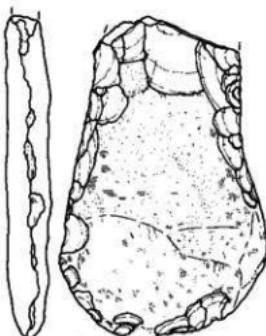
S926



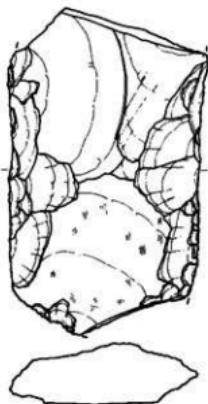
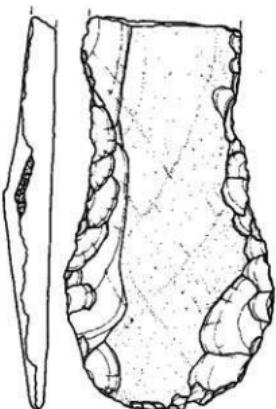
第51図 打製石斧 3



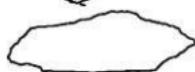
S927



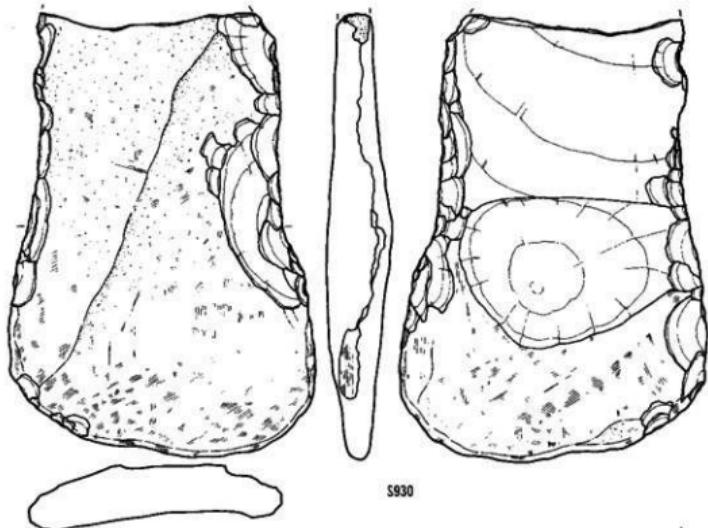
S928



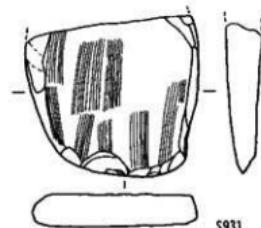
S929



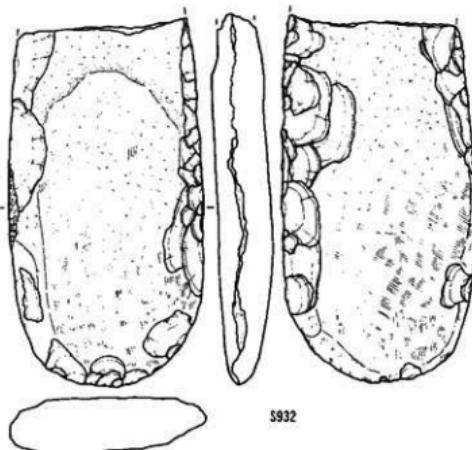
第52図 打製石斧 4



S930



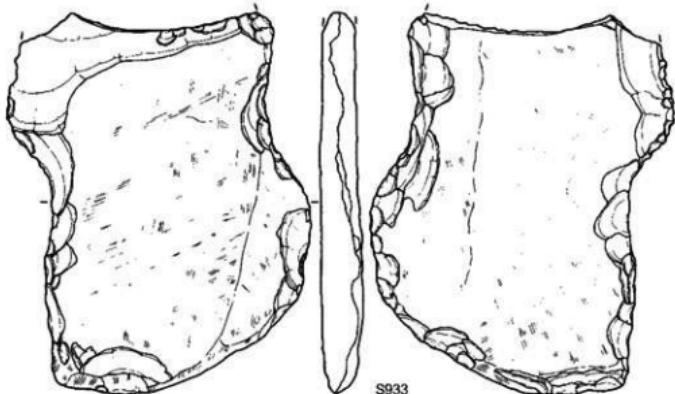
S931



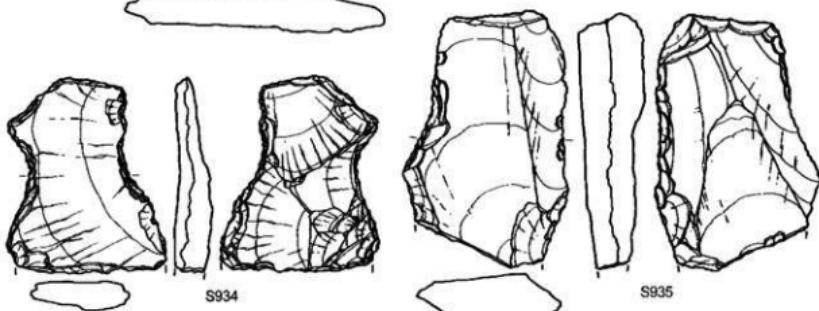
S932

0 5 cm

第53圖 打製石斧 5

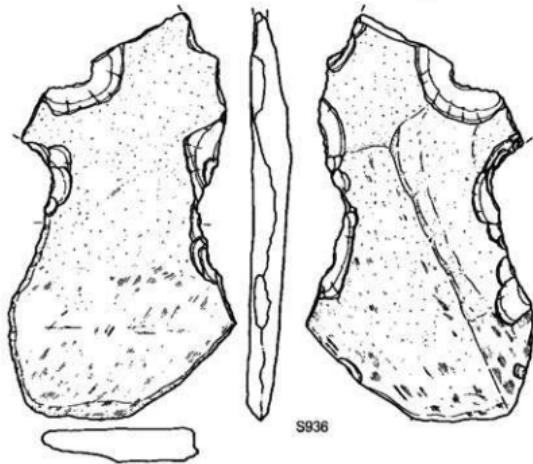


S933

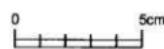


S934

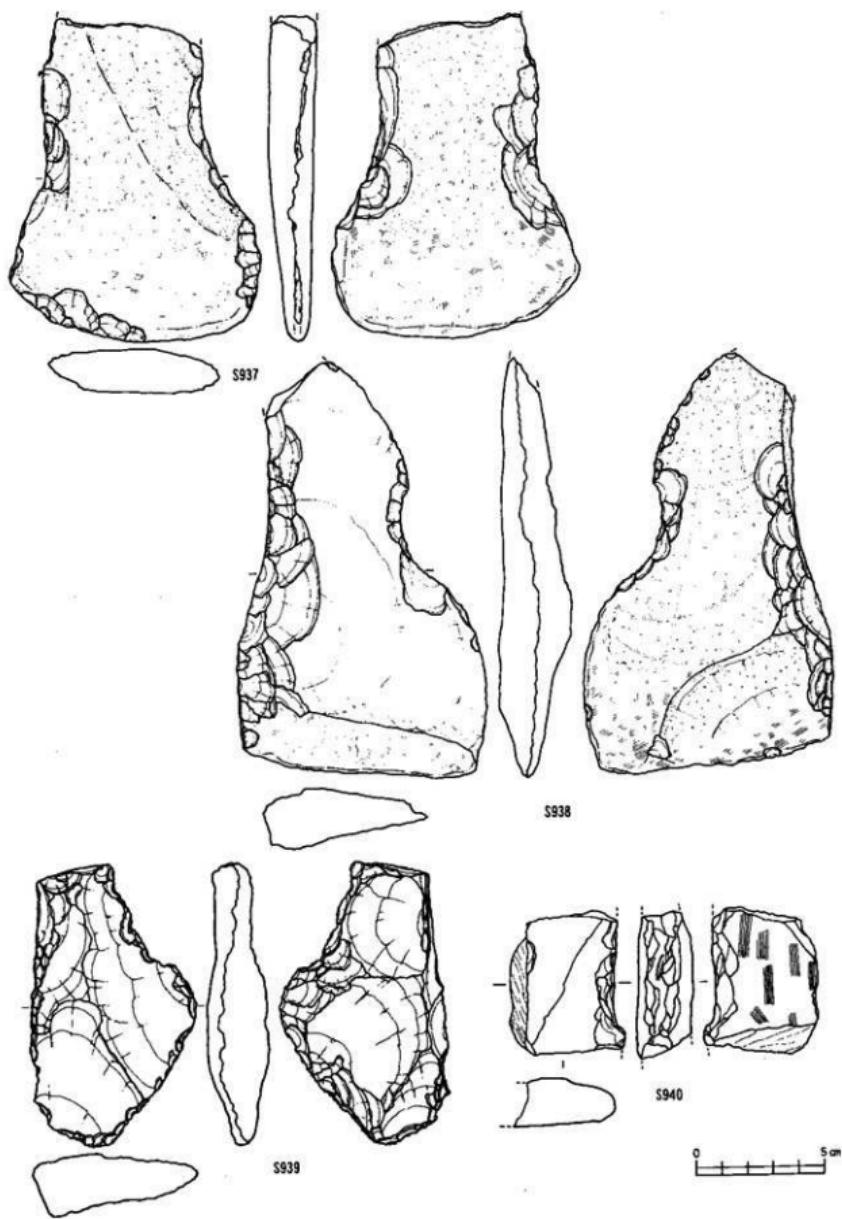
S935



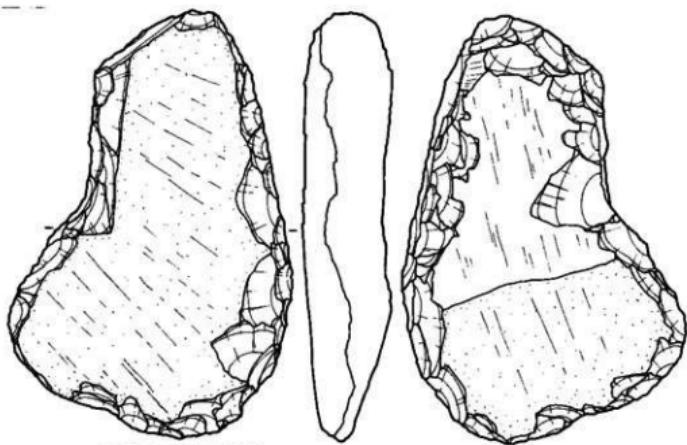
S936



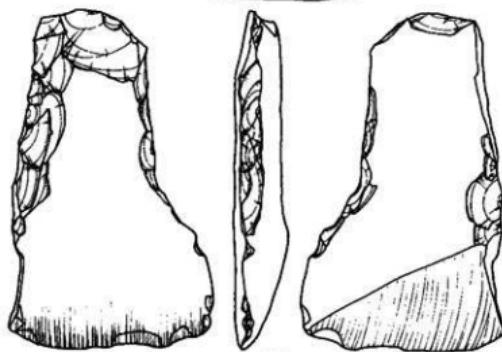
第54図 打製石斧 6



第55図 打製石斧7

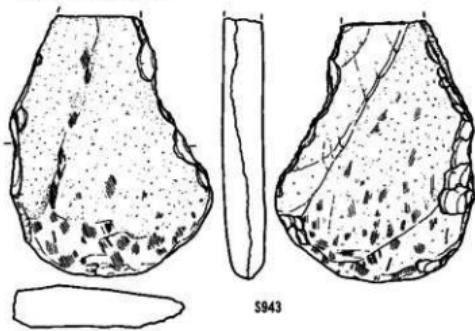


S941



S942

0 5 cm



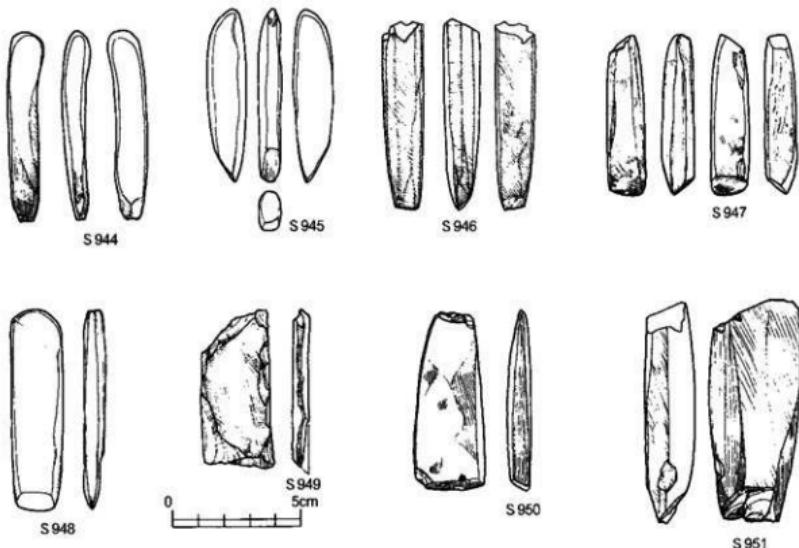
S943

第56図 打製石斧 8

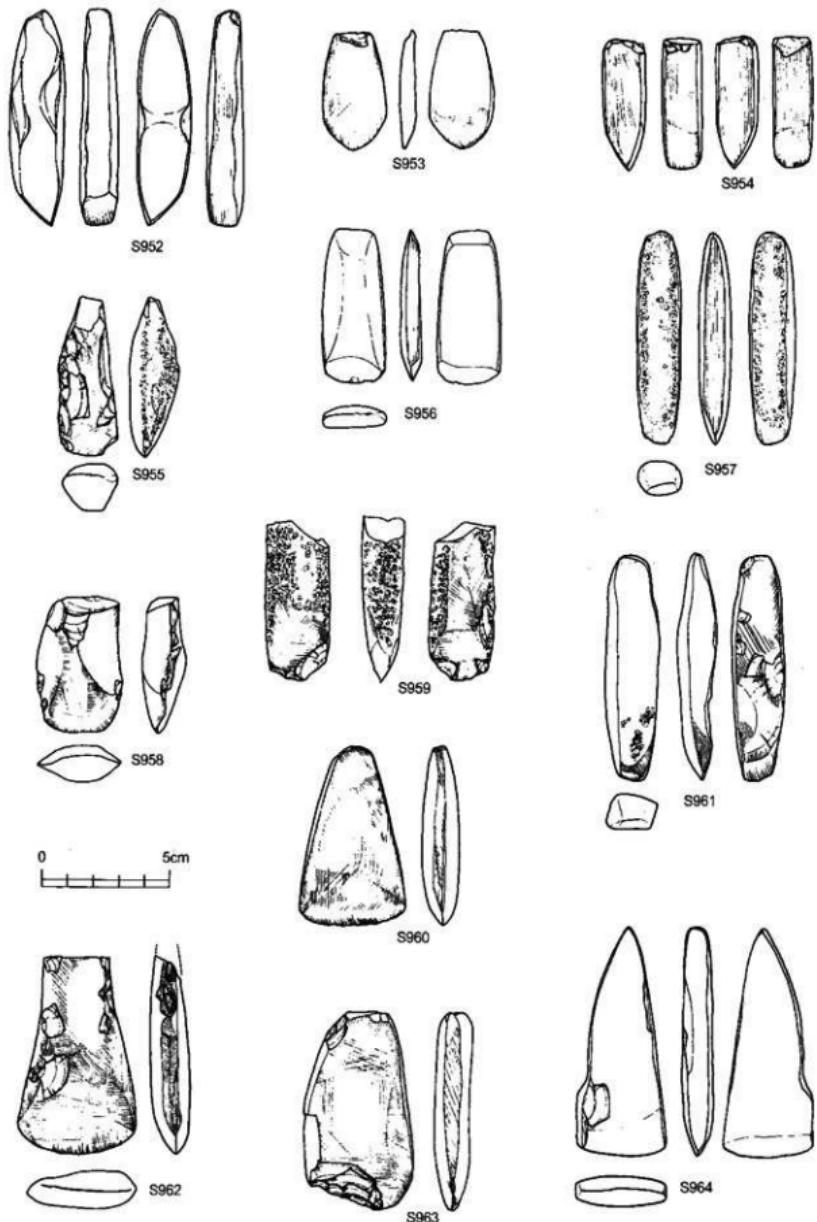
#### (8) 磨製石斧 (第57~62図)

磨製石斧は50点掲載した。そのうちS944~S964が比較的小形の石斧で、いわゆるノミ状の石斧を多く含んでいる。頁岩系のものが多いが、S947・S949・S960は蛇紋岩を使用している。特にS947のような形態は、南九州の縄文時代後期によく見られるもので、掠り切り技法による製作が考えられる例である。これらノミ状の小形石斧は、片刃のものが多いのも特徴である。また、S952やS964は中央部付近に抉り部をもつ。

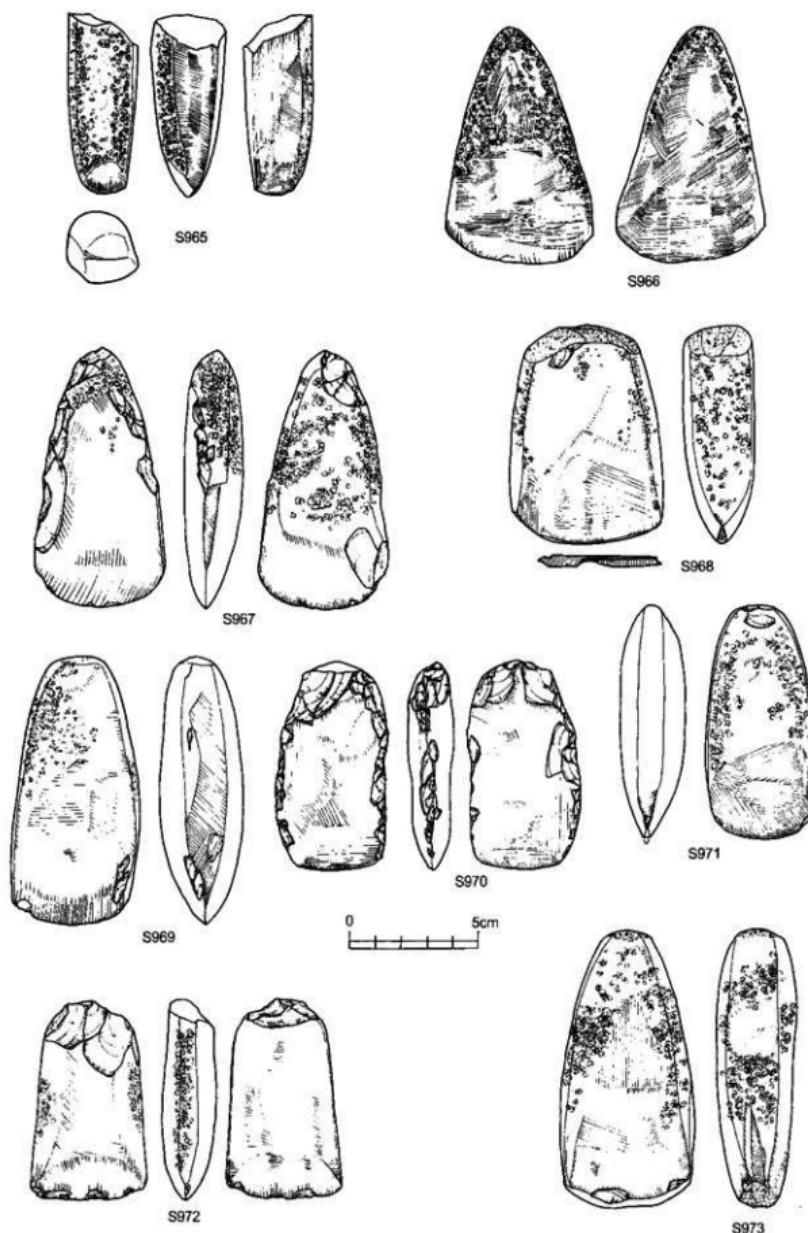
S965~S993は敲打による整形痕が顕著な磨製石斧である。本遺跡の磨製石斧のほとんどが使用によると考えられる欠損品であったが、接合したS989とS993を含め、比較的残りの良いものを掲載した。



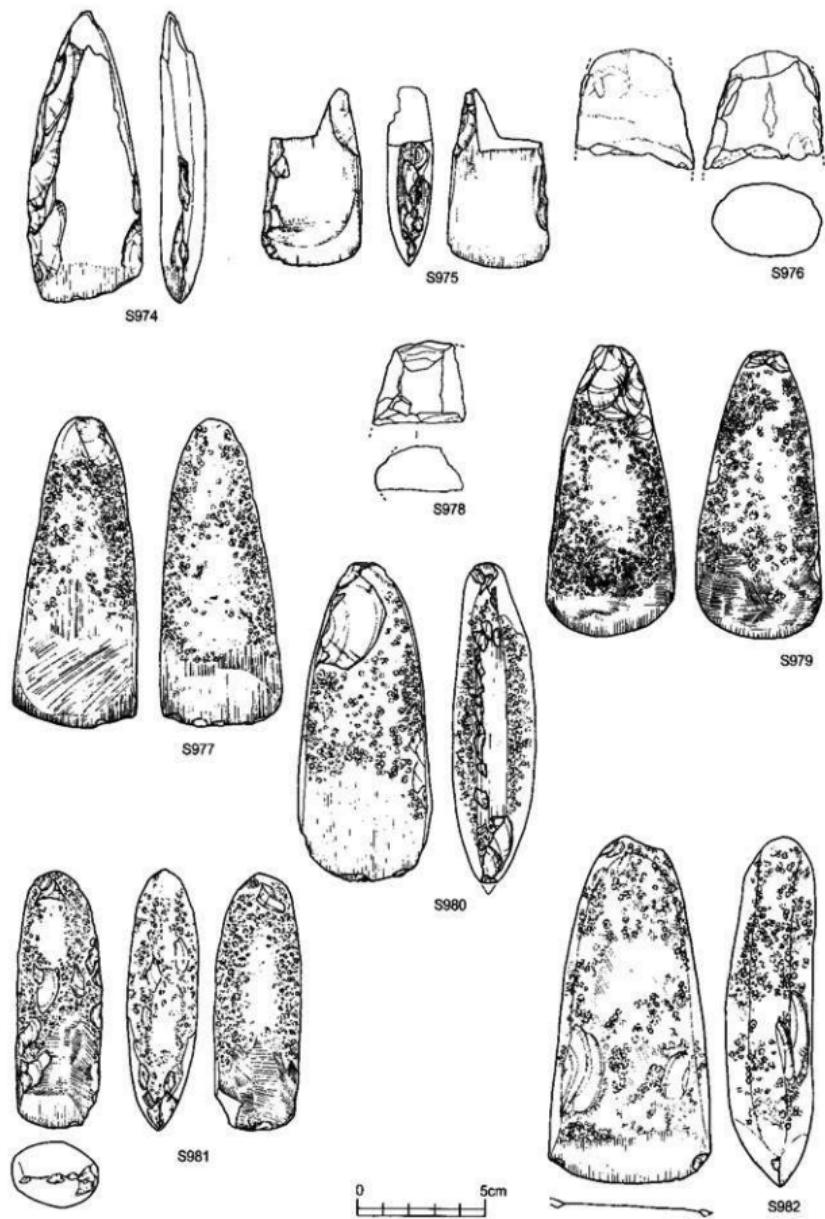
第57図 磨製石斧 1



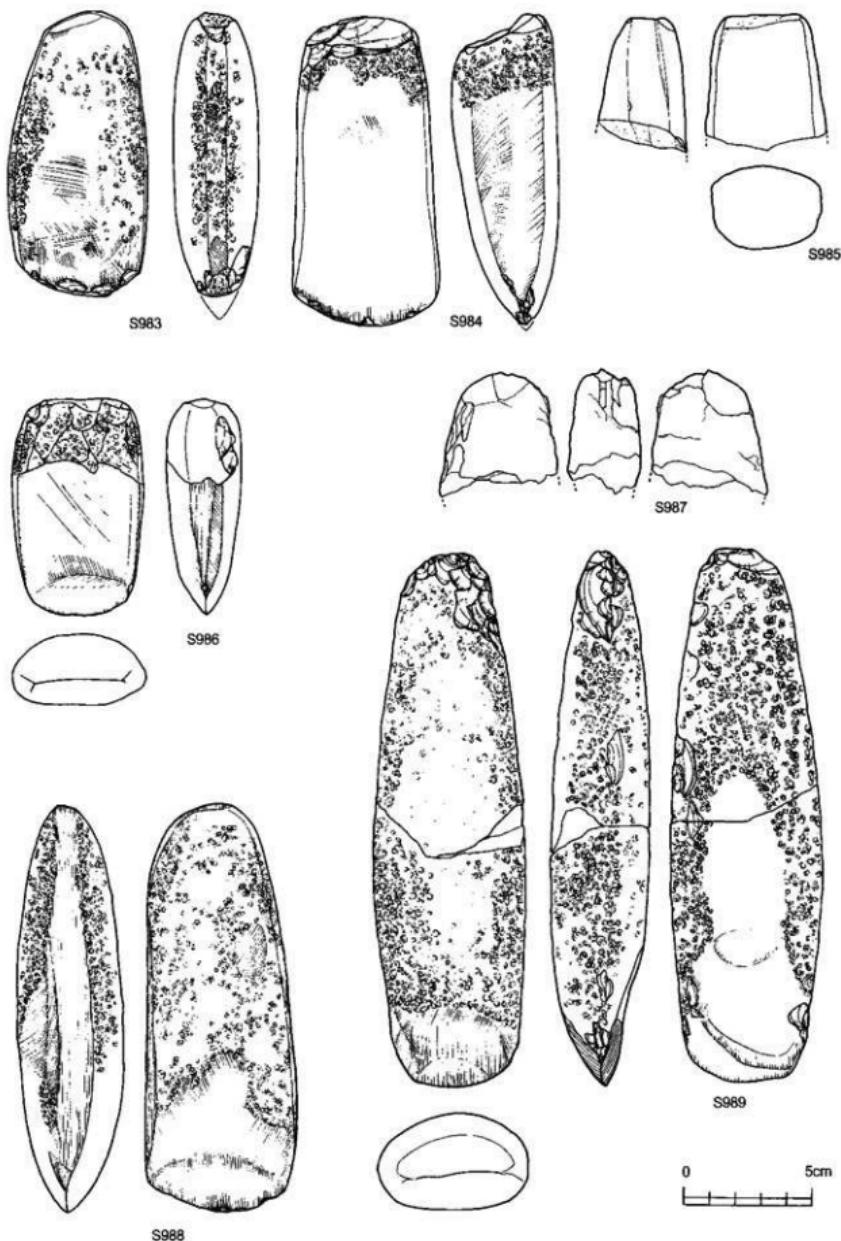
第58図 磨製石斧 2



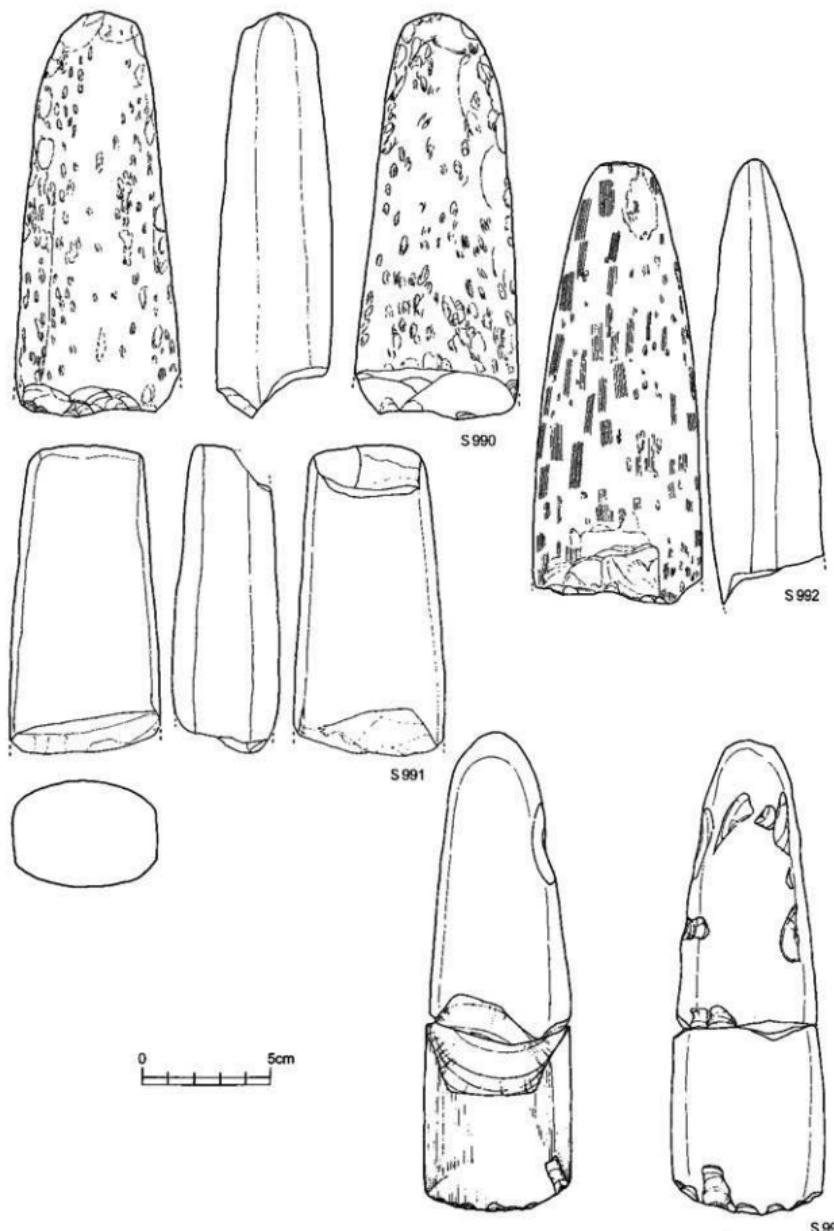
第59図 磨製石斧 3



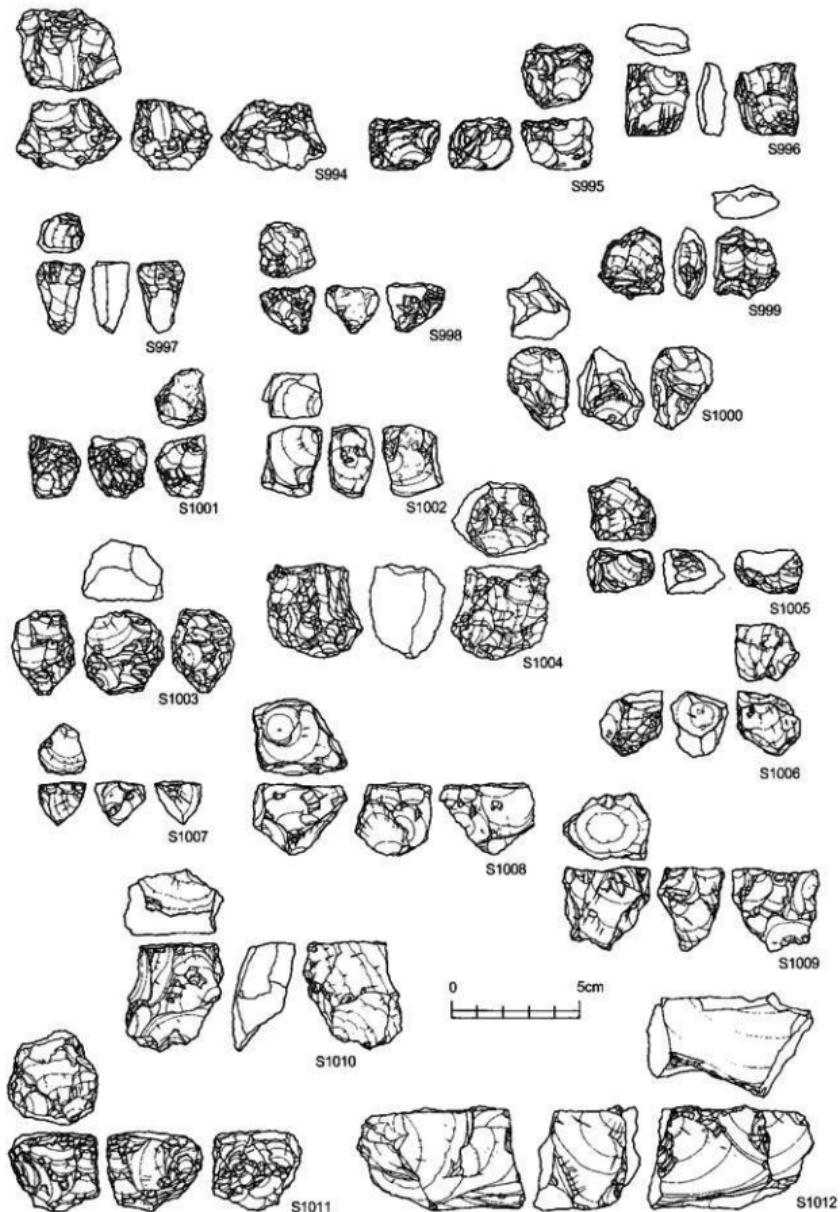
第60図 磨製石斧 4



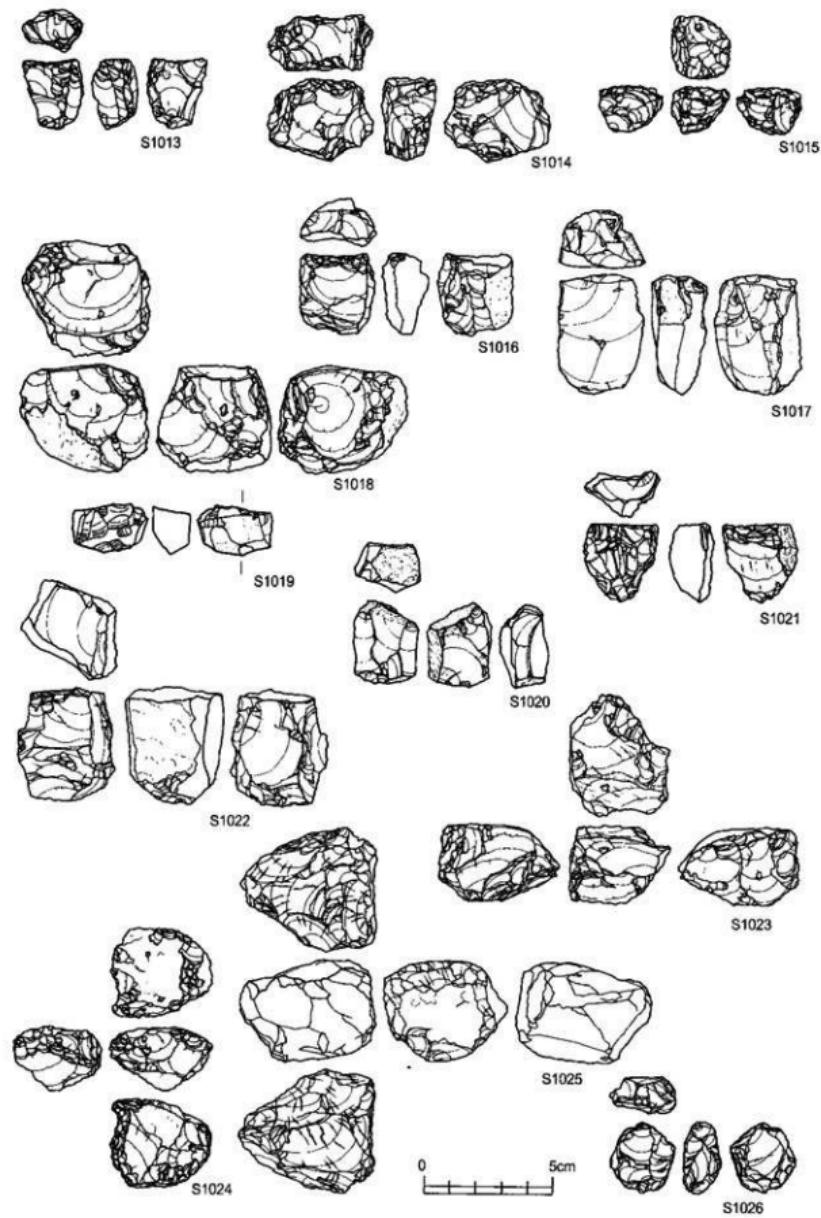
第61図 磨製石斧 5



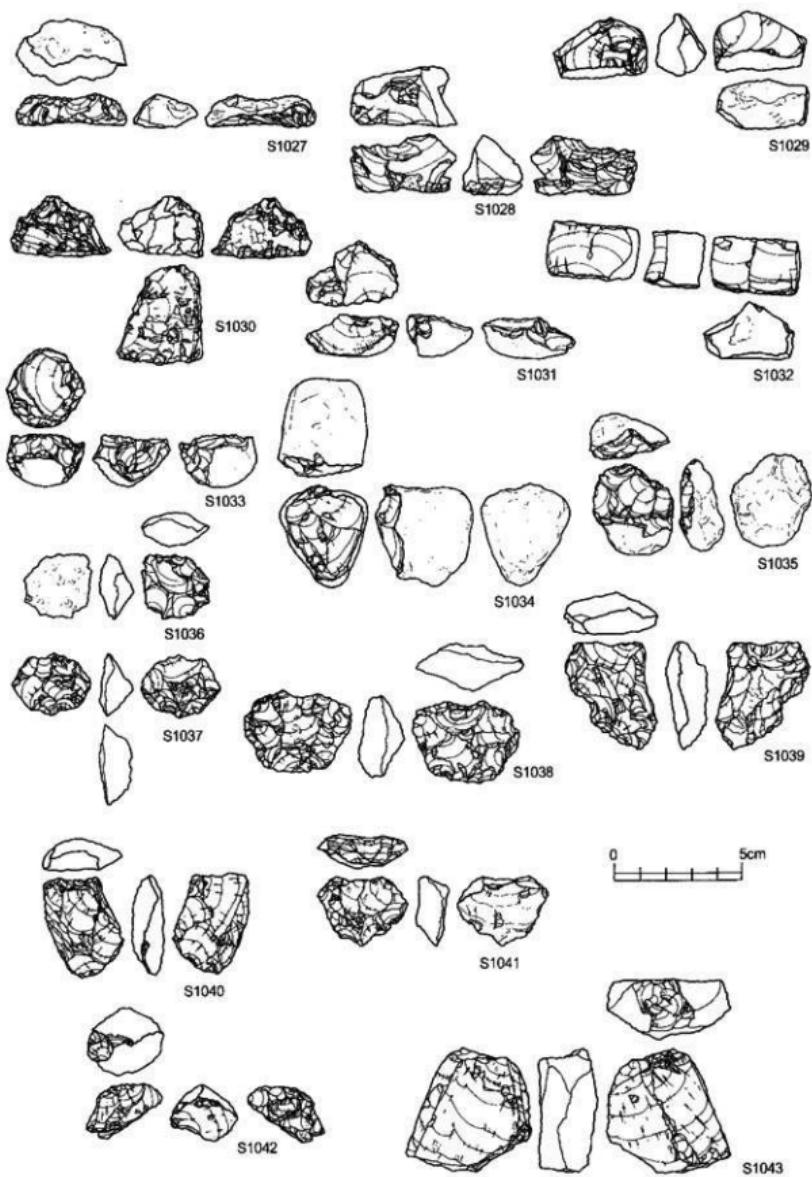
第62図 磨製石斧 6



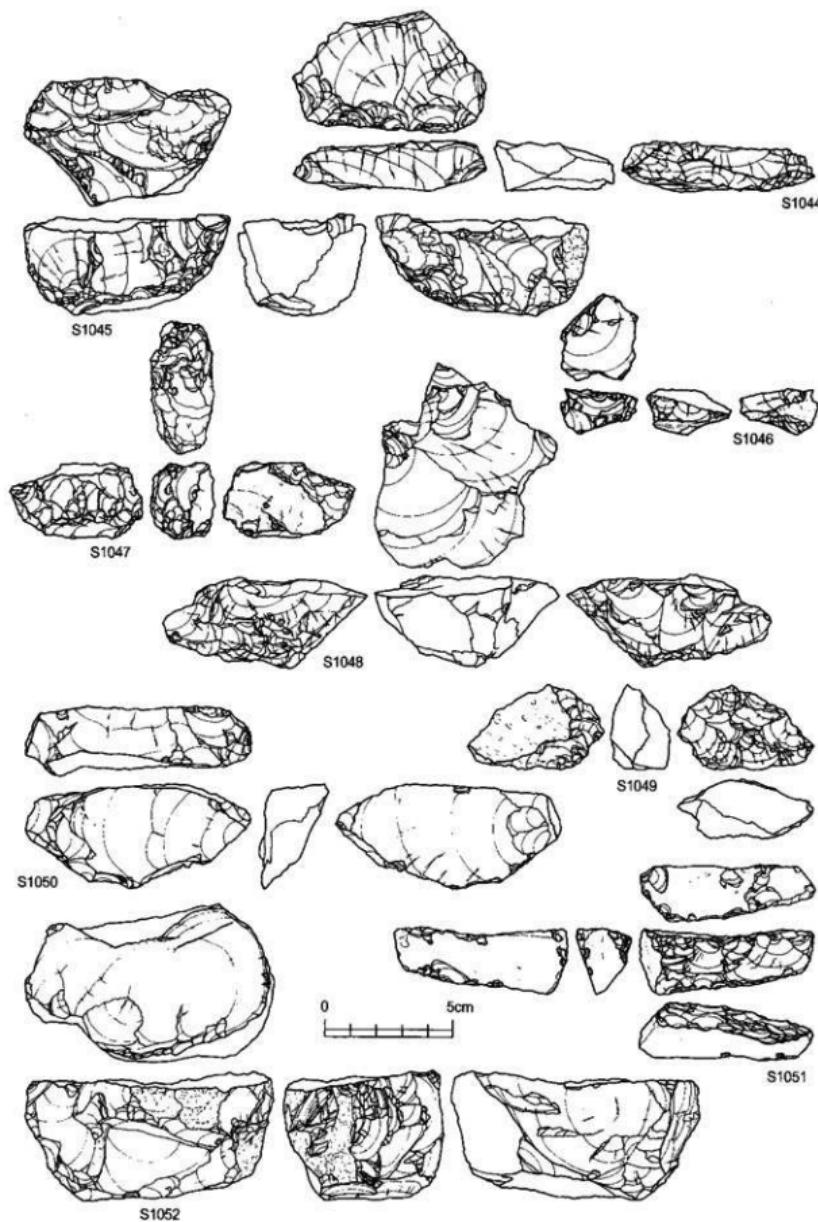
第63図 石核1



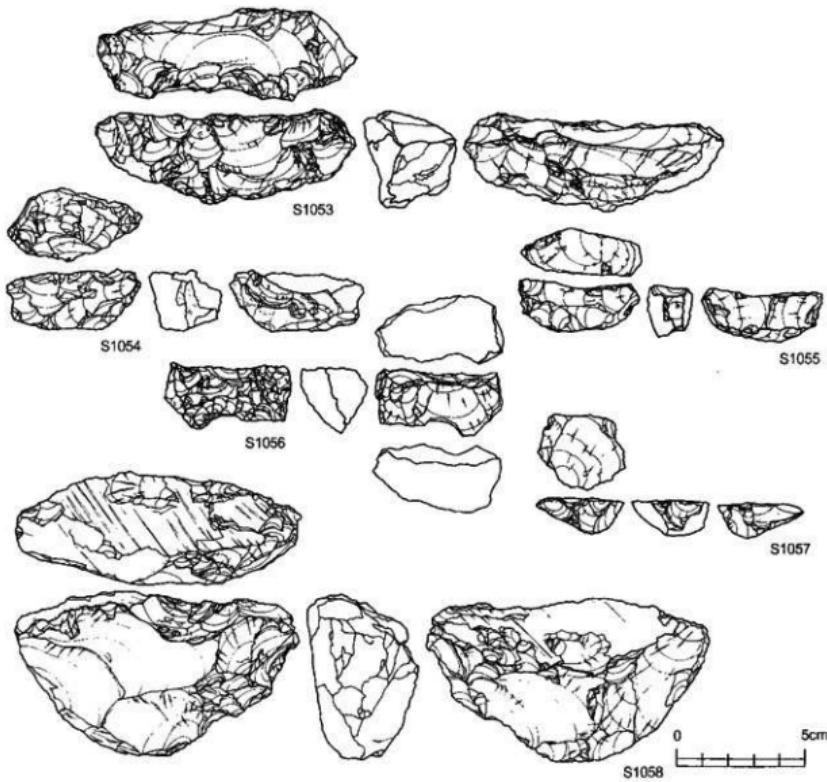
第64図 石核2



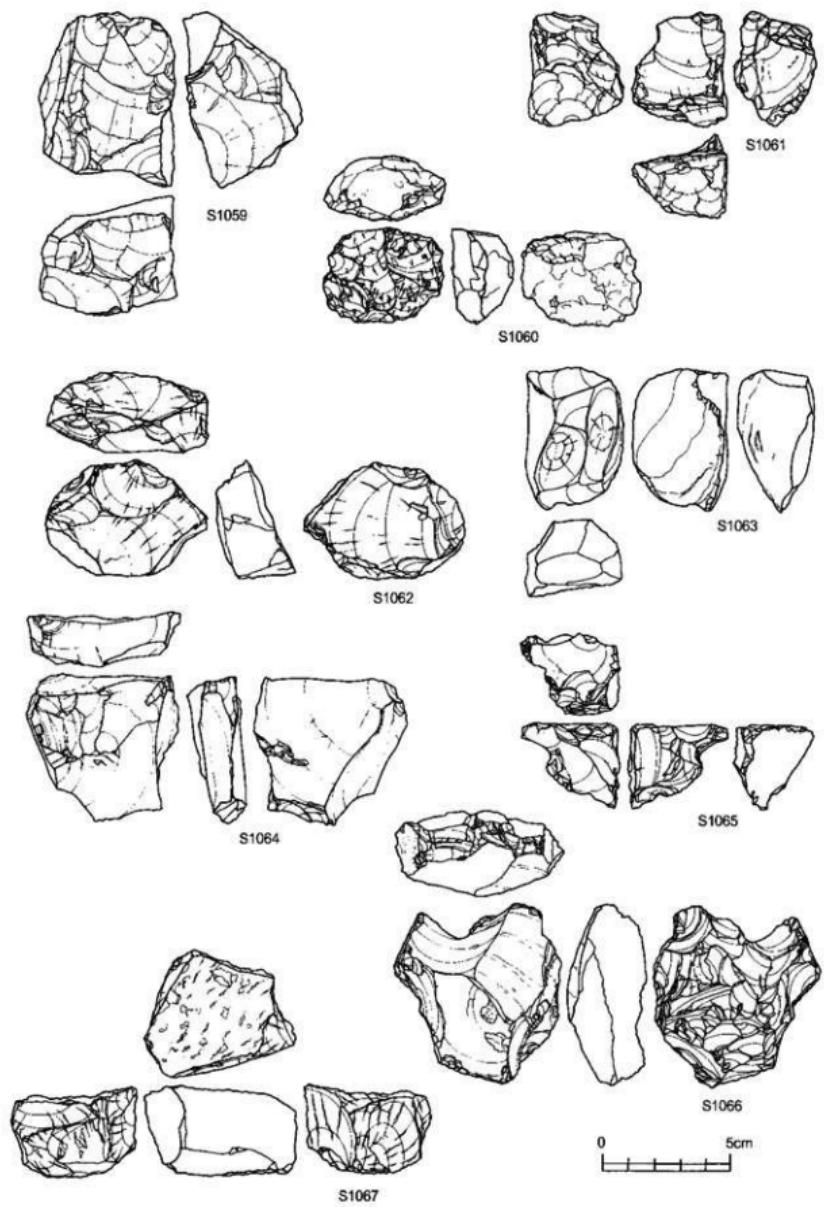
第65図 石核3



第66図 石核4



第67図 石核5

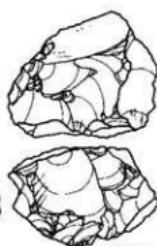


第68図 石核6

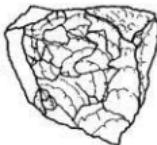
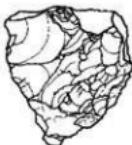
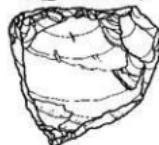


S1068

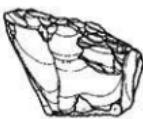
S1069



S1069



S1070



S1071



S1072



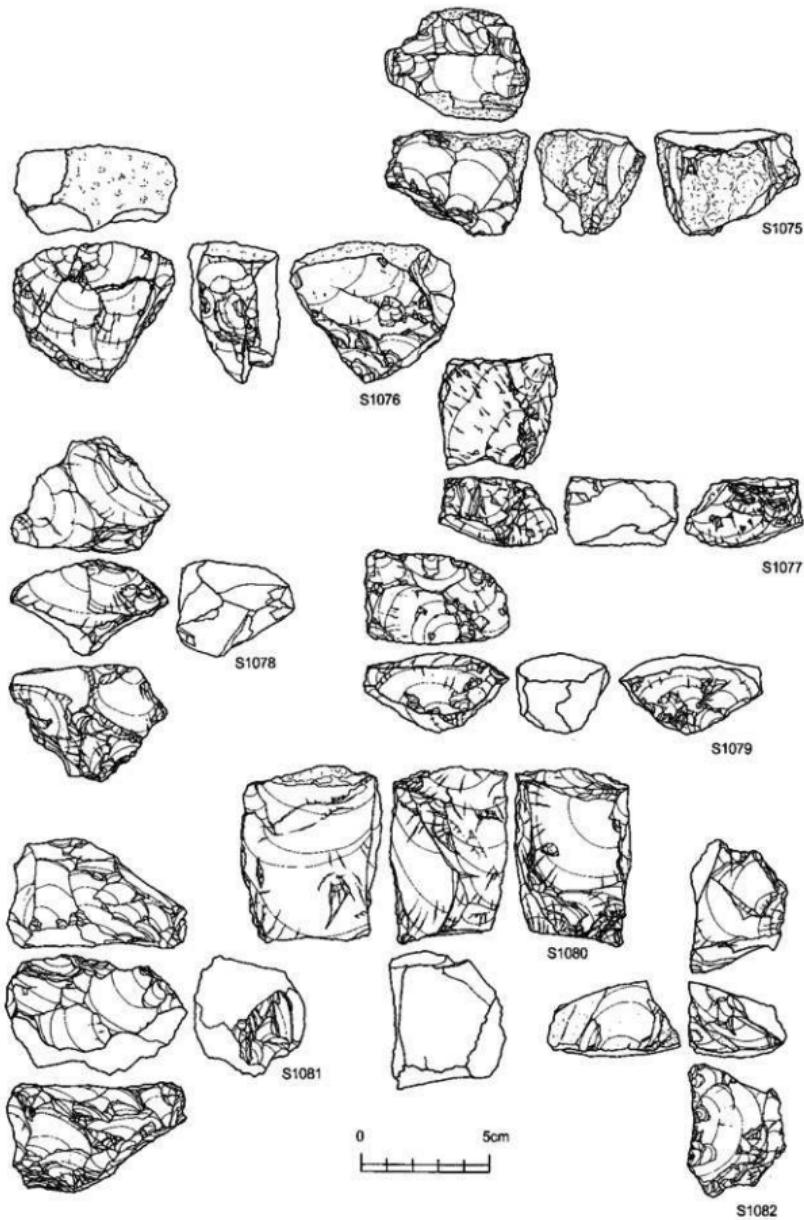
S1073



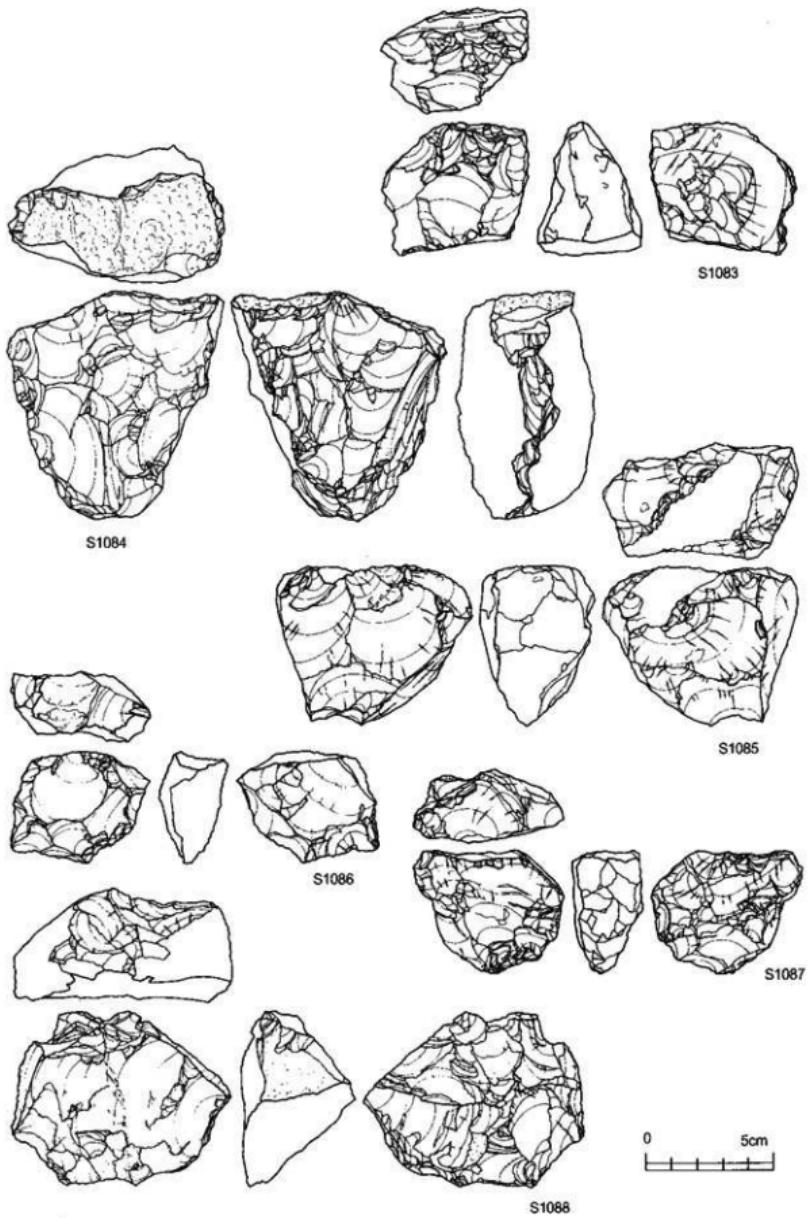
S1074



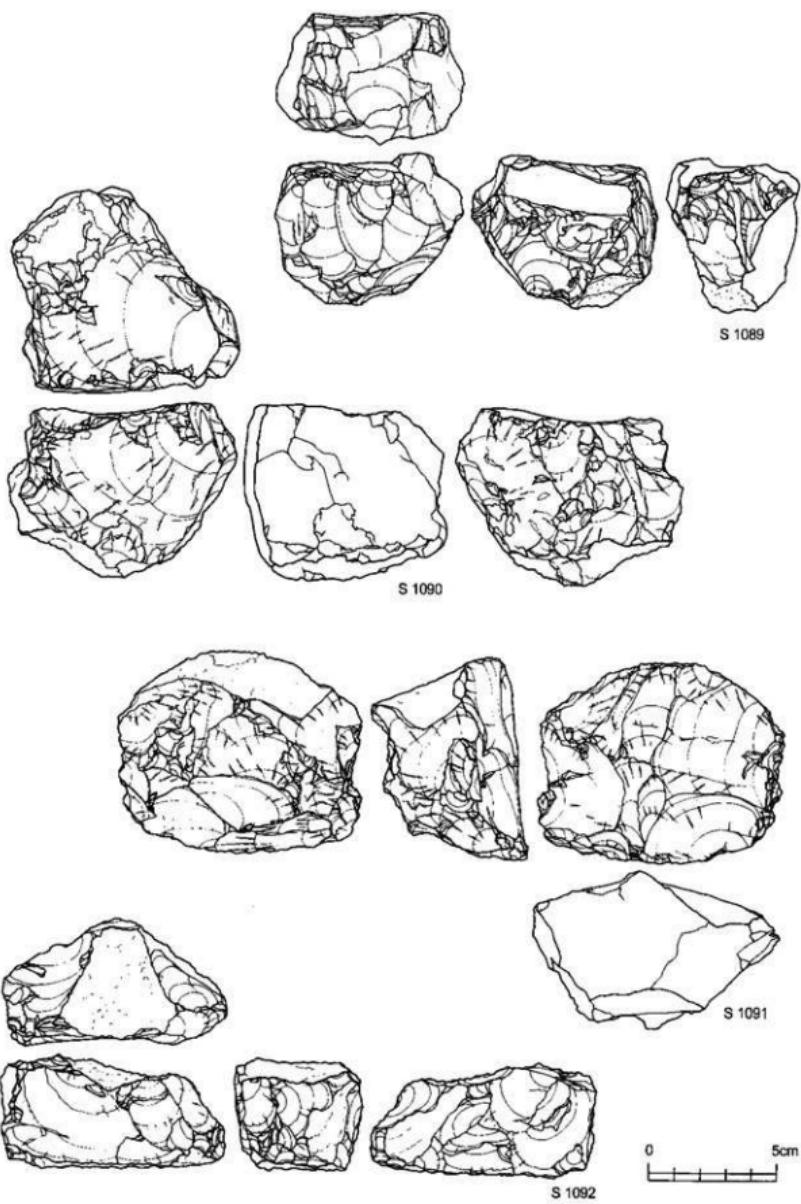
第69図 石核7



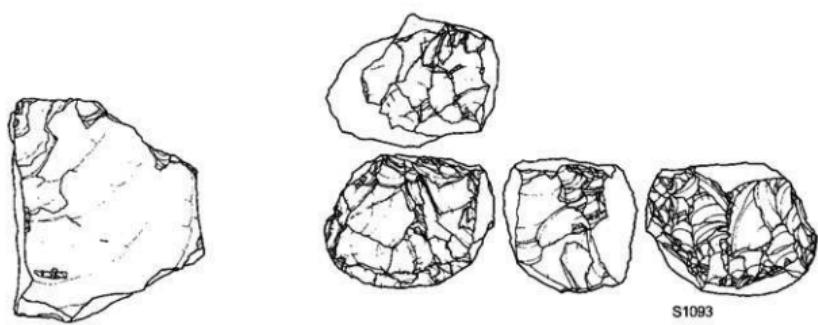
第70図 石核8



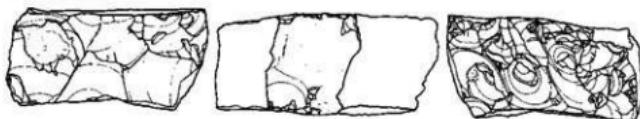
第71図 石核9



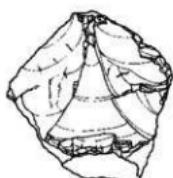
第72図 石核10



S1093

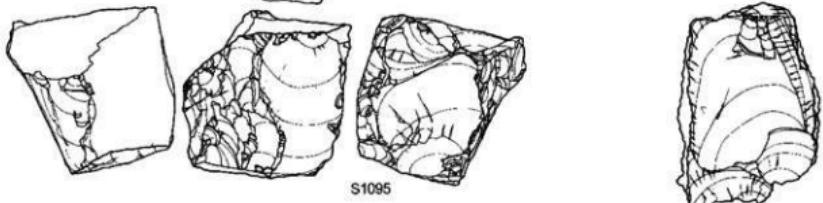


S1094

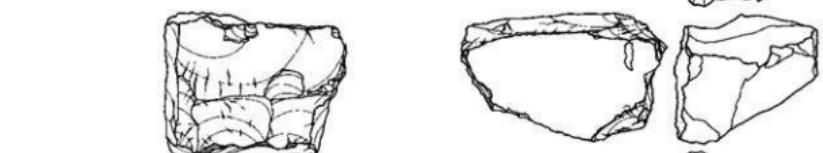


0 5cm

S1095

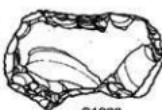
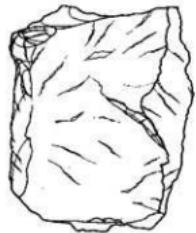


S1096

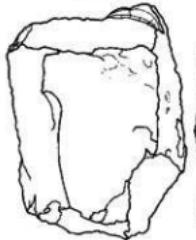


S1097

第73図 石核11



S1098



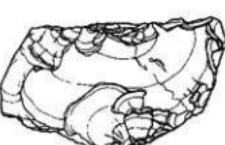
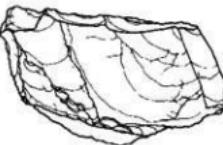
S1099



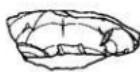
S1100



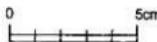
S1101



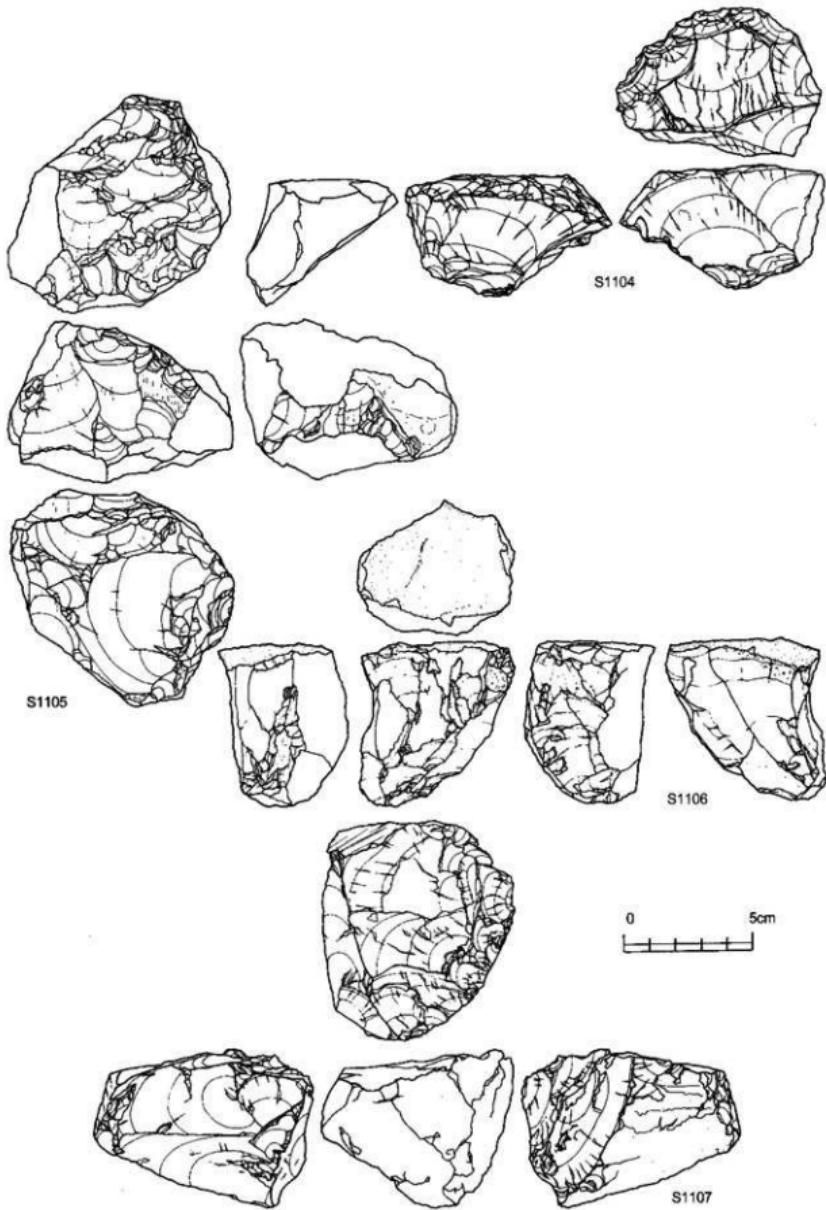
S1102



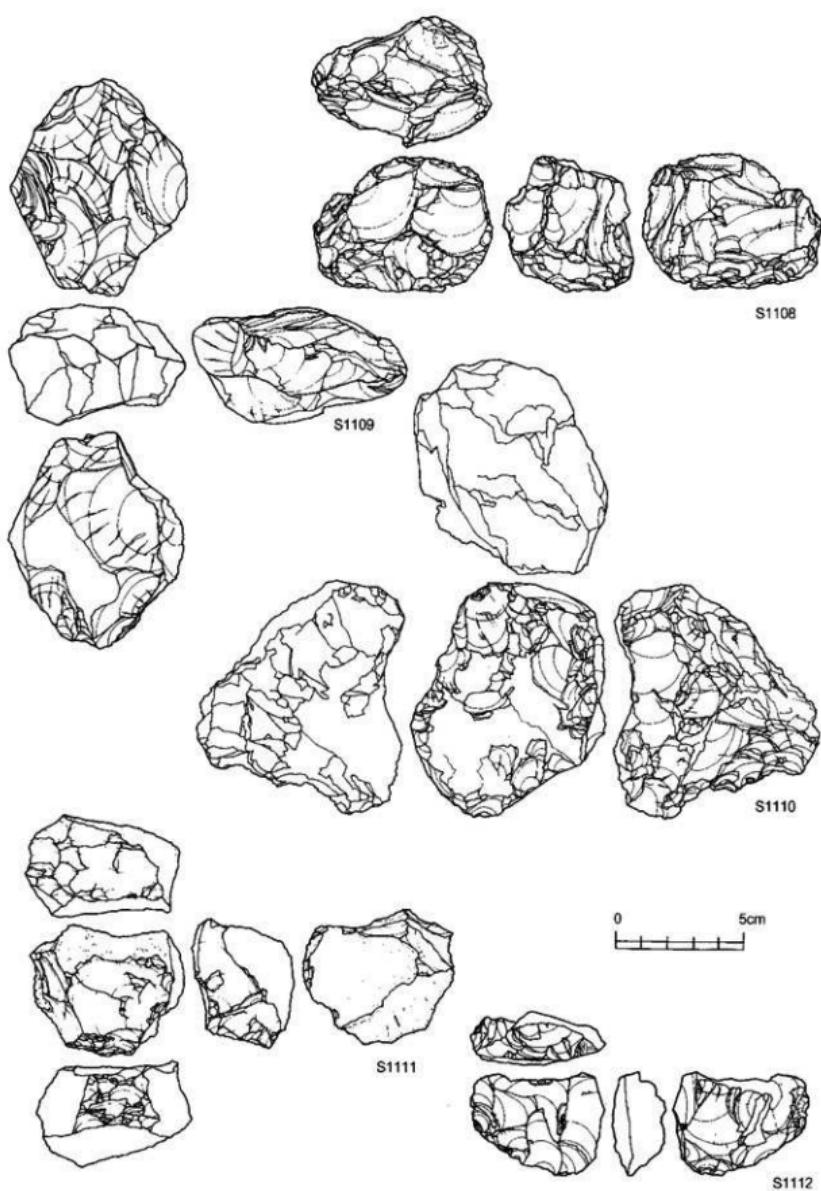
S1103



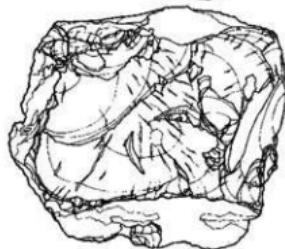
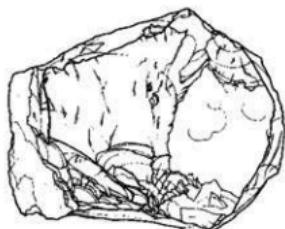
第74図 石核12



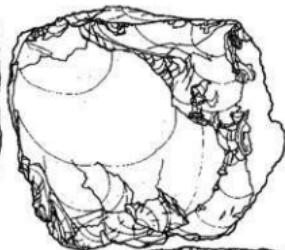
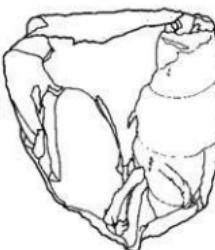
第75図 石核13



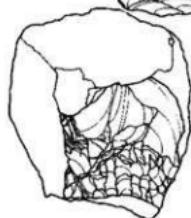
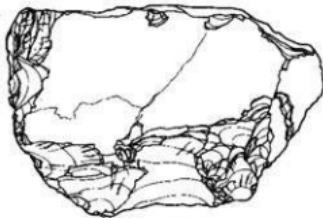
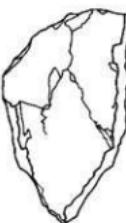
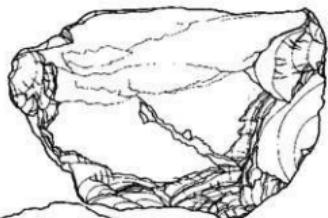
第76図 石核14



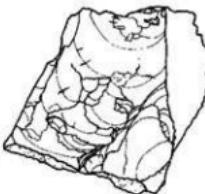
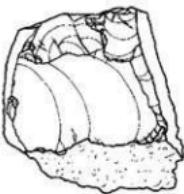
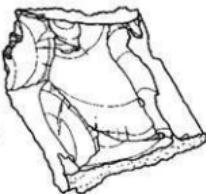
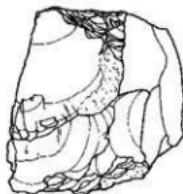
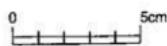
S1113



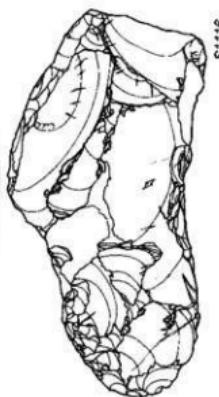
S1114



S1115



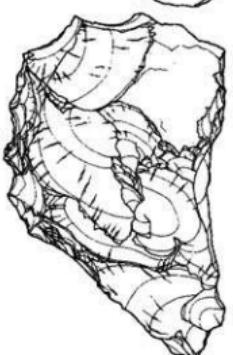
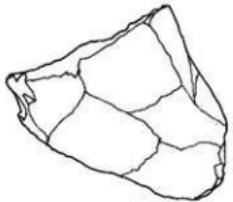
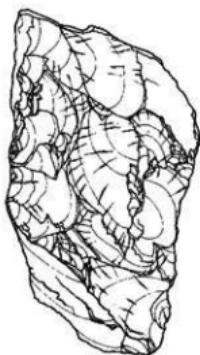
第77図 石核15



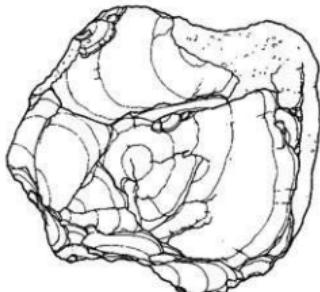
S1116



S1117

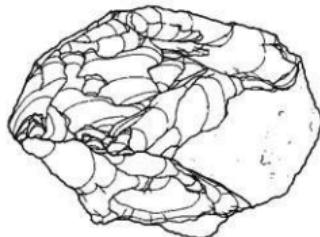


第78図 石核16

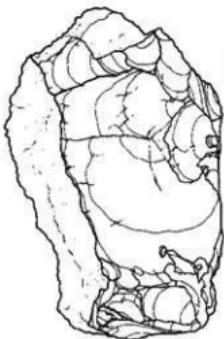
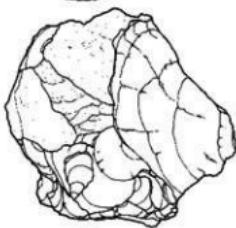
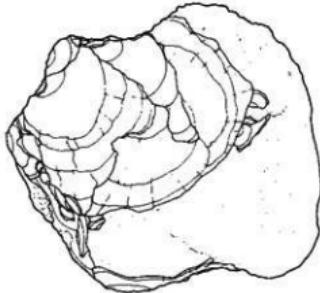
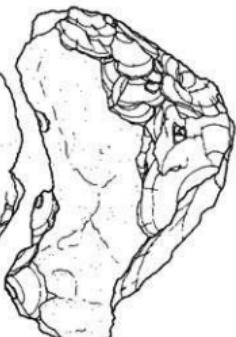
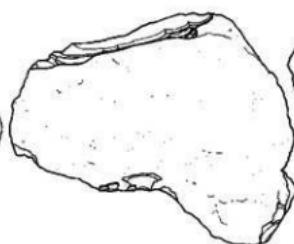


S1118

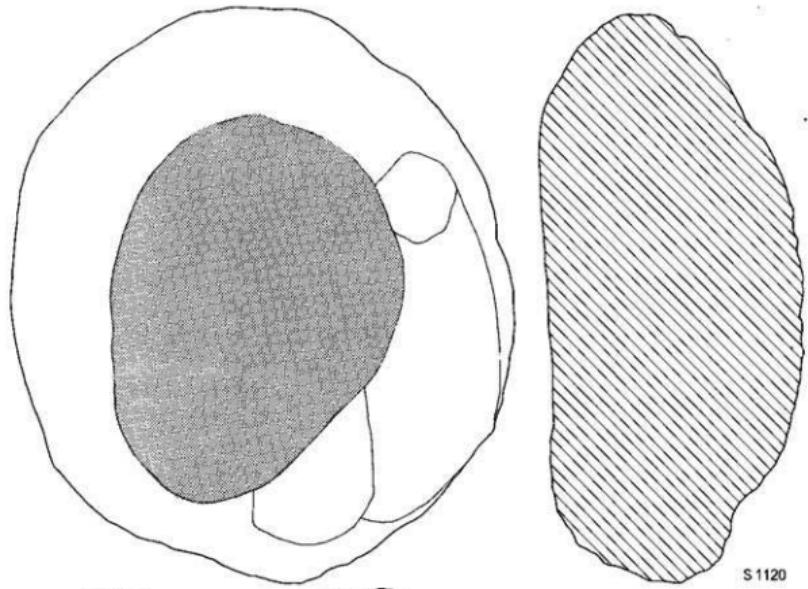
5cm  
0



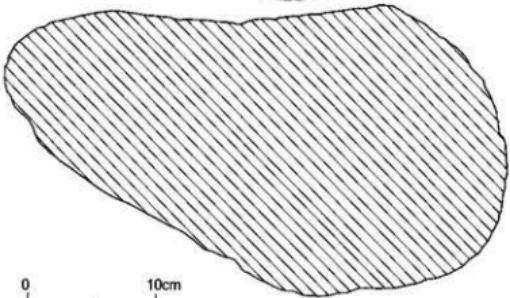
S1119



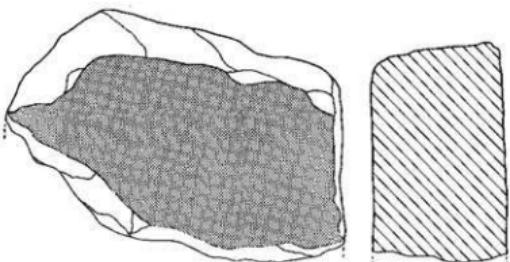
第79図 石核17



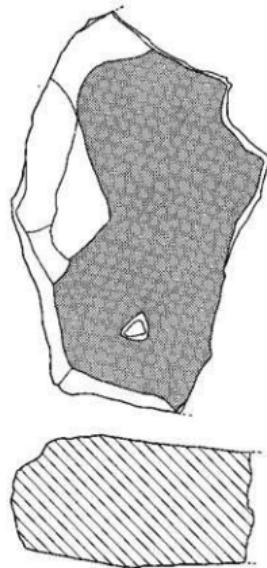
S 1120



0 10cm

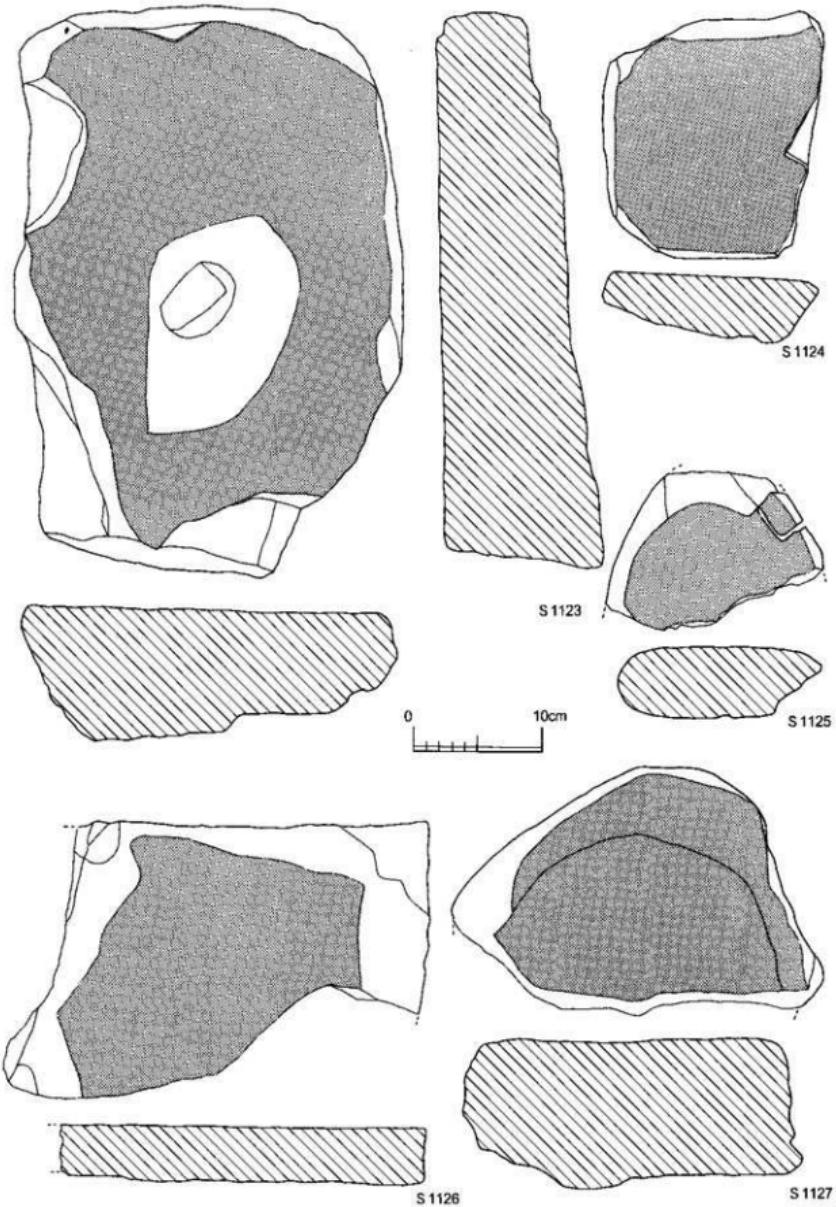


S 1121

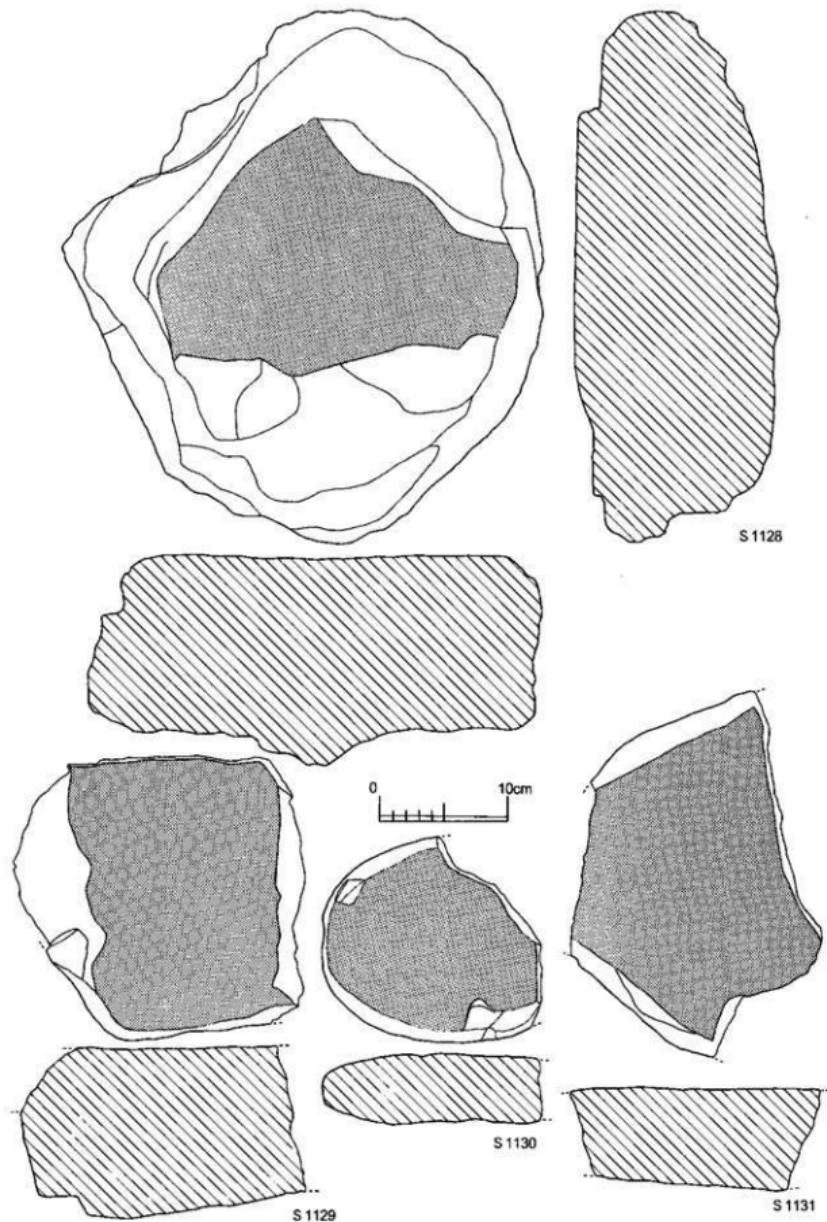


S 1122

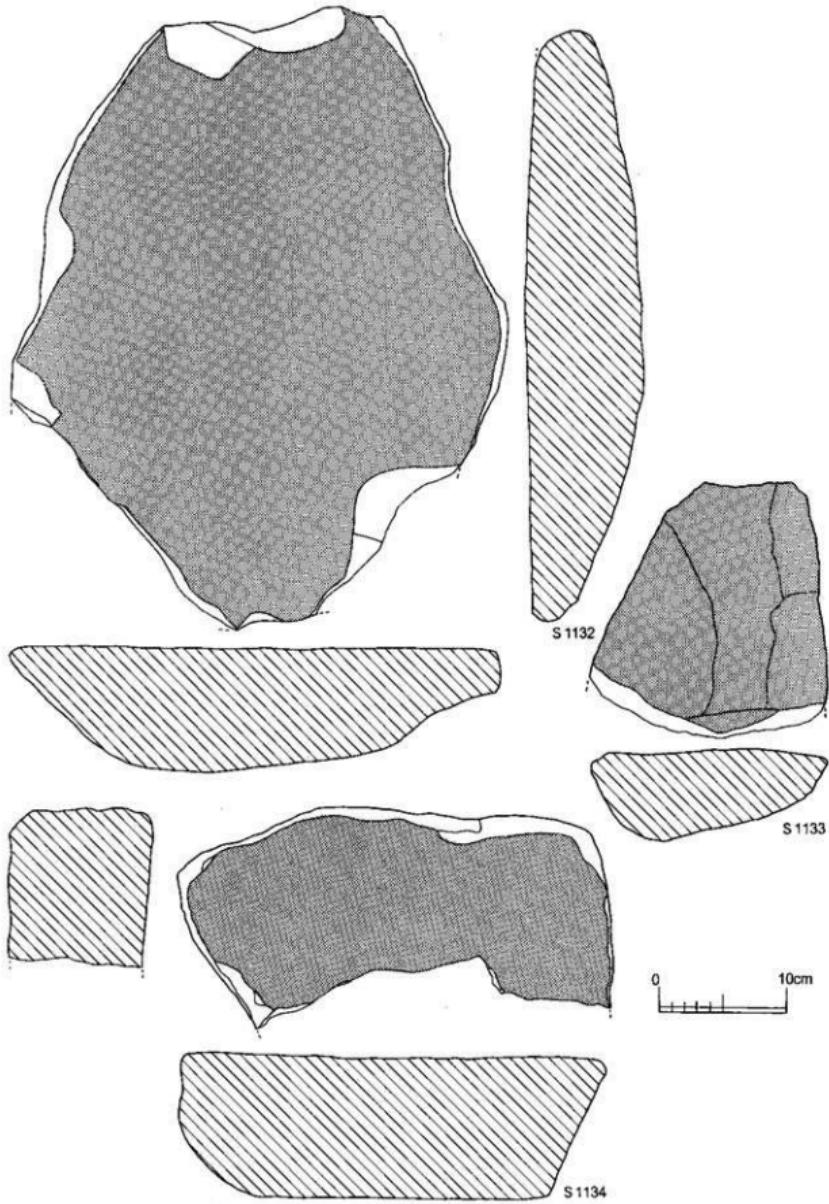
第80図 石皿1



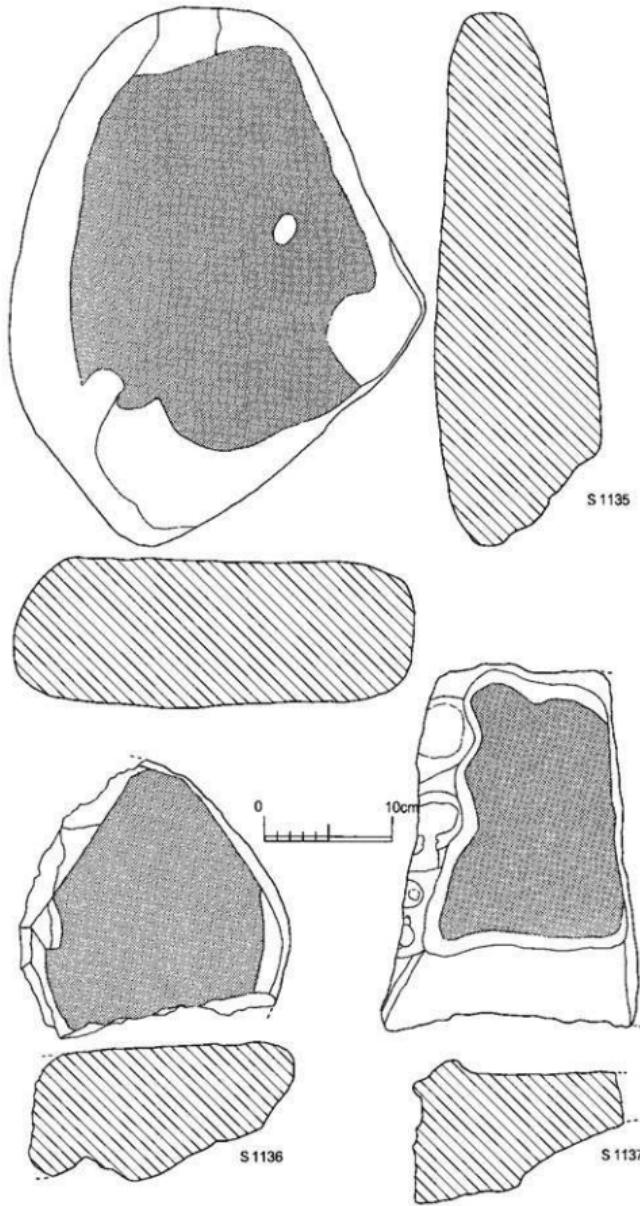
第81図 石 血2



第82図 石皿3



第83図 石皿4



第84図 石皿5

番号	器種	出土区 区 R + %	層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	no.
S1	石 錄	1 3 G	表探		黒曜石	1.50	1.10	0.20	( 0.38 )		14
S2	タ	1 4 G	V	22591	タ	1.60	( 1.10 )	0.30	( 0.30 )		
S3	タ	1 7 J	IV		めのう	2.00	1.30	0.30	0.57		
S4	タ	1 6 H	V	17957	流紋岩	1.80	1.30	0.20	0.51		
S5	タ	2 1 F R 1	34	35807	黒曜石	2.00	1.20	0.40	0.53		
S6	タ	2 0 E	VI	41484	めのう	1.70	1.30	0.40	0.57		
S7	タ	1 9 F R 1			黒曜石	( 1.50 )	( 0.80 )	0.40	( 0.37 )		
S8	タ	1 3 E	V		タ	1.60	1.30	0.30	0.49		
S9	タ	2 1 F R 1	22	36786	タ	1.60	1.10	0.30	0.49		
S10	タ	1 8 E	VI	35397	タ	1.40	1.30	0.30	0.51		
S11	タ	1 4 G R 1	78	27676	タ	1.40	1.20	0.30	0.28		
S12	タ	2 1 F R 1	15	36662	めのう	( 1.40 )	1.40	0.30	( 0.44 )		
S13	タ		表探			1.40	( 1.10 )	0.30	( 0.36 )		
S14	タ	1 4 G R 1			黒曜石	1.50	1.20	0.30	0.30		
S15	タ	2 1 D	V		タ	1.60	( 1.10 )	0.30	( 0.32 )		
S16	タ	1 4 G R 1	84	27668	タ	1.60	1.11	0.20	0.31		
S17	タ	1 4 H	V	22701	安山岩	1.40	1.70	0.30	0.50		
S18	タ	1 8 F R 1	89	33432	めのう	1.60	1.90	0.30	0.51		
S19	タ	1 6 G R 1	12	28541	タ	( 1.40 )	1.60	0.30	( 0.45 )		
S20	タ	2 2 E			タ	1.80	1.60	0.30	0.65	珪	
S21	タ	1 9 E	VI	41778	黒曜石	1.80	1.90	0.30	0.84		
S22	タ	2 2 N R 2	54	38246	タ	1.80	2.20	0.50	1.02		
S23	タ	2 0 J	V	42334	タ	1.90	1.80	0.40	0.97		
S24	タ	2 3 M R 2			めのう	1.60	( 1.40 )	0.20	( 0.45 )		
S25	タ	1 9 E	VI	41357	黒曜石	1.60	( 1.50 )	0.30	( 0.48 )		
S26	タ	1 9 E	VI	41135	タ	1.60	1.40	0.30	0.53		
S27	タ	1 0 T	III c	8	めのう	1.60	1.70	0.40	0.52		
S28	タ	1 8 D	VI	35427	黒曜石	1.40	1.60	0.30	0.45		15
S29	タ	2 0 F R 1	24	40837	タ	( 1.40 )	1.70	0.30	( 0.60 )		
S30	タ	1 4 I	V	16794	タ	( 1.60 )	1.90	0.30	( 0.97 )		
S31	タ	1 8 F R 1	93	32516	フリント	( 1.60 )	( 1.60 )	0.30	( 0.56 )		
S32	タ	2 1 J	VI		めのう	1.80	1.90	0.30	0.81		
S33	タ	1 9 D	VI	35023	タ	( 1.60 )	( 1.70 )	0.20	( 0.85 )		
S34	タ	1 8 D	V		タ	( 1.80 )	( 1.60 )	0.30	( 0.75 )		
S35	タ	1 8 F R 1			タ	1.60	1.60	0.30	0.45		
S36	タ	1 3 E	V		タ	1.80	( 1.60 )	0.20	( 0.67 )		
S37	タ	1 4 D			黒曜石	1.60	1.40	0.30	0.52		
S38	タ	1 3 E	V	18728	めのう	2.00	1.80	0.30	1.23		
S39	タ	2 1 F R 1	47	36813	黒曜石	1.80	1.90	0.20	0.86		
S40	タ	2 0 F R 1	12	40830	タ	( 2.00 )	2.10	0.40	( 1.05 )		
S41	タ	1 5 G	V	20815	めのう	( 1.90 )	2.20	0.20	( 1.33 )		
S42	タ	2 1 F R 1			黒曜石	( 2.40 )	( 1.10 )	0.40	( 0.98 )		
S43	タ	1 9 E	VI	41362	タ	( 2.00 )	( 1.50 )	0.40	( 0.90 )		
S44	タ	1 8 D	VI	30982	タ	( 1.70 )	1.40	0.50	( 0.71 )		
S45	タ	1 9 C	VI		タ	( 2.00 )	( 1.00 )	0.30	( 0.46 )		
S46	タ	1 4 G R 1			タ	2.20	( 1.70 )	0.40	( 0.92 )		
S47	タ	1 8 M	III N		タ	( 1.80 )	( 1.20 )	0.40	( 0.67 )		
S48	タ	1 4 J	III		タ	( 2.10 )	( 1.20 )	0.30	( 0.88 )		
S49	タ	2 1 F R 1			黒曜石	( 2.30 )	( 1.60 )	0.40	( 1.20 )		
S50	タ	2 0 F R 1	66	39173	流紋岩	2.10	1.60	0.20	( 0.56 )		
S51	タ	1 8 L	III		タ	( 2.00 )	1.60	0.30	( 0.71 )		
S52	タ					( 1.60 )	( 0.80 )	0.40			
S53	タ	2 2 K R 2			チャート	2.10	1.70	0.30	0.93		
S54	タ	1 8 D	VI	30900	流紋岩	2.30	1.50	0.20	0.61		
S55	タ	2 0 F R 1			黒曜石	( 2.00 )	( 1.20 )	0.30	( 0.58 ) 溝		
S56	タ	6 T	II		チャート	( 2.30 )	( 1.50 )	0.40	( 1.08 )		
S57	タ	1 5 G R 1			タ	( 1.80 )	1.50	0.30	( 0.68 )		
S58	タ					( 2.10 )	1.80	0.40	( 1.19 )		
S59	タ	1 7 D		35136	タ	( 1.80 )	1.70	0.30	( 0.96 )		
S60	タ	1 3 G				( 2.00 )	( 1.80 )	0.50	( 0.92 )		

第9表 石器観察表1

番号	器種	出土区	層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	BNB.
		区	R + #								
S61	石 鋸	2 1 O	R 2	9	38752	黒曜石	1.80	1.80	0.40	0.86	15
S62	◆	2 0 F	R 1	43	38806	めのう	2.20	( 1.50 )	0.30	( 0.95 )	
S63	◆	2 1 F	R 1	77	37396	黒曜石	( 1.80 )	2.00	0.40	( 1.07 )	
S64	◆	1 5 G	R 1	69	27472	タ	( 2.20 )	1.80	0.40	( 1.09 )	
S65	◆	2 0 L		V		安山岩	2.20	( 1.50 )	0.30	( 0.90 )	
S66	◆	1 4 G		V			( 2.10 )	( 1.40 )	0.30	( 0.64 )	
S67	◆	1 6 G	R 1	65	28437	めのう	2.20	1.60	0.60	1.48	
S68	◆	1 9 J		V			( 1.70 )	1.70	0.30	( 0.70 )	
S69	◆	2 1 F	R 1	38	35814	めのう	( 1.80 )	1.80	0.30	( 0.85 )	
S70	◆	2 1 F	R 1	34	35808	タ	( 1.70 )	1.80	0.30	( 0.87 )	
S71	◆	1 8 M		V	34115	タ	1.80	1.40	0.30	0.68	
S72	◆	1 2 E		V		タ	( 2.00 )	( 1.80 )	0.30	( 0.95 )	
S73	◆	1 5 H	R 1	4	28378		2.20	1.50	0.50	1.07	
S74	◆	1 3 H	R 1			めのう	1.70	1.70	0.40	0.64	
S75	◆	2 2 N	R 2			黒曜石	( 2.20 )	( 1.70 )	0.40	( 1.16 )	
S76	◆	1 5 G	R 1	70	28197	タ	( 2.00 )	1.40	0.50	( 0.97 )	
S77	◆	1 4 D			31986	めのう	2.60	( 1.20 )	0.30	( 0.72 )	16
S78	◆	2 3 K		H			2.30	1.70	0.40	( 1.53 )	
S79	◆	1 2 D		VI	29891	めのう	2.40	1.40	0.30	0.68	
S80	◆	1 4 G		V		フリント	3.30	( 1.60 )	0.30	( 0.99 )	
S81	◆	1 6 G		I			2.80	( 1.00 )	0.30	( 1.06 )	
S82	◆	1 5 G	R 1	12	26913	黒曜石	2.60	1.40	0.40	0.89	
S83	◆	1 5 I		V		タ	( 3.10 )	( 1.10 )	0.30	( 1.00 )	
S84	◆			表探		めのう	2.80	2.00	0.40	1.46	
S85	◆	2 1 I		III		黒曜石	1.80	2.00	0.30	0.60	
S86	◆	1 4 G		V	9192	めのう	2.00	2.00	0.30	0.93	
S87	◆	1 9 M		V		黒曜石	( 1.50 )	1.60	0.30	( 0.58 )	
S88	◆	2 0 F	R 1			チャート	1.70	( 1.10 )	0.20	( 0.23 )	
S89	◆	1 7 J		IV c		めのう	1.90	1.60	0.30	0.79	
S90	◆	1 8 F	R 1			タ	( 1.50 )	1.90	0.30	( 0.60 )	
S91	◆	1 6 G			24130	タ	( 1.50 )	( 1.50 )	0.30	( 0.69 ) 清	
S92	◆	2 0 E		VI	43033	チャート	( 1.90 )	( 1.40 )	0.30	( 0.80 )	
S93	◆	1 8 E		V	30470	めのう	2.00	( 1.10 )	0.20	( 0.43 )	
S94	◆	2 0 F	R 1			フリント	( 1.90 )	( 1.40 )	0.40	( 0.51 )	
S95	◆	1 6 F		V		黒曜石	1.90	1.40	0.30	0.56	
S96	◆	2 0 L		V		タ	2.00	( 1.80 )	0.50	( 0.97 )	
S97	◆	1 2 E		V	19666		1.80	1.50	0.20	0.39	
S98	◆	2 0 D		I		めのう	2.60	1.90	0.40	1.39	
S99	◆	2 1 E		V		流紋岩	2.20	( 1.90 )	0.30	( 1.00 )	
S100	◆	1 5 G	R 1		26041	チャート	( 2.00 )	1.70	0.30	( 0.83 )	
S101	◆			表探		黒曜石	( 1.70 )	2.00	0.40	( 0.91 )	
S102	◆	1 8 E		V	30305	めのう	( 1.70 )	1.80	0.40	( 0.84 )	
S103	◆						2.40	1.60	0.40		
S104	◆						2.20	1.40	0.50		
S105	◆			V		めのう	( 2.40 )	( 1.60 )	0.30	( 0.96 )	
S106	◆			表探		タ	( 1.80 )	2.10	0.20	( 0.92 )	
S107	◆			V	37778	タ	( 2.00 )	2.00	0.20	( 0.98 )	
S108	◆			V	30384	タ	2.10	1.70	0.30	0.68	
S109	◆			VI	29579	タ	2.50	2.00	0.40	1.62	
S110	◆			IV	670	タ	( 2.30 )	( 2.40 )	0.40	( 2.11 )	
S111	◆			III		タ	2.30	( 1.50 )	0.30	( 0.84 )	
S112	◆			V	22428	チャート	( 2.70 )	( 1.50 )	0.30	( 0.94 )	
S113	◆		R 1			フリント	2.70	( 1.50 )	0.30	( 0.92 )	
S114	◆			IV	34148	タ	( 2.20 )	1.90	0.60	( 1.06 )	
S115	◆		R 2			めのう	2.30	( 1.50 )	0.30	( 0.92 )	
S116	◆			V	5586	タ	2.10	1.60	0.40	0.85	
S117	◆					タ	2.40	( 1.30 )	0.30	( 0.64 ) 清	
S118	◆			V	22753	タ	( 2.20 )	( 1.70 )	0.50	( 1.17 )	
S119	◆					流紋岩	2.40	1.80	0.40	0.86	
S120	◆				35327	めのう	( 2.40 )	( 1.70 )	0.30	( 1.06 )	

第10表 石器観察表2

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	図
		区	R 小字									
S121	石盤			V	17918	めのう	( 2.10 )	( 1.30 )	0.40	( 0.65 )		16
S122	タ		R 1			タ	( 1.70 )	1.70	0.30	( 1.02 )		
S123	タ		R 1 14	24876	黒曜石	( 2.20 )	1.80	0.40	( 1.29 )			17
S124	タ			V	42672	流紋岩	( 2.40 )	( 1.40 )	0.30	( 0.87 )		
S125	タ			V	34974	黒曜石	2.50	( 1.60 )	0.40	( 1.39 )		
S126	タ		R 1 47	35841	めのう	2.30	( 1.70 )	0.60	( 1.35 )			
S127	タ			IV		フリント	2.10	1.90	0.60	1.80		
S128	タ			表様		黒曜石	2.10	1.80	0.40	1.13		
S129	タ		R 1			めのう	( 2.00 )	1.70	0.30	( 1.07 )		
S130	タ			V		黒曜石	( 2.50 )	( 1.70 )	0.40	( 1.18 )		
S131	タ			V	25430	タ	2.20	( 1.40 )	0.40	( 1.11 )		
S132	タ			V	9103	タ	2.40	1.70	0.40	1.06		
S133	タ			VI	35392	めのう	2.10	1.80	0.30	0.62		
S134	タ		R 1			タ	2.50	( 1.10 )	0.30	( 0.83 )		
S135	タ					タ	2.70	( 1.50 )	0.30	( 1.11 )		
S136	タ			III		タ	2.10	1.50	0.30	1.05		
S137	タ			III		タ	2.50	1.70	0.40	1.30		
S138	タ		R 1 56	36039	タ	2.10	1.90	0.30	1.02			
S139	タ			III b	16	タ	2.70	( 1.70 )	0.30	( 1.57 )		
S140	タ						3.90	1.60	0.40			
S141	タ			V	15912	黒曜石	2.20	1.70	0.30	0.85		
S142	タ					タ	2.20	1.60	0.50	1.04	暗茶褐色土	
S143	タ			V		フリント	2.60	1.60	0.40	1.13		
S144	タ			VI	34515	めのう	2.70	1.80	0.40	1.72		
S145	タ					流紋岩	2.50	( 1.30 )	0.40	( 0.70 )	黒褐色土	
S146	タ		R 1			めのう	2.70	( 1.30 )	0.40	( 1.41 )		
S147	タ					タ	( 2.10 )	1.80	0.40	( 1.37 )	落込黒褐色土	
S148	タ			IV		タ	1.90	2.10	0.40	( 1.16 )		
S149	タ				35337	タ	2.50	1.70	0.40	1.11		
S150	タ			IV	34114	タ	2.80	2.00	0.50	2.02		
S151	タ		R 2 68	38379	タ	3.20	( 1.60 )	0.40	( 1.50 )			
S152	タ		R 1 62	26356	粘板岩	2.40	( 1.60 )	0.50	( 1.31 )			
S153	タ			V		めのう	2.20	( 1.00 )	0.30	( 0.58 )		
S154	タ			V	11453		1.90	1.20	0.20	0.39		
S155	タ			V	29804	めのう	1.90	( 1.60 )	0.40	( 1.19 )		
S156	タ			V	42604	黒曜石	2.20	( 1.30 )	0.30	( 0.90 )		
S157	タ			V		流紋岩	3.60	1.90	0.40	1.85		
S158	タ		R 1	39195			3.70	2.40	0.50	4.59		
S159	タ			VI		流紋岩	3.80	2.20	0.60	0.95	溝状落込付近	
S160	タ			R 1		黒曜石	( 1.50 )	1.40	0.20	( 0.35 )		18
S161	タ		R 2 54	38569	めのう	2.00	1.50	0.30	0.92			
S162	タ					黒曜石	1.90	1.50	0.30	0.60		
S163	タ					タ	1.40	1.20	0.30	0.53	溝	
S164	タ					めのう	1.60	1.30	0.30	0.65		
S165	タ				41187	流紋岩	2.10	1.80	0.30	0.73		
S166	タ		R 1 26	35801	めのう	1.60	1.50	0.40	0.75			
S167	タ			V	24087	黒曜石	1.60	1.60	0.30	0.86		
S168	タ			IV		タ	1.30	1.80	0.30	0.90		
S169	タ		R 1 58			流紋岩	1.50	1.50	2.00	0.52		
S170	タ			V	17629	黒曜石	1.70	1.80	0.30	0.81		
S171	タ			V		タ	1.90	( 1.30 )	0.60	( 0.86 )		
S172	タ			V		めのう	1.80	1.30	0.20	0.74		
S173	タ					流紋岩	2.10	1.80	0.40	0.78		
S174	タ			V	7573	めのう	( 1.20 )	1.70	0.40	( 0.79 )		
S175	タ			V		タ	( 1.50 )	1.40	0.30	( 0.75 )		
S176	タ			V	34291	黒曜石	1.50	2.00	0.50	( 0.95 )		
S177	タ			V	20496	めのう	2.10	1.60	0.40	1.12		
S178	タ			V	29180	黒曜石	1.90	1.60	0.20	0.83		
S179	タ		R 1 23	40834	めのう	1.90	1.80	0.40	1.21			
S180	タ			V		黒曜石	2.20	( 1.80 )	0.40	( 0.91 )		

第11表 石器観察表3

番号	器種	出土区	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	回数	
S181	石鏃			表採	めのう	2.00	( 1.90 )	0.30	( 1.58 )		18	
S182	タ		V	13451	タ	( 1.50 )	1.80	0.30	( 1.04 )			
S183	タ		V		タ	( 1.20 )	1.70	0.30	( 0.81 )			
S184	タ	R 1	78	39088	タ	( 1.60 )	1.90	0.20	( 0.96 )			
S185	タ		II		粘板岩	2.20	2.00	0.50	1.94			
S186	タ				黒曜石	2.20	( 1.70 )	0.40	( 1.00 )			
S187	タ				タ	2.40	( 1.50 )	0.40	( 0.72 )			
S188	タ		IV		硬質安山岩	1.90	( 1.60 )	0.40	1.09			
S189	タ		V	11652	黒曜石	2.30	( 1.00 )	0.30	( 1.12 )			
S190	タ		VI	36481	タ	( 1.90 )	1.80	0.70	( 2.83 )			
S191	タ		VII	41354	めのう	1.80	( 1.60 )	0.60	( 1.79 )			
S192	タ		III c		タ	( 1.80 )	1.90	0.50	( 1.73 )			
S193	タ	R 1			硬質安山岩	2.20	( 1.20 )	0.40	( 1.06 )			
S194	タ		V		黒曜石	1.70	( 1.60 )	0.30	( 0.88 )			
S195	タ					2.10	1.30	0.60				
S196	タ			表採	めのう	( 2.00 )	1.70	0.40	( 1.33 )			
S197	タ	R 1			タ	2.10	( 1.10 )	0.40	( 0.98 )			
S198	タ		VI	34957	黒曜石	1.80	1.20	0.30	0.66			
S199	タ		IV		タ	( 1.20 )	1.60	0.40	( 0.94 )			
S200	タ	R 1			タ	1.50	1.50	0.30	0.70			
S201	タ				タ	( 1.70 )	1.70	0.40	( 1.13 )			
S202	タ		VII		タ	2.00	2.00	0.50	1.68			
S203	タ	R 1	38	35816	めのう	1.60	1.80	0.30	0.61		19	
S204	タ	R 1	73	28427	タ	( 1.20 )	1.90	0.50	( 0.79 )			
S205	タ	2 0 F	R 1		タ	1.60	1.70	0.40	0.86			
S206	タ	1 9 D		VI	40734	タ	1.80	1.70	0.30	0.87		
S207	タ	1 4 D		V	29563	タ	( 1.90 )	( 1.50 )	0.30	( 0.92 )		
S208	タ	1 8 D			35311	タ	( 1.40 )	1.60	0.40	( 0.95 )		
S209	タ	2 0 F	R 1	41	39128	タ	1.80	1.30	0.40	0.66		
S210	タ	1 8 D		V	31081	タ	( 1.50 )	( 1.50 )	0.30	( 0.77 )		
S211	タ	1 8 E		VII	32264	黒曜石	( 2.00 )	1.80	0.40	( 1.29 )		
S212	タ	1 5 G	R 1	36	27509	チャート	1.60	1.50	0.20	0.73		
S213	タ	1 4 E		V	10961	タ	( 1.70 )	19.00	0.40	( 1.16 )		
S214	タ	1 1 H	R 1	17	28772	めのう	1.90	1.80	0.40	1.22		
S215	タ	1 2 F		V	15726	タ	1.80	1.80	0.50	1.22		
S216	タ	1 8 D		VII	33601	タ	( 1.50 )	1.80	0.50	1.11		
S217	タ	2 0 F	R 1	32	39126	タ	2.10	( 1.70 )	0.50	( 2.11 )		
S218	タ	1 8 F	R 1	84	33417	黒曜石	( 1.70 )	1.90	0.30	( 1.22 )		
S219	タ	1 6 F		V	2897	タ	2.30	( 1.70 )	0.30	( 1.03 )		
S220	タ	1 3 H	R 1		タ	( 1.90 )	( 1.40 )	0.30	( 0.94 )			
S221	タ	1 3 D		V	29172	タ	1.80	1.80	0.40	1.08		
S222	タ	1 3 E			タ	2.10	1.60	0.40	1.05	東側壁		
S223	タ	1 6 I		IV a	タ	( 1.70 )	1.70	0.60	( 1.51 )			
S224	タ	2 0 F			31373	タ	1.80	1.50	0.40	1.03		
S225	タ	1 5 G			タ	( 2.00 )	1.70	0.60	( 1.76 )			
S226	タ	2 0 M		V	めのう	1.80	1.70	0.30	1.12			
S227	タ	1 5 D		V	29612	タ	( 1.90 )	1.80	0.30	( 1.19 )		
S228	タ	2 1 E		VII	36334	タ	( 1.90 )	1.80	0.60	( 1.84 )		
S229	タ	1 4 H		V	22672	タ	2.20	2.10	0.60	2.13		
S230	タ	1 6 E		V	26149	タ	1.90	1.60	0.60	1.22		
S231	タ	1 5 F	R 1	100	28265	黒曜石	1.90	1.30	0.40	0.76		
S232	タ	1 9 E		VII	41056	タ	( 1.70 )	1.70	0.40	( 0.97 )		
S233	タ	1 5 E		V	24179	タ	1.70	1.60	0.30	0.92		
S234	タ	1 2 F		V	19665	粘板岩	2.00	1.80	0.20	1.19		
S235	タ	1 3 D		V	19142	めのう	( 1.40 )	( 1.30 )	0.30	( 0.79 )		
S236	タ	1 5 E		V	4417	黒曜石	1.30	1.60	0.30	0.53		
S237	タ	1 5 D		VII	29774	めのう	1.50	1.60	0.40	0.66		
S238	タ	1 4 G		V	22590	チャート	1.90	1.60	0.30	1.19		
S239	タ	1 3 H		V	22788	黒曜石	1.40	1.50	0.40	0.92		
S240	タ	1 8 D		V	31646	めのう	( 1.60 )	( 1.50 )	0.40	( 0.85 )		

第12表 石器観察表 4

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	No.
		区	R									
S241	石 銚	1 2 F		III		めのう	2.60	2.80	0.90	4.19		19
S242	〃	1 4 E		V	5054	タ	1.70	1.50	0.20	0.53		
S243	〃	1 9 L		V		タ	1.80	1.60	0.60	0.73		
S244	〃	1 5 F		V	4590	黒曜石	( 1.40 )	1.50	0.40	( 0.82 )		
S245	〃	1 9 D		表探		めのう	( 1.10 )	1.60	0.40	( 0.76 )		
S246	〃	1 2 H		V		黒曜石	1.40	1.60	0.40	0.88		
S247	〃	1 6 F		V	20611	めのう	2.00	1.50	0.50	1.56		
S248	〃	2 0 L		V		タ	2.00	( 1.00 )	0.30	( 0.79 )		
S249	〃			表探		安山岩	1.50	1.40	0.30	0.66		
S250	〃	1 6 F		V	11642	流紋岩	1.70	1.50	0.40	0.98		
S251	〃	1 8 D	土2			黒曜石	1.70	1.80	0.80	0.92		20
S252	〃	4 T				タ	1.90	1.60	0.30	0.84	茶色がかった灰褐色土	
S253	〃	2 3 K		IV		タ	( 1.50 )	1.60	0.40	( 0.69 )		
S254	〃	1 6 F		V	17567		2.50	2.00	0.70	1.97		
S255	〃	1 5 F		V		プリント	( 2.00 )	1.50	0.40	( 0.66 )		
S256	〃					黒曜石	2.00	( 1.10 )	0.40	( 0.64 )		
S257	〃			表探		めのう	1.80	1.50	0.30	1.13		
S258	〃	2 0 F R1				流紋岩	1.60	1.40	0.30	0.59		
S259	〃	2 1 F R1	37		36785	黒曜石	1.70	1.50	0.30	0.48		
S260	〃	2 3 K		IV		めのう	2.20	( 1.10 )	0.30	( 1.04 )		
S261	〃	2 3 M				タ	( 1.60 )	1.60	0.50	( 1.21 )	暗茶褐色土	
S262	〃	1 1 D	I			黒曜石	( 2.00 )	( 1.50 )	0.30	( 1.03 )		
S263	〃	1 2 H				めのう	( 1.70 )	1.50	0.40	( 0.87 )	清	
S264	〃	1 8 D			37136	流紋岩	2.30	1.40	0.30	0.95	P 3 9	
S265	〃	1 2 H R1				黒曜石	2.50	( 1.40 )	0.40	( 1.24 )		
S266	〃	8 A	II			流紋岩	2.00	1.40	0.30	0.94		
S267	〃					黒曜石	2.00	1.40	0.40	0.99	7-10, A-DミゾV	
S268	〃	2 2 N R2				チャート	2.10	1.70	0.30	1.10		
S269	〃			表探		めのう	( 1.80 )	2.00	0.30	( 1.41 )		
S270	〃	9 E	VI			黒曜石	( 2.30 )	1.50	0.40	( 2.05 )		
S271	〃	1 8 K		IV	34100	練成安山岩	2.60	1.70	0.50	1.78		
S272	〃	1 8 E	V		30320	めのう	2.40	1.50	0.40	1.70		
S273	〃	2 1 F		VI	35485	黒曜石	2.60	1.80	0.50	2.34		
S274	〃	2 2 K R2	37		38143	タ	2.00	1.50	0.40	0.79		
S275	〃	1 4 D				めのう	2.30	1.70	0.30	1.38		
S276	〃	1 6 F R1	98		26405	黒曜石	2.10	1.30	0.30	0.97		
S277	〃	2 1 F R1				流紋岩	( 2.00 )	2.40	0.50	( 2.53 )		
S278	〃	1 1 H R1			28768	めのう	2.50	1.90	0.30	1.53		
S279	〃	2 0 E		VII	41764	チャート	4.00	1.90	0.40	2.97		
S280	〃	1 4 G R1	12		26343	黒曜石	1.30	1.30	0.30	0.54		
S281	〃	1 6 I				流紋岩	1.50	1.40	0.30	0.52		
S282	〃	2 0 F R1				黒曜石	1.20	1.50	0.20	0.65	北側壁	
S283	〃	1 3 F	V			タ	1.50	1.50	0.30	0.62		
S284	〃	1 2 H	V		18287	めのう	1.70	1.30	0.40	1.01		
S285	〃	2 1 F R1				黒曜石	1.70	( 1.20 )	0.30	( 0.46 )		
S286	〃	1 5 D			31938	タ	( 1.30 )	1.60	0.20	( 0.75 )		
S287	〃	1 8 E	VII		32162	タ	( 2.20 )	( 1.60 )	0.40	( 1.26 )		
S288	〃	2 0 E	V			めのう	( 1.60 )	1.30	0.30	0.89		
S289	〃	1 0 E	V			黒曜石	1.40	( 1.20 )	0.30	( 0.57 )		
S290	〃	1 5 D	V			めのう	1.70	1.60	0.50	1.31		
S291	〃	1 5 G R1	70		28197	粘板岩	( 1.40 )	( 1.50 )	0.30	( 0.46 )		
S292	〃	2 3 M				黒曜石	( 1.20 )	1.20	0.30	( 0.45 )	暗茶褐色土	
S293	〃	1 9 E	VII		41328	タ	1.60	1.40	0.20			
S294	〃	2 1 F R1				タ	1.30	1.30	0.20	0.38		
S295	〃	1 5 F	V			タ	1.10	1.20	0.30	0.31		
S296	〃	2 1 E	VI		36402	チャート	( 1.10 )	1.30	0.20	( 0.35 )		
S297	〃	1 2 D	VI		29834	めのう	1.00	1.20	0.30	0.32		
S298	〃	1 7 D				タ	1.70	1.50	0.40	0.78	新構	
S299	〃	1 6 G R1	32		24002	流紋岩	1.50	1.30	0.40	0.56		
S300	〃			表探		プリント	( 2.00 )	( 1.70 )	0.30	( 0.94 )		

第13表 石器観察表5

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	図No.
		区	R 小. m									
S301	石 繖	2 1 F R 1	16		36668	めのう	( 2.40 )	( 1.60 )	0.60	( 2.00 )		20
S302	タ 1 5 H			IV		タ	( 1.90 )	( 1.50 )	0.20	( 1.30 )		21
S303	タ 1 3 H			V		チャート	1.80	1.80	0.60	1.89		
S304	タ 1 4 G			V			2.40	1.60	0.50	1.41		
S305	タ 1 3 F			IV	35	めのう	( 2.30 )	2.10	0.50	( 1.46 )		
S306	タ 1 7 C			III		黒曜石	( 1.70 )	( 1.40 )	0.40	( 1.36 )	遺物集中区	
S307	タ 2 2 D				37993	めのう	2.00	1.80	0.30	1.90	土器集中区	
S308	タ 1 4 D			V		タ	( 2.10 )	( 2.10 )	0.30	( 1.53 )		
S309	タ 1 5 G			IV		タ	( 3.10 )	2.20	0.90	3.98		
S310	タ 1 4 G			V	16596	タ	1.80	( 1.30 )	0.40	( 0.62 )		
S311	タ 2 0 F R 1	5			40789		2.90	( 1.50 )	0.40	( 0.70 )		
S312	タ 1 3 D			V	29164		( 2.40 )	( 2.00 )	0.90	( 2.03 )		
S313	タ 1 9 D				35024	めのう	2.20	1.90	0.80	2.70	溝1	
S314	タ 1 3 E			V	8575	タ	2.50	( 1.80 )	0.40	( 1.82 )		
S315	タ 1 4 H					フリント	2.70	( 2.10 )	0.60	( 3.63 )	北壁	
S316	タ 2 3 K			IV		めのう	( 2.20 )	2.10	0.40	( 1.59 )		
S317	タ 2 1 F R 1	78			36875	タ	2.20	( 1.90 )	0.50	( 2.63 )		
S318	タ 1 4 E					タ	2.50	1.70	0.40	1.28		
S319	タ 1 5 G R 1	36			26940	黒曜石	2.30	1.50	0.40	1.25		
S320	タ 2 0 K			V	42058	タ	( 2.00 )	( 1.80 )	0.40	( 1.57 )		
S321	タ 1 8 D			VI	30856	めのう	( 2.10 )	( 1.90 )	0.60	( 1.80 )		
S322	タ 1 4 H			V	22688		1.60	( 1.70 )	0.50	( 2.65 )		
S323	タ 1 4 F			V		フリント	2.60	1.90	0.50	3.58		
S324	タ 2 0 F R 1	25			40839	タ	2.20	2.00	0.70	2.38		
S325	タ 2 1 F R 1	22			37277	タ	2.70	2.10	0.30	2.73		
S326	タ 1 9 L			V		めのう	2.60	1.90	0.50	2.81		
S327	タ 1 7 M			VI		黒曜石	( 2.80 )	( 1.80 )	0.70	( 3.07 )		
S328	タ 2 1 E			III		安山岩	3.10	2.00	0.40	3.04		
S329	タ 1 1 G R 1					めのう	2.60	( 1.60 )	0.40	( 1.90 )		
S330	タ 1 1 H R 1	8			28758	タ	3.00	2.80	0.80	4.47		
S331	タ 2 0 M			V		タ	2.80	2.30	1.90	4.77		
S332	タ 2 1 K		D 2			黒曜石	2.60	2.70	0.80	7.00		
S333	タ 1 7 M			IV	34112	タ	2.00	1.70	0.80	2.52		22
S334	タ 1 5 G R 1					めのう	( 1.80 )	1.40	0.40	( 1.17 )		
S335	タ 1 3 D			V		黒曜石	1.90	1.80	0.80	2.43		
S336	タ 1 4 G			IV		タ	2.30	( 1.80 )	0.50	( 2.05 )		
S337	タ 1 4 F			V		タ	2.60	( 1.90 )	0.70	( 2.16 )		
S338	タ 2 0 F R 1	50			43229	めのう	2.30	1.90	0.70	2.16		
S339	タ 1 3 C					タ	2.60	2.20	0.70	4.91	溝	
S340	タ		表採			タ	2.90	2.30	0.80	4.80		
S341	タ 2 0 F R 1					フリント	2.70	2.70	0.60	2.46		
S342	タ 1 9 F R 1				41035	めのう	2.20	( 1.80 )	0.40	( 1.80 )		
S343	タ 1 9 L		V			水晶	2.90	2.50	1.10	7.77		
S344	タ 1 6 H		III			めのう	3.10	2.80	0.70	8.97		
S345	タ 2 1 D		VI	39431		タ	3.10	2.30	0.80	5.04		
S346	タ 1 4 D					黒曜石	( 2.00 )	1.80	0.70	( 2.17 )		
S347	タ 1 5 G R 1					タ	2.30	( 1.70 )	0.30	( 2.25 )		
S348	タ 1 9 D		VII			タ	2.30	1.90	0.80	3.49		
S349	タ 1 3 H					めのう	2.20	( 2.00 )	0.70	( 2.69 )	溝	
S350	タ 1 7 D	擾乱				安山岩	2.50	2.00	0.60	2.68		
S351	タ 1 8 E		VI			めのう	2.40	2.00	0.40	2.77		
S352	タ 1 5 C R 2	III				黒曜石	2.30	( 2.10 )	0.90	( 3.48 )		
S353	タ 2 2 K					めのう	2.40	2.10	1.10	4.48		
S354	タ 1 8 F R 1					黒曜石	2.10	1.90	0.50	2.38		
S355	タ 1 5 H					フリント	2.40	1.90	0.50	2.95	北壁	
S356	タ 2 3 K					めのう	2.10	2.20	0.50	2.26	淡褐色粘質土	
S357	タ 1 4 H		V			タ	( 2.50 )	2.50	0.90	( 5.59 )		
S358	タ 2 1 F R 1					黒曜石	0.90	0.60	0.30	0.14		
S359	タ 1 5 E		V	13246		タ	1.40	1.20	0.40	0.50		
S360	タ 2 1 E R 1			40018		タ	1.50	1.20	0.20	0.52		

第14表 石器観察表 6

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	No.
		区	R 小字									
S361	石 繖	2 1 E		VI	36336	黒曜石	1.50	1.40	0.30	0.46		22
S362	タ	2 3 K		III		めのう	( 2.10 )	( 1.90 )	0.80	( 3.11 )		
S363	タ	1 4 D		V	29534	タ	1.60	( 1.30 )	0.40	( 0.98 )		
S364	タ	2 0 L		V		黒曜石	2.30	2.20	0.70	3.29		
S365	タ	1 6 L		V		タ	1.40	( 1.50 )	0.30	( 0.62 )		
S366	タ	1 2 E		V		タ	1.50	( 1.40 )	0.30	( 0.67 )		
S367	タ	1 3 F		V	10202	タ	1.50	1.10	0.20	0.43		
S368	タ	2 3 M				タ	1.60	1.40	0.40	0.81	暗茶褐色土	
S369	タ	1 3 D		V		めのう	2.20	( 1.60 )	0.30	( 1.21 )		
S370	タ	1 4 I		V		黒曜石	( 2.30 )	( 1.40 )	0.50	( 1.36 )		
S371	タ	1 7 M		III~N		タ	2.10	( 1.60 )	0.50	( 1.45 )		
S372	タ	2 1 L	?	D 2		めのう	( 1.60 )	1.80	0.50	( 1.53 )		
S373	タ	2 0 L		III		黒曜石	( 1.80 )	( 1.40 )	0.40	( 1.05 )		
S374	タ	1 9 D		V		めのう	1.60	1.30	0.10	0.43		
S375	タ	1 7 F		V		黒曜石	1.50	( 1.20 )	0.20	( 0.33 )		
S376	タ	1 2 E			15073	めのう	3.00	2.40	0.60	5.51		23
S377	タ	2 1 E			36922	プリント	3.00	2.40	1.10	6.29	溝 1	
S378	タ	1 8 C				めのう	2.60	2.20	0.80	4.71	北壁	
S379	タ	2 1 F	R 1			タ	2.90	2.50	0.80	4.82		
S380	タ	1 7 C		III		タ	3.10	2.40	0.80	6.23	遺物集中区	
S381	タ	1 3 F		V		タ	2.80	2.70	1.00	6.32		
S382	タ	1 8 D				タ	3.10	2.40	1.30	6.83		
S383	タ	2 1 D		V		タ	2.80	2.70	1.00	6.12		
S384	タ	1 8 D		VI	33075	タ	2.90	1.70	0.90	1.49		
S385	タ	1 3 I	R 1			プリント	4.00	3.60	0.90	8.97		
S386	タ	2 1 E		VI	39212	めのう	2.00	1.50	0.40	1.52		
S387	タ	2 0 F	R 1			プリント	2.20	1.30	0.30	0.56		
S388	タ	1 4 H		N		めのう	( 2.20 )	1.50	0.30	( 1.64 )		
S389	タ	1 5 H		V		黒曜石	( 1.90 )	1.30	0.30	( 0.80 )		
S390	タ	2 1 F	R 1	49	35848	タ	2.20	1.40	0.50	1.25		
S391	タ					めのう	2.60	1.30	0.50	2.07		
S392	タ	1 5 G	R 1	10	28497	タ	2.30	1.60	0.40	1.85		
S393	タ	1 1 E			15913	タ	2.50	1.20	0.40	1.44		
S394	タ	2 1 F	R 1			黒曜石	2.20	1.50	0.30	1.33		
S395	タ	2 1 F	R 1	38	35815	めのう	2.70	2.10	0.80	3.44		
S396	タ	1 9 M		V		タ	2.70	1.50	0.50	2.28		
S397	タ	1 9 E		V		黒曜石	2.20	( 1.20 )	0.50	( 1.33 )		
S398	タ	2 0 E		V		めのう	2.80	( 1.50 )	0.30	( 1.55 )		
S399	タ	2 2 N		V		タ	2.90	1.90	0.70	3.08		
S400	タ	1 4 F				タ	2.60	2.00	0.50	2.24		
S401	タ	1 2 H	R 1	37	26511	タ	2.70	1.80	0.50	2.56		
S402	タ	2 1 D		V		タ	2.60	2.00	0.50	2.28		
S403	タ	1 3 E	R 2	V	18662	タ	3.30	2.30	0.40	4.33		
S404	タ	2 2 N				黒曜石	3.30	2.00	1.00	5.03		
S405	タ	2 0 F	R 1			流紋岩	3.40	2.40	0.90	7.04		
S406	タ	1 1 G		V	15846	めのう	2.40	1.80	0.50	1.77		
S407	タ	1 4 G	?	V		流紋岩	2.90	1.60	0.70	3.24		
S408	タ	1 3 F		N		黒曜石	2.40	1.60	0.50	1.56		
S409	タ	4 T		III b		めのう	1.70	1.10	0.40	0.86		
S410	タ	2 0 M		V		プリント	2.00	1.30	0.50	1.21		
S411	タ	1 2 I		III		タ	2.60	1.70	0.30	2.04		
S412	タ	1 8 K		III		めのう	( 2.30 )	( 0.90 )	0.40	( 0.84 )		
S413	タ			表塗		黒曜石	2.40	1.50	0.50	2.15		
S414	タ	1 3 G		V		めのう	2.70	2.10	0.70	3.92		24
S415	タ	6 T		II		タ	2.00	1.80	0.60	2.33		
S416	タ	1 4 G		V		黒曜石	2.30	2.00	0.90	4.10		
S417	タ	1 4 G		V		めのう	2.50	1.90	0.60	2.14		
S418	タ	1 6 G	22		22945	プリント	2.70	2.10	0.50	2.44	溝	
S419	タ	1 9 E		V	41046	めのう	2.00	1.70	0.40	1.31		
S420	タ	1 6 G	R 1			チャート	2.70	2.00	0.60	3.36		

第15表 石器観察表7

番号	器種	出土区	層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	回数	
		区	R + a									
S421	石 猪	2 1 E	R 1	71	めのう	1.90	2.00	0.70	1.86		24	
S422	タ	2 0 E		VII	黒曜石	2.30	2.10	0.70	3.12			
S423	タ	1 8 D		VI	めのう	1.50	( 1.80 )	0.40	( 1.18 )			
S424	タ	2 2 E			タ	2.10	( 3.10 )	0.70	( 4.21 )	盛土		
S425	タ	2 0 F	R 1	45	めのう	( 2.40 )	2.20	0.60	( 3.53 )			
S426	タ	1 8 D		V	めのう	2.50	( 1.90 )	0.60	( 2.24 )			
S427	タ	1 3 I		V	タ	2.60	2.10	0.60	2.92			
S428	タ	1 8 F	R 1		タ	2.30	1.80	0.60	2.16			
S429	タ	1 9 D		V	黒曜石	2.60	( 1.70 )	0.50	( 1.48 )			
S430	タ	2 0 F	R 1		めのう	2.60	2.50	0.70	4.15			
S431	タ	1 3 D		V	タ	2.60	1.90	0.60	4.47			
S432	タ	2 0 E		III	タ	2.30	( 1.60 )	0.50	( 1.70 )			
S433	タ	1 7 D			タ	3.10	2.50	0.90	8.54	新津		
S434	タ	1 9 E		VII	タ	1.90	1.50	0.60	1.03			
S435	タ	1 8 D		V	タ	2.10	( 1.50 )	0.50	( 1.66 )			
S436	タ	1 7 F		IV	黒曜石	2.00	( 1.40 )	0.50	( 1.43 )			
S437	タ				タ	( 2.10 )	2.10	0.60	( 1.98 )			
S438	タ	2 1 D		VII	めのう	( 2.30 )	( 2.20 )	0.30	( 1.82 )			
S439	タ	1 3 E		V	黒曜石	2.00	1.90	0.60	1.91			
S440	タ	1 7 F		IV	フリント	2.50	2.30	0.60	3.78			
S441	タ	1 4 G		V	めのう	2.80	( 2.50 )	0.60	( 3.91 )			
S442	タ	1 9 M		III C	黒曜石	( 1.20 )	1.20	0.20	( 0.34 )			
S443	タ	2 1 L		VI	タ	1.60	1.60	0.60	1.13			
S444	タ				チャート	1.60	2.00	0.40	0.75			
S445	タ	2 1 F	R 1		めのう	1.40	1.20	0.30	0.67			
S446	タ	1 8 F	R 1		フリント	1.40	1.20	0.30	0.43			
S447	タ	1 4 G			めのう	( 1.40 )	1.50	0.20	( 0.62 )	東側壁		
S448	タ	2 1 J		VII	タ	( 2.10 )	1.80	0.50	( 2.05 )			
S449	タ	2 3 J			タ	1.90	2.00	0.50	1.84	攤乱		
S450	タ	1 1 G	R 1		黒曜石	2.40	1.60	0.60	2.33			
S451	タ	1 2 F		V	6521	フリント	2.50	1.90	0.60	2.57		
S452	タ	2 1 F	R 1	I	39014	タ	2.60	2.10	0.40	3.03		
S453	タ	1 8 F	R 1		めのう	( 2.60 )	( 1.80 )	0.60	( 3.51 )			
S454	タ	1 5 D		V	黒曜石	2.50	2.10	0.30	2.32			
S455	タ	1 4 G		IV	めのう	2.50	1.70	0.50	1.94		25	
S456	タ	1 6 G		V	3686	タ	3.40	1.40	0.50	2.00		
S457	タ	1 5 G	R 1		タ	4.10	2.00	0.70	4.39			
S458	タ	1 5 H	R 1	3	2772	フリント	4.10	2.20	1.00	6.45		
S459	タ	1 3 H	R 1		鉄石英	2.30	1.60	0.30	1.77			
S460	タ	1 7 D		II	フリント	3.30	2.40	0.40	5.11			
S461	タ	1 8 K		III	めのう	2.40	2.00	0.70	4.45			
S462	タ	1 4 G		IV	黒曜石	2.40	2.00	0.60	2.28			
S463	タ	1 9 D			めのう	2.40	1.70	0.50	2.51	横転		
S464	タ	2 0 L		V	タ	2.40	1.60	0.40	1.92			
S465	タ	2 1 F	R 1		フリント	2.60	2.00	0.50	1.65			
S466	タ	1 9 M		IV	黒曜石	2.70	1.70	0.60	2.83			
S467	タ	1 7 I		V	めのう	2.60	2.00	0.90	4.67			
S468	タ	2 0 F	R 1		黒曜石	2.70	2.00	0.60	4.37			
S469	タ	1 5 E		V	タ	( 3.40 )	2.70	0.70	( 4.95 )			
S470	タ	2 2 M			めのう	( 2.40 )	2.40	0.80	( 4.50 )	暗茶褐色土		
S471	タ	1 8 F	R 1		タ	2.50	2.60	1.10	5.55			
S472	タ	2 0 F	R 1	0	タ	3.10	2.60	0.90	5.74			
S473	タ	1 9 E		V	タ	2.60	2.30	1.00	5.03			
S474	タ	1 6 F		V	黒曜石	( 2.10 )	2.40	0.60	( 3.63 )			
S475	タ	2 0 E		V	タ	3.70	2.80	1.30	10.37			
S476	タ	1 3 H	R 1		タ	2.80	2.60	1.10	7.77			
S477	タ	1 2 F		IV	めのう	3.30	2.50	0.80	5.42			
S478	タ	1 3 C		I	タ	3.60	1.90	0.70	4.73	溝		
S479	タ	9 B			黒曜石	( 3.20 )	( 2.30 )	0.60	( 3.03 )			
S480	タ	2 2 E		VI	燧安山岩	4.10	2.90	1.10	9.66			

第16表 石器観察表8

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	回数
		区	R									
S481	石 磨	2 2 N		V		めのう	4.40	2.10	0.70	5.79		25
S482	タ	1 8 E		V		鉄石英	4.60	4.00	1.30	16.94		
S483	タ	1 5 G		V		フリント	( 3.40 )	( 3.00 )	0.60	( 4.87 )		
S484	タ	1 5 G		IV		流紋岩	2.30	2.00	1.00	5.90		
S485						黒曜石	2.30	2.10	0.40			
S486	石 比	1 9 E		VI	40328	タ	1.90	( 2.70 )	0.70	( 3.05 )		26
S487	タ	1 7 M				タ	1.80	3.00	0.80	3.16		
S488	タ	2 0 F	R 1	58	43236	タ	( 1.70 )	3.40	0.70	1.90		
S489	タ	2 2 N	R 2			タ	2.80	4.00	0.60	4.79		
S490	タ	1 8 L		V		めのう	1.60	2.70	0.60	1.44		
S491	タ	1 4 H		V		タ	( 2.60 )	( 2.30 )	0.40	( 3.49 )		
S492	タ	2 2 N	R 2	90	38325	チャート	3.20	5.30	0.90	9.10		27
S493	タ	1 4 H	R 1	14	27870		2.20	4.70	0.80	4.42		
S494	タ	2 2 K		VI		チャート	3.00	2.80	0.70	5.96		
S495	タ	1 5 G	R 1			めのう	3.30	( 3.20 )	0.90	( 8.41 )		
S496	タ	2 1 J		VI		鉄石英	2.50	3.20	0.50	3.57		
S497	タ						2.50	3.70	0.40	5.09		
S498	タ	2 2 J		VI b	38109	チャート	2.70	3.20	0.60	7.00		
S499	タ	1 0 C		II			3.20	3.50	0.40	5.17		
S500	タ	2 2 N	R 2			チャート	3.60	4.80	0.80	14.19		
S501	タ	全般区	R 1			めのう	2.90	4.80	1.10	11.80		
S502	タ	1 9 E		VII		タ	4.50	5.30	0.90	13.00		
S503	タ	2 3 J		VI		タ	3.60	( 5.40 )	1.20	( 22.50 )		
S504	タ	2 1 C		III		黒曜石	2.30	4.00	0.80	4.04	溝状落込み	
S505	タ	2 2 K	R 2			チャート	2.00	2.10	0.50	1.49		28
S506	タ	1 6 G	R 1	5	26419	めのう	2.20	3.50	0.70	3.95		
S507	タ	2 0 F	R 1			黒曜石	( 2.20 )	3.60	0.90	( 7.96 )		
S508	タ	1 4 H	R 1			タ	( 1.30 )	5.00	0.40	( 3.05 )		
S509	タ	2 2 K	R 2			硬質安山岩	2.60	( 3.80 )	0.60	( 4.52 )		
S510	タ	1 9 E		VI		めのう	( 2.40 )	5.60	0.90	( 11.03 )		
S511	タ	1 3 H	R 1			チャート	2.60	4.20	0.70	5.55		
S512	タ	1 6 G	R 1			めのう	4.00	5.20	0.90	16.15		
S513	タ	1 6 I		IV a		チャート	( 3.40 )	( 4.20 )	1.10	( 14.48 )		
S514	タ	2 2 J		VI c	38563	タ	( 3.80 )	( 3.60 )	1.40	( 14.35 )		
S515	タ	2 3 K		IV		黒曜石	2.20	3.30	0.80	4.34		
S516	タ					めのう	3.30	2.30	0.80	2.52		
S517	タ	2 2 K		VI		タ	( 3.10 )	( 2.10 )	0.60	( 3.28 )		
S518	タ	1 3 I				タ	( 4.90 )	( 3.00 )	0.90	( 11.93 )	溝	
S519	タ	1 4 G		V	12825	タ	2.60	( 3.70 )	0.60	( 6.56 )		
S520	タ					黒曜石	( 3.90 )	5.90	1.10	( 21.46 )	場所不明	
S521	タ	1 4 I		V		チャート	4.00	1.70	0.70	4.71		29
S522	タ	1 5 H		V		めのう	4.80	2.40	0.80	8.70		
S523	タ	1 2 H	R 1			タ	5.20	2.30	0.90	10.62		
S524	タ	9 C		III		タ	( 2.80 )	2.10	0.60	( 4.49 )		
S525	タ	1 3 H	R 1			黒曜石	3.00	1.70	0.40	5.55		
S526	タ	1 4 G		V			3.60	1.70	0.60	2.58		
S527	タ	1 6 M				めのう	3.70	3.10	0.80	7.42		
S528	タ	1 5 B		III		硬質安山岩	4.50	2.30	1.00	12.17		
S529	タ	1 6 F	R 1				6.00	2.00	0.90	9.57		
S530	タ	1 5 J		IV		めのう	4.00	1.80	0.50	5.25		
S531	タ	1 7 L		III		チャート	2.80	1.90	0.60	3.13		
S532	タ	2 2 N	R 2			めのう	4.40	2.90	0.70	9.96		
S533	タ	2 1 K		VI 上		タ	3.50	2.70	0.70	6.61		
S534	タ	2 1 K		VI b	38012	タ	2.40	2.10	0.40	1.90		
S535	タ	2 2 K				タ	4.70	3.40	0.80	17.42	植物茎区 墓葬褐色砂質土	30
S536	タ	1 9 D		V	25638	チャート	6.00	3.90	0.70	22.34		
S537	タ	1 4 H		V		めのう	( 2.90 )	1.90	0.60	( 5.88 )		
S538	タ	2 0 E		VI	41740		4.60	10.30	0.60	25.38		
S539	タ	2 1 D		V	37906	めのう	5.70	3.20	0.70	15.88		
S540	タ	1 9 D		V		タ	5.10	3.40	0.60	10.87		

第17表 石器観察表 9

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	図No.
		区	R 分									
S541	石 船	1 6 K		V		チャート	5.70	3.40	0.80	18.09		30
S542	ク				17925	めのう	7.00	4.60	1.00	22.94		
S543	ク	2 2 K		V		チャート	6.70	2.90	0.90	23.13		
S544	ク	1 4 H		V	22718	ク	6.00	3.10	0.60	15.35		
S545	スクレーパー	2 2 C		III下		黒曜石	2.40	1.90	0.60	2.51	サムエント・スクレーパー	31
S546	ク	1 3 C		ミゾ		ク	2.30	1.70	0.60	2.04	石鐵未製品?	
S547	ク	1 7 N		谷		ク	2.90	2.20	1.40	7.70	エンド・スクレーパー	
S548	ク	1 8 L		I~N		ク	2.20	1.70	0.90	4.26	エンド・スクレーパー	
S549	ク	1 3 H R1				ク	2.20	1.70	0.50	2.24		
S550	ク	2 1 E		II		ク	2.60	1.50	0.50	2.30	石鐵?	
S551	ク	1 8 M		II~IV		ク	2.70	2.30	1.20	7.26		
S552	ク	2 0 F		新ミゾ		ク	3.00	1.70	0.60	2.65		
S553	ク	1 6 J		III		ク	1.70	2.10	0.60	1.39		
S554	ク					ク	3.10	1.70	0.50	2.83	石鐵未製品?	
S555	ク	1 5 F		V	14377	ク	2.90	2.10	1.40	4.83		
S556	ク	1 1 H R1				ク	3.00	2.40	0.90	4.80		
S557	ク	1 8 D		V		ク	3.00	2.80	0.90	3.69	サイト・スクレーパー	
S558	ク	1 6 J		I		ク	2.70	2.10	1.00	4.89		
S559	ク	2 0 F R1				ク	2.30	1.30	0.80	1.47		
S560	ク	2 1 F R1				ク	2.20	2.00	0.50	1.51		
S561	ク	1 4 G		V		ク	3.30	2.90	1.10	10.48		
S562	ク	1 4 G		V		ク	( 2.00 )	1.80	0.50	( 1.08 )		
S563	ク	1 1 H R1				ク	3.20	2.00	0.80	4.26		
S564	ク	1 1 H R1				ク	4.10	2.00	1.20	9.10	サイト・スクレーパー	
S565	ク	1 3 G		V		ク	2.30	1.90	0.50	1.40		
S566	ク	1 5 G		V	21002	ク	2.90	2.40	0.90	5.74	サイト・スクレーパー	
S567	ク	2 0 F R1	77		39197	ク	3.10	1.80	0.70	4.37	サイト・スクレーパー	
S568	ク	1 5 D		II		ク	3.80	2.40	0.90	8.40		
S569	ク	1 5 G		V		フリント	2.90	1.50	0.60	2.19		
S570	ク	1 6 G		V	13064	めのう	3.10	( 2.20 )	0.50	( 4.75 )		
S571	ク			表採		ク	4.80	2.40	0.80	9.23		
S572	ク	1 8 F R1				黒曜石	2.30	2.20	0.90	7.08		
S573	ク	1 2 H R1	58		26532	めのう	3.20	2.30	0.90	7.24	サイト・スクレーパー	
S574	ク	1 6 F		V	23005	黒曜石	3.10	3.10	1.20	10.04	サイト・スクレーパー	
S575	ク	1 8 F R1	93		33440	ク	3.00	2.10	0.80	5.78		
S576	ク	1 1 H R1				ク	3.00	2.00	1.50	9.61	サイト・スクレーパー	
S577	ク	1 5 G		V		フリント	4.10	2.70	1.40	11.20	サイト・スクレーパー	
S578	ク	1 7 J		III		黒曜石	3.30	2.90	1.00	6.97	サイト・スクレーパー	
S579	ク	1 4 G		V		ク	3.00	2.70	0.90	6.14		
S580	ク	1 3 H		IV		めのう	2.60	( 2.80 )	0.90	( 3.26 )	エンド・スクレーパー	
S581	ク					ク	3.10	2.10	0.40	6.39		
S582	ク	1 7 F		V	9924	黒曜石	3.10	2.70	0.90	6.31		
S583	ク	1 3 D		V		ク	( 2.60 )	( 2.90 )	1.10	( 6.05 )		
S584	ク	1 4 G		V		めのう	6.00	3.90	0.70	4.47		
S585	ク	1 4 H		N~V		黒曜石	4.00	2.10	0.70	2.95		
S586	ク	1 9 M		V		ク	3.00	2.70	0.80	5.25		
S587	ク	2 0 F R1				めのう	6.70	2.90	0.90	4.51		
S588	ク	1 9 C		V		黒曜石	3.40	2.40	1.10	11.13		
S589	ク	1 4 F		北壁		ク	3.30	2.80	1.10	19.99		
S590	ク	1 4 G		V	9564	フリント	5.70	3.20	0.70	10.66		
S591	ク	1 4 G		V		めのう	3.70	3.10	0.80	6.90		
S592	ク	1 4 F		V	7681	黒曜石	4.00	2.80	1.20	10.08		
S593	ク					めのう	3.40	3.10	1.40	16.19		
S594	ク	1 4 F		V		ク	5.70	( 3.40 )	0.80	( 7.42 )		32
S595	ク	1 2 G		V		フリント	6.50	3.10	1.50	36.35	サイト・スクレーパー	
S596	ク	1 4 G		V	13814	安山岩	7.50	4.10	2.00	74.81		
S597	ク	1 5 D		V		黒曜石	3.60	3.00	1.00	7.46	サイト・スクレーパー	
S598	ク	1 8 E		V		ク	3.70	2.30	0.60	6.75		
S599	ク	1 4 G R1				安山岩	4.30	4.10	1.10	14.27		
S600	ク	1 7 K		III		めのう	4.80	2.60	1.10	11.76		

第18表 石器観察表10

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	回数
		区	R									
S601	スクレーパー	2 0 D		V		フリント	5.00	4.80	1.20	16.90		32
S602	タ	2 0 F	R 1			黒曜石	5.30	3.80	1.20	17.06		
S603	タ	1 4 G		V	16647	フリント	4.60	3.00	1.30	21.63		
S604	タ	1 4 F		V		タ	5.20	2.30	0.90	12.00		
S605	タ	1 5 F		V		タ	6.30	5.00	2.40	58.70		
S606	タ	2 1 E	R 1			めのう	( 4.20 )	5.70	1.20	( 26.42 )		
S607	タ	1 1 H	R 1			タ	3.90	( 4.20 )	1.10	( 21.07 ) サイト・スクレーパー		
S608	タ	1 6 G	R 1	53	26132	黒曜石	5.30	4.50	1.50	36.43		
S609	タ	1 3 H		V	10717	フリント	6.30	5.00	2.60	87.79		
S610	タ	1 5 G	R 1			タ	2.60	3.70	0.60	14.93		
S611	タ	1 6 G	R 1	61	24917	めのう	4.00	1.70	0.70	13.42		
S612	タ	1 6 G	R 1			黒曜石	4.60	4.50	2.10	21.58		
S613	タ	1 5 D		II		フリント	6.00	3.90	0.70	26.05		
S614	タ	1 3 C		ミヅ		めのう	3.90	5.90	1.10	21.81		
S615	タ	1 4 G	R 1			黒曜石	4.00	5.20	0.90	10.46		33
S616	タ	1 5 G	R 1			タ	4.30	2.80	0.90	8.51		
S617	タ	1 2 E		表探		タ	3.70	2.70	1.40	9.61		
S618	タ	1 8 J		III		タ	3.20	3.00	1.00	9.25		
S619	タ	1 5 G		V		タ	4.00	3.40	1.50	16.31 サイト・スクレーパー		
S620	タ	1 4 F		V		タ	5.00	4.30	1.10	18.30 サイト・スクレーパー		
S621	タ	1 5 G		V	24503	タ	5.80	3.00	1.30	18.38		
S622	タ	2 0 E		VII		タ	6.80	3.80	2.00	39.04 サイト・スクレーパー		
S623	タ			場所不明		タ	6.30	4.40	1.50	31.61		
S624	タ	2 1 F	R 1			タ	3.50	3.80	1.20	14.47		
S625	タ	2 3 M				タ	3.40	3.30	0.70	6.80 黒褐色土		
S626	タ	2 2 O	R 2			タ	3.30	3.30	1.00	11.26		
S627	タ	1 3 H	R 1	65	27221	タ	4.20	4.30	1.30	16.93		
S628	タ	2 3 K		II		めのう	2.00	4.10	0.90	47.86		
S629	タ	2 1 F	R 1			黒曜石	4.30	3.10	1.00	10.38		
S630	タ	1 2 H	R 1			タ	4.60	4.30	0.70	17.21 サイト・スクレーパー		
S631	タ	2 0 E	R 1			タ	6.50	3.90	1.30	23.56		
S632	タ	1 7 M		III		タ	3.40	2.70	1.20	8.02		
S633	タ	1 1 H	R 1			タ	3.10	2.90	1.40	12.60 サイト・スクレーパー		
S634	タ	2 0 F	R 1	58	40916	タ	5.30	4.40	1.50	31.72		
S635	タ	1 1 G	R 1			フリント	3.20	( 3.20 )	0.90	( 96.00 ) サイト・スクレーパー		
S636	タ	2 0 K		V	38951	黒曜石	4.10	4.30	1.50	22.47		
S637	タ	2 0 F	R 1	8	43168	フリント	2.20	3.60	0.90	34.71		
S638	タ	2 0 J		V		黒曜石	3.40	3.70	1.20	16.71 サイト・スクレーパー		
S639	タ	1 4 D		V		タ	4.80	3.50	1.30	19.86 サイト・スクレーパー		
S640	タ	1 8 L		III - IV		チャート	2.60	3.80	0.60	10.56		
S641	タ	1 7 M		VII		硅質安山岩	4.00	3.20	1.10	10.23		
S642	タ	1 0 D		III		フリント	2.80	1.90	0.60	33.63		34
S643	タ	1 7 D				黒曜石	2.80	2.50	1.10	7.59		
S644	タ	1 3 H	R 1			フリント	3.50	4.60	1.60	25.35		
S645	タ	1 4 G		V	9177	めのう	3.20	3.50	0.40	18.59		
S646	タ	1 3 H	R 1			フリント	4.70	3.40	0.80	21.99		
S647	タ	1 4 F		V		めのう	3.80	3.50	0.90	18.09		
S648	タ	1 8 D		VII		タ	4.30	3.60	1.10	11.91		
S649	タ	2 1 L		表探		黒曜石	4.60	2.80	1.20	19.58		
S650	タ	1 2 H		V	10806	フリント	6.80	3.20	1.50	29.09		
S651	タ	1 5 H	R 1	I	27769	黒曜石	5.20	3.40	1.50	28.03		
S652	タ	1 9 M		V		タ	4.80	4.20	1.90	27.65		
S653	タ	1 5 G		V	5822	フリント	5.40	4.40	1.40	28.15		
S654	タ	1 4 D		V		めのう	5.20	4.00	1.40	21.37		
S655	タ	1 2 H	R 1			黒曜石	4.90	3.10	1.30	14.79 サイト・スクレーパー		
S656	タ	1 2 F		V	6663	フリント	7.30	5.00	1.40	37.35		
S657	タ	1 3 G		V	10536	黒曜石	5.40	3.50	1.20	27.50 サイト・スクレーパー		
S658	タ	1 5 G	R 1			フリント	4.30	4.20	1.30	23.27 エンド・スクレーパー		
S659	タ	2 3 J		VII		黒曜石	3.20	2.80	1.00	8.07		
S660	タ	1 9 F		新ミヅ		安山岩	4.70	3.50	1.00	13.19 サイト・スクレーパー		

第19表 石器観察表11

番号	器種	出土区 区 R R a	層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	No.
S661	スレーパー	2 2 N R 2	79	38689	黒曜石	5.20	3.30	1.10	17.58		34
S662	タ	2 2 K R 2			タ	5.70	5.00	0.90	19.90		
S663	タ	1 3 H R 1			めのう	4.20	3.90	2.30	37.44		
S664	タ	1 4 E	V	7411	フリント	3.60	1.70	0.60	23.23		35
S665	タ	2 0 F R 1			タ	3.00	2.80	0.70	24.51		
S666	タ	1 5 G R 1	91	27753	めのう	4.40	2.90	0.70	21.91		
S667	タ	1 6 G R 1			タ	6.40	3.20	1.10	19.69	サイト"スレーパー"	
S668	タ	2 0 E	VI		タ	3.20	5.30	0.90	19.06		
S669	タ	2 1 F	廃土		黒曜石	3.90	3.90	1.00	10.37	エント"スレーパー"	
S670	タ	1 4 F	北壁		タ	3.70	3.40	1.20	11.58		
S671	タ	1 3 E	V	8210	フリント	5.80	4.90	1.70	32.78	サイト"スレーパー"	
S672	タ	1 4 G R 1	30	28319	めのう	4.90	3.90	1.70	25.57		
S673	タ	2 3 J	IV		タ	2.80	2.10	0.60	11.80		
S674	タ	1 3 H	V	10712	タ	5.20	4.20	1.80	30.32		
S675	タ	1 4 H R 1			フリント	4.60	5.00	1.40	31.93		
S676	タ	1 5 G R 1	98	27492	黒曜石	3.40	3.50	1.00	11.26	サイト"スレーパー"	
S677	タ	1 9 E	III		自然輝使用	4.20	3.90	1.10	12.88	サイト"スレーパー"	
S678	タ	1 3 H	V		めのう	5.50	3.00	0.60	14.35	サイト"スレーパー"	36
S679	タ	1 5 G R 1	12	26001	タ	6.10	2.30	0.60	13.80		
S680	タ	1 4 F G	壁		タ	4.40	3.20	1.00	13.08		
S681	タ	1 3 H R 1			タ	5.40	2.70	1.50	19.51	サイト"スレーパー"	
S682	タ	1 6 E	V	2261	黒曜石	5.30	3.00	1.00	13.25		
S683	タ	1 1 G	溝		めのう	4.00	3.20	1.40	17.53		
S684	タ	1 6 G	溝上		タ	5.50	4.20	1.00	32.68	サイト"スレーパー"	
S685	タ	8 D	III		タ	1.80	3.00	0.80	16.78		
S686	タ	1 8 D	V		タ	4.60	3.60	0.90	13.67		
S687	タ	1 4 E	V	7199	黒曜石	4.70	3.50	1.20	18.00	サイト"スレーパー"	
S688	タ	2 2 K R 2			めのう	5.20	4.00	1.00	18.19	サイト"スレーパー"	
S689	タ	1 8 K	II		フリント	4.80	4.10	0.70	17.57		
S690	タ	1 5 G R 1	73	27479	黒曜石	2.20	4.00	0.80	64.89	サイト"スレーパー"	
S691	タ	1 4 E	V		めのう	2.70	3.20	0.60	14.52		
S692	タ	2 1 F R 1	69	36887	フリント	8.00	3.20	1.50	31.59		
S693	タ	1 0 E	V	6004	タ	4.00	3.60	1.30	19.09	サイト"スレーパー"	
S694	タ	1 5 H	V	5939	めのう	4.50	2.30	1.00	60.24		
S695	タ					8.80	6.20	1.30			
S696	タ	1 5 G	V			2.20	3.50	0.70	82.41		
S697	タ	1 3 H R 1	43	26809	めのう	3.60	4.80	0.80	98.84		
S698	タ	1 5 E	V	415		11.30	7.30	3.10	164.88		
S699	タ	1 4 H R 1	40	28397	黒曜石	9.10	6.70	3.00	98.79		37
S700	タ	2 2 M			安山岩	2.40	5.60	0.90	75.59	暗茶褐色土	
S701	タ	1 5 D	VI	29730	めのう	6.50	3.90	1.30	31.44		
S702	タ	1 7 D				4.60	3.80	0.70	12.07		
S703	タ	2 2 D	土集	37961	フリント	8.80	4.70	2.30	74.30		
S704	タ	1 8 D	VI	33625	タ	10.00	6.60	3.20	165.17	サイト"スレーパー"	
S705	タ	2 2 D	82	37981	黒曜石	9.40	7.20	3.10	167.74		
S706	タ	1 3 F	V		タ	10.30	7.40	3.70	256.57		
S707	タ	1 6 G R 1	75	24031	フリント	8.70	6.80	3.10	163.96		38
S708	タ	1 6 G	76	23000	タ	10.00	7.40	3.70	200.73		
S709	タ	2 1 E	VI	37005	タ	10.30	5.70	4.20	232.67		
S710	タ	1 3 F	V	8886	タ	3.30	3.20	0.90	77.55		
S711	タ	1 9 D	III		タ	2.20	4.70	0.80	66.75		
S712	タ	1 9 E	VI		黒曜石	5.50	4.50	1.70	37.95		
S713	タ	1 9 E	VII		めのう	6.60	4.00	1.20	33.67		
S714	タ	1 2 H R 1			タ	6.50	4.20	1.50	54.23		
S715	タ	1 5 H R 1			フリント	8.30	7.80	2.30	149.33		
S716	タ	1 4 G	V	9432	めのう	6.00	5.00	0.90	41.98		39
S717	タ	1 4 G	V	12911	砂岩	7.00	4.90	1.30	28.75	サイト"スレーパー"	
S718	タ	場所不明			フリント	7.30	3.80	1.60	28.69		
S719	タ	2 1 C	V上		めのう	6.90	5.70	1.50	63.06	サイト"スレーパー"	
S720	タ	1 4 D	V		タ	6.50	6.80	1.60	73.48		

第20表 石器観察表12

番号	器種	出土区	層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	回数
		区	R	小字							
S721	スレーパー	2 2 K	R 2		めのう	5.60	6.10	1.70	37.25		39
S722	タ	2 1 E		VI	37047	フリント	6.40	6.00	2.00	86.69	
S723	タ	2 0 M		III	めのう	8.00	5.50	2.50	106.05		
S724	タ	1 2 H	R 1	30	26857	フリント	7.70	6.00	2.30	92.81	
S725	タ	2 2 K		VI		めのう	5.80	6.10	1.70	43.33	
S726	タ	1 9 E		VI	41117	フリント	6.10	4.80	1.80	43.68	サイト・スレーパー
S727	タ	1 3 H	R 1			タ	8.40	6.40	1.90	77.54	サイト・スレーパー
S728	タ	1 5 D	R 1	66	26977	めのう	6.80	4.50	1.30	26.87	エント・スレーパー
S729	タ	2 0 D		VI	タ	6.50	3.70	1.80	39.15		
S730	タ	7 C	I		フリント	7.80	6.80	2.90	137.91	サイト・スレーパー	
S731	タ	1 5 F	V	4646	タ	7.30	3.70	2.30	46.07	サイト・スレーパー	
S732	タ	1 1 G	IV		黒曜石	2.00	1.30	0.70	1.98	エント・スレーパー	
S733	タ	1 8 D	V	31865	タ	2.20	1.20	0.70	1.39		
S734	タ	2 0 L	V		タ	3.30	1.30	0.70	2.34	エント・スレーパー	
S735	タ	2 1 K	VI a	38025	タ	2.70	1.80	0.60	2.82		
S736	タ	2 3 L			タ	2.60	2.20	0.70	3.86	黒褐色土落込	
S737	タ	1 9 E	VI	41399	タ	2.70	2.20	1.20	5.48		
S738	タ	2 3 K	IV		タ	2.40	1.50	1.00	3.32		
S739	タ	2 3 M			タ	2.30	2.30	0.70	3.76	暗茶褐色土	
S740	タ	1 8 D	V		タ	2.50	2.20	1.00	5.01	サイト・スレーパー	
S741	タ	2 0 K	V		タ	3.20	2.00	1.00	4.72		
S742	タ	2 1 F	R 1		タ	3.60	3.20	1.30	12.75	エント・スレーパー	
S743	タ	1 5 H	V		タ	3.20	1.10	0.50	1.43		
S744	タ	1 7 K	III		タ	3.50	2.20	1.00	6.95		
S745	タ	1 6 E	V	19027	タ	4.70	1.70	0.90	5.84		
S746	タ	1 8 D	VI		タ	4.10	1.80	1.00	3.92		
S747	タ	1 5 G	V			3.60	2.80	0.80	6.38		
S748	タ	1 5 G	V		黒曜石	3.50	1.80	0.90	3.22		
S749	タ	2 2 M	R 2		タ	3.10	2.30	0.70	5.04		
S750	タ	1 9 E	VI		タ	2.90	2.40	0.80	4.61		
S751	タ	2 1 F	R 1	33	36757	タ	3.30	3.20	0.80	8.89	
S752	タ	1 6 F	V		タ	3.20	1.60	1.00	3.61		
S753	タ	1 4 G	表採		タ	4.90	2.70	1.40	11.54	エント・スレーパー	
S754	タ	1 7 D	II		タ	3.20	2.80	1.20	9.15		
S755	タ	2 2 K	R 2		タ	4.40	2.70	1.00	7.98		
S756	タ	1 5 G	V	14905	タ	2.30	2.00	0.40	2.28		
S757	タ	2 3 M	III		めのう	4.20	2.10	1.10	8.57		
S758	タ	2 3 K			黒曜石	3.00	2.60	1.00	6.81	暗茶褐色土	
S759	タ	1 3 F	V		タ	3.00	2.50	1.10	9.42	サムエント・スレーパー	
S760	タ	1 5 G	R 1		タ	2.40	1.60	0.60	1.79	石壁?	
S761	タ	1 0 E	V 下		タ	4.60	1.50	1.50	11.11	サイト・スレーパー	
S762	タ	1 3 H	VI	19245	フリント	4.50	2.30	0.70	6.21		
S763	タ	1 5 H	R 1		めのう	4.90	3.00	0.90	6.67		
S764	タ	2 1 K	VI a	38030	タ	3.10	2.80	0.90	4.30		
S765	タ	1 9 K	V		タ	3.50	2.50	1.30	10.50		
S766	タ	2 1 F	R 1		タ	4.00	3.50	1.10	19.16	エント・スレーパー	
S767	タ	2 2 N	R 2		タ	5.00	1.30	0.40	11.11		
S768	タ	1 1 G	R 1		タ	3.60	2.70	1.00	10.73		
S769	タ	1 9 K	IV		黒曜石	3.00	2.70	0.80	6.88	エント・スレーパー	
S770	タ				タ	3.00	2.50	0.50	4.11		
S771	タ	1 2 H	溝		タ	3.60	2.50	1.10	10.41	エント・スレーパー	
S772	タ	2 3 M	III		タ	2.30	1.70	0.80	2.46		
S773	タ	1 2 G	溝		タ	3.20	2.50	1.00	7.71	エント・スレーパー	
S774	タ	1 1 F	V		タ	3.70	3.30	1.20	16.15	サイト・スレーパー	
S775	タ	2 0 E	V		めのう	4.30	2.60	1.00	9.07	エント・スレーパー	
S776	タ	1 4 G	V		黒曜石	3.70	3.30	0.70	7.56	サイト・スレーパー	
S777	タ				めのう	2.50	3.20	0.50	16.85		
S778	タ	1 3 H	R 1		黒曜石	3.20	2.70	0.80	5.79		
S779	タ	1 2 E	V	13916	タ	2.80	2.00	0.50	3.27	エント・スレーパー	
S780	タ	1 2 D	VI		タ	4.40	2.60	1.40	14.43	エント・スレーパー	

第21表 石器観察表13

番号	器種	出土区 区 R 小区	層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	EdNo.
S781	スレーパー	1 1 G R 1			黒曜石	5.00	3.10	1.60	22.71	サイドスレーパー	41
S782	タ	2 0 E	VII		タ	4.30	2.40	1.20	10.83		
S783	タ	2 1 D	VIII		タ	6.00	3.90	2.00	37.68		
S784	タ	2 1 L	表探		タ	5.10	3.50	2.20	32.44		
S785	タ	2 3 K	IV		タ	4.60	2.80	1.20	11.38		
S786	タ	1 4 G R 1			タ	4.60	4.20	1.50	25.30		
S787	タ	1 5 G R 1			タ	3.20	1.50	0.80	2.23		
S788	タ	1 6 G R 1	17	26727	タ	6.80	4.50	1.20	29.98	エントスレーパー	
S789	タ				安山岩	5.60	3.60	1.00	13.23	エントスレーパー	
S790	タ	1 9 D	V		黒曜石	4.80	2.40	1.70	12.47	エントスレーパー	
S791	タ	1 3 M	Va		タ	4.40	3.30	1.50	17.48	サイドスレーパー	
S792	タ	2 3 M			暗茶褐色土	3.50	3.20	1.40	14.20	エントスレーパー	42
S793	タ	1 5 G R 1			タ	4.70	4.70	1.50	31.77		
S794	タ	1 3 E	III		タ	4.60	3.70	1.20	18.99	エントスレーパー	
S795	タ	1 0 F	III		タ	4.60	1.80	1.00	6.71	エントスレーパー	
S796	タ	1 6 F	V	2975	タ	4.70	3.30	1.40	17.60		
S797	タ	1 6 F	V	3375	めのう	1.90	2.70	0.70	15.90		
S798	タ	1 4 F	V	12452	フリント	2.20	3.30	0.80	22.20		
S799	タ	2 2 M			暗茶褐色土	4.40	2.90	0.90	15.36		
S800	タ	1 9 F	V	40318	タ	3.40	4.20	1.10	40.33		
S801	タ	1 5 D	V		フリント	5.00	3.00	0.70	11.45		
S802	タ	1 5 D	II		タ	1.70	3.40	0.70	18.02		
S803	タ	2 0 C	V		めのう	1.60	2.70	0.60	12.49		
S804	タ	1 6 E	IV		フリント	6.60	4.10	1.30	43.29		
S805	タ	1 4 D	V		めのう	6.30	4.20	0.60	40.02	エントスレーパー	
S806	タ	1 5 G	V	14556	タ	2.60	2.30	0.40	27.06		
S807	タ	1 8 D	VI		タ	3.60	5.40	1.20	21.61		
S808	タ	1 4 G R 1			フリント	2.90	4.80	1.10	12.42		
S809	タ	1 2 F	V	6683	タ	2.40	2.10	0.40	36.61		
S810	タ	1 5 H R 1			タ	2.90	1.90	0.60	13.07		
S811	タ	1 3 ?	V		タ	4.00	1.80	0.50	11.98		
S812	タ	1 3 C	溝		めのう	5.10	3.40	0.60	40.77		
S813	タ	1 5 G R 1			タ	5.60	4.20	2.10	41.62		43
S814	タ	1 6 F R 1	91	26713	タ	6.60	4.20	1.70	42.44		
S815	タ				タ	5.60	4.20	0.80			
S816	タ	2 3 K			暗茶褐色土	5.60	4.30	1.70	41.93	エントスレーパー	
S817	タ	1 9 F	新溝		フリント	4.50	3.20	1.30	17.33		
S818	タ	2 1 L	VI b	38497	めのう	5.80	3.20	1.60	25.78	エントスレーパー	
S819	タ	1 3 H R 1			タ	5.20	4.00	1.30	18.65		
S820	タ	1 6 G	III		フリント	5.60	4.70	1.30	36.91		
S821	タ	1 3 H R 1			タ	5.60	3.30	2.20	31.80		
S822	タ	1 5 D	V		めのう	6.80	3.60	1.20	22.23		
S823	タ	1 8 F R 1			タ	5.00	2.60	2.10	16.14		
S824	タ	1 3 K	IV		タ	5.70	4.40	2.10	52.40	エントスレーパー	
S825	タ	1 2 H R 1			黒曜石	5.90	2.90	1.20	16.64	サイドスレーパー	
S826	タ	2 0 F R 1	86	41021	フリント	5.70	3.20	2.40	28.85		
S827	タ	1 5 G	V	4663	めのう	4.50	4.30	1.10	21.42	エントスレーパー	
S828	タ	1 3 H R 1			安山岩	5.40	3.90	1.50	33.61	エントスレーパー	
S829	タ	1 7 J	V	3857	黒曜石	5.80	4.50	1.10	38.80	エントスレーパー	
S830	タ	2 1 F R 1			フリント	4.60	3.30	2.60	54.32		
S831	タ	2 1 F R 1	45	37351	タ	5.30	5.20	2.00	48.67	ラウンドスレーパー	44
S832	タ	1 3 H R 1			タ	5.10	4.90	2.60	45.42		
S833	タ	2 1 F R 1	66	36915	タ	7.50	6.30	3.10	95.35		
S834	タ	1 3 F	V	8786	タ	3.00	1.70	0.40	66.79		
S835	タ	2 0 N	V		めのう	5.70	5.40	1.60	38.48		
S836	タ	1 6 G R 1	74	24929	フリント	8.20	6.30	1.80	77.89		
S837	タ	1 4 G	V		タ	8.70	8.40	3.80	222.33		
S838	タ	1 6 G	76 溝	23000	フリント	9.30	7.60	5.90	287.64		
S839	タ	2 1 L	VI		黒曜石	3.80	2.50	1.00	8.49		
S840	タ	2 0 C	III		フリント	8.00	4.20	2.50	71.39		

第22表 石器観察表14

番号	器種	出土区		層位	取上番号	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	回数
		区	R + M									
S841	スクレーパー	1 2 H	R 1			黒曜石	6.20	5.60	1.80	44.18	エンド・スクレーパー	45
S842	タ	1 4 F					6.00	4.10	1.80	25.21		
S843	タ	1 3 I		V		めのう	5.10	4.80	1.10	30.16	サイド・スクレーパー	
S844	タ	1 6 G	R 1			安山岩	6.20	5.10	1.20	52.94	サスカイト	
S845	タ	1 5 H		V	23555	黒曜石	6.70	4.60	2.10	50.68	サイド・スクレーパー	
S846	タ	2 0 E		V	41506	めのう	7.20	3.80	2.70	70.78	エンド・スクレーパー	
S847	タ	1 5 E		V	13217	タ	6.80	4.50	1.00	33.41	サイド・スクレーパー	
S848	タ	1 6 F		V	17344	プリント	7.20	5.30	4.30	122.30		
S849	タ	1 4 H		V		黒曜石	5.10	3.00	1.50	16.09		
S850	タ	2 1 E		V		プリント	4.50	5.30	0.90	19.44		
S851	タ	1 8 D		V		黒曜石	3.30	3.20	0.90	6.22		
S852	タ	1 9 E		V		タ	1.70	1.10	0.30	0.63		
S853	タ	2 3 C		III		めのう	3.60	2.20	2.00	18.83	エンド・スクレーパー	
S854	タ	1 8 K		III		黒曜石	5.70	3.90	0.90	19.21	サイド・スクレーパー	
S855	タ	22.23K	R 2			めのう	3.50	3.00	1.10	15.14		
S856	タ	1 6 G		V	3643	タ	3.20	2.80	0.70	5.66		
S857	タ	1 2 E		V	6858	タ	4.20	2.90	1.00	17.78	サイド・スクレーパー	
S858	タ	2 1 F	R 1			黒曜石	2.80	2.50	0.80	6.55		
S859	タ	2 1 D		V		めのう	5.80	3.90	1.00	4.90		
S860	タ	2 0 K		V		黒曜石	2.50	2.10	0.50	2.68		
S861	タ	1 8 J		V		タ	3.00	2.80	1.20	7.24	サイド・スクレーパー	
S862	タ	2 1 E	R 1			めのう	2.50	2.20	0.50	3.58		
S863	タ	2 2 K	R 2			タ	1.90	1.80	0.90	3.26		
S864	タ	2 3 K				黒褐色落込	2.80	2.70	0.90	6.38	サイド・スクレーパー	
S865	石 鋸	1 6 E		V		安山岩	4.90	1.20	0.90	4.46	鋸部厚0.5	46
S866	タ	1 5 I		V		タ	4.90	1.10	0.70	3.15	鋸部厚0.3	
S867	タ	2 1 E		V		めのう	4.10	0.70	0.70	1.63	鋸部厚0.4	
S868	タ	1 3 C		V	29880	タ	( 3.80 )	0.80	0.50	( 1.39 )	鋸部厚0.3	
S869	タ	2 3 H	R 2			タ	3.70	1.30	0.80	3.29	鋸部厚0.3	
S870	タ	2 1 F	R 1			タ	3.50	1.40	0.60	1.86	鋸部厚0.2	
S871	タ	1 8 N		V		タ	( 3.70 )	1.50	1.20	( 4.04 )	鋸部厚0.3	
S872	タ	1 8 M		N	34113	タ	4.20	2.00	0.80	4.98	鋸部厚0.2	
S873	タ	2 2 N		V		タ	( 2.70 )	1.50	0.70	( 1.94 )	鋸部厚0.3	
S874	タ	2 1 F	R 1			黒曜石	3.00	1.20	0.90	2.32	鋸部厚0.3	
S875	タ	1 6 E		V		めのう	( 3.20 )	2.10	1.10	( 6.56 )	鋸部厚0.3	
S876	タ	1 3 B		II		チャート	( 3.10 )	1.70	0.80	( 3.35 )	鋸部厚0.5	
S877	タ	1 6 D		II		めのう	( 3.30 )	1.50	1.10	( 4.86 )	鋸部厚0.4	
S878	タ	1 9 F	R 1	40	38924	チャート	( 3.00 )	1.30	0.50	( 1.25 )	鋸部厚0.3	
S879	タ	2 3 K	機乱	II		めのう	( 2.10 )	2.40	0.60	( 2.27 )	鋸部欠損	
S880	タ	2 1 F	R 1			黒曜石	( 1.90 )	2.20	1.00	( 2.36 )	鋸部欠損	
S881	タ	1 4 G	R 1			硬質安山岩	( 2.70 )	2.40	0.90	( 4.37 )	鋸部欠損	
S882	タ			表抜		めのう	2.10	1.40	0.40	1.02		47
S883	タ	1 8 M		III - IV		タ	2.00	1.80	0.40	1.20		
S884	タ	1 1 G	R 1			黒曜石	2.30	1.90	0.60	2.50		
S885	タ	2 0 D		V		めのう	2.50	2.00	0.60	2.68		
S886	タ	1 5 H	R 1			タ	2.80	1.90	0.80	3.18		
S887	タ	1 4 G	R 1			タ	1.50	1.40	0.40	0.71		
S888	タ	2 3 M	R 2			タ	2.40	1.20	0.60	1.42		
S889	タ	1 9 D		III下	25659	タ	2.20	2.10	0.40	1.51		
S890	タ	2 3 M		III		黒曜石	2.40	2.00	1.00	4.94		
S891	タ					めのう	2.70	2.00	0.50	2.06		
S892	タ	2 0 F	R 1			タ	3.20	1.70	0.60	3.28		
S893	タ	1 4 E		V	24257	硬質安山岩	3.30	2.80	1.00	10.22	鋸部厚0.4	
S894	タ	2 2 N	R 2	59	38668	めのう	4.00	3.10	1.00	7.80	鋸部厚0.2	
S895	タ	1 5 F		III		黒曜石	2.50	2.40	0.70	3.19	鋸部厚0.3	
S896	タ	1 7 M		III		めのう	3.70	2.00	1.30	6.89	鋸部厚0.2	
S897	タ	1 2 H	R 1			タ	3.60	1.80	1.10	4.84		
S898	タ	1 6 I		III		プリント	3.50	2.10	0.90	4.76		
S899	タ	1 4 G	R 1	36	28316	タ	3.80	2.90	0.90	6.73	鋸部厚0.3	
S900	タ	1 6 D		II		めのう	( 3.10 )	3.00	0.80	( 4.21 )	鋸部厚0.3	

第23表 石器観察表15

番号	器種	出土区 区 R + M	層位	取上番号	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備 考	品番	
S901	石 鋸	2 2 N R 1		38647	黒曜石	3.50	2.30	1.10	6.75	鋸部厚 0.4	47	
S902	ク	1 4 F			めのう	3.30	2.30	0.50	2.91			
S903	ク	1 8 D	VI	33576	ク	3.50	1.90	1.00	4.96	鋸部厚 0.4		
S904	ク	1 5 G	V	21773	フリント	4.80	3.10	0.90	13.01	鋸部厚 0.5		
S905	楔形石器	1 4 G	V		めのう	2.50	1.80	1.10	4.56		48	
S906	ク	1 3 F	IV		ク	2.90	1.60	0.70	3.13			
S907	ク	2 0 C	III		黒曜石	2.90	1.70	0.90	4.01			
S908	ク	1 2 F	IV		ク	3.00	2.70	1.30	10.32			
S909	ク	1 1 F	III		ク	2.80	2.10	1.80	10.22			
S910	異形石器	1 4 F	V		ク	3.00	1.40	1.30	6.87			
S911	ク	1 4 G R 1	87	26321	ク	2.20	0.80	0.30	0.46			
S912	打製石斧	1 3 D	V		粘板岩	9.80	5.40	2.10	105.44		49	
S913	ク	1 3 H R 1	95	27263		11.20	7.30	1.60	146.28			
S914	ク	1 3 H	V	18396	安山岩	9.70	6.50	2.90	156.81			
S915	ク	2 0 E	VI	43092	ク	9.40	5.50	2.70	162.97			
S916	ク	2 0 L	V		粘板岩	12.40	7.60	1.50	160.58			
S917	ク	1 3 H	V	22890	安山岩	12.40	7.20	1.50	139.16		50	
S918	ク	1 1 D	II		ク	13.10	7.20	1.80	211.02			
S919	ク	2 1 F R 1			粘板岩	9.20	5.90	1.60	92.89			
S920	ク	1 8 D	V	31210	安山岩	( 13.50 )	6.20	1.80	( 199.88 )			
S921	ク	1 5 I	V		ク	( 7.60 )	( 5.40 )	1.30	( 93.09 )			
S922	ク	1 6 I	VI	25121	砂岩	( 7.50 )	( 6.50 )	1.30	( 90.98 )			
S923	ク	1 4 H	V	22619	安山岩	( 10.50 )	( 7.80 )	2.60	( 225.67 )		51	
S924	ク	2 0 D	VI	40219	ク	( 8.10 )	5.70	1.40	( 77.28 )			
S925	ク	1 4 I	V	22759	ク	( 7.20 )	7.40	1.70	( 136.27 )			
S926	ク					13.10	8.50	1.80				
S927	ク	1 8 D	V	31838	安山岩	12.60	8.00	1.80	206.70		52	
S928	ク	1 5 H	V	23550	ク	( 15.20 )	8.10	1.90	( 220.63 )			
S929	ク	2 1 D			横転	ク	( 12.60 )	7.80	2.50	( 247.42 )		
S930	ク	2 3 M				ク	( 17.20 )	12.00	2.50	( 534.00 )	暗褐色土	53
S931	ク					6.10	6.70	1.40				
S932	ク				表探	安山岩	( 14.10 )	7.60	2.10	( 366.00 )		
S933	ク	1 8 J	VI		ク	( 14.60 )	10.20	1.70	( 343.00 )		54	
S934	ク	1 3 F	V	8628	ク	( 7.60 )	6.20	1.40	( 72.63 )			
S935	ク	1 7 M	VI	34483	ク	( 9.90 )	6.30	2.60	( 156.92 )			
S936	ク	1 5 H	V	5936	ク	14.80	8.90	1.50	218.28			
S937	ク	2 1 D 土集	79	37468	砂岩	( 12.30 )	9.70	1.80	( 271.95 )		55	
S938	ク	1 3 H R 1	38	27922	安山岩	15.90	9.70	2.70	334.13			
S939	ク	1 6 F	IV	3353	フリント	11.00	6.40	2.40	132.05			
S940	ク					5.50	4.20	1.90				
S941	ク	2 0 M	V		安山岩	16.60	10.90	3.40	700.00		56	
S942	ク	1 3 H R 1	37	27192	ク	13.20	7.80	2.10	( 217.13 )			
S943	ク	1 0 E P 2		25194	ク	( 10.20 )	7.90	1.60	( 174.50 )			
S944	打製石斧	1 5 G R 1			ク	7.40	1.30	1.00	16.28		57	
S945	ク	1 3 D	V	29191	粘板岩	6.70	1.50	0.90	14.60			
S946	ク	2 2 K R 1	55	38572	安山岩	( 7.30 )	1.60	1.40	( 29.65 )			
S947	ク	1 4 H R 1	40	27848	蛇紋岩	( 6.30 )	1.50	1.30	( 19.94 )			
S948	ク					7.90	2.00	0.80	18.18			
S949	ク	1 5 G R 1			蛇紋岩	( 6.20 )	2.80	0.60	( 28.25 )			
S950	ク	2 0 D	I		粘板岩	7.00	2.80	0.90	25.22			
S951	ク	2 0 L	V		頁岩	( 8.70 )	3.50	2.00	( 191.30 )			
S952	ク	2 3 L			黒褐色土	粘板岩	8.40	1.50	2.10	44.20		58
S953	ク					4.60	2.50	0.60				
S954	ク	1 8 F R 1		31316	安山岩	( 5.10 )	1.50	1.70	( 23.68 )			
S955	ク	1 8 F R 1	66	35148	頁岩	( 6.20 )	2.30	1.90	( 34.01 )			
S956	ク	1 8 E	VI	33289	粘板岩	6.00	2.50	0.80	21.77			
S957	ク	1 2 F	V	15138	砂岩	8.30	1.70	1.30	29.65			
S958	ク	2 2 N R 2			頁岩	( 5.30 )	3.30	1.70	( 33.86 )			
S959	ク	2 0 C	III下		砂岩	( 6.20 )	2.50	1.50	( 42.89 )			
S960	ク	1 7 M		34539	ホルンフェルス	7.00	4.20	1.50	65.10	遺物溜まり		

第24表 石器観察表16

番号	器種	出土区 区 R K N E	層位	取上番号	石材	最大長		最大幅	最大厚	重量	備考	図No.
						最大長	最大幅					
S961	磨製石斧	1 2 H		溝	安山岩	8.80	2.10	1.50	38.96			58
S962	夕	1 3 H R 1	23	26576	ホルンフェルス	( 7.70 )	4.60	1.60	( 84.41 )			
S963	夕	1 6 F		V 21119	夕	( 7.80 )	4.20	1.40	78.17			
S964	夕	2 3 L		V	粘板岩	9.00	3.50	1.20	54.53			
S965	夕	1 4 H R 1			安山岩	( 6.80 )	2.70	2.90	( 81.65 )			59
S966	夕	1 5 G	V	20756	頁岩	9.20	5.80	2.40	149.88			
S967	夕	1 4 G	V	19392	夕	10.10	5.10	2.30	154.11			
S968	夕	2 0 D	V	30281	砂岩	8.60	6.00	2.80	250.06			
S969	夕	2 0 F	V		夕	10.40	5.00	3.30	251.03			
S970	夕	1 4 G R 1	57	26686	頁岩	8.10	4.30	1.80	93.91			
S971	夕	2 0 F R 1	74	38898	夕	9.10	4.20	2.60	157.66			
S972	夕	2 1 D	V	37912	安山岩	( 7.80 )	4.50	2.10	( 111.69 )			
S973	夕	1 6 G R 1	12	24861	砂岩	10.90	5.30	3.10	282.11			
S974	夕	1 7 K	V	34108	粘板岩	11.20	4.50	1.70	125.76			60
S975	夕	1 5 G R 1	87	28249	頁岩	( 6.80 )	3.90	1.80	( 62.69 )			
S976	夕					4.10	4.50					
S977	夕	1 6 F	V	3531	砂岩	12.10	4.90	2.90	256.75			
S978	夕					3.20	3.50					
S979	夕	1 6 F	V	3464	砂岩	11.30	5.00	2.75	285.22			
S980	夕	2 3 M	V	26209	頁岩	12.40	5.20	3.30	339.78			
S981	夕	1 5 G R 1	7	26852	夕	10.10	3.30	2.80	118.66			
S982	夕	1 3 I R 1	2	13349	安山岩	13.60	6.30	3.40	629.06			
S983	夕	1 5 E	V		砂岩	11.10	5.50	3.30	233.73			61
S984	夕	2 2 F			安山岩	12.00	5.70	4.10	469.00			
S985	夕				夕	5.30	4.70					
S986	夕	1 6 F	V	3244		8.30	5.10	3.00	199.89			
S987	夕				砂岩	4.30	4.50	2.90				
S988	夕	2 1 E R 1		40039		16.00	5.90	4.10	588.00			
S989	夕				安山岩	20.70	6.00	3.90	688.00			
S990	夕				ホルンフェルス	( 15.50 )	( 6.40 )	4.50	( 661.00 )			62
S991	夕					11.90	5.90	4.20				
S992	夕				安山岩	( 16.90 )	( 6.60 )	4.40	( 688.00 )			
S993	夕	1 1 G R 1	70	28136		18.80	5.70	( 3.45 )	( 562.00 )			

第25表 石器觀察表17

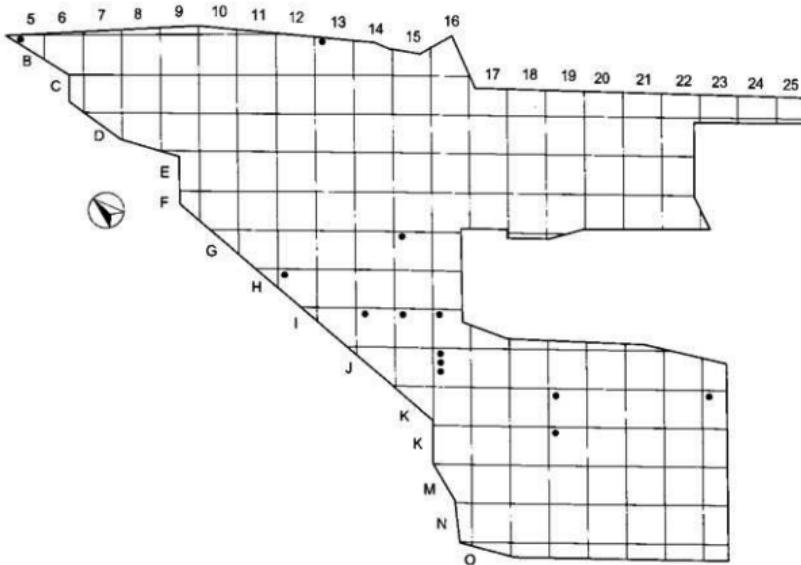
### 第3節 弥生時代（第85～87図）

弥生時代の遺構は見つからなかったが、12点の土器が出土した。散在した出土状況であるが、14～16-I・J区から半数が出土した。器種は壺形土器・壺形土器・高杯形土器がある。

Y1は、口縁部が欠けただけのほぼ完全な小型壺形土器である。高さ約14.0cm、底部直径4.2cmで、最大直径はほぼ中央にあって14.0cmある。安定した平底で、丸みをおびた器形を呈し、肩部に断面が矩形に近い貼付突帯がみられる。突帯には1条の細いヘラ沈線がある。口縁は内面にはっきりした稜線を残し、外へ屈曲している。外側はヘラで丁寧にナデられているが、突帯の下は縦方向、上は横方向である。内面もヘラナデであるが、口縁近くは横方向、上半部は縦方向にかきあげている。茶褐色を呈し、焼成度は良好である。

Y2～Y5は底部で、ほとんどは壺形土器であろうと思われる。安定した平底であるが、Y2はややあげ底となる。Y3は強く外へ開いており、広口壺形土器の底部と思われる。Y2は磨滅しているため、調整不明であるが、他は外面・内面ともヘラによる縦方向のナデで、Y3は底も含めて丁寧にナデている。Y3は茶褐色を呈し、焼成良好であるが、Y2・Y4・Y5は焼成度があまり良くなく、淡茶褐色あるいは乳灰色を呈し、Y5の内面は黒灰色を呈している。

Y6～Y9は壺形土器である。Y6はまっすぐ口縁へ伸びており、端部は突帯が貼り付けられ三角形に肥厚している。Y7は口縁直径が24.5cmの外反する細い口縁部である。外面と口縁部の内面は横方向、頸部から下の内面は縦方向のヘラナデで仕上げている。Y8は胴下半部をいくらか欠いているが、口縁部直径32.0cm、高さ約40.0cm、底部直径7.0cmの完形品である。土が細かいこともあり、磨滅が激しく、接合が困難であった。口縁はくの字状に外反し、頸部より少し下に上向きの細

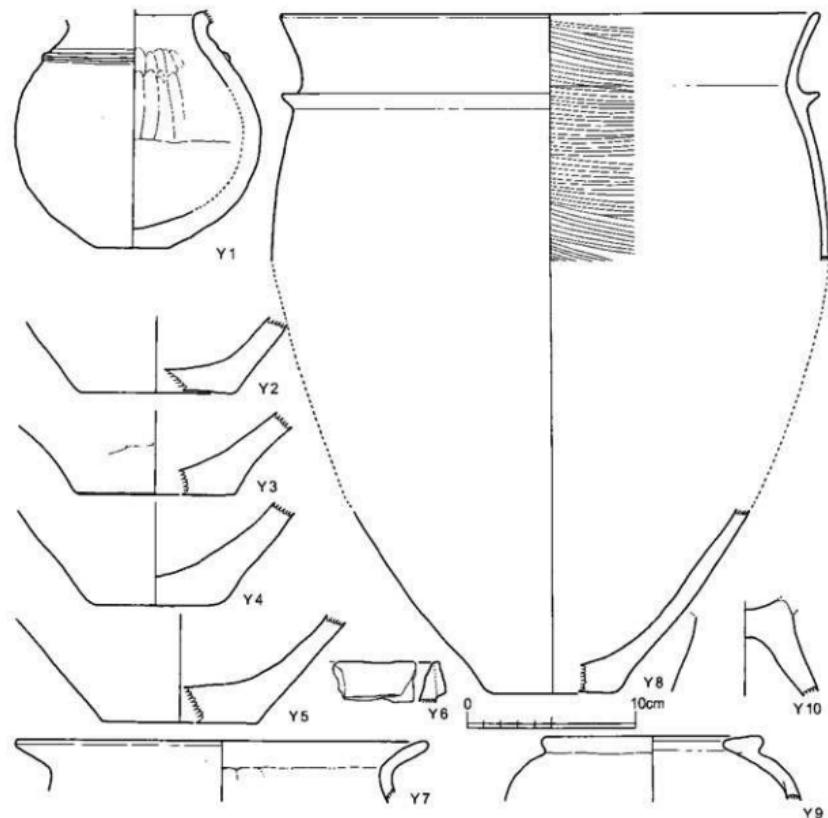


第85図 弥生土器の出土分布図

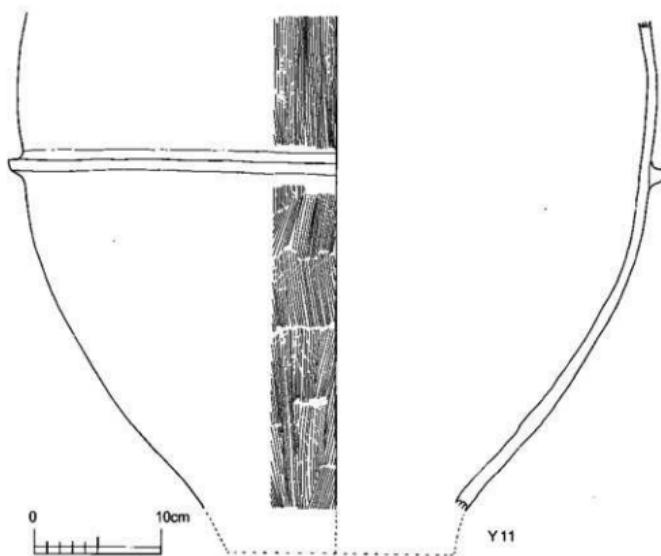
い突帯が貼り付けられている。全体的に細い作りで、不安定な平底である。外面調整は観察が不可能だが、内面の上半はあらいハケによる横ナデ、底部近くはヘラの縦ナデで仕上げている。Y9は口縁部直径が13.0cmある幅広口縁をもつ小型壺形土器である。肩部から外へ広がり、丸みをもった胴部へ移る。断面が剥がれており、板状積み上げの可能性がある。内・外面とも横方向のヘラナデで仕上げているが、作り・調整とも雑で、表面がでこぼこしている。Y6・Y8・Y9は淡茶褐色を呈し、Y7は暗茶褐色である。いずれも焼成度は良くなく軟質である。

Y10は高壺形土器の長い脚部である。磨滅が激しく表面調整は観察不明である。淡茶褐色を呈し焼成度は普通である。

Y11は胴上半部と底部を欠いているが、最大直径が52.0cm、高さが38.0cm以上の大型壺形土器である。口縁部はくの字状に外反し、底部は平底になると思われるが、欠けている。胴部半ばに断面が三角状の突帯が貼り付けられる。外面は縦方向のヘラナデ、内面は縦方向のヘラナデで仕上げら



第86図 弥生土器 1



第87図 弥生土器2

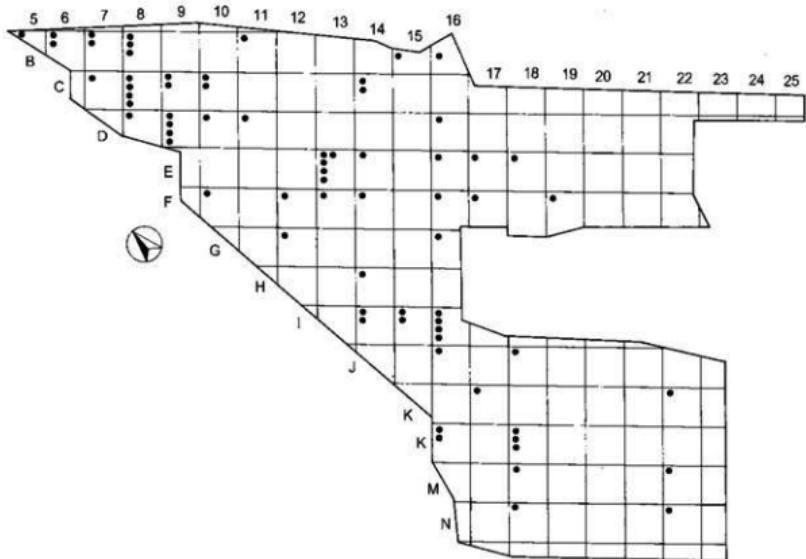
れている。茶褐色を呈し焼成良好である。胎土は石英・雲母・白色石などの小石粒を多く含む砂質土であるが、Y2は赤色石、Y5・Y6・Y10・Y11は茶色石も含んでおり、Y4やY11には大粒の石英粒もある。Y2・Y8は石粒が細かく、軟質となっている。

図化した11点以外の1点は外面がハケナデ調整、内面がヘラナデ調整の甕形土器の破片である。

#### 第4節 古墳時代（第88、89図）

古墳時代の土器が70点出土している。調査区全体に散らばっているが、北側に多く出土している。遺構は検出されなかった。器種は甕形土器・壺形土器・高坏形土器・鉢形土器がある。

Ha 1～Ha 8は甕形土器である。口縁部は端部が丸みを帯びて、くの字状に外反するが、Ha 1・Ha 2は口縁部が長いのに対し、Ha 3は短いという違いがある。Ha 1は頸部からまっすぐ底部へ移り、胴が張らない器形である。器面調整はHa 1がハケナデ（外面縦方向、内面横方向）なのに対し、Ha 2はヘラナデ（外面横方向、内面縦方向）である。Ha 3は内外とも摩耗がひどく、不明である。底部は脚台の付くもの（Ha 4・Ha 5）と平底のもの（Ha 7）がある。Ha 4の器面調整はヘラナデ（内面縦方向）で、脚台は貼り付けによって付けられている。脚台は直径約10.0cmで、外面が丁寧な縦方向ヘラナデ、内面が横方向ヘラナデで仕上げられる。Ha 6は硬質に焼けた貼り付け突帯のある胴部であるが、突帯が内反しているため、器形がはっきりしない。外面はていねいな横方向のヘラナデで仕上げているが、内面には7mm四方の押圧痕が残っている。突帯は断面三角形に近いが、下

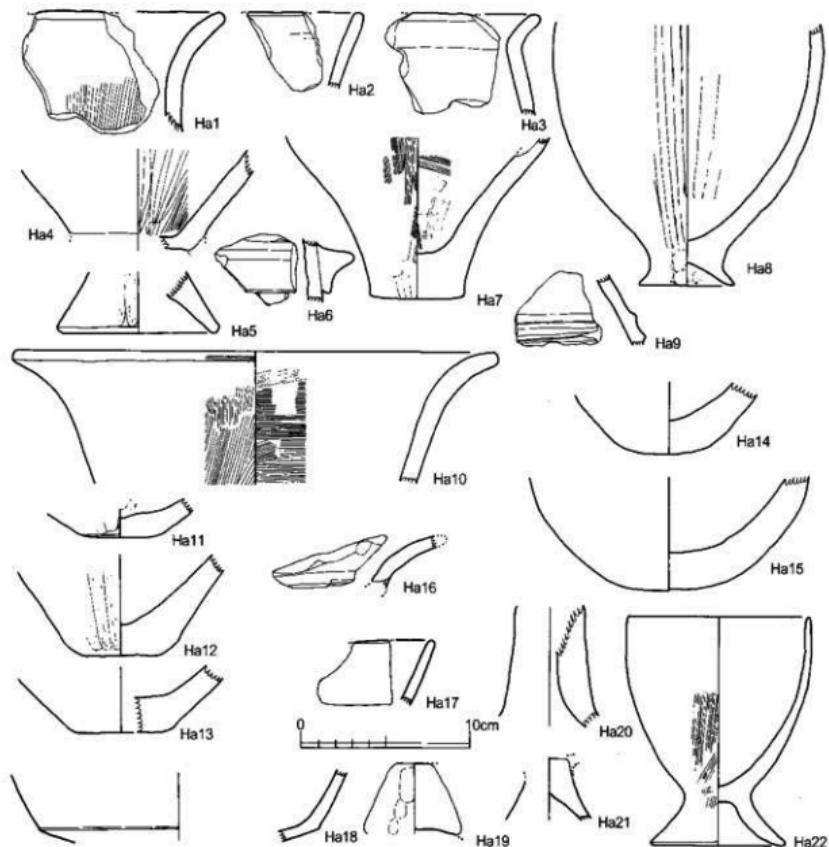


第88図 古墳時代土師器の出土分布図

の方からも押したような形をしており、上は丁寧に仕上げているが、下のほうはそのままの形を残している。Ha 7 の底面は直径5.8cm～6.2cmの楕円形をしており、やや外反しながら立ちあがる不安定な底である。外面調整は縦方向のこまかいハケナデ、内面調整は横方向のハケナデ（底近くは縦方向のヘラナデ）である。Ha 8 は高さが20.0cm位しかない小型のもので中ふくらみの器形を呈し、手づくね風の小さい脚台が付く。調整は外面が縦方向のケズリに近い粗いヘラナデ、内面が縦方向のヘラナデである。

Ha 9～Ha15は壺形土器である。Ha10は口縁直径が29.0cmもある大型のもので、口縁部は強く外反している。器面調整は内面と外面の口縁端部近くの一部が横方向のヘラナデであるほかはハケナデである。外面は口唇部が横方向、その下が縦あるいは斜方向で、内面は横方向である。Ha 9 は肩部に2条以上の断面三角形の突帯が付くもので内外ともヘラナデで仕上げている。底は不安定な平底(Ha11)、安定した平底(Ha12・Ha13)、丸底(Ha14・Ha15)の3種がある。Ha11は小型で、Ha12は底に纖維状の圧痕がある。15の底はややくぼんでいる。器面調整は磨滅して不明なものもあるが、縦方向のヘラナデのものが多い。Ha15は丁寧な調整である。

高壺形土器(Ha16～Ha21)は壺部が浅く、脚の長いもの(Ha16・Ha20)と深い橢形の壺部で短い脚になるものがある。Ha16は口縁が強く外反し、口縁部と底部は別々に作られ接合される。内外とも横方向のヘラナデで仕上げられる。Ha20は内外ともヘラナデである。Ha17・Ha18は外面が丹塗りで、外へ開きながらまっすぐのびる口縁部から屈曲して底部に移る。Ha19は壺部と脚部の継ぎ目となる芯で、これに壺部と脚部が付けられ、その外に粘土を塗り付けるものと思われる。Ha21は脚部で、これに壺部が貼り付けられ、上から粘土が塗り付けられる。乳白色を呈するもの(Ha16・



第89図 古墳時代の土師器

Ha19～Ha21）と、淡茶褐色を呈するもの（Ha17・Ha18）とがあり、Ha18の内面は黒斑がある。白色石・茶色石・石英・長石などのこまかい石を多く用いた砂質土のもの（Ha16・Ha19～Ha21）と、精製土を用いたもの（Ha17・Ha18）とがある。焼成度は良くない。

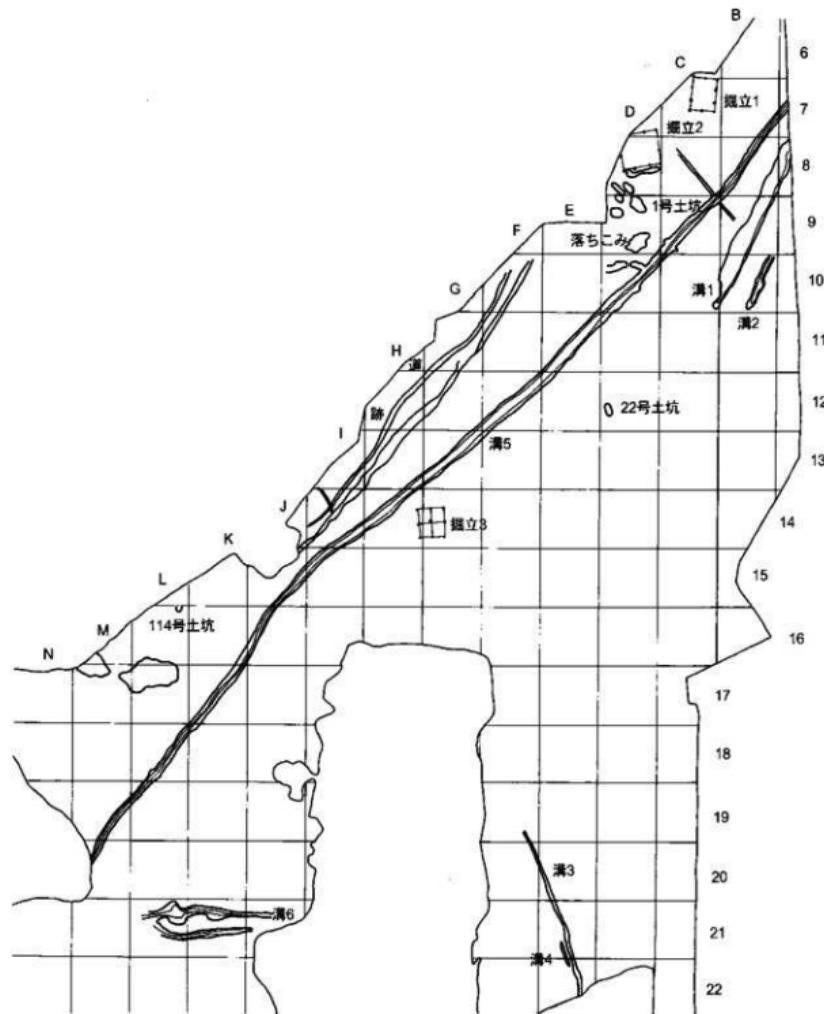
Ha22は一部欠けているがほぼ完全な台付鉢形土器である。口縁直径11.0cm、脚台直径8.0cm、高さ13.5cmである。鉢部は口縁がやや内反するコップ形を呈し、脚台は裾がゆるやかに広がる。外側は継方向のヘラナデ、内面は丁寧なヘラナデで仕上げている。乳茶褐色を呈するが、一部に黒斑がみられる。5mm大までの石英・白色石・黒雲母などの小石を多く含む砂質土を用いており、内面はいいが、外面の摩耗がひどい。

## 第5節 古代

### 1. 遺構

#### 1) 概要

調査区全体から土坑・柱穴などが多く発見されているが、これらのほとんどはいつの時代のものかはっきりしない。はっきりと古代のものと考えられる遺構は掘立柱建物跡3棟と、土坑2基、道路跡、落ち込み1、溝状遺構4条がある。

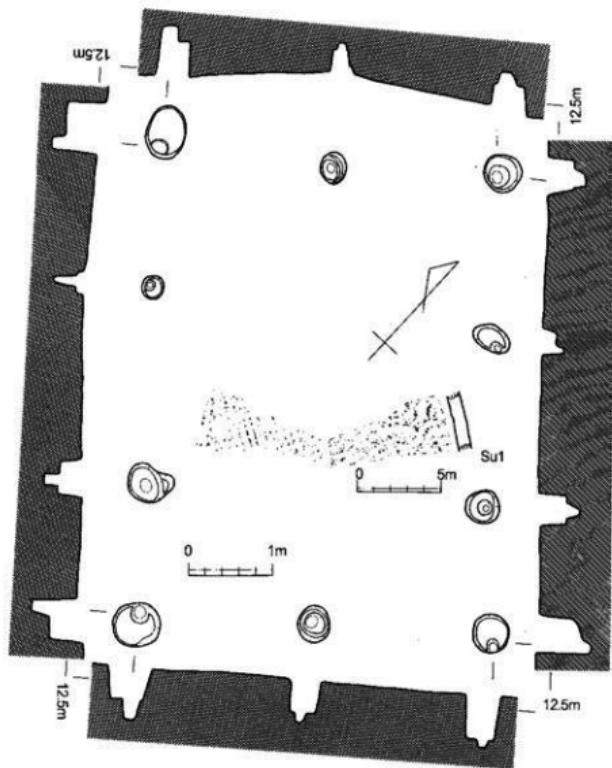


第90図 古代・中世の遺構配置図

## 2) 堀立柱建物跡（第91～93図）

### (1) 堀立柱建物跡 1 (第91図)

7C区にある柱間が2間×3間の建物跡である。主軸方向がN40度Wの南北に長い建物で、それぞれの柱跡は立ち腐れの状況で残っている。北側の柱間は西から2.0m+2.0mの4.0m、西側の柱間は北から1.6m+2.4m+1.6mの5.6m、東側の柱間は北から2.0m+2.0m+1.6mの5.6m、南側の柱間は西から2.0m+2.2mの4.2mである。東側では北から1.6mの所に柱痕跡のない柱穴があることから、当初はこの柱穴がそれで、のちに建て替えられた可能性もある。それぞれの柱穴は直径が26cm～62cm、柱痕跡は12cm～22cmある。現在の深さは30cm～65cmある。埋土は黒褐色、柱痕跡の色は淡茶褐色である。それぞれの柱穴から出土している遺物は縄文土器がもっとも多く47点あり、他に土器壺2・壺1、須恵器壺1、黒曜石剥片1がある。Su1は北側中央の柱穴から出土した須恵器壺の破片で、表が格子タタキ、裏が同心円タタキで仕上げられている。灰色を呈し、焼成度は良い。

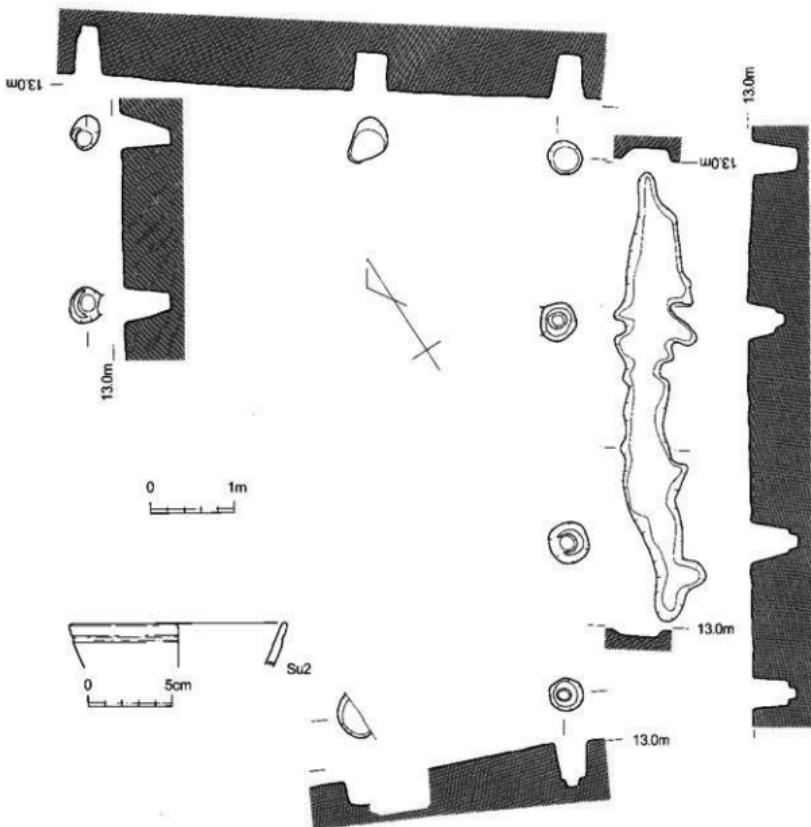


第91図 堀立柱建物跡1と出土土器

(2) 堀立柱建物跡 2 (第92図)

7・8 D区にある柱間が2間×3間の建物であるが、西側が工事終了部分で調査できなかった。主軸方向がN33度Eの南北に長い建物で、いずれの柱跡も立ち崩れの状況で残っている。北側の柱間は西から3.4m+2.4mの5.8m、西側の柱間は北から2.0m、東側の柱間は北から2.0m+2.6m+1.8mの6.4m、南側の柱間は西からx m+2.4mである。それぞれの柱穴は直径が35cm~60cm、柱痕跡の直径が15cm~25cmある。現在の深さは40cm~60cmある。埋土は灰褐色粘質土で、上部に黒褐色と黄褐色のまざり土がある。柱痕跡の色は黒あるいは黒褐色である。建物の東側に幅50cm、深さ10~15cmの溝状落ち込みが建物とほぼ平行してあり、これは雨落ち溝の可能性がある。

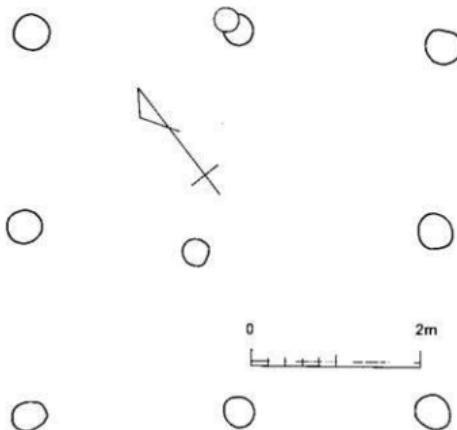
それぞれの柱穴から縄文土器1、黒曜石石核1、土師器壺破片5点が出土しているが、器形のはつきりしたものはない。溝状落ち込みから須恵器壺(Su2)が出土している。口縁直径が13cmあり、灰色を呈している。白色石などこまかい石を含んだ土を用い、焼成良好である。



第92図 堀立柱建物跡 2

### (3) 堀立柱建物跡 3 (第93図)

14G・H区にある柱間が2間×2間の総柱建物である。主軸方向がN38度Eで柱間はほとんどが2.4m等間隔であるが、中央の柱が西側に片寄っている。それぞれの柱穴は直径が30cm～40cmあり、暗黒褐色の埋土である。出土遺物はないが、埋土の色調・土質から平安時代のものと思われる。



第93図 堀立柱建物跡 3

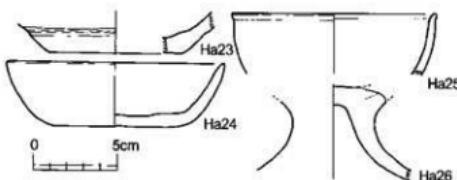
### 3) 土坑

#### (1) 114号土坑 (「干迫I」 第55図)

16L区にある100cm×55+αcmの平面形だ円形、底はポール状をした土坑で、最深部は22cmである。北東部が削平されているために全容は不明である。埋土は大きく2層に分かれ、上から灰褐色粘質土、黒褐色粘質土となるが、灰褐色粘質土の上半部には鉄分が多い。

中から底部直径8cmの土師器壺(Ha24)と白磁碗(J56)が出ている。土師器壺の底はヘラ切り離しで、外へ開きながら立ちあがっている。

乳白色を呈し、石英・長石などの細石粒を含む精製土を用いている。白磁碗は直径16cmの玉縁口縁である。玉縁部は幅が広く、胴部との境は深くえぐれており、そこに厚く釉がかかっている。白色の磁胎で、青っぽい釉がかかっているが、外面・内面とも釉切れが目立つ。内面の口縁下部には釉垂れがあり、口唇部の釉は薄い。

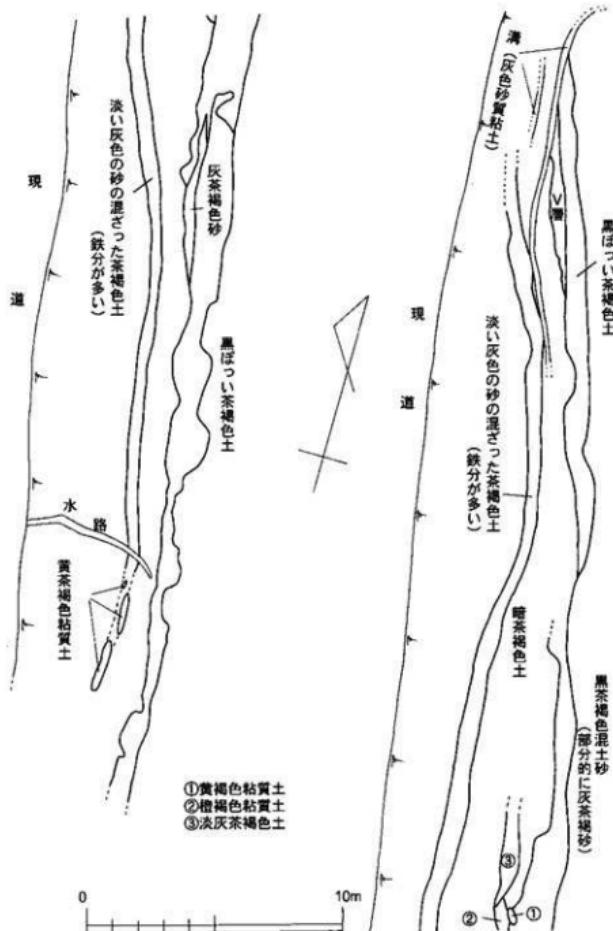


第94図 遺構内出土の土師器

#### 4) 道路跡（第95図）

10F区から11F・G区、12G・H区、13H・I区、14I区にかけて硬い面が筋となって続いている。この西端ははっきりしないため幅が不明である。北端は10F区付近で浅くなっている。それ以北は削平されたものと思われる。南端は15I区北端付近まで追求できたが、それ以上は本線敷からはずれており、南西区の調査で検出が予定されたが、この調査では確認できず、大きく西へはずれていぐものと思われる。

硬土面は鉄分の量や土の色などで4時期以上に分かれるが、出土する土器もほとんどないため時



第95図 道路跡

期の限定は難しい。方向はほぼ並行しており、長期にわたって使われたらしい。もっとも東側にある黒っぽい茶褐色の面は幅が1.5m以上、長さが65.0m以上あるが、切りあいなどからもっとも古いのではないかと思われる。その西側にある暗茶褐色の面は1.0mから2.0mの幅があり、長さは60m以上ある。その西側には幅50~80cmの淡い灰色砂を含む茶褐色の面があり、これには鉄分が多く含まれている。

このほかに灰茶褐色砂の面、部分的に灰褐色砂の混ざった黒っぽい茶褐色混土砂の面などがある。

これらは古く考えると平安時代までさかのばる可能性がある。周囲に側溝のようなものは見当たらない。

## 5) 落ち込み（第90図）

8D・9D区付近に楕円形あるいは不定形の落ち込みがいくつかあるが、これらは周辺の遺構分布や埋土から古代のもの可能性が強い。

### (1) 落ち込み 1

9D区にある不定形の落ち込みで、長いほうが約5.0m、短いほうが約2.5mある。深さは50cmほどである。中から須恵器壺の破片が出土している。

## 6) 溝状遺構（第90図）

あちこちに性格不明であるが、溝状の遺構がある。この中には古代の可能性があるものがいくつもある。

### (1) 溝状遺構 1

8A区から8B・9B・10B・10C区へ続く幅3.0m、深さ20~30cmの溝状遺構で、約32.0m検出された。北側は用地外へ延び、南側は途中で切れている。底の切り離しがヘラ切りの壊が3点、皿が1点出土しているが、いずれも磨耗している。

### (2) 溝状遺構 2

10B区にある幅1.5m、深さ20cmの溝状遺構で、約10.0m検出され、両端とも切れている。中から土師器壺2点が出土しているが、磨耗している。

### (3) 溝状遺構 3

19F区から20E・20F・21E・22E区へ続く幅1.0~1.4m、深さ50~60cmの溝状遺構で、約30m検出された。埋土は下が暗褐色土、上が黒褐色土である。西側は切れ、東側は用地外へ続いている。底がヘラ切り離しとなる土師器壺1点と、須恵器壺1点が出ている。

### (4) 溝状遺構 4

21E区から22E区へ続く幅100cm、深さ12cmの浅い溝状遺構で、約5.0m検出された。両側とも切れている。底部切り離しがヘラ切りの土師器壺が1点出土している。

## 2. 遺物

古代の遺物は土師器・内黒土師器・須恵器・磁器・陶器がある。

### 1) 土師器（第96図）

土師器には皿・壺などある。

#### (1) 皿 (Ha27～Ha32)

皿には小皿・中皿・大皿がある。Ha27～Ha30は口縁直径が約6.5cm、高さ1.5cm～2.0cm、底部直径5.0cm～6.0cmの小皿である。口縁部は丸くおさまっているが、外へやや広がるものと、まっすぐ立ち上がるものとがある。底はヘラ切りで仕上げているが、調整したものと、調整しないものとがある。Ha31は口縁直径が9cm、高さが1.5cm、底部直径が7cmの中皿である。口縁端は断面が三角形を呈し、浅い。表面に明茶褐色の化粧土を塗布している。Ha32は口縁直径が10.5cm、高さが1.5cm、底部直径が10cmの大皿である。これも口縁端の断面形が三角形を呈する。

#### (2) 壺 (Ha33～Ha38)

それぞれに器形・法量が異なり、これらは時期が異なるのではないかと思われる。法量は別表のとおりである。Ha33は外面がでこぼこし、底は丸みをもつていて。Ha34は大型で、底部はていねいにヘラでナデている。Ha35は口縁が外反し、底は丸くしている。Ha36も大型のもので、外はろくろ痕がはっきりしている。Ha38は底へ立ちあがりながらうつる。Ha33・Ha34は茶褐色・淡茶褐色を、Ha35～Ha38は灰白色あるいは乳灰色を呈している。胎土は茶色石・石英・白色石などのこまかい石を多く含む精製土のものが多いが、Ha34・Ha35はやや大粒の砂質土を用いている。焼成度はHa34が良好の他は、やや軟質である。Ha34は北西端の溝状落ち込みから出土した。

遺物番号	口径cm	底径cm	高さcm
Ha33	9.5	6.5	3.0
Ha34	12.5	4.5	6.0
Ha35	12.0	2.5	2.5
Ha36	14.0	6.5	5.0
Ha37	15.5		
Ha38			6.0

第26表 杯の法量

#### (3) 蓋 (Ha39～Ha40)

Ha39は疑宝珠状のつまみを有する。Ha40は天井部が平らで、ゆるやかに屈曲しながら口縁部へ向かう。ヘラナデで仕上げるが、内側は特に丁寧である。色調はHa39が乳茶褐色、Ha40の外面が淡茶褐色、内面が黄色っぽい淡茶褐色を呈する。胎土はHa39がこまかい茶色石の多い砂質土、Ha40がこまかい茶色石・石英・白色石の多い精製土に近い砂質土だが4mm大の石もある。焼成度は普通である。

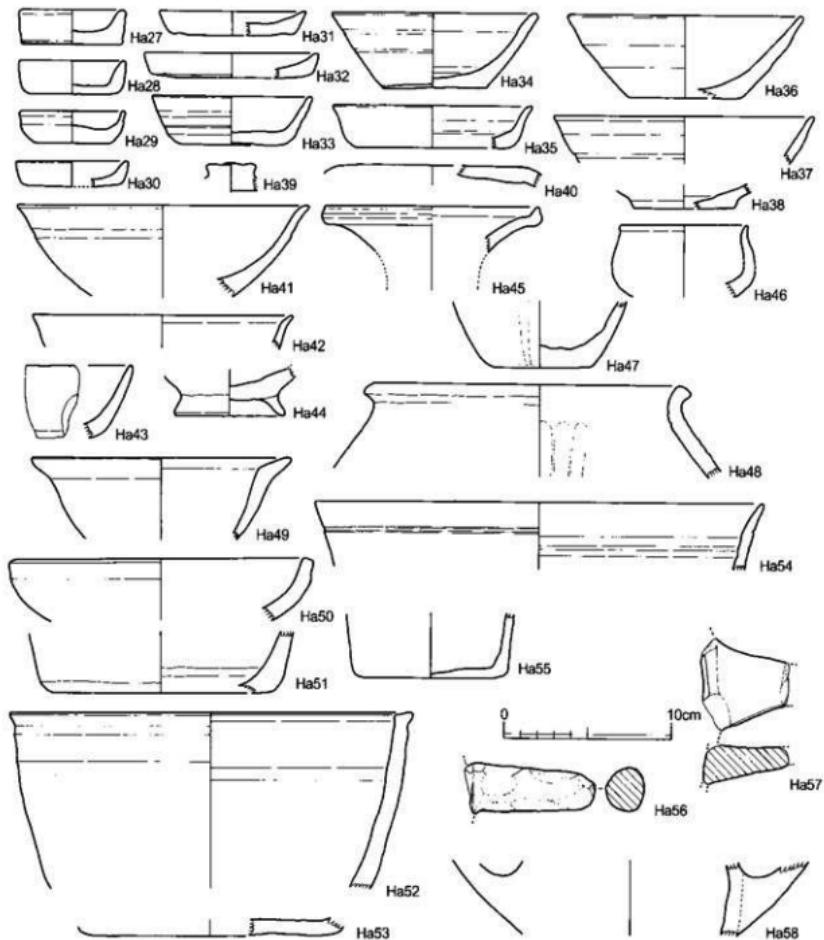
#### (4) 梶 (Ha41～Ha44)

Ha41は口縁直径が17.5cmある大型の梶で、やや外反ぎみに口縁へ立ちあがる。外が横ナデ、内がミガキに近い丁寧なヘラナデで仕上げている。Ha43はやや内窩ぎみの口縁部で、端部は丸みをおびている。Ha44は高台直径が6.5cmある貼付高台の部分で作りは雑である。Ha41が茶褐色、Ha43・Ha44

が淡茶褐色である。焼成度はふつうで、やや磨滅したものもあり、胎土は白色石・茶色石・石英などのこまかい石を含んだ精製土である。

#### (5) 壺 (Ha45~Ha47)

Ha45は口縁直径が13.0cmある長頸壺の口縁部で、頸部から外へ強く外反し、端部が屈曲して直に立ちあがる。磨滅しているが、外面は横方向のハケナデである。乳茶褐色をしており、茶色石などを含む精製土を含んでいる。Ha46は丸みを帯びた胴部から外反して細い口縁部に至る小型の直口壺



第96図 古代の土師器

で、口縁直径が7.5cm、高さ約4.5cmある。乳茶褐色を呈し、焼成度は普通である。石英・白色石など2~6mm大の小石を多く含む砂質土を用いている。Ha47は底径が6.0cmの安定した平底で、外面が縦方向のヘラナデ、底が丁寧なヘラナデで仕上げている。内面にはろくろびきの痕が残っている。灰白色をし、焼成良好である。石英・白色石の多いこまかい土を用いている。

#### (6) 壺 (Ha48)

疑似須恵器ともいわれる外面に条痕タタキのある壺である。頸部から口縁へ短く外反し、口縁直径は19.0cmある。内面はヘラナデで仕上げるが、口縁近くは横方向、胴部は縦方向である。外面が茶褐色、内面が乳茶褐色で、焼成度は普通である。白色石・長石・石英粒の多い砂質土を用いている。

#### (7) 鉢 (Ha49~Ha55)

いろいろな形態をした鉢がある。Ha49は丸みをおびた胴部から頸部で強く外反して口縁へ移る口縁直径15.5cmの小形浅鉢である。内面は穂がはっきりするほど屈曲している。Ha50は内反して口縁へ移る丸みをおびた口縁直径17cmの浅鉢で、口縁外面はややくぼんでいる。Ha51は底径13.0cmの安定した平底で丸みをもって胴部へ移り、やや外へ開いて立ちあがる。内外とも横ナデ仕上げである。Ha52・Ha53は口縁直径24.0cm、底部直径約20.0cmの安定した平底の深鉢である。口縁は端部が外へ拡張しており、端部は上もややくぼんでいる。Ha54は外へやや開く口縁直径27.0cmの大型深鉢である。口縁端部は細くなつておわり、口縁下部に凹線がある。内面にも2条の浅いくぼみがみられる。Ha55は底径9.0cmの安定した平底で、まっすぐ立ち上がっている。色調はHa49の外面が赤っぽい茶褐色、Ha49の内面、Ha52・H53が乳茶褐色、Ha50・Ha51・Ha54が茶褐色、Ha55が黒斑のある乳灰色である。Ha54の外表面には赤みがかった茶色の化粧土が塗布してある。焼成度は良くないのが多く、特にHa52・Ha53・Ha55は悪い。Ha51を除きほとんどが磨耗しており、調整痕がはっきりしない。胎土は石英・白色石・茶色石・長石などのこまかい石を含んだ砂質土だが、Ha52・Ha53・Ha55は精製された緻密な土を用いている。

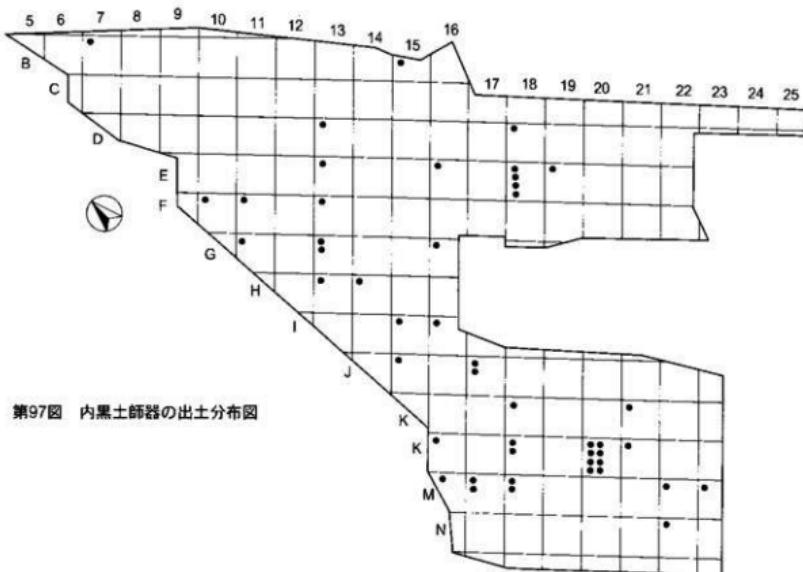
#### (8) 把手 (Ha56~Ha58)

土鍋の把手と思われるものが3点出ている。棒状のもの (Ha56)、平板状のもの (Ha57)、平板角状のもの (Ha58) がある。Ha56・Ha58は淡(乳)茶褐色、Ha57は上面が茶褐色、下面が黒褐色である。Ha57は焼成度が良い。いずれも白色石・石英・長石・茶色石などのこまかい石を多く含む砂質土を用いている。

### 2) 内黒土器 (第98図)

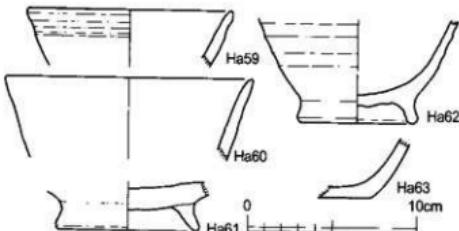
50点の破片が出ており椀 (Ha59~Ha63) と壺 (Ha63) がある。

椀は外へ開きながらまっすぐ口縁へ向かい高台が付く。口縁直径が12.0cmのものと、14.5cmのものとがある。高台直径は8.5cmと7.0cmのものがあり、Ha61は高台の縫ぎ目が一部に残っている。Ha62はやや丸みをもっており、底部の外側は同心円状のこぼこがある。内面はヘラミガキ、外面は



第97図 内黒土器の出土分布図

ヘラの横ナデで仕上げており、外面は灰白色・淡茶褐色・乳灰白色を呈し、内面はにぶい黒色を呈する。焼成度は普通で、石英・白色石などのこまかい石を多く含む精製砂質土を用いている。壺の底は安定した平底で、内面は光沢ある黒色を呈している。



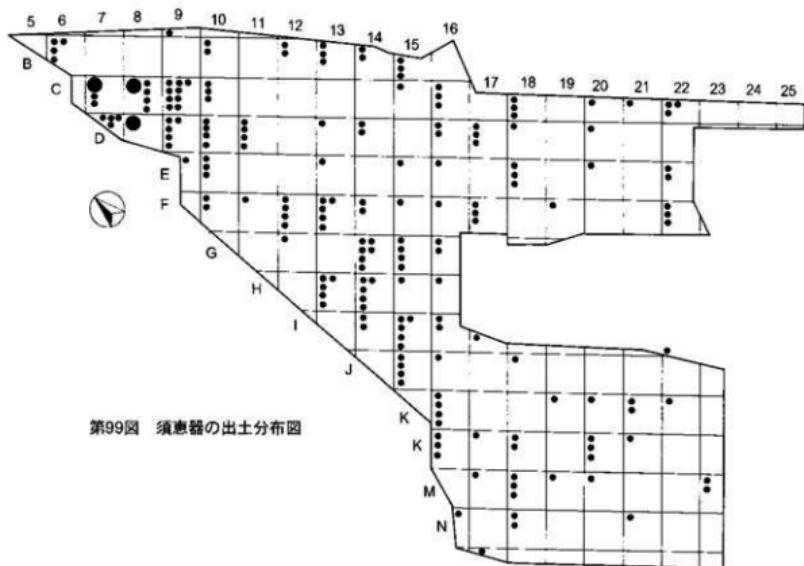
第98図 内黒土器

### 3) 須恵器（第100, 101図）

須恵器破片が213点あり、その広がりは第99図のとおりであるが、6～10-B～F区と、13～16-F～L区の2か所に集中している感がある。この地域は掘立柱建物跡があり、古道が続いている場所であり、そうした遺構とのつながりが考えられる。器種には壺蓋・壺身・腕・壺・鉢・甌・甕がある。

#### (1) 壺蓋 (Su 3～Su 5)

壺蓋は17点出土している。Su 1は口縁直径が15.0cm、高さが1.5cmあり、天井はやや中央が下がっている。つまみの装着部ではずれており、口縁端部はまっすぐ外へ開きながらのびている。Su 4は口縁直径が13.7cm、高さが0.7cmと低いもので、口縁端部は内側が段となって外へ広がり、ややふくらんでいる。Su 5は嘴状を呈する口縁端部をもち、7C区V層のものと同一と思われる。共



第99図 須恵器の出土分布図

に灰褐色あるいは灰色を呈しているが、Su3・Su4は天井部に自然灰釉がかかり、内面は紫がかつた色を呈している。白色石の多い土を用い、Su5はやや軟質に焼けている。Su3の内面には繊維状ハケナデの痕跡があり、ツルツルしている。

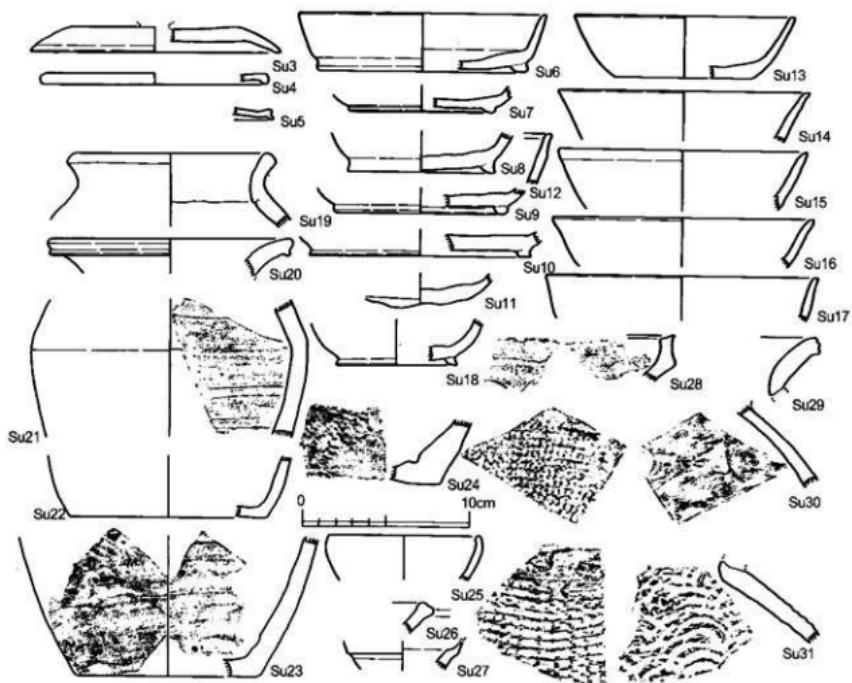
### (2) 壕身 (Su6～Su17)

壺身は41点出土しており、高台の付くものと平底のものがある。Su6は口縁直径15.0cm、高さが3.5cm、高台直径が12.5cmあり、高台は丸みをおびている。底部は丸みをおびてくぼんでいる。

高台直径は8.8cm～13.2cmと大小あり、端部の形態も矩形を呈するもの、外へふんばる三角形を呈するもの、台形状を呈するものなど多種ある。いずれも取り付けられている。Su13は口縁直径が13.2cm、高さが3.7cm、底部直径が8.0cmあり、底部は平たいが端部がやや磨滅している。他の口縁部直径は15.0cm～16.0cmと似た大きさだが、外へ開きながらまっすぐのびるものと、端部近くが丸みをもってやや外反するものがある。Su11はでこぼこの目立つ底部で内側の一部が磨滅している。灰色あるいは灰褐色・灰白色を呈しており、Su7・Su10・Su13・Su14・Su17の外面はやや暗い色を呈する。Su14の内側には火だすきの痕跡がみられる。Su13の中央部は紫がかかっている。Su7・Su13～Su15は良く焼けているが他は軟質で、Su6のように磨滅の目立つものもある。

### (3) 梗 (Su18)

Su18は直径7.2cmの貼付高台のつく梗で、疊付部分がややくぼんで丸みをもって立ちあがる。灰褐色を呈し、焼成良好である。石英・白色石・黒色石などのこまかい土を用い、内面に自然釉がかっている。



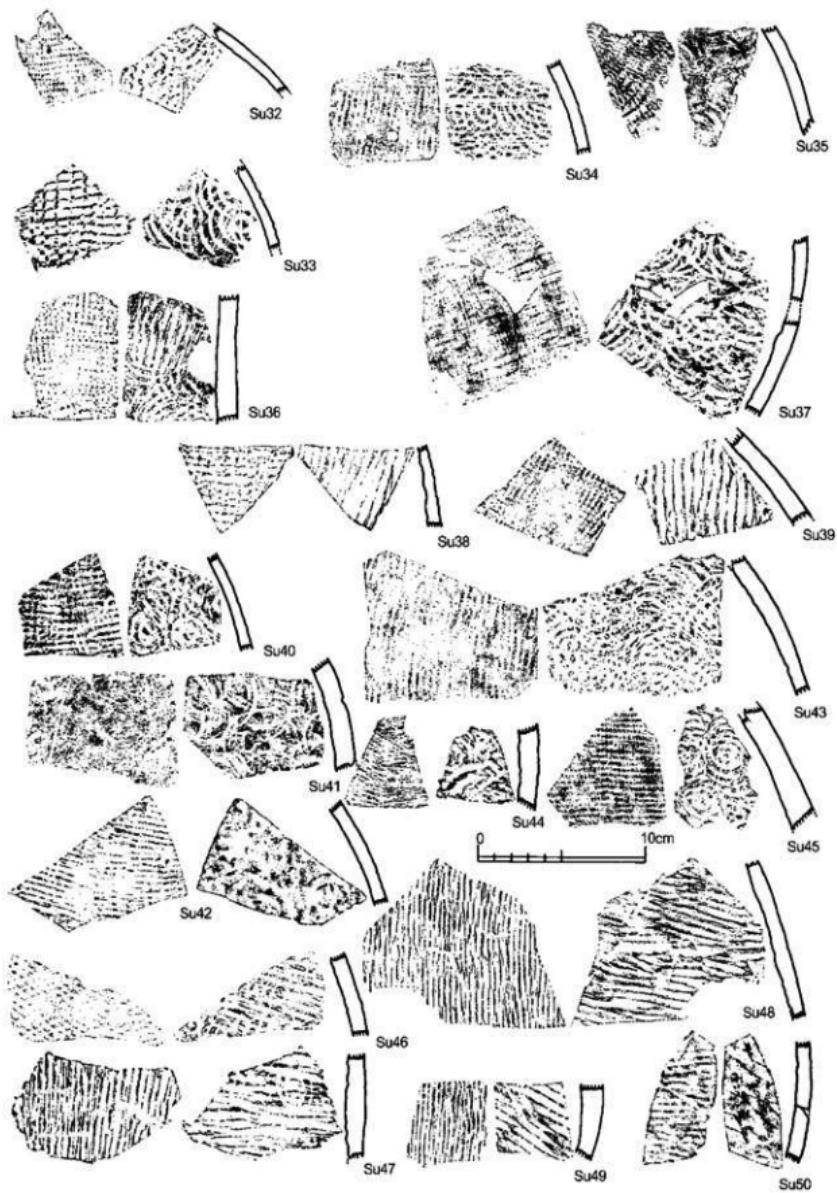
第100図 須恵器1

#### (4) 壺 (Su19~Su24)

壺は口縁部はくの字状に曲がって端部が丸みをおびるものと、強く外へ曲がり端部近くで外へ小さい帯が付く二重口縁となるものがある。最大径（直径16.5cm）は上半部にあり底部へまっすぐおれる。Su21は灰褐色を呈し外にはきれいな自然灰釉がかかっている。白色石・黒色石などのこまかい石を多く含む土であり、内面の一部ににかわ状のものが付いている。底は安定した平底で、直径は11.0cm～12.0cmある。外面は条痕あるいは浅い格子タタキの痕がみられ、そのあとナデている。Su24の内面はでこぼこが目立つ。灰白色・灰褐色・茶がかかった灰褐色あるいは紫がかかった灰褐色を呈し、Su20には緑色の自然釉がかかっている。焼成度はSu23が悪くて土師質を呈しているが、他は良い。

#### (5) 鉢 (Su25・Su26)

Su25は口縁直径が9.0cmと小型であるが、口縁が内弯し、鉄鉢形を呈している。Su26は外へ開きながらまっすぐのび、端部が内部へ拡張している。



第101図 須恵器 2

#### (6) 魚 (Su27)

Su27は魚の縁部である。外面は陵をもって外へまっすぐのび、内面も段をもって立ち上がる。焼成良好で、表面は灰色だが、内部は青紫灰色を呈する。

#### (7) 鰐 (Su28～Su48)

甕の口縁部は外へ広がり、そこで屈曲し立ち上がるものと、外へ強く外反し端部に2条の浅いくぼみのみられるものがある。Su28の立ち上がりは外面がくぼみ屈曲部は凹線が巡る。端部はややくぼみ、やや内側が下がる。外面にヘラ描き鋸歯文がみられる。口縁部と肩部は貼り付けによって作られる。外面のタタキには正方形あるいは長方形の格子と条痕のものがある。内面には同心円文タタキと条痕タタキがある。Su42は車輪文タタキで、Su30もその可能性がある。

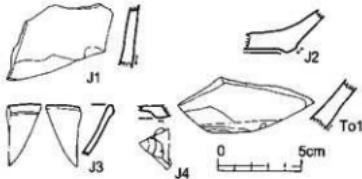
Su41は内面に同心円タタキが見られるが、外面はヘラナデとなる擬似須恵器である。茶褐色（内側はやや赤っぽい）を呈し、土師器風の軟質に焼けている。

### 4) 磁器（第102図）

青磁2点、白磁1点が出土している。

#### (1) 青磁

J1・J2は越窯青磁碗である。J1は胴部下半部、J2は底部近くから低い高台部分にかけての破片である。高台は低く、疊付部がとがった台形状を呈している。底部と高台の境付近に浅い沈線がみられる。外面の胴部下半から底部にかけては露胎になっているが、そのほかには黄みがかった緑色釉がかかっている。内は灰色を呈しているが、J1の露胎部は赤みがかった茶褐色を呈している。J1が11D区、J2が21L区で出土した。



第102図 古代の陶磁器

#### (2) 白磁

J3は荊窯白磁碗である。やや内反ぎみにまっすぐ立ち上がり口縁端部は小さい玉縁状となる。クリーム色がかった白色の磁胎にごった白色の釉がかかっている。16L区で出土した。

### 5) 陶器（第102図）

To1は瀬戸焼大碗の体部下半である。こまかい土を使用しており、焼成は良く堅い。灰色土に内外ともに灰釉がかかっているが、外面の体部下半は露胎で茶褐色を呈している。内外ともきれいに釉がかかっているが、外には厚い所と薄い所があり、内面には一部釉切れがみられる。内外とも丁寧なヘラ横ナデで仕上げている。15D区VI層で出土した。

## 第6節 中世

### 1. 遺構

#### 1) 概要

中世のものも時期のはつきりしたもののがほとんどないが、土坑1基、溝1条がある。

#### 2) 土坑

##### 1号土坑（「干迫I」第39図）

9D区にある長径4.2m、短径2.7m、深さ0.52mの楕円形をした土坑である。埋土中から土師器甕3・土師器壺9（うち1点は糸切底）、備前焼撞鉢1・成川式土器1・縄文土器などが出土している。撞鉢は口縁付近で、口縁下外側にやや上向きの突起が付いている。表面は青っぽい茶褐色を呈し、中央は赤っぽい茶褐色である。内面に下からかきあげたかき目がみられる。3mm大までの白色石・赤色石を多く含み、焼成は堅致である。16世紀頃のものかと考えられる。

#### 3) 溝状遺構（第90図）

7A区から7B・8B・8C・9B・9C・9D・10C・10D・10E・11D・11E・12E・12F・12G・13F・13G・13H・14H・14I・15I・15J・16J・16K・17K・18K・18L・19L・19M・20M区へ続く上幅80.0cm～160.0cm、下幅20～30cm、深さ60～120cmほどのV字溝である。埋土は数層に分かれ、7B区では上からバミス・鉄分・黒色粘土まじりの砂質土、黒色粘土と灰白色砂のまざり土、鉄分・灰白色砂まじりの灰褐色粘土質土、灰褐色粘土のまざった砂質土となっている。17K区では上から黒色粘土まじりの暗灰褐色砂質土、茶褐色砂質土と灰褐色粘土質土の互層、緑がかった暗灰褐色砂質土となる。底は水が湧くほどのレベルになっている。中には多くの縄文土器とともに土師器壺16・土師器甕2・土師器高杯1(Ha26)・須恵器壺蓋1・須恵器甕1・東播系須恵器こね鉢2・備前焼甕1・天目茶碗1があるが、溝の年代を示すのは東播系須恵器・備前焼・天目茶碗の4点のみと少ない。

こね鉢は口縁直径が24.5cmあり、内面は使用によって磨滅が目立つ。灰褐色をしているが、口縁の肥厚部外面は黒っぽくなっている。白っぽい細織を多く含む砂質の胎土を用い、焼成は普通である。これは9C区の溝内の破片と8C区Ⅲ層のものとが接合している。Ha24は9C区で出土した壺で、口縁直径が13.0cm、高さが3.8cmある。内外とも丁寧なろくろびき調整で、底はヘラ切り離しのあと周辺を丁寧にナデており、ヘラ様の圧痕がみられる。白色石・長石など4mm大までの小石も含む砂質胎土で、焼成良好であるが磨滅が目立つ。淡茶褐色を呈している。Ha26は18K区で出土した土師器高杯で、脚部は外へ開いている。壺部と脚部とは接合している。乳白色を呈し、焼成度は良いが磨滅している。茶色粘土を含む精製土を用いている。

### 2. 遺物

#### 1) 土師器（第103図）

土師器には皿・壺・碗・火舎がある。

皿は小形のもので、Ha64は口縁直径7.3cm、高さ1.0cm、底部直径6.2cm、Ha60は底部直径5.0cmで

ある。ともに糸切り離しで、器厚は厚いものと、薄いものがある。淡茶褐色あるいは乳茶褐色を呈し、焼成度は普通である。白色石・石英・茶色石などの細石の多いこまかい土を用いている。

壺 (Ha66) は底部直径が7.0cmでややあげ底となり、糸切り離しである。茶褐色を呈し、焼成度は良い。石英・白色石などを含む砂質土を用いている。

椀 (Ha67) は充実高台の底で直径が5.0cmある。糸切り離しで明茶褐色を呈する。4.0mm大の小石もあるが精製土を用い、焼成度は普通である。

火舎 (Ha68) は2段の半円形突帯の間に格子状文のあるもので乳白色を呈する。こまかい石を含む精製土を用い、焼成度は普通である。

## 2) 須恵器・陶器 (第104図)

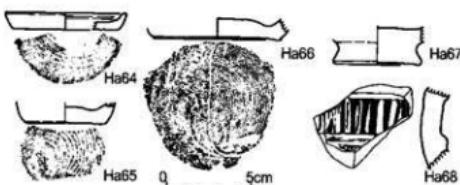
多種の須恵器・陶器があり、その中には生産地のはっきりしないものもある。なお樺万丈窯やカミヤキ、東播系のものは須恵器と思われるが、ここでは遺物番号には陶器と同じToを付した。

To 2・To 3 は外面が格子タタキ、内面がヘラ横方向ナデで仕上げられる須恵器壺の破片である。淡い灰褐色を呈し、To 2 は軟質であるが、To 3 は焼成良好である。白色石・石英・雲母などのこまかい石を含んでいる。熊本県荒尾市樺万丈窯産である。

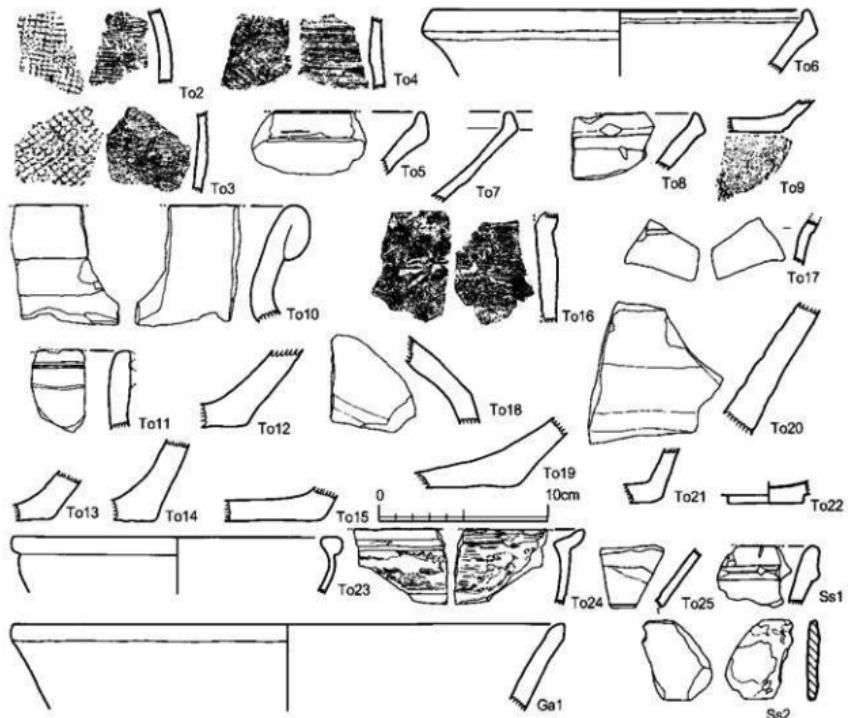
To 4 は外面が条痕タタキの痕をヘラで丁寧に磨り消され、内面が深い正格子タタキのあとをヘラで横ナデした壺の破片である。表面は暗灰褐色を呈しているが、内面は茶褐色を呈し、焼成度は良い。白色の微石が多いこまかい胎土である。徳之島カミヤキ産と思われる。

To 5～To 9 は安定した平らな底から外へまっすぐ開きながら口縁端が内側へ直に立ち上がるこね鉢である。口唇部は使用によってすりへっており、To 7 は重ね焼きの痕跡が口縁部にみられる。To 6 の口縁部直径は21.0cmある。内外ともヘラによる横ナデで仕上げ、口縁内面はくぼみ、外面は段のあるものがある。底の切り離しは糸切りで、端部はナデ消している。淡い灰褐色を呈しているが、口縁部付近は黒灰色をしており、To 7 などは釉がかかったようになっている。To 5・To 6・To 8・To 9 は焼きが甘く軟質であるが、To 7 は良好で堅い。To 6 は焼きひずみの痕がみられる。白色石・石英・黒色石・茶色石などのこまかい石粒が多い。兵庫県神戸市周辺の窯で焼かれたものである。

To 10～To 12・To 14・To 15 は壺、To 13 は壺である。壺の口縁部は端部を折り曲げて二重にし厚くしている。頸部から外へ強く曲がっている。To 11 は口縁部が二段になっているようで、間に沈線がみられる。底部は壺・壺とも安定した平底である。内面・外面ともヘラによって横方向にナデしている。To 12 の底には焼成時に窯道具の置かれた痕跡がある。口縁付近は灰釉がかかり黄緑っぽい茶褐色を呈する。底部付近は灰褐色あるいは赤みがかかった灰褐色、紫がかかった灰褐色を呈しているが、内面に胡麻釉のかかったものもある。焼成は良好で堅い。白色石・茶色石・黄色石などの小石を多



第103図 中世の土器



第104図 陶器ほか

く含んでいるが、その中には3mm大、あるいは5mm大のものもある。これらは備前焼である。

To16は外面に放射状タタキのある甕である。頸部は削って段を作っている。内面はヘラの横ナデで仕上げている。外面が光沢のある、内面が淡い灰褐色を呈し、内面の一部に自然灰釉がみられる。3mm大ほどの礫も含まれる白色石・石英などのこまかい土を用い、焼成は良く堅い。愛知県渥美焼かと思われる。

To17は口縁端が欠けているが、口縁下部を削って段を作った瓶子の口縁部である。内外面とも横びきのナデ整形で仕上げている。灰白色を呈し、一部に自然灰釉がかかっている。白色石・石英などのこまかい土を用いており、焼成良好である。愛知県瀬戸焼かと思われる。

To18は外面に緑色の自然灰釉がかった大甕の肩部である。内面は茶がかった灰褐色を呈している。内外ともヘラナデで仕上げている。白色石・石英などの小石粒の多い土であるが、3mm大ほどのものも含まれる。

To19は安定した平底の甕である。内面が斜め方向の丁寧なナデ、外面が横ナデで仕上げているが、底部付近の磨耗はひどい。内面が赤みがかった茶褐色、外面が淡い茶褐色を呈しており、焼成良好

である。茶色・白色・黒色など3mm大ほどの小石を多く含んだ粗い土を用いている。

To20はこね鉢の底部近くである。内面は横方向のナデだが凹凸が目立つ。外面は縦方向のナデ仕上げで、部分的に条痕タキが残っている。内面がやや赤みがかった茶褐色、外面が明るい茶褐色を呈するが、外面の上部には黒っぽい釉がかかっている。焼成度は良好で、石英・白色石・茶色石などの小粒の石を多く含んでいる。

To21・To23・To24は中国製陶器と思われる。To21は壺の底部で外面はていねいな横ナデ、底は粗い横ナデで仕上げ、底部近くはすりへって稜をなしている。茶褐色を呈しているが、内面には部分的にあめ釉がかかっている。胎土はこまかく焼成良好である。To23は口縁直径19.5cmある鉢の口縁部である。端部は玉縁状となり、器厚は薄い。丸みをおびて底部へ移る。細かい砂粒が多く含まれ、その砂粒が表面に多く露出している。部分的には茶褐色の釉がかかっている。To24は口縁が内外に張り出す灰釉深鉢であるが、二次焼成を受けて多くの釉が溶けている。外面の下部は露胎となる。内外とも横ナデで仕上げている。灰色を呈し、やわらかい軟質の焼きである。

To22・To25は天目茶碗である。To22は直に切って高台とした底部で、底部切り離しはヘラ切りである。内面は黒色釉（中央は茶色釉）であるが、外面は露胎となっている。赤色石・石英などの小石も少量あるが、割とこまかい。To25は底部近くの破片で茶褐色の釉がかかっている。外面下部は露胎で、こまかい灰白色土である。

### 3) 石製品（第104図）

滑石製品が2点ある。Ss1は灰色をした石鍋の口縁部で、口縁の少し下に断面三角形のつばが巡っている。外が縦方向、内が縦あるいは右下がりのケズリで仕上げている。Ss2は薄い石鍋の破片の上下を磨いて板状にしたもので、内外ともにススが付着している。外面は剥離が目立つ。

### 4) 瓦器（第104図）

Ga1は口縁直径32.5cmのこね鉢である。淡い灰褐色を呈し、外にはススが付着している。軟質で磨耗がひどく、内外とも調整痕は不明である。1cm大の小石もあるがわりとこまかい石英の多い胎土である。

### 5) 磁器（第105、106図）

#### (1) 青磁

51点の青磁が出土しており、産地・器種・器形などから13類に分かれられる。

##### ① 1類 (J5～J9・J12)

同安窯系青磁である。J5は口縁直径15.0cmの口縁部が丸く收まる碗で、外面に縦方向の櫛描き文がみられる。胎色は灰色で、青っぽい緑色を呈している。貫入がみられる。J6～J9、J12は皿で、J12は稜花皿である。胎色はいずれも灰色である。

J6は外へまっすぐのびる口縁で内面は屈曲して底へ移る。J7・J8は体部で、内面に櫛描き文がみられる。J9は安定した平底で、内面にジグザグの櫛描き文があり、底部は露胎となる。J6は黄みがかった緑色、J7・J8は灰緑色、J9は澄んだ緑色を呈している。J12は内面にヘラ描きがみ

られ、外反した口縁部である。黄みがかった緑色を呈している。

#### ②2類 (J10・J11・J13・J14)

口縁が外へ開き、やや外反する無文の青磁碗で、口縁直径が14.0～18.0cmある。外面にやや浅い凹線のあるものがある。底は部厚く、外底部は露胎となっており、内底部にヘラ描きの蓮花文がある。胎色は灰色で、J10・J11・J13が緑灰色、J14が明るい緑色を呈し、J13には貫入がみられる。

#### ③3類 (J15～J22)

外面に蓮花文のある碗 (J15～J17, J19～J22) と坏 (J18) である。蓮花文は錦蓮弁のもの (J15～J18・J22)、線描きのもの (J19～J21) がある。錦蓮弁のものにははっきりと蓮弁を表したものと、幅の狭いもの (J17・J18) とがある。J18の内面にはくぼみで蓮花文を表現している。碗の口縁直径は14.0～18.0cm、坏の口縁直径は9.5cmある。高台直径は5.5cmで断面が矩形を呈し、高台内は無釉である。

内底部には2本の圓線で囲まれた蓮花文がある。釉は厚くかかっている。線描きのものは太い線描きで先端部がはっきり結ばれたものと、やや離れたもの (J20) とがある。口縁直径は14.0cmのものと18.0cmのものとがある。胎色はJ16・J17が白灰色、J18が灰白色で、他は灰色である。J15はうすい釉で灰緑色、J16・J17は明緑色、J18・J20は青っぽい緑色、J19・J21・J22は暗緑色を呈している。

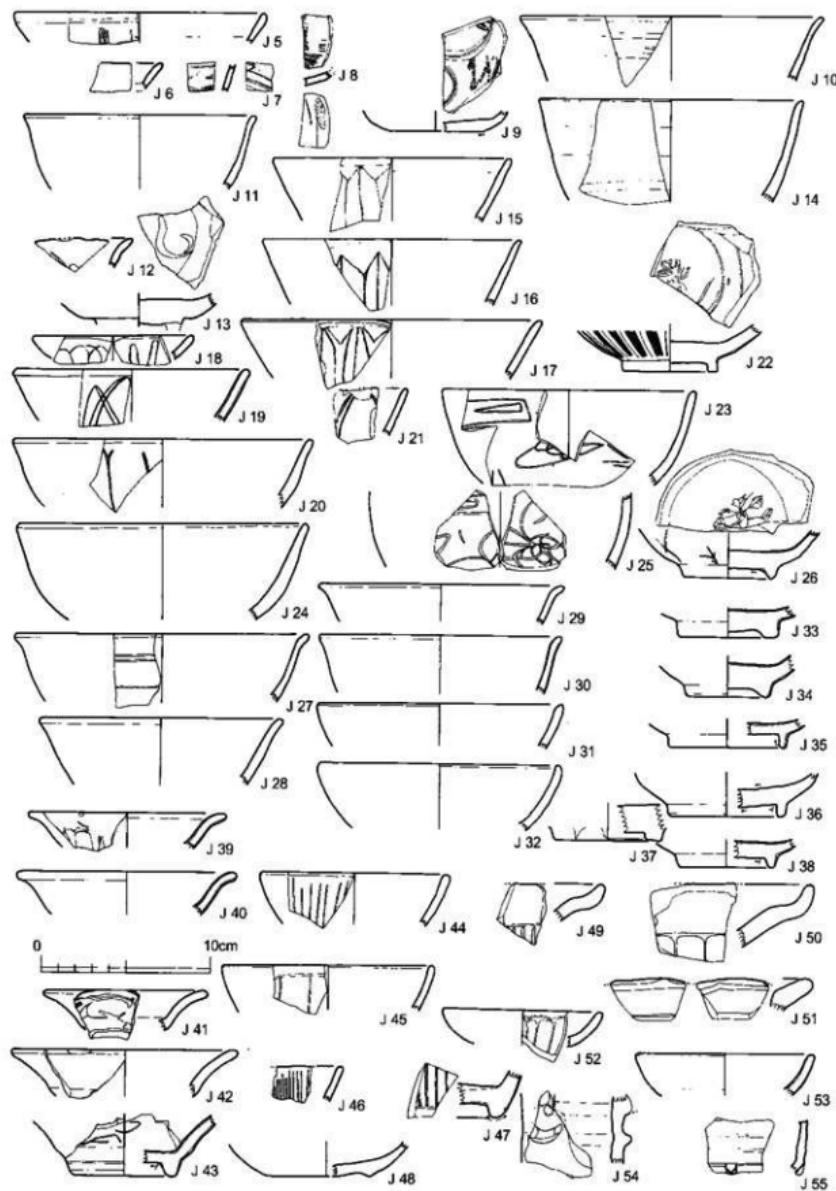
#### ④4類 (J23・J25・J26)

口縁下に雷文のある碗である。口縁直径は15.0cmで雷文の下には線描き蓮花文がみられる。内面にも蓮花文があり、内底には花文がみられる。外底部は露胎となっている。胎色は灰白色で貫入のある明緑色を呈している。

#### ⑤5類 (J24・J27～J38)

無文の碗で、丸みをもった器形 (J24・J31・J32) と、口縁部が外反する器形 (J27～J30) とがある。丸みをもったものは口縁直径が14.5cmのもの (J31・J32) と、17.0cmのもの (J24) とがあり、J24は口縁がやや外反している。胎色はJ24が灰白色、他が灰色で、J24は淡緑色、J31は緑色、J32は貫入のある青っぽい緑色を呈している。外反するものは口縁直径が14.5cm～17.5cmあり、胎色はJ27・J29が灰色、J28・J30が灰白色である。J27・J29は灰緑色、J28は貫入の多い黄緑色、J30は貫入のある青っぽい緑色を呈している。

高台は断面が台形のものと細い矩形のもの、幅の広い矩形のものとがある。底は薄いものと厚いものがある。釉は高台から内が露胎のもの (J34・J36)、外底部が露胎のもの (J35・J38)、疊付部の一部が露胎のもの (J33)、重ね焼きをし、外底・内底がドーナツ状に露胎となるもの (J37) がある。胎色はJ33が灰白色・J38が白灰色で、他は灰色である。釉色はJ33が貫入の多い青っぽい緑色、J34・J36・J37が暗緑色、J35・J38が明緑色である。



第105図 青磁

#### ⑥ 6類 (J39・J40)

外反する杯で、J39はくぼみで表現した蓮弁がある。口縁直径は12.0cmのものと13.0cmのものがある。J39が灰白色、J40が白灰色の胎色で、釉色はJ39が澄んだ緑色、J40が明緑色である。

#### ⑦ 7類 (J41～J43)

口縁直径が10.0cmあるいは13.5cmの稜花皿で、J41は内面にヘラ描き花文、J43は内外にヘラ描き花文がみられる。J41は口唇部が摩滅して釉が剥離しており、J42は2次的に火を受けて釉が溶けている。J43の外底部は露胎である。胎色はJ41・J42が灰色、J43が灰白色である。釉色はJ41・J42が青っぽい緑色、J43が深い緑色である。

#### ⑧ 8類 (J44～J47)

縦線のみの線描き蓮花文碗である。口縁直径が11.5cmのものと12.5cmのものがある。疊付部は露胎で、底の釉は厚い。胎色はJ44・J47が灰白色、J45・J46が灰色、釉色はJ44が黄みがかった灰緑色、J45が灰緑色、J46が淡緑色、J47が明緑色である。

#### ⑨ 9類 (J48)

底径6.0cmのあげ底となる杯である。灰白色の胎色で、貫入の多い青っぽい緑色を呈する。

#### ⑩ 10類 (J49～J51)

盤で、J51は稜花となる。J49・J50は内面にくぼみで蓮弁を表現している。胎色は灰白色だが、J50は赤っぽい茶褐色に焼けている。J49は黄みをおびた淡緑色、J51は青っぽい緑色を呈し、J50は黄色っぽい暗緑色の釉がかかっている。J50はひびが目立つ。

#### ⑪ 11類 (J52・J53)

口縁直径が9.5cmと10.5cmのまりで、J52の内面はくぼみと線描きで蓮弁を表現している。J52が灰色、J53が灰白色の胎色で、ともに青っぽい緑色を呈する。

#### ⑫ 12類 (J54)

直径6.0cmほどの細頸壺である。環状となる把手が付いた澄んだ緑色を呈し胎色は灰色である。

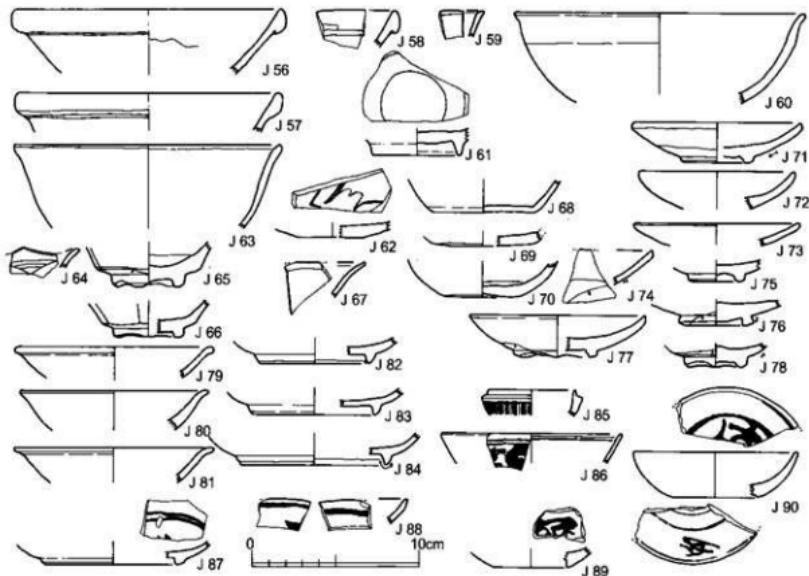
#### ⑬ 13類 (J55)

三角状の低い脚のついた香炉である。内面は横ナデで調整し、下は露胎だが上の一部に厚い釉がかかっている。外はでこぼこしており、青っぽい緑色の釉がかかっている。胎色は灰白色である。

### (2) 白磁 (第106図)

白磁は口縁部の形態等から碗と杯に分けた。

#### ① 碗 1類



第106図 白磁・青白磁・染付

小さな玉縁状口縁をもつもので、白色の地に透明な釉がかかっている。底部近くは露胎である。16L区Ⅲ層と14H区Ⅳ～V層からそれぞれ1点出土している。

#### ②碗2類

大きな玉縁状口縁をもつもので、玉縁部分の下方は下へやや張り出している。灰色に近い地に青っぽい釉がかかっている。J57は全面に貫入がみられる。12D区表層と16L区・17F区Ⅳ層からそれぞれ1点出土している。

#### ③碗3類

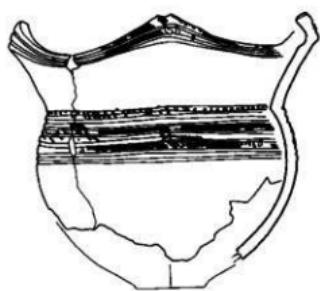
端反り口縁を呈するもので、薄い作りである。淡い灰色の地に青っぽい釉がかかっている。11D区表層から1点出土しているが、同一固体と思われる胴部が21N区表層から出土している。

#### ④碗4類

口縁部近くでやや薄くなつて外反するもので、口縁直径が17.4cmある。灰色の地に透明な釉がかかっており、内外の一部に釉切れがみられる。16N区表層と18N区Ⅲ層から出土した破片が接合され1点となっている。

#### ⑤碗2～4類の胴部・底部

碗2～4類の胴部あるいは底部と思われる破片が12点ある。ほとんどの外面は底部近くで露胎となっているが、疊付部と高台内面の一部を除いて釉がかかっているものもある。重ね焼きの痕跡が内面にあり、輪状に釉がかかっていないものもある。底の内面につる状の文様のあるものが2点ある。地色は灰色で、透明あるいは青っぽい釉がかかっている。



## 第5章 まとめにかえて

### 1 繩文時代の立地

九州島の南部は高地を除いてほぼ全城がシラス台地に覆われ、その間に開析された谷と、その末端に沖積化された狭い平野からなる。そのため縄文時代遺跡の多くはシラス台地上に立地するのが一般的である。ところが干迫遺跡は標高約11~13mと低地にある。早期の土器も若干あるが、住みつくのは前期からである。彼等は沖積化がまだ進んでいない21~23-J~K区付近の砂丘上に居住している。その範囲は狭いが、西北九州・中九州あたりではこの時期に低地への居住がみられるこもあり、今後南九州でもこうした場所への立地を念頭に置いた調査が必要である。

後期中頃になるとこの地に多くの人々が暮らしたことを見物量が教えてくれる。前期から後期にかけて沖積化が進み、微高地がかなりの広さにならざる。遺跡の中央を流れる河川の両側にある微高地全体に集落は広がったようだが、集中豪雨や台風などの大雨のたびに家財道具を流される不幸に見舞われた様子が河川の中に堆積した遺物の状況から推定できる。この河川は一方では木の実のアケ抜き用の場所として利用されたらしい。18~22-F区付近に多く並ぶ土坑がそうした用途のものと考えられる。南九州でも近年こうした低地の縄文遺跡の調査が進んでいる。近くでは隼人町春花田遺跡（後期）がそうであり、古くは出水市沖田岩戸遺跡（晩期）がある。市来式土器の時期における山間部から海岸部への移動は古くから知られていることであるが、鹿児島湾岸における低地への進出はさらにこうした現象を裏付けている。このような低地への進出状況は今後の調査の増加によってさらに増えるであろうが、その理由等についても考えていく必要がある。

### 2. 繩文時代後期の生業

石器の種類を推定される機能で分けると、狩猟具としての石鎌、解体具や採集具としての石匙・スクレイパー、木の実の製粉具としての磨石・敲石・石皿、掘り棒や土堀り具としての打製石斧がある。この他に工具としての磨製石斧・ピエスエスキュー・くさび・石匙・石錐などがある。

市来式土器の時期の遺跡では狩猟具の減少が目立つが、当遺跡では磨石・石皿類と同様に石鎌も大量に出土した。石鎌のなかには大形のもの、加工の粗いものも多くあり、これらは普通の石鎌と形態的に異なる。その用途はイノシシ・シカなどの陸産獣用だけでなく、漁撈具としてのモリに使われた可能性もある。石錐の出土も多い。砂浜を利用した網漁も盛んに行われていたようである。十字形石器・円盤形石器はカキなどの貝採取具としての機能も考えられ、立地からしても海に依存した生業も軽くはなかったであろう。また、間接的ではあるが、舟形輕石製品の存在は舟を利用しての漁撈も予想でき、骨角器の出土がないため想定でしかないが、沖に出ての魚釣り漁も十分に考えられる。

それにしても石皿の数が多い。そして石皿のなかでは、すり面があまり窪まずに平坦なものがほとんどを占める。すり棒として石棒状のものの存在が予測できるが、そうしたものはない。木製品があったのか、磨石が使われたのか今後数量的分析も必要であろう。ドングリピットと思われる河川近くの土坑も木の実採取が主体的生業である可能性を裏付けている。

打製石斧の多さも注目できる。刃部は相当の使い込みがみられ、陸耕の存在をうかがわせる。また、スクレイパーのなかには刃部にカヤ類を摘んだ痕跡のみられるものもあり、これも今後使用痕の分析による栽培種の特定が必要となろう。

このように干迫遺跡の集落を支えた生業は山を対象とした狩猟・採取、海を対象とした漁撈・貝採取に加え、原始的農耕の崩芽もあったらしいことが想像できるのである。

### 3 豊富な土器が語るもの

本遺跡の最大の特色は、何と言っても遺物量の多さにある。特に縄文時代後期の遺物は土器・石器とともに膨大なものがある。工事で破壊された部分の存在や、遺跡 자체が調査区外に伸びていくことを考慮すれば、今回の資料は干迫遺跡の一部の資料ということになり、まさに驚嘆に値する。

中でも、縄文時代後期中頃の南九州を代表する土器型式である市来式土器およびその後出のタイプと考えられる丸尾式土器が圧倒的な量を誇っている。そのことも本遺跡の特色であるが、さらに特筆されるのは、それらの土器型式と併存したであろう九州各地の型式の土器が数多く出土したことである。具体的には磨消繩文系土器の存在である。しかもそれらも數型式にわたり連綿と出土している。このような出土土器の在り方がどのような事実を語っているのか、これから解明していくなければならない大きな課題である。

### 4 古代の道路跡と建物群

調査区の南側および南西隅付近に古代のものと思われる道路と掘立柱建物がある。時期の決め手に欠けるが道路跡は長期に使われており、位置および規模から古代の官道にあたる可能性もある。

掘立柱建物跡 2 棟はほぼ主軸方向が同じであることから同一時期のもので、柱穴内や周辺から出土した土器などから平安時代のものと考えられる。柱の大きさや柱間などは県内における他の古代集落の建物に比べると規模が大きく、まわりに雨落ち溝を有するなど一般の集落とは性格を異にしている。この建物群はさらに南へ続くことが予想されるが、道路跡に隣接して存在することから官道関係の性格が考えられよう。

また数少ない古代の出土品のなかには、越窯青磁・荊窯白磁・墨書き土器・土馬など一般集落にはみられないような特殊なものが含まれている。遺跡が役所的性格をもつてることを示している。そして道路との関係を考慮すればこの建物群が官道関係のものである可能性も示している。西海道は肥後を経由して市来・莫祢・網津・高来・棟野・蒲生を通り国分にある大隅国府へ達するが、この地が蒲生駅と大隅国府を結ぶ線上にあたることからその途中の役所である可能性は大である。蒲生駅は地理学的に、地名学的にみて蒲生町禁中あるいは早馬付近に推定されているが、ここと大隅国府間は姶良町船津を経ていることがわかっている。ここから別府川を越えてどのように進むかははっきりしないが、距離的にみると干迫遺跡はその中間地点にある。蒲生から国分へのルートを考えると、別府川と日本山峠を越えるとほぼ平坦な地形の中で達せられることから、干迫遺跡の南側を道が通る可能性は強いと考えられる。

今後、周辺の地理的・考古学的な調査を行うことによって、より具体的な官道調査が進むことを期待したい。

付篇

同定・分析

## 干迫遺跡の地形環境

森脇 広（鹿児島大学法文学部）

## 1. はじめに

南九州では低地遺跡の発掘は鹿児島大学構内の諸遺跡などいくつか行われているが、あまり多くない。しかし、臨海の沖積低地が更新世末・完新世の海面変化に支配されて、過去2万年の間に急速に変化し形成されたことから考えると、臨海低地の地形環境の変化と人類の活動との関係は他のどの地形変化よりも密接に関係しているといえる。こうした点から、人間活動が周囲の環境変化にどのように影響を受けてきたかを見る上で、低地遺跡とその地形環境の分析は極めて興味深い。

## 2. 低地の地形

干迫遺跡の立地する加治木低地は錦江湾北岸の臨海沖積低地である。ここは、東方の隼人・国分低地、西方の姶良・蒲生低地とともに、姶良カルデラのカルデラ縁に形成されており、臨海低地の中では、特異な地形形成環境下にある。これらの低地の現在の三角州の前置斜面は水深100mに及ぶカルデラ底の近くまで前進し、現在以上の三角州の前進を望むことができないほど、海岸は急激に深くなる。

また、カルデラにかかる地殻変動によるものと考えられる特徴的な痕跡がここには認められる。すなわち、ここは完新世において大きく隆起しており、このため、国分から姶良にかけての沖積低地は顕著に段丘化している。これら段丘化した沖積面は3段に区分され、上位から隼人面、姶良Ⅰ面、姶良Ⅱ面と呼ばれている（図1：森脇他、1986）。最高位の隼人面は、錦江湾北岸・北西岸の低地を広く占め、その高度は15-10mの高さである。干迫遺跡南東の里の小谷底には、約14mの高さに穿孔貝の生痕があり、縄文海進最盛期の縄文早期末の海面は、相対的にこの高さにあったことを示す。

隼人面は、天降川（隼人・国分低地）、網掛川・日本山川（加治木低地）、別府川・思川（姶良低地）によって作られた三角洲が隆起して形成された隆起三角洲である。別府川東側の石原や豊町のある隼人町の海岸側や、帖佐の国道10号線沿いには、現在の海岸に平行に微高地が分布するが、こうした微高地は当時の三角洲の海岸に形成された砂洲地形である。干迫遺跡は日本山川の東側に島状に残った隼人面に立地している。周囲の日本山川に沿った比較的広い低地の面は姶良Ⅱ面である。

加治木の隼人面の分布が示すとおり、この背後は更新世の溶結凝灰岩などからなる基盤岩石の急崖によって境されている。竜門滝などのある内陸の急崖は海進最盛期ごろに海岸侵食によって形成された海食崖である。姶良町帖佐の帖佐中学付近の丘陵下では、当時の海岸に堆積した鬼界アカホヤ火山灰層が直接沖積面上に露出しているのが観察されることから、アカホヤ火山灰降下時の海岸は、現在の沖積低地と基盤山地の境界を縁取るよう存在していたと考えられる（図2）。

このように、この時には国分・加治木・姶良・蒲生の現在の低地はまだ離水しておらず、広く海が奥深く入り込んでいた。これ以後、全国の多くの臨海低地の場合と同様に離水が進行していく。

隼人面が段丘化するのは、干迫遺跡や姶良町の中原遺跡の土器の出土状況からみて縄文後期と考えられる。

姶良Ⅱ面は隼人面の海岸側を縁取るように分布する。標高は5-8mほどである。さらに、この面の海岸側を、2.5-5mの高さで姶良Ⅲ面が縁どる。

#### 引用文献

- 森脇 広・町田 洋・初見祐一・松島義章(1986) 鹿児島湾北岸におけるマグマ水蒸気噴火とこれに影響を与えた縄文海進。 地学雑誌, 95, 94-113.
- 森脇 広(1992) 鹿児島湾沿岸低地の形成とテフラの関係。 平成3年度教育研究学内特別経費研究成果報告書「南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究」(代表 上村俊雄) : 47-49。



図1 加治木・姶良・蒲生の沖積低地・沖積段丘地形  
A: 人工埋立地, B: 姶良Ⅱ面, C: 姶良Ⅰ面,  
D: 隼人面, E: 丘陵・台地。(森脇ほか, 1986)

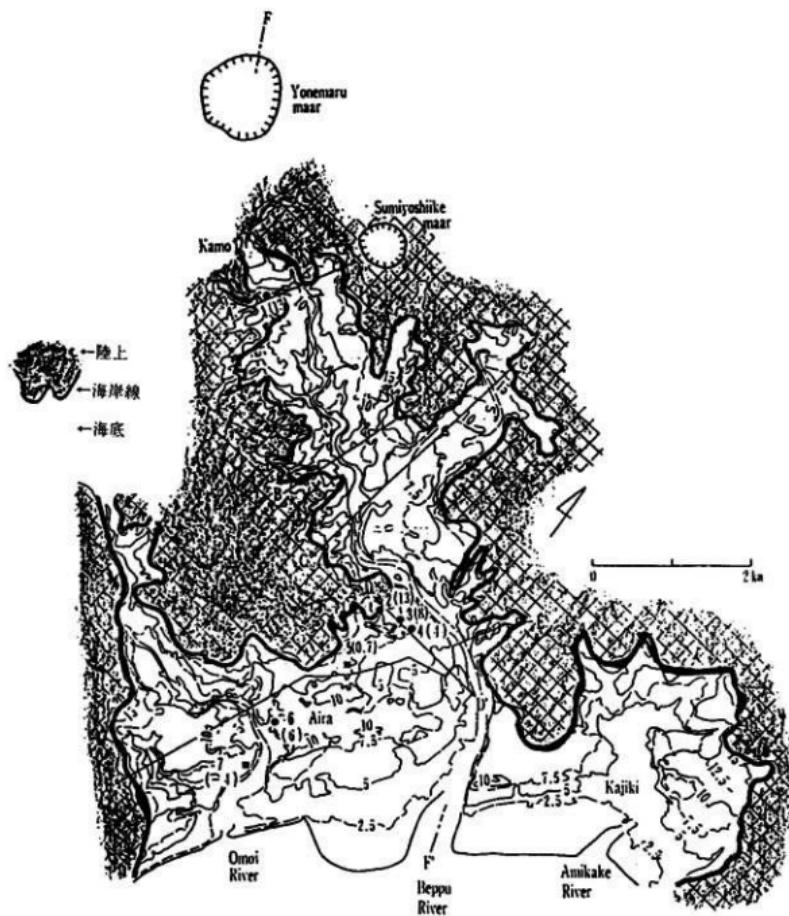


図2 加治木・始良・蒲生地区における鬼界アカホヤ火山灰  
降下時一縄文早期末一の古環境（森脇、1992）

## 鹿児島県干迫遺跡出土の動物遺体

西中川 駿（鹿児島大学農学部）

干迫遺跡は、鹿児島県加治木町日本山字干迫にあり、平成2年9月から平成4年2月末日まで、隼人道路建設に伴って、確認調査、全面調査が、県教育委員会文化課の池畠、前迫、上地の三氏の指導の下に行われ、縄文時代前期後半から後期の土器ならびに中世頃の水路などが出土している。

遺物は約3000箱分が出土しているが、動物遺体は量的には少なく、また、細骨片のために動物種や骨の種類を同定可能なものも少なかった。ここでは哺乳類遺体について、その概要を報告する。

## 1 出土状況と出土量

出土地点は大きく4つに分けられる。即ち、11~16-F・G・H・I区の川跡を中心とした地点(a)、18~21区の川跡および8号、9号住居跡付近のD・E・F区の地点(b)、17・18-N・O区の住居跡群地点(c)および20~23-K・M・O区の地点(d)であり、各地点からはイノシシ、シカを中心とした細骨片が検出されている。出土重量を4地点について示すと、a地点で439.7g、b地点で368.7g、c地点で9.8gおよびd地点で116.6g、不明地点118.9gであり、総計1053.7gである。

## 2 出土動物種と出土骨の形状

## イノシシ（図版の1~3参照）

イノシシは、各地点から出土しており、下顎骨が多くみられるが、肩甲骨、上腕骨、大腿骨などもあり、完形骨は1個もなく、また、焼かれているため骨が歪になり、同定を困難にしている。出土骨から推測されるイノシシは、若い個体であり、中型である。

## シカ（図版の4~8参照）

シカはイノシシ同様に各地点から出土しているが、焼かれており骨の形状の不明なものが多い。中に、角や上腕骨、中手骨、指骨および中足骨などが検出されている。シカの大きさは、特に大きいものではない。

## ウマ（図版の9参照）

13-D区で、ただ1点のウマの歯が出土しており、これは左側下顎の第二後臼歯で、重量が9.7gであり、年齢は13才位で、中型馬のものと推定される。

なお、カードなしの箱からサメの歯1点が出土している。

## 3 考察

干迫遺跡は縄文時代後期、弥生時代中期および古墳時代前期などの土器の出土した遺跡で、また、中世のかんがい用水と考えられる溝状遺構が出土している。しかし、自然遺物の出土した地点は、殆どが縄文時代後期の自然河川跡や、住居跡の近くである。

鹿児島県下では、麦之浦・市来・草野貝塚などで、イノシシ、シカが多く出土しているが、本遺

跡でも同様にイノシシ、シカの遺体が多い。しかし、灰白色、灰褐色を呈する土質によるのか、また、一部焼かれているためか、骨が細片化しており、同定するのに困難を要した。

13-D区で1点の馬の歯の出土がみられたが、この区ではイノシシ、シカなどの出土例はなく、馬歯のみの出土であることから、時期的には古墳時代以降、中世のものと思われる。歯の大きさから中型馬のもので、年齢13才位と推定される。

動物遺体の出土した鹿児島県本土の遺跡は、薩摩半島に多く、大隅半島は数少なく、特に姶良地区は日本山洞穴や平林貝塚など数か所のみで、その出土状況なども明らかにされていない。今回調査を依頼された干迫遺跡は、姶良地区に位置し、この地域の縄文時代後期の人々の生産活動を知る上に、貴重な資料を提供するものと考えられる。

#### 4 まとめ

干迫遺跡出土の動物遺体について調査した。

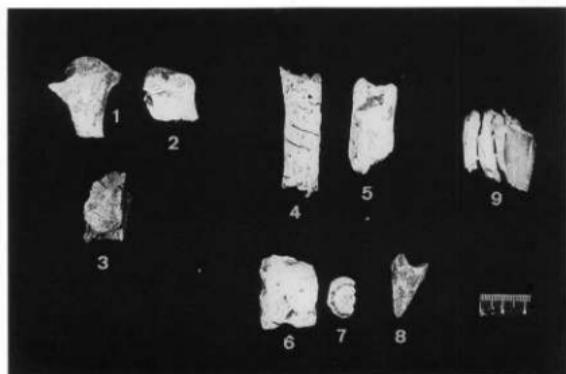
(1) 自然遺物の総重量は、1053.7gで、細骨片のために一部の骨のみについて、動物種を明らかにできた。

(2) 出土動物種は、イノシシ、シカおよびウマで、ウマは第二後臼歯1点のみである。

#### 参考文献

1. 鹿児島県教育委員会：鹿児島市町村別遺跡地名表、P 1～175 (1977)
2. 金子浩昌：縄文時代の狩猟、漁撈、歴史公論、2、67～71 (1979)
3. 西中川駿ら：縄文後期の草野貝塚出土の哺乳類遺体、鹿大農学術報告42、19～21 (1992)
4. 西中川駿ら：鹿児島の縄文、弥生遺跡出土の動物遺体、鹿大農学術報告43、19～24 (1993)

#### 図版



1～3：イノシシ 4～8：シカ 9：ウマ  
1. 下顎骨（左） 2. 下顎骨（右） 3. 下顎骨（左・右） 4. 5. 角 6. 距骨（右）  
7. 中足骨（左） 8. 末節骨（右、第三趾列） 9. 第二後臼歯（左ノ下顎）

## 鹿児島県加治木町干迫遺跡出土石器の使用痕分析

御堂島 正 ((財)かながわ考古学財団)

## 1 はじめに

鹿児島県加治木町干迫遺跡から出土した縄文時代後期中葉市来式～西平式に属する石器9点の使用痕分析を行ったところ、次のような結果を得たので報告する。

## 2 分析方法

使用痕分析の方法は、基本的にキーリーが開発した高倍率法 (Keeley, 1980) によるもので、筆者が行った約600の使用実験に基づいており (御堂島, 1982・1986・1988a・1991a)。微小剥離痕・線状痕・使用痕光沢面 (ポリッシュ) のあり方を中心に、落射照明付金属顕微鏡を用いて100～400倍で観察し、その結果をもとに使用に関する推定を行った。ただし、今回分析した石器は、粗粒な石材が用いられていることと刃部が研磨されていたり、二次加工が施されていたりするため、微小剥離痕の識別は困難であった。そのため、観察は主に線状痕と使用痕光沢面について行うこととした。使用痕光沢面の分類と作業対象物・使用法との関係については、別稿を参照していただきたい (御堂島 1986・1988a)。

観察にあたって、使用痕光沢面の発達程度による分布図を作成した。これは石器の広範囲に使用痕光沢が分布する場合に可能であるが、使用法を推定する上で有効である。発達程度は、石包丁での実践例 (御堂島 1988b) を参考に、強・中・弱に区分してその範囲を実測図に記録した。「強」はAタイプの光沢面が肉眼で確認できる範囲、「中」は100倍程度で識別できるAまたはBタイプの光沢面が相対的に密集している範囲、「弱」は200倍以上で確認できる光沢面が所々に分布する範囲で、B・Hタイプの光沢面が主体をしめるものである。ただし、それぞれの範囲の境界付近では漸的に変化し、明確な境界があるわけではない。

石器は、すでにブラシで水洗されていたものである。使用痕分析に際して観察に支障となる付着物は見られなかったので、エタノールを浸した脱脂綿で手の脂等を除去した以外に試薬を用いた洗浄は行わなかった。

## 3 観察結果と機能の推定

次に観察結果とそれから推定される機能について石器ごとに述べる。なお、石器の部位は、第1図のように置いたときの位置で記述している。

## No.1 (第1図1、写真1-1～3)

砂岩製の磨製石器である。背面側は体部中央付近から下辺にかけて研磨されており、一部風化によるものと思われる表面の剥離が見られる。腹面側は下辺を除いた大部分に鉄分が付着し、使用痕観察を不可能にしている。背面のほぼ全面と腹面側の下辺部に使用痕が認められた。

背面側では、下辺部には光沢面はあまり発達していないが、体部のほぼ全体に「弱」の光沢面が広がっていた。下辺右端の、縁辺から離れた箇所に大きさ・密度ともやや発達した「中」の光

沢面がみられた。光沢面タイプは、表面の滑らかさを欠いているが、Bタイプと考えられるものが主となり、部分的にAタイプの光沢面が認められた。線状痕は主に光沢面上に存在し、下辺に平行するものが主体を占めていた。

腹面側では、縁辺からやや離れた部分に「弱」の光沢面が分布し、その中央付近に「中」の光沢面が認められた。光沢面は表面の滑らかさを欠いたBタイプで、一部Aタイプも認められた。体部は、鉄分の付着のため観察できなかった。線状痕は縁辺に対して平行するものであった。

以上のように、背面・腹面とも下辺には光沢面が未発達であったが、これは刃部再生（研ぎ直し）によって発達した光沢面が除去された結果と考えられる。磨製石包丁にはしばしばみられる現象である（御堂島 1991b）。このことと線状痕の方向を勘案すると、この石器は下辺を使用部位として対象物を切るという作業に用いられたと考えるのが妥当である。対象物は、Bタイプの光沢面が広範囲に形成されていたことから、草本植物と推定される。また、わずかではあるがAタイプの存在とBタイプがAタイプの形成される前段階に生じることを考慮すると、対象物にはイネ科などの珪酸含有量が多い草本植物が含まれていた可能性が高い。

#### No.2 (第1図2, 写真1-4~8)

砂岩製の磨製石器で、縁辺部を中心に広範囲に研磨されている。図のaとbの縁辺付近に使用痕が観察された。

##### aの部分

背面では、aの縁辺の中央部付近に「中」の光沢面が分布し、その外側に山形に「弱」の光沢面の分布が認められた。縁辺右半部では刃縁側には未発達で、むしろ体部側に発達した光沢面が見られた。この未発達な範囲は刃部の研磨面と一致していた。光沢面はA・Bタイプで、線状痕は主に光沢面上に形成されており、縁辺に対して平行方向のものが主体となっていた。

腹面側も同様に「中」の光沢面が縁辺の中央部に分布し、その外側に「弱」の光沢面が体部中央付近まで山形に広がっていた。縁辺中央部は「中」とした範囲の中でも特に発達していて、光沢面の密集度が高い。光沢面はA・Bタイプである。線状痕は光沢面上に認められ、縁辺に対して平行方向のものが主体を占めていた。

以上のように使用痕光沢面の分布が背・腹面ともほぼ同程度であることや、線状痕の方向が縁辺に平行であったことから、aの縁辺を刃部として対象物を切るという作業に使用された石器と考えられる。対象物は、AまたはBタイプの光沢面が広範囲に観察されたことから、イネ科など珪酸含有量が多い草本植物であったと推定される。縁辺に発達した光沢面が見られなかつたのは、石器の刃部再生（研ぎ直し）によって光沢面が除去されてしまった結果と考えられる。

##### bの部分

背面の縁辺左側にやや発達したA・Bタイプの光沢面があり、その外側と縁辺に沿って右方向に「弱」の光沢面分布が広がっていた。線状痕は、光沢面上に縁辺と平行するものが観察された。

腹面側でも縁辺右半部を中心に「中」の光沢面があり、その外側に「弱」の光沢面があった。しかし、背面に比べて光沢面の発達は悪く、「中」とした範囲も狭い。線状痕は、縁辺に平行するものが主体となっていた。

光沢面の分布が背腹面ではほぼ同程度であることと線状痕の方向から、bの縁辺を刃部として対象物を切るという作業に用いられたと考えられる。また、A・Bタイプの光沢面がみられたことから、対象物はイネ科などの珪酸を多く含んだ草本植物であったと推定される。光沢面分布をみると両面とも縁辺の端に偏っているので、bの使用部位は背面左側の欠損部にさらに伸びていた可能性が高い。

以上のように、この石器にはa・b 2箇所の使用部位があり、いずれもイネ科植物などの切断に使用されたと考えられた。bの部分では前述のように欠損部側にも使用部位が連続していた可能性が高い。一方、aは縁辺の中央付近に光沢面が分布しているので、欠損後この状態で使用されたと考えられる。のことからbの使用の後欠損し、aの部位を使用するようになったと推定される。

#### No.3 (第1図3, 写真2-9~11)

流紋岩製。背縁から背面側右側縁にかけて自然面を残している。下辺は二次加工を施して、やや鋭利な縁辺を作っている。下辺から側縁にかけての部分を中心に使用痕が観察された。

背面側では、ほぼ全面に「弱」の光沢面が広がっていたが、No.1・2と比較して未発達の光沢面である。下辺の左半部から左側縁にかけてと下辺右端寄りに「中」の光沢面が認められた。光沢面タイプはB・Hタイプが多いが、一部Aタイプも存在した。線状痕の方向は縁辺に対して平行が主体を占めていたが、右端寄りの「中」の光沢面部分では直交する線状痕も比較的多数みられた(写真2-10)。

腹面側は、背面側に比べて光沢面の発達が悪く、下辺から右側縁にかけて「弱」の光沢面が縁辺に沿って形成されていたのみであった。光沢面は小さいが、B・Hタイプとみられる。線状痕の方向は、縁辺に平行のものが比較的多く観察された。

以上のように、背・腹面では光沢面の発達が異なるが、線状痕の方向と光沢面の分布状態からみて、背面側といえば下辺の左半部から左側縁の下半部を用いて、対象物を切るという作業に使用されたと推定される。背面側右端寄りにのみやや発達した「中」の光沢面が分布する原因については不明である。

対象物は、光沢面が石器の広範囲に分布し、一部ではあるがAタイプと認められたこととBタイプがAタイプの発達する前段階に形成されることを考慮すると、イネ科など珪酸含有量が多い草本植物と推定される。

#### No.4 (第1図4, 写真2-12~14)

流紋岩製。背面には自然面が残り、下辺は背・腹面とも研磨されている。下辺の中央部付近と体部に使用痕が確認された。

背面では、縁辺の狭い範囲と若干の光沢面が存在しない部分を挟んで体部のほぼ全体に「弱」の光沢面が広がっていた。縁辺よりも体部側により発達した光沢面が残っていた。光沢面はB・Hタイプである。線状痕は縁辺に対して斜め方向もあるが、平行するものが主体を占めていた。

腹面側では、縁辺の狭い範囲と体部左端部にやまとまって「弱」の光沢面がみられた。それ以外の場所にも点々と弱い光沢面が散在している。Hタイプと若干のBタイプの光沢面からなり、平

行方向の線状痕がみられた。

背面では縁辺に光沢面が未発達で、体部により発達していたが、これも縁辺の研磨と関係すると思われる。おそらく、刃部の研磨によって発達した光沢面が除去されてしまい、研磨後の使用によって縁辺にわずかに光沢面が形成されたと考えられる。また、No.3同様、腹面側には光沢面が未発達であったが、原因は不明である。操作法に関係するかも知れない。

線状痕の方向と縁辺の光沢面が研磨で除去された可能性を考えると、この石器は下辺の中央部付近で対象物を切るという作業に用いられたと推定される。対象物はBタイプの光沢面が広範囲にみられることから、草本植物と推定される。

#### No.5～9（第1図5～9、写真2-15・16）

いずれも流紋岩製の剥片からなる石器である。石器体部の広い範囲に、使用痕の可能性がある微細な光沢面が点在していたが、石材本来の光沢部との区別がはっきりせず、使用痕光沢と断定するには至らなかった。

#### 4 まとめ

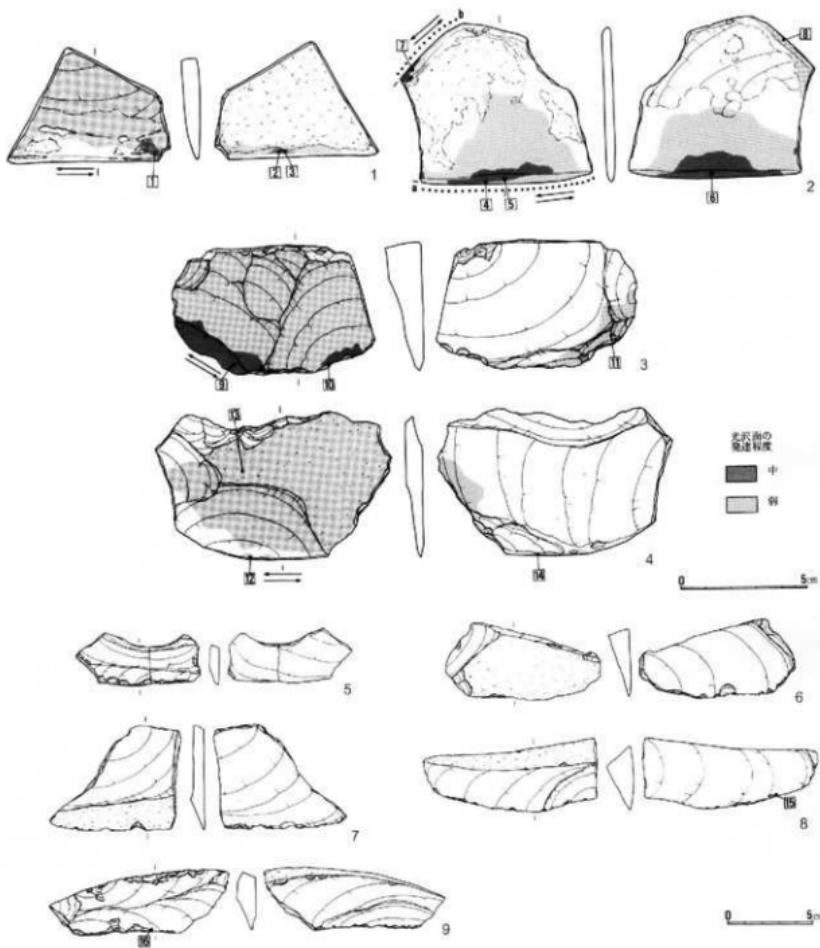
干迫遺跡から出土した縄文時代後期の石器9点の使用痕分析を行ったところ、そのうち4点には使用痕が確認された。分析の結果、それらはいずれも草本植物を切るという作業に用いられたと推定された。No.1・2・3はイネ科など珪酸分の多い植物が対象物であったと考えられ、No.4もAタイプの光沢面が形成される前段階の状態という可能性がある。また、No.2については、2箇所の使用部位があり、石器の破損の前後に部位を違えて使用されたと考えられた。

なお、石器の実測は浅野由美子さん、写真の現像・焼付けは吉野まゆみさんによるものである。記して謝意を表す次第である。

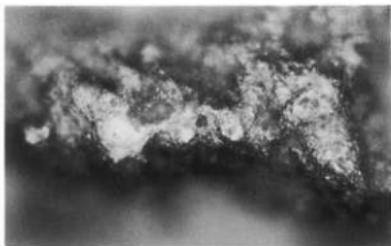
(1996年3月27日)

#### 引用文献

- 御堂島 正 1982 「エッジ・ダメージの形成に関する実験的研究－変数としての刃角－」中部高地の考古学2, 66-98頁  
1986 「黒曜石製石器の使用痕－ポリッシュに関する実験的研究－」神奈川考古22, 51-77頁  
1988 a 「使用痕と石材－チャート・サスカイト・凝灰岩に形成されるポリッシュ－」考古学雑誌74(2), 1-28頁  
1988 b 「抉入打製石包丁の使用痕分析」古代文化41-6, 19-27頁  
1991 a 「石鎚と有舌尖頭器の衝撃剥離」古代92, 26-35頁  
1991 b 「磨製石包丁の使用痕分析」古代文化43-11, 26-35頁  
Keeley,L.H 1980 *Experimental Determination of Stone Tool Uses: A Micro Wear Analysis.*  
The University of Chicago Press.



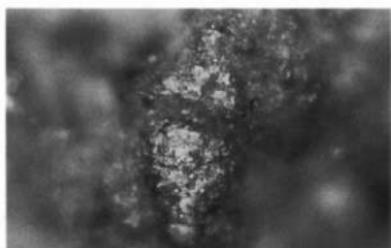
第1図 分析した石器と光沢面の分布  
(矢印は使用方向、囲み数字は掲載写真撮影箇所)



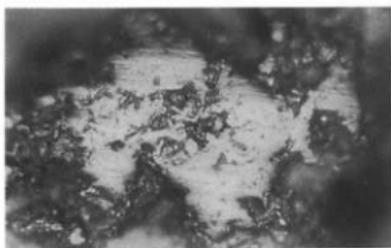
1 No. 1 光沢面



2 No. 1 線状痕と光沢面



3 No. 1 線状痕と光沢面



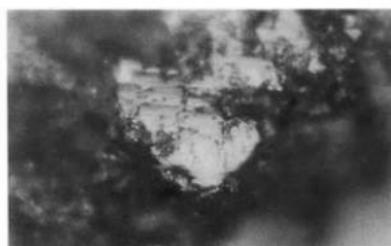
4 No. 2 線状痕と光沢面



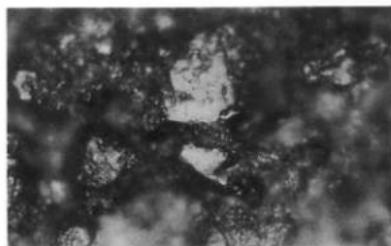
5 No. 2 線状痕と光沢面



6 No. 2 線状痕と光沢面



7 No. 2 線状痕と光沢面



8 No. 2 線状痕と光沢面

写真1 石器の顕微鏡写真 (天方向が縁辺)

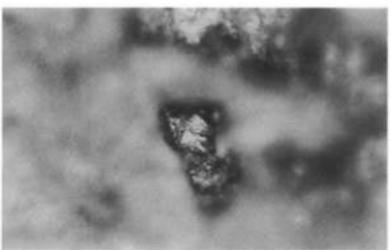
50 μm



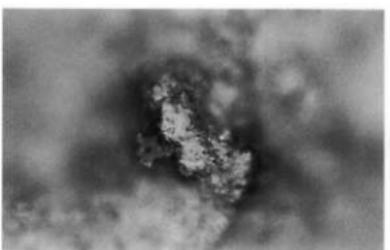
9 No. 3 光沢面



10 No. 3 線状痕と光沢面



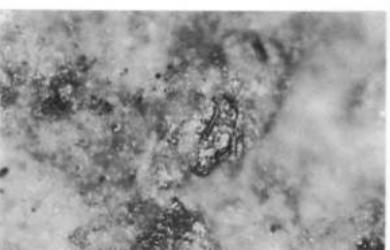
11 No. 3 光沢面



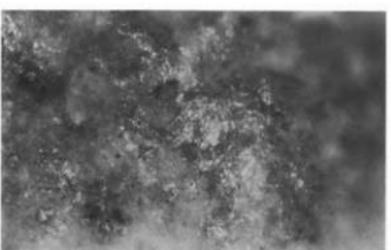
12 No. 4 光沢面



13 No. 4 線状痕と光沢面

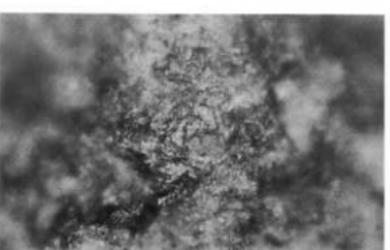


14 No. 4 光沢面



15 No. 8 光沢面

100 μm



16 No. 9 光沢面

50 μm

写真2 石器の顕微鏡写真 (天方向が縁辺、15のみ倍率が異なる)

## 干迫遺跡出土の植物遺体

渡辺 誠（名古屋大学文学部）

## 1 植物遺体のリストと出土状態

1991～1992年に鹿児島県教育委員会によって発掘された、鹿児島県姶良郡加治木町干迫遺跡出土の植物遺体（種子類）は、次の4種である。

- |                  |   |
|------------------|---|
| (1) ブナ科クリ        | <i>Castanea crenata</i> Siebold & Zucc. |
| (2) ブナ科コナラ属イチイガシ | <i>Quercus ilicifolia</i> Blume         |
| (3) ブナ科コナラ属      | <i>Quercus</i> sp.                      |
| (4) ブナ科シイノキ属スダジイ | <i>Shorea Sieboldii</i> Makino          |

クリ以外はいわゆるドングリ類である。このほかに不明種子類が1点みられる。

所属時期は縄文時代後期中葉・市来式を主体とする時期である。

これらは2度に分けて送付されてきたので、分類段階においては混乱を避けるため、それらの件別出土数量は、第1、2表に別個に示した。表中に双・半とあるのは、双子葉植物であるコナラ属の子葉の双方があるものを双、片側のみのものを半として記したものである。

これらの出土区は第1図に示すとおりであり、出土状態は1：土坑中、2：包含層、3：旧河道の3群に分類される。1・2は人為堆積、3は自然堆積として区分される。

この出土状態区分と出土数量の関係は第3表に示すとおりであり、イチイガシとコナラ属、およびそれらの種皮は両者に共通して検出されているが、クリは人為堆積の土坑中、スダジイは自然堆積の旧河道からのみ検出されている。ドングリ類が両者に共通することは、本遺跡の主要な立地条件の一つとして理解することができる。

## 2 クリについて

これは東北日本の落葉広葉樹林帯の代表的な樹木であり、9～10月に熟す種子は甘くて美味しい。材もまた建築材などとして有用である。

鹿児島県下の縄文時代遺跡より、クリの種子が出土したのは初めてである。20F区の土坑1中にドングリ類に混じって検出されたわずか0.31gの2片の破片にすぎないが、鹿児島県下縄文時代の食文化を知るうえで貴重な資料である（写真1-1）。

この土坑は、下記の目的によって、使用時期を異にして2つ以上の時期に分けて使用されたと考えられる。

- a : ドングリ類の冬季の短期貯蔵（渡辺 1987a）。
  - b : クリの甘みを増やすための、冬季の短期貯蔵（渡辺 1996）。
- aについては従来より知られていたことであるが、bについては鹿児島県下において初めて確認されたことになり、重視される。

### 3 ドングリ類について

ドングリ類には種類が多く、森林帯によってもその種類を異にしている。そしてその食用化に際しては、まったくアクリ抜きのいらないシイ類（D類）、水さらしを必要とするカシ類（C類）、および水さらしに加えて加熱処理の必要なナラ類（B類）とクヌギ類（A類）などがある。ただし製粉しさえすれば、A・B類も水さらしのみでアクリ抜きができる。

また形態においても変化に富む。そしてドングリにまるこという言葉があるように、狭義のドングリとはまんまるいクヌギなどのA類のドングリを指している。これに対し、B・C類とイチイガシは楕円形を呈し、D類は小型の円形（ツブライジ）、先の尖った水滴状（スダジイ）、および太くて長いマテガイ状（マテバシイ）などを呈す。しかしこれらはごくおおまかに見方であり、特に種皮がとれて中の実（子葉）だけになると分類は困難である。しかし種の同定までは困難であっても、食用化という観点からみて、A～D類の大別ぐらいは可能になって欲しいものである。

ドングリ類はこれらの形態と、アクリ抜きの必要の有無とその手間の度合いとによって、A～D類に大別することができる（第4表）。なおカシ類のうちイチイガシのみはアクリ抜きを必要とせず、D類に含まれることに注目される（渡辺 1987a）。

### 4 本遺跡出土のドングリ類

本遺跡出土資料にはA類はみられず、ほとんどが楕円形を呈すB・C類とイチイガシである。D類はスダジイが1点（写真1-2）みられるのみである。

それらの計測値を第5表に一括して表示して検討することとする。そしてこれらの長幅示数を図化したのが第2図である。これには明らかにイチイガシ（同3）とわかるものと、それ以外のコナラ属（同4）とを区別して示したが、その分布にはほとんど差が認められない。すなわち数量のやや少ないイチイガシの場合は、分散の範囲が1.01～2.00であり、他のコナラ属では0.91～1.80であるが、両者の主要範囲はほぼ一致し、平均値では双では1.50と1.45と近似し、半ではともに1.41であり、その分散の傾向も1.21～1.60の範囲に集中して類似している。

楕円形を呈するB・C類についての検討は難しいが、形態上類似しているがアクリ抜きがいらないためD類に分類されているところの、イチイガシが含まれていることは注目されてよい。大阪市立大学理学部の粉川昭平教授によれば、子葉のみでは分類の困難なドングリ類のなかで、イチイガシのみは唯一例外的に識別が可能であるという。その外面に縦に溝状の幼根の跡がみられるからである。この基準に基づいて、本遺跡例についても分類を試みたのである。

しかしこの溝は2つに分かれる子葉の片側にしかつかないのであるから、同数のものはイチイガシ以外のコナラ属に含まれてしまうことになる。しかしそれでもイチイガシ以外のコナラ属が含まれていることは、完形品（双）のみで比較しても、イチイガシを大きく上回って検出されていることから明らかである。すなわちイチイガシ以外に、アクリ抜きを必要とするB・C類のナラ・カシ類のドングリ類も含まれていることは確実なのである。

## 5 ドングリ類の出土状態

本遺跡のドングリ類には、はじめに記したように自然堆積と人為堆積の両者が含まれている。第1・2表には件別に報告した資料を、この出土状態によって整理したのが第3表である。土坑中・包含層は人為堆積、旧河道は自然堆積であり、カードなしはいざれか不明ということになる。

そしてイチイガシ・コナラ属の検出量を、出土状態別に破片のグラム数で比較するとそれぞれ5.2, 4.6で、ともに自然堆積が人為堆積の約5倍となっている。

また出土状態の違いがあっても、イチイガシ・コナラ属の検出量を出土状態ごとに比較すると、自然堆積・人為堆積のそれぞれで22, 19となり、ともに約20倍となっている。

これらのことから、アク抜きの必要性の有無にかかわらず、イチイガシと他のコナラ属とは一定の比率で、両者とも採集されていたことが判明する。

これが本遺跡の主要な立地条件であり、人為堆積中にはみられなかったスダジイも食用とされていたと考えることができる。

なお自然堆積の場合ばかりではなく、土坑中などの人為堆積の場合にも種皮（写真1-5）が検出されているということは、残りが少なくとも本来種皮のついたまま貯蔵されていたことを示していると考えられる。

## 6 鹿児島県下縄文遺跡出土のドングリ類について

これらのドングリ類をどのように食用化していたかということは、アク抜きとの関係においてまず製粉具、および煮沸具の有無が問題になる。そこでその前提として鹿児島県下の縄文時代遺跡より出土した植物遺体を概観してみると、次のとおりである。

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 曽於郡志布志町東黒土田遺跡  | (草創期) コナラ属              |
| (2) " " 八郎ヶ野A遺跡    | (晩期) イチイガシ・コナラ属         |
| (3) " " 柳井谷遺跡      | (後期) イチイガシ・コナラ属         |
| (4) " 松山町前谷遺跡      | (中期) イチイガシ・コナラ属・ツブライ    |
|                    | スダジイ                    |
| (5) " 末吉町柿ノ木野久保A遺跡 | (早期) ドングリ類              |
| (6) " " 宮之追遺跡      | (後期) ドングリ類              |
| (7) " " 丸尾遺跡       | (後期) ドングリ類              |
| (8) 肝属郡田代町荒田原遺跡    | (早期) ドングリ類              |
| (9) 始良郡栗野町花ノ木遺跡    | (前期) コナラ属               |
| (10) " 加治木町干迫遺跡    | (後期) イチイガシ・コナラ属・スダジイ・クリ |
| (11) 鹿児島市若宮神社遺跡    | (後期) シイ類                |
| (12) " 草野貝塚        | (後期) イチイガシ・コナラ属         |
| (13) 川内市麦之浦貝塚      | (後期) コナラ属               |
| (14) 日置郡吹上町黒川洞穴    | (晩期) イチイガシ・コナラ属         |

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| (15) 加世田市上加世田遺跡      | (晩期) イチイガシ・コナラ属      |
| (16) 指宿市橋牟礼川遺跡       | (後期) イチイガシ・コナラ属      |
| (17) 種子島・西之表市本城遺跡    | (前期) シイ類・シャリンバイ      |
| (18) "・熊毛郡中種子町大園遺跡   | (後期) コナラ属            |
| (19) 屋久島・上屋久町一渡遺跡    | (前期) シイ類・シャリンバイ・コナラ属 |
| (20) 奄美大島・大島郡笠利町宇宿貝塚 | (後期) イチイガシ・コナラ属      |
| (21) 沖永良部島・"知名町神野貝塚  | (後期) タブノキ            |

出土している種子類は、大部分がドングリ類である。すなわちイチイガシ・コナラ属およびツブラジイ・スダジイを含むシイ類などであり、21遺跡中20遺跡より出土している。それらの他は、2遺跡よりシャリンバイ、1遺跡よりタブノキが出土している。

時期的にみると、草創期1、早期2、前期3、中期1、後期11、晩期3であり、後期遺跡からの出土率が高い。そしてドングリ類以外の、シャリンバイは前期、クリ・タブノキは後期においてのみ出土している。

そして特に注目されることは、ドングリ類でもアク抜きを必要としないイチイガシやシイ類などが確認されるのは縄文前期からであるのに対し、アク抜きを必要とするコナラ属が縄文草創期の志布志町東黒土田遺跡の貯蔵穴より出土していることである（瀬戸口 1981）。しかも現代より寒冷な時期であるから、ドングリ類でもC類よりB類である可能性が高い。そして製粉具も未発達な段階としては、アク抜きのために煮沸を何度も繰り返さなければならないのであり、そのために不可欠な煮沸具として土器が重要になってくる。したがって縄文土器の出現と発達に、ドングリ類はきわめて密接な関係にあるといえるのである（渡辺 1987b）。

今後はさらに草創期・早期のドングリ類の種類を明確にするとともに、製粉具の発達過程を明らかにすることが重要な作業として指摘されるであろう。

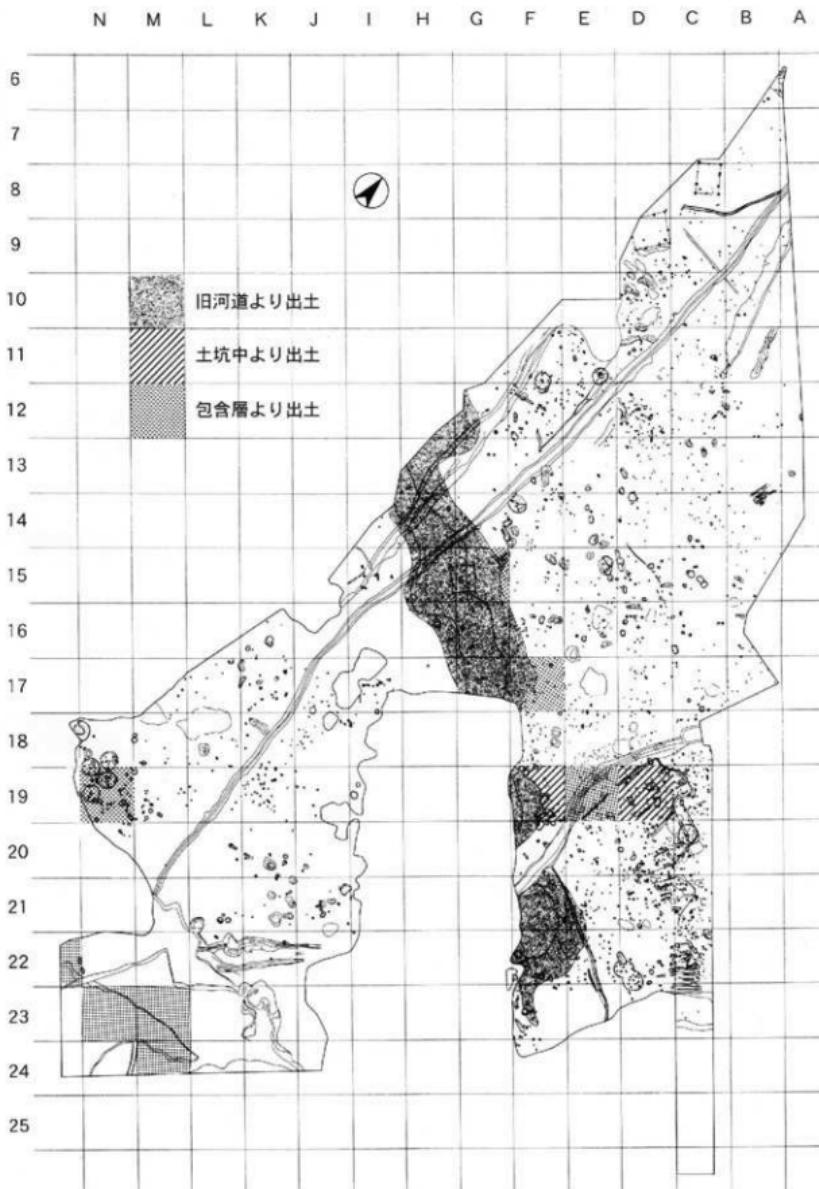
そして本遺跡は縄文後期に属し、すでに石皿・磨石などの製粉具は十分に発達している段階であるから、ドングリ類を製粉して水さらしのみでアク抜きすることも可能であったし、さらにはクズやワラビなどの根を製粉して、デンブンをさらしてとることも行われていたことが容易に推定されるのである。

#### 謝 辞

終りに、本資料調査の機会を与えて下さった鹿児島県教育委員会の池畠耕一氏、資料整理にご協力下さった丹下昌之（名古屋大学大学院博士後期課程学生）・渡辺直哉（同研究生）の両氏に対し、深謝の意を表す次第である。

#### 引 用 文 献

- 瀬戸口望 1981 東黒土田遺跡発掘調査報告、鹿児島考古15, 22~54頁、鹿児島。
- 渡辺 淳 1987 a 縄文時代の植物質食料・ドングリ類、考古学ジャーナル279, 24~27頁、東京。
- 1987 b 日韓におけるドングリ食と縄文土器の起源、韓国における考古民族学的研究Ⅱ、名古屋大学文学部研究論集、史学33, 1~15頁、名古屋。
- 1996 クリの穴貯蔵、名古屋大学文学部研究論集、史学42, 1~7頁、名古屋。



第1図 植物遺体出土区分布図

番号	取り上げ番号	出土区	層位	イチイガシ			コナラ属			備考
				双	半	破片	双	半	破片	
1	20012	14E	V			3				
2		14H R1	72						0.50	
3		15G R1							0.25	
4	27765	15G R1	43			0.64			2.75 種皮0.04	
5	21642	16E	V						1.99	
6		16F	V						4.20 種皮0.28	
7		16G R1				0.34	1	2	4.35 種皮1.18	
8		16G R1		3		0.47	3	3	5.31 不明種子1	
9		16G R1							0.30	
10	33489	18F R1							1.72 種皮0.13	
11		20F R1			1	1.80	1	5	7.84 種皮0.01	
12	38948	20F R1		6	3	0.93	4	1	13.97 種皮0.02	
13		20F R1				1.05	4	7	19.80 種皮0.12	
14		21F R1				0.72	1	3	16.13	
15		21F R1		1		1.25	1	2	6.20	
16		21F R1		1	2	0.30			8.38	
17		21O R2							0.24	
18		22M 暗茶褐色土				0.64			2.61 種皮0.11	
19	40909	22N R2		3		0.20		3	0.88 種皮0.32	
計				14	6	8.34	18	26	97.42 種皮221, 不明種子1	

第1表 ドングリ類別一覧表 (単位: cm, g)

番号	取り上げ番号	出土区	層位	イチイガシ			コナラ属			備考
				双	半	破片	双	半	破片	
1		13H R 1							0.16	
2	19976	14E	V						0.29	
3		14G							2.02	
4	23841	14G	V						0.13	
5		15G							0.44	
6	21027	15G	V						0.52	
7		16F	V						0.18	
8		16G							1.02	
9	37173	17F	P 1 3						1.47	
10		18D	土坑2				1		1.15	
11		18D	VI				1			
12		18E	VI						0.26	
13		18F	土坑7				1			
14		18F R 1							3.07	
15		18N	V						0.22	
16		19E	VII				1		0.96	
17		20F	土坑1		1	0.32	2		2.90	
18		20F	R 1・土坑1	3		0.34	1	3	8.90 種皮0.02, クリ破片0.31	
19	40909	20F R 1	50			0.13			11.21	
20		20F R 1		1		0.17	2	1	5.18	
21		20F R 1		1			1	1	11.39	
22		20F R 1					1	1 1	7.41	
23		20F R 1		1			1	3	8.56 スタジイ双1	
24		20F R 1					2	1	13.24	
25		21F R 1							2.12	
26		21O R 2		1			1	1	2.12 種皮0.14	
27		22M 暗茶褐色土					1		0.52	
28		22N R 2							0.11	
29		23M 暗茶褐色土							0.79	
30		不明(カードなし)		1	1		2	1	12.72	
計				7	3	0.96	1 2	2 8	99.06 種皮0.16, スタジイ 双1, クリ破片0.31	

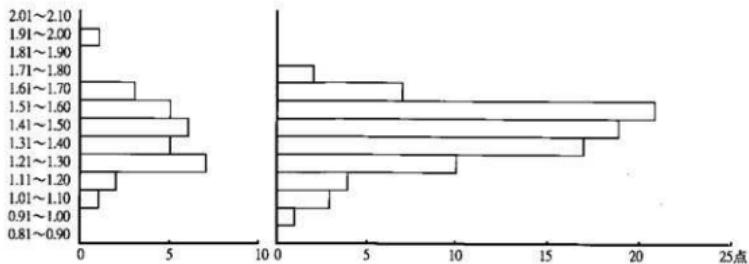
第2表 ドングリ類別別一覧表 (単位: cm, g)

番号	出土状態	件(表)別番号	イチイガシ			コナラ属			他
			双	半	破片	双	半	破片	
1	土坑内	2・10・11・13・14・17・18	3	1	0.66	1	8	16.02	種皮0.02クリ破片0.31
2	包含層	1・1・6・17～19 2・2・7・9・12・15・16・26～28	4	0	0.84	5	5	16.84	種皮0.85
3	旧河道	1・2～4・7～16 2・1・3～6・8・19～25	13	7	7.80	22	40	150.90	種皮1.50、スタジイ又1 不明種子1
4	カードなし	2・30	1	1		2	1	12.72	
計			21	9	9.30	30	54	196.48	種皮2.37、スタジイ又1 クリ破片0.31、不明種子1

第3表 ドングリ類出土状態別一覧表 (単位: cm, g)

民俗分類	属	種(出土例のみ)	森林帯
A クヌギ類 製粉または加熱処理+水さらし	コナラ属	クヌギ カシワ	落葉広葉樹林帶 (東北日本) (韓国)
B ナラ類 製粉または加熱処理+水さらし		ミズナラ コナラ	
C カシ類 水さらしのみ		アカガシ アラガシ	照葉樹林帶 (西南日本) (韓国南海岸)
D シイ類など	シイノキ属 マテバシイ属	イチイガシ ツブラジイ・スタジイ マテバシイ	

第4表 ドングリ類の分類



第2図 ドングリ類の長軸示数分布図 (左: イチイガシ, 右: コナラ属)

種	双・半表別番号	長さ	幅	厚さ	長幅示数	重量	種	双・半表別番号	長さ	幅	厚さ	長幅示数	重量
イチイガシ	双 1-8	1.33	0.89	1.33	1.49	0.41	コナラ属	半 1-7	1.28	0.96	0.50	1.33	0.21
双 1-8	1.21	0.83	0.83	1.46	0.39	半 1-7	1.46	0.91	0.48	1.60	0.18		
双 1-8	1.28	0.80	0.71	1.60	0.35	半 1-8	1.44	1.01	0.52	1.43	0.30		
双 1-12	1.06	0.86	0.82	1.23	0.26	半 1-8	1.36	1.00	0.50	1.36	0.25		
双 1-12	1.08	0.80	0.76	1.35	0.21	半 1-8	1.20	0.75	0.39	1.60	0.18		
双 1-12	1.13	0.74	0.68	1.53	0.19	半 1-11	1.39	1.08	0.60	1.29	0.30		
双 1-12	1.18	0.78	0.72	1.51	0.30	半 1-11	1.52	0.97	0.51	1.57	0.23		
双 1-12	0.96	0.54	0.67	1.50	0.20	半 1-11	1.47	0.93	0.49	1.59	0.22		
双 1-12	1.00	0.63	0.71	1.59	0.24	半 1-11	1.33	0.84	0.45	1.58	0.24		
双 1-14	1.03	0.70	0.72	1.47	0.27	半 1-11	1.19	0.85	0.43	1.40	0.19		
双 1-15	1.29	0.76	0.79	1.70	0.33	半 1-12	1.32	0.83	0.50	1.59	0.16		
双 1-19	1.35	0.98	1.09	1.38	0.49	半 1-13	1.22	0.99	0.58	1.23	0.24		
双 1-19	1.18	0.86	0.93	1.37	0.36	半 1-13	1.41	0.99	0.47	1.42	0.26		
双 1-19	0.92	0.54	0.57	1.70	0.11	半 1-13	1.27	0.93	0.53	1.37	0.26		
双 2-18	1.15	0.90	0.91	1.28	0.35	半 2-13	1.26	0.91	0.46	1.38	0.19		
双 2-18	1.29	0.79	0.84	1.63	0.26	半 2-13	1.13	1.03	0.58	1.10	0.20		
双 2-18	1.15	0.72	0.75	1.60	0.25	半 2-13	1.07	1.03	0.50	1.04	0.18		
双 2-21	1.13	0.83	0.80	1.36	0.26	半 2-13	0.98	0.87	0.49	1.12	0.17		
双 2-23	1.07	0.77	0.80	1.39	0.32	半 2-14	1.40	1.01	0.51	1.39	0.24		
双 2-26	1.45	1.00	1.01	1.45	0.70	半 2-14	1.33	0.85	0.46	1.56	0.19		
双 2-30	1.36	0.70	0.74	1.94	0.22	半 2-14	1.15	0.78	0.40	1.47	0.14		
平均値		1.17	0.79	0.31	1.50	0.31	半 1-15	1.31	0.90	0.44	1.46	0.17	
イチイガシ	半 1-11	1.41	0.88	0.47	1.60	0.25	半 1-15	1.28	0.82	0.43	1.56	0.21	
半 1-12	1.27	0.83	0.46	1.53	0.16	半 1-19	1.25	0.82	0.38	1.52	0.18		
半 1-12	1.24	0.87	0.43	1.43	0.18	半 1-19	1.30	0.83	0.43	1.57	0.18		
半 1-12	1.10	0.75	0.38	1.47	0.13	半 1-19	0.93	0.77	0.36	0.96	0.13		
半 1-15	1.30	0.95	0.51	1.37	0.19	半 2-10	1.33	0.86	0.46	1.55	0.20		
半 1-15	1.18	1.00	0.47	1.18	0.18	半 2-11	1.24	0.90	0.47	1.38	0.28		
半 2-20	1.15	0.81	0.20	1.42	0.14	半 2-13	1.11	0.91	0.63	1.22	0.21		
半 2-23	1.25	0.94	0.44	1.33	0.17	半 2-16	1.16	0.92	0.49	1.26	0.21		
半 2-30	1.28	0.97	0.51	1.32	0.20	半 2-17	1.27	0.92	0.40	1.38	0.18		
平均値		1.24	0.88	0.43	1.41	0.18	半 2-17	1.59	1.19	0.62	1.37	0.33	
コナラ属	双 1-1	1.47	0.97	1.18	1.51	0.79	半 2-18	1.30	0.82	0.41	1.59	0.14	
双 1-1	1.42	0.88	0.93	1.61	0.52	半 2-18	1.09	0.85	0.43	1.28	0.14		
双 1-1	1.41	0.89	0.89	1.58	0.49	半 2-18	1.13	0.68	0.39	1.66	0.04		
双 1-7	1.05	0.78	0.76	1.37	0.30	半 2-20	1.38	0.97	0.51	1.42	0.32		
双 1-8	1.60	1.11	1.13	1.44	0.67	半 2-21	1.45	0.92	0.51	1.58	0.23		
双 1-8	1.17	0.94	0.89	1.24	0.36	半 2-22	1.16	0.78	0.40	1.49	0.15		
双 1-8	1.07	0.71	0.72	1.51	0.34	半 2-22	1.08	0.92	0.46	1.17	0.16		
双 1-11	1.11	0.69	0.75	1.61	0.26	半 2-22	1.14	0.82	0.44	1.39	0.12		
双 1-12	1.17	0.85	0.77	1.37	0.21	半 2-22	0.97	0.85	0.44	1.14	0.11		
双 1-12	1.12	0.82	0.87	1.37	0.35	半 2-22	1.23	0.87	0.39	1.41	0.12		
双 1-12	1.04	0.77	0.75	1.35	0.30	半 2-22	1.36	0.80	0.43	1.70	0.16		
双 1-12	1.03	0.70	1.70	1.47	0.24	半 2-22	0.98	0.80	0.54	1.23	0.11		
双 1-13	1.27	0.97	0.88	1.31	0.43	半 2-22	1.07	0.89	0.26	1.20	0.22		
双 1-13	1.23	0.86	0.80	1.43	0.41	半 2-22	1.13	0.80	0.47	1.41	0.18		
双 2-13	1.08	0.83	0.89	1.30	0.40	半 2-22	1.28	0.78	0.45	1.64	0.17		
双 2-13	1.18	0.92	0.88	1.28	0.47	半 2-22	1.09	0.68	0.33	1.60	0.11		
双 2-15	1.15	0.84	0.85	1.37	0.37	半 2-23	1.20	0.95	0.50	1.26	0.17		
双 2-15	1.19	0.82	0.78	1.45	0.28	半 2-23	1.24	0.85	0.38	1.46	0.15		
双 2-18	1.15	0.77	0.81	1.49	0.23	半 2-23	1.29	0.82	0.44	1.57	0.16		
双 2-20	1.11	0.70	0.75	1.59	0.18	半 2-24	1.09	0.76	0.39	1.43	0.16		
双 2-20	1.16	1.09	1.01	1.06	0.43	半 2-25	1.03	0.72	0.37	1.43	0.11		
双 2-21	1.15	0.75	0.73	1.53	0.31	半 2-30	1.22	0.75	0.39	1.62	0.11		
双 2-22	1.11	0.77	0.83	1.44	0.22	平均値	1.24	0.88	0.46	1.41	0.19		
双 2-23	1.36	0.81	0.78	1.68	0.40	スダジイ	双 2-23	0.94	0.49	0.56	1.92	0.11	
双 2-24	1.14	0.81	0.83	1.41	0.28								
双 2-24	1.48	0.85	0.87	1.74	0.36								
双 2-27	1.17	0.77	0.81	1.52	0.33								
双 2-27	1.15	0.85	0.91	1.35	0.28								
双 2-30	1.42	1.05	1.11	1.35	0.43								
双 2-30	1.47	0.82	0.77	1.79	0.35								
平均値		1.22	0.85	0.85	1.45	0.97							

第5表 ドングリ類計測値一覧表 (単位: cm, g)



写真1 植物遺体（縮尺：実大）

1 : クリ, 2 : スダジイ, 3 : イチイガシ, 4 : コナラ類, 5 : ドングリ類種皮,

## 干迫遺跡出土縄文土器の胎土分析

白石 純（岡山理科大学自然科学研究所）

## 1 はじめに

この分析では干迫遺跡出土の縄文時代後期中頃の土器を蛍光X線分析により分析し、以下の事柄について検討した。

干迫遺跡出土の縄文後期中頃の貝殻文系土器（在地系）と磨消縄文系土器（他地域からの搬入）の間で胎土的に違いがあるかどうか。

また、貝殻文系土器の市来・草野・丸尾の各型式と磨消縄文系土器の鐘崎・北久根山・辛川・西平の各型式の間で胎土に差があるかどうか。

## 2 分析方法および結果

分析方法は、波長分散型蛍光X線分析装置（リガク電機製KG-4型）により分析し、分析方法・条件・試料の調整などは現在までに行っている方法である。

分析した元素は、第1表に示した  $K_2O$ （酸化カリウム）・ $Fe_2O_3$ （酸化鉄）・ $SiO_2$ （二酸化珪素）・ $TiO_2$ （酸化チタン）・ $Al_2O_3$ （酸化アルミニウム）・ $CaO$ （酸化カリウム）・ $Sr$ （ストロンチウム）・ $Rb$ （ルビジウム）の8元素である。このうち、顕著に差が見られるのは  $K_2O$ ・ $CaO$ ・ $Sr$ ・ $Rb$  の4元素である。そこでこれらの元素から  $CaO/K_2O$ ・ $Sr/Rb$  の比をとり、XY散布図により検討した。

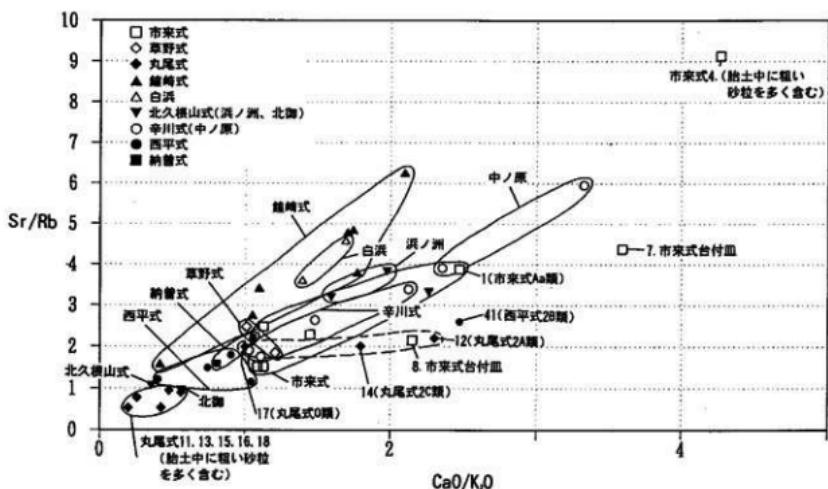
分析の結果、第1図  $CaO/K_2O-Sr/Rb$  敷布図より貝殻文系、磨消縄文系の各型式の胎土の比較では、ほとんどの型式で散漫な分布を成し、まとまる傾向は見られなかった。ただ、貝殻文系の丸尾式で二つに分れた。一つは試料番号11・13・15・16・18のグループ、もう一つは12・14・17である。胎土の肉眼観察でも差がみられる。前者は、石英・長石などの粗い砂粒が、後者のグループには細粒砂が使用され火山ガラス（？）などもみられる。また、市来式でも試料番号4とそれ以外の1・2・3・5・6のグループと大きく離れている。この市来式も4がほかの土器に比べて胎土に粗い砂粒を多く含んでいる。

第2図  $CaO/K_2O-Sr/Rb$  敷布図より貝殻文系、磨消縄文系の土器の比較では、どちらの文様系も胎土に差が見られず明確に識別されなかった。ただ、貝殻文系、磨消縄文系に関係なく波線で囲んだ範囲で大きく二つのグループに分れる可能性が考えられる。一つは、試料番号4（市来式N類）、7（市来式台付皿）、38（中ノ原3B類）の3点の土器。もう一つは、これ以外の土器類である。

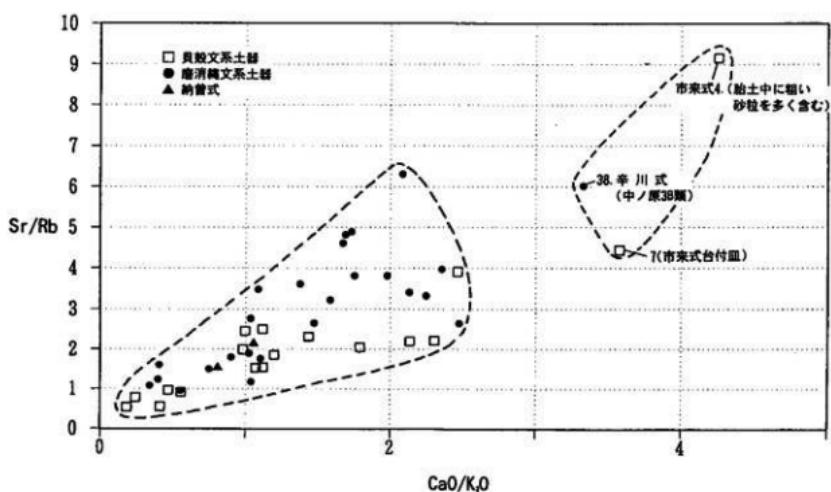
以上のように、型式・文様系の違いで胎土が異なるかどうか検討したが、胎土的には明確には識別できなかった。

試料番号	土器型式	K	Fe	Si	Ti	Al	Ca	Sr	Rb
1 2	市来Aa類	0.71	13.28	37.62	1.41	22.04	1.76	136	35
	市来Aa類	1.40	8.28	44.89	0.88	23.35	1.50	162	105
3 4	市来N類	1.30	8.08	48.10	1.09	19.66	1.45	168	67
	市来N類	0.59	10.21	36.44	1.03	24.51	2.49	234	25
5 6	市来S類	1.18	8.08	48.76	0.89	21.44	1.70	205	89
	市来S類	1.62	9.10	51.25	1.07	19.23	1.81	179	117
7 8	市来台付皿	0.75	11.12	43.55	1.16	20.27	2.67	179	41
	市来台付皿	1.02	10.75	46.70	1.02	20.79	2.18	166	75
9 10	草野3類	1.05	8.13	51.58	1.31	19.62	1.50	163	66
	草野3類	1.11	10.06	42.13	1.40	24.67	1.34	101	55
11 12	丸尾2A類	2.67	9.28	44.72	1.21	21.68	0.65	110	141
	丸尾2A類	0.87	8.90	51.00	1.10	19.99	2.01	160	72
13 14 15 16	丸尾2C類	2.19	14.57	43.39	1.19	18.91	0.91	46	82
	丸尾2C類	1.04	9.56	48.74	1.12	21.04	1.87	181	88
	丸尾2C類	3.02	7.67	50.94	1.01	18.55	1.43	135	139
	丸尾2C類	2.74	11.13	41.84	1.14	22.10	0.52	63	116
17 18	丸尾0類	1.51	8.73	44.81	0.89	21.12	1.49	196	99
	丸尾0類	2.08	12.83	48.90	1.12	17.83	1.16	90	99
19 20	鐘崎浅鉢2類	1.34	9.21	46.25	1.70	21.42	2.80	320	51
	鐘崎浅鉢2類	1.29	6.37	48.52	1.14	20.69	1.40	242	70
21 22 23	鐘崎4類	1.35	5.72	49.23	1.47	21.28	2.33	320	66
	鐘崎4類	2.98	5.11	58.89	0.73	17.36	1.22	184	115
	鐘崎4類	1.33	6.26	51.68	1.67	20.40	2.33	273	71
24 25	鐘崎5類	1.39	5.73	47.94	1.45	21.80	2.35	316	66
	鐘崎5類	1.90	6.20	51.70	1.23	20.31	1.98	250	90
26 27	白浜3類	1.36	9.21	44.09	1.44	21.19	2.28	243	53
	白浜3類	1.23	12.82	43.61	1.01	19.29	1.70	198	55
28 29	北久根山4類	2.28	4.66	57.52	1.00	19.17	0.79	135	127
	北久根山4類	1.14	6.81	49.40	1.35	21.40	2.57	254	76
30 31	浜ノ洲3類	1.11	9.27	42.87	1.64	21.20	1.76	188	59
	浜ノ洲3類	1.10	6.52	46.15	1.62	22.35	2.18	255	67
32	北御4類	1.88	6.86	58.30	1.21	18.12	1.05	128	135
33 34	辛川A類	1.29	9.67	45.78	1.12	21.86	1.33	124	66
	辛川A類	0.87	9.68	34.17	1.46	26.46	1.85	150	44
35 36	辛川B類	1.34	7.52	48.11	1.44	21.46	1.98	159	60
	辛川B類	1.21	12.58	49.77	1.00	18.08	1.34	132	76
37 38	中ノ原3B類	0.97	11.10	48.73	1.05	18.24	2.28	197	50
	中ノ原3B類	0.66	11.96	42.25	1.77	21.97	2.20	216	36
39 40	西平1類	1.22	18.86	44.98	1.28	16.49	0.92	78	53
	西平1類	1.84	14.27	52.46	0.86	15.39	0.75	89	73
41 42 43	西平2B類	0.76	10.74	38.96	1.44	24.18	1.89	138	52
	西平2B類	0.84	12.51	37.91	1.81	24.10	0.88	83	72
	西平2B類	1.43	7.60	51.18	1.35	20.56	1.29	157	89
44 45	納曾2類	1.78	8.38	48.91	1.06	20.72	1.44	175	113
	納曾2類	1.50	9.92	47.80	1.31	20.47	1.59	159	74

第1表 干迫遺跡出土縄文土器の胎土分析(%) ただしSr, Rbはppm



第1図  $\text{CaO}/\text{K}_2\text{O}-\text{Sr}/\text{Rb}$ 散布図 干迫遺跡縄文土器の各型式ごとの比較



第2図  $\text{CaO}/\text{K}_2\text{O}-\text{Sr}/\text{Rb}$ 散布図 干迫遺跡縄文土器貝殻文系と磨消縄文系土器との比較

## 干迫遺跡出土の縄文土器に塗彩された顔料について

大久保 浩二（鹿児島県立埋蔵文化財センター）

干迫遺跡出土の縄文土器に、白色の顔料と赤色の顔料が塗彩されたものがある。その顔料について粒子の形状の観察と成分の分析を行い、顔料の種類の同定を試みたのでここに報告する。

分析に使用した機器は、鹿児島県立埋蔵文化財センター所蔵の日本電子製走査型電子顕微鏡（低真空タイプ・L V - S E M）とエネルギー分散型X線分析装置（E D S）である。X線分析は、加速電圧20 k V、有効時間100秒、取り出し角度20.2°、作動距離20.0 mmの測定条件で行った。

観察と分析の結果を第1表に示す。

試料	注記番号	時期	型式	器種	X線分析	顔料	粒子	備考
1	179	縄文前期	深浦式	深鉢	Fe	ベンガラ	パイプ	
2	171 26696	縄文後期	市来式	深鉢	Fe	ベンガラ	微粒子	市来深鉢は初めて
3	172 28700	縄文後期	市来式	台付皿	Fe	ベンガラ	微粒子	白地に赤
4	173 同上	同上		同上	Al Si	白土		
5	174	縄文後期	市来式	台付皿	Fe	ベンガラ	パゲ・微粒子	
6	175 30354	縄文後期	北久根山台付皿		Fe	ベンガラ	微粒子	
7	176 26889	縄文後期	鐘崎式	鉢	Fe	ベンガラ	微粒子	古段階
8	177	縄文後期	鐘崎式	鉢	Fe	ベンガラ	微粒子	
9	178	縄文後期	加曾利B式系注口	Hg S		水銀朱	粒度は0.5~2 μm	

第1表 干迫遺跡の顔料分析

## 1 白色顔料

今回の報告で特筆すべきは、縄文後期の台付皿形土器に塗彩されている白色顔料である。台付皿形土器の多くに塗彩されており、注記No.28700のように白色顔料と赤色顔料を同時に塗彩しているものもある。詳しい分析はできていないが、白色顔料を下地としその上に赤色顔料を塗り重ねているように見える部分もある。

古代における白色顔料の種類については、白色粘土（白土）・鉛系白色顔料（鉛白）・炭酸カルシウム・リン灰石などが知られている。干迫遺跡の白色顔料である試料4からは、図1のX線スペクトル図に示すとおり、AlとSiの顕著なピークが検出された。よってこの白色顔料は「白土」であると考えられる。注記No.28700以外にも白色顔料が塗彩されたものの数点の分析を行ったが、結果はすべて同様であった。

宮内庁正倉院調査事務所の成瀬正和氏のご教示によると、古代の顔料としての白土の使用は、裝飾古墳の顔料としての使用例がもっとも古いものとして知られていたが、今回の干迫遺跡の例はそれを大きく超えており、今のところ全国でも最古の使用例になるとのことである<sup>1)</sup>。

千迫遺跡の台付皿形土器における白色顔料の使用を確認したあと、宮崎県高原町の大田に遺跡で表採された台付皿形土器<sup>2)</sup>にも白色顔料が塗彩されているのを確認した。顔料の種類はやはり白土であった。このことは白土の使用が千迫遺跡に限ったことではなく、台付皿形土器の製作にあたって南九州において広く行われていた可能性を示唆するものであり、これまでの出土資料を再検討する必要があると考えられる。

## 2 赤色顔料

一般に赤色顔料の種類には、ベンガラと水銀朱が考えられる。それぞれは顔料の粒子の形状に特徴があり、主成分もベンガラは酸化第二鉄 ( $Fe_2O_3$ )、水銀朱は硫化水銀 ( $HgS$ ) と大きく異なっている。今回は主にEDSによるX線分析（成分分析）で検出される元素をもとに、赤色顔料の種類の同定を試みた。

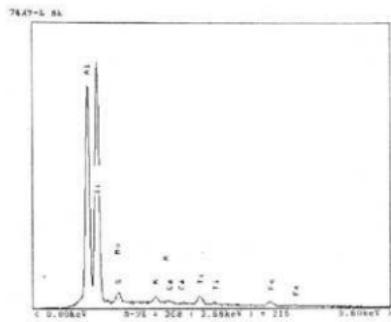
試料1は縄文時代前期の深浦式土器の外面に塗彩されているものである。走査型電子顕微鏡による観察では、パイプ状のベンガラであることがわかった（写真1）。同時期の類例は星塚遺跡<sup>3)</sup>の深浦式土器に観察される。

縄文時代後期の土器では、試料2～8についてはいずれもベンガラであった。粒子の形状は微粒子のものが多く、特徴的なパイプ状をしたベンガラははっきりしなかった。市来式土器においては台付皿形土器の器形の土器には、他遺跡でも赤色塗彩されているものが数多く見られるが、注記No.26696のように深鉢形土器に赤色塗彩されているものは今回の試料が初出であった。試料3は白色顔料と同時に塗彩されている赤色顔料であるが、顔料の種類はベンガラであった。

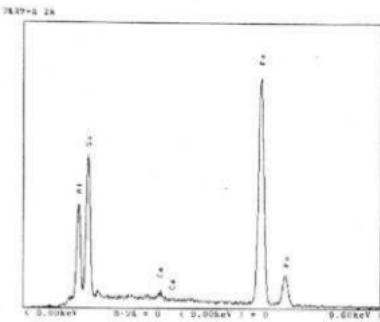
試料9は縄文時代後期の加曾利B式系の注口土器に塗彩されている赤色顔料である。全面が鮮やかな朱色で塗彩されている。X線分析の結果、HgとSの顕著なピークが検出されたので、顔料の種類は水銀朱であると考えられる（図1）。粒子の大きさは0.5～2 μm程度である。全国的に水銀朱の使用が確認されているのは縄文時代後期からで、今回の出土例もそれに並ぶものと思われる。また鹿児島県における水銀朱の使用例は珍しく、これまで鹿屋市の榎崎B遺跡の縄文時代晩期黒川式土器の浅鉢内面に付着していた例<sup>4)</sup>があるのみである。今回の土器は他の地域からの搬入品と考えられるが、鹿児島県における水銀朱の使用を考える上で貴重な資料となった。

## 註

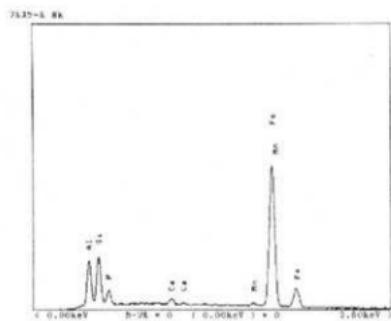
- 1) 成瀬正和「正倉院宝物にみられる顔料 表2 わが国の無機顔料の変遷図」『保存科学研究集会 1997研究発表要旨』奈良国立文化財研究所 1997
- 2) 横手浩二郎「宮崎県西諸県郡高原町大谷遺跡表採の縄文土器」『南九州縄文通信』8 1993
- 3) 「星塚遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(7)』 1993
- 4) 「榎崎B遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4)』 1993



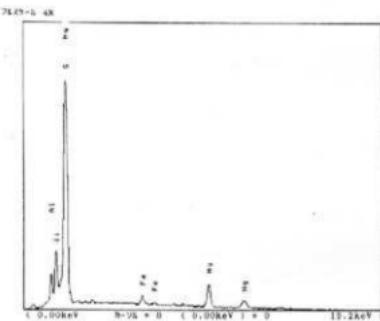
試料4 白色顔料（白土）



試料2 赤色顔料（ベンガラ）

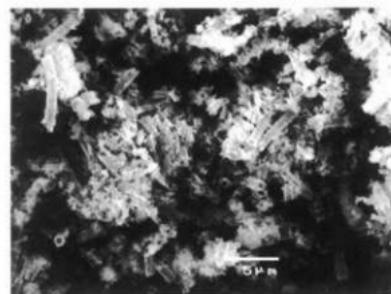


試料7 赤色顔料（ベンガラ）

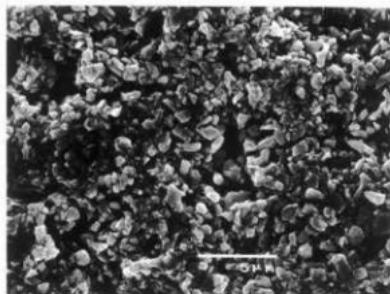


試料9 赤色顔料（水銀朱）

図1 X線分析 スペクトル図



試料1 バイプ状ベンガラ



試料9 水銀朱

写真1 SEMによる観察像

## あとがき

土器のぎっしり詰まった縄文時代の自然流跡の向こうに湯湾岳をはじめとする五老峰が見え、さらにその向こうには吉野の山々がある。その山にやがて陽が沈もうとする夕暮れ時、上半身裸になつた調査員の上地さんが自然流跡に立つてポーズをとつた。周辺に盛土のある遺跡からは家並みが見えない。そこに干迫人の住む縄文風景があつた。

干迫の調査は、毎日毎日が時間との戦いであつた。作業員の方々がいなくなつた5時すぎ、ひとときの休みをとつてまた現場へ。太陽の明かりを惜しむようにぎりぎりまで遺物の取り上げ、実測等々。調査計画どころではなく、ただ必死で2月末のゴールに向かつて精一杯の調査をと。

10か月の調査期間中にはいろいろな事もあつたが、忘れられないのは平成3年9月末の台風襲来である。一時の強い風がおさまり、もう通り過ぎたなと思えた午後2時すぎ、再び吹き始めた強い風。もう外へ出ることもできなくなつてゐた。やがてプレハブの壁がしなり始め、調査担当者の3人は必死ですでに出来あがつていた橋脚の陰へ逃げ込んだ。飛び出した直後、プレハブもまた吹き飛んでしまつた。後ろから音をたてて迫つてくるトタンの音、ずぶぬれになつた3人は抱き合つて通り過ぎるのを待つしかなかつた。藏王岳の上からボキボキ音を立てて太い樹木が落ち、竹林は右へ左へ林ごと移動する。死と直面した恐怖の2時間余りであった。

風雨がおさまり、消防隊が捜索に來た。プレハブの鉄骨はひとつのか塊となって百メートル以上も離れた所へ落ちていた。翌日は休みの日だったが、近くの作業員の人や同僚たちが片づけに來てくれた。この台風によって数日分の日誌や、十字形石器や墨書き土器など、一部の資料がなくなつてしまつた。残念である。

この報告書ができるまで多くの人々にお世話になつた。調査の難渋を理解され、明け渡しの期限が大きくずれ込んだにもかかわらず待つていただいた建設省や土木業者の方々。調査の応援にかけつけていただいた職場の同僚や考古学の研究仲間。そして休憩時間の短さもかまわず、時には5時過ぎまで作業が延びたこと也有つたのに快く協力して下さつた現場の作業員の方々。整理作業を担当して下さつた方々。この他にも多くの人々の指導・協力があつた。心から感謝の意を表したい。

時間に追われた発掘調査、それと同じような状況となつてしまつた整理作業、干迫の人々が残したものらの資料を彼らが満足するまでに整理するのはこれからである。

報告書は本格的な干迫遺跡解明の第一歩である。干迫の地に生きた人々に対し、まことに申し訳のない第一歩となつてしまつたことを深く反省している。しかし、いつまでもうつむいているわけにはいかない。一生懸命生きてきたであろう彼等のエネルギーのエキスを生かすも殺すもこれからなのである。上を、そして前を向いて進もう。それが遺跡を破壊した者の努めでもある。

---

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(22)

干迫遺跡・「III」

発行 1997年3月

編集 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-56 姶良郡姶良町平松6252番地  
TEL 0995 (65) 8787

印刷 株式会社トライ社  
〒892-08 鹿児島市南林寺12-6  
TEL 0992 (26) 0815

---

# 干迫

The Hoshizato Site

「III」

縄文時代石器ほか・付篇

